



鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(116)

南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXII

(伊集院 IC～市来 IC)

かみ やま じ やま い せき
上山路山遺跡

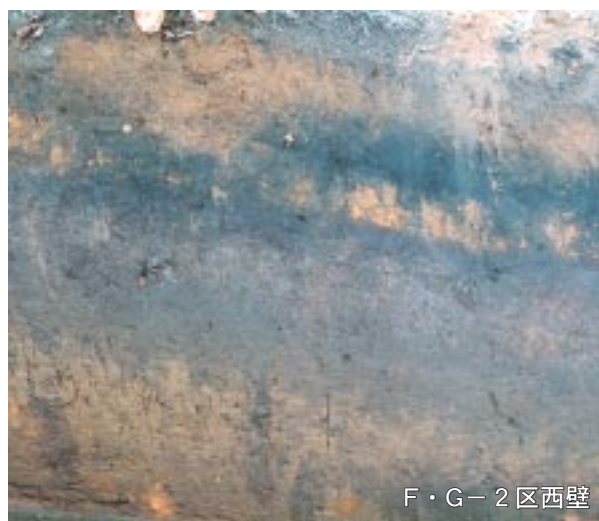
(日置市伊集院町)

2007年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

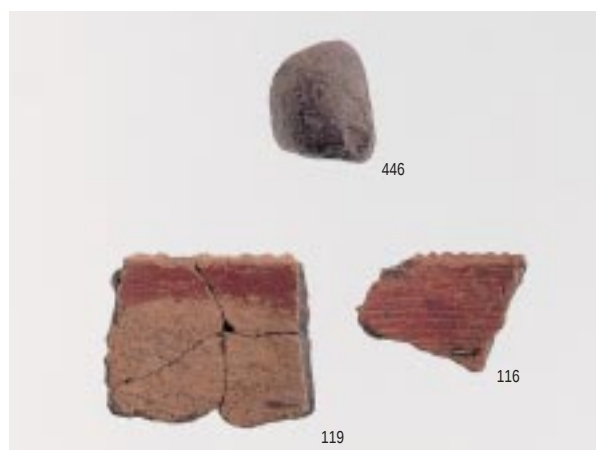


E-12区西壁



F・G-2区西壁

縄文時代早期の遺跡，土層断面



縄文時代早期の土器・敲石

序 文

この報告書は、南九州西回り自動車道鹿児島道路（伊集院ＩＣ～市来ＩＣ間）建設に伴って、平成９年度に実施した日置市伊集院町（旧日置郡伊集院町）に所在する上山路山遺跡の発掘調査の記録です。

上山路山遺跡は、日置市伊集院町大田字上山路山の標高約130mのシラス台地上に位置し、近隣には縄文時代早期の集落跡である永迫平遺跡があります。

本遺跡は、旧石器時代、縄文時代、古墳時代の複合遺跡です。

特に、縄文時代早期の道跡や集石が検出され、遺物では、水迫式土器から前平式土器に移り変わる様子を示す豊富な資料が出土しており、当時の文化を解明する上で貴重な資料と考えています。

本報告書が、県民の皆様はじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに、文化財普及・啓発の一助になれば幸いです。

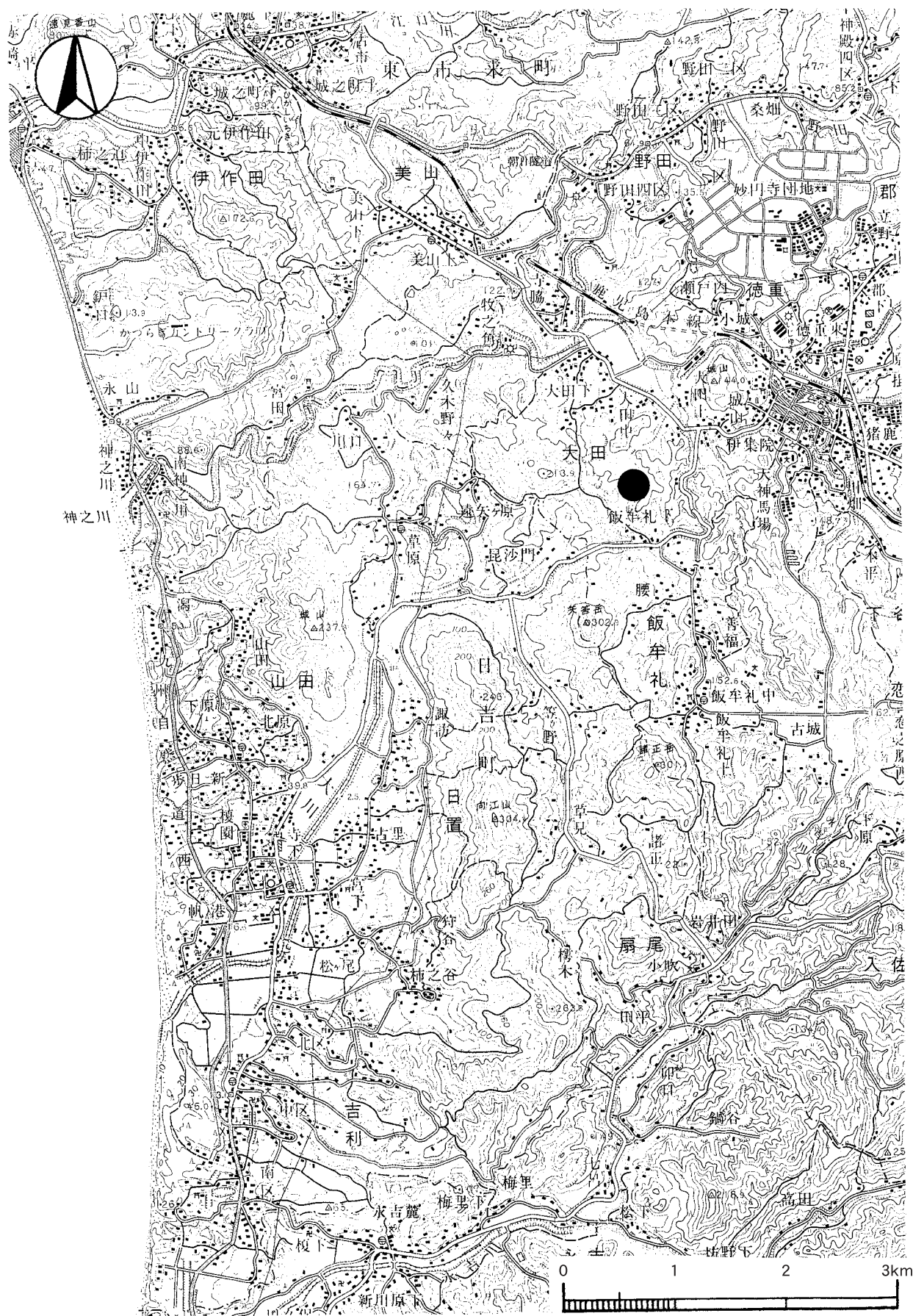
最後に、調査にあたりご協力いただいた国土交通省鹿児島国道事務所、旧伊集院町教育委員会並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚く御礼申し上げます。

平成19年 3 月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長 宮原 景信

報告書抄録

ふ り が な	かみやまじやまいせき							
書 名	上山路山遺跡							
副 書 名	南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	116							
編 集 者 名	藤崎 光洋							
編 集 機 関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森 2 番 1 号 T E L 0995 - 48 - 5811							
発 行 年 月 日	2007年 3 月31日							
ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふ り が な 所 在 地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調 査 起 因
かみやまじやまいせき 上山路山遺跡	かごしまけん 鹿児島県 ひおきし 日置市 いじゅういんちょう 伊集院町 おおた 大田 あざかみやまじやま 字上山路山	462161 (463639)	30・72	31 ° 37 ' 03 "	130 ° 22 ' 54 "	確認調査 19970212 ～ 19970221 本調査 19970513 ～ 19980330	6,300	南九州西回り 自動車道鹿児 島道路建設
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物			特 記 事 項	
上山路山遺跡	散布地	旧石器時代 縄文時代早期 弥生時代 古墳時代以降	礫群 集石 土坑 道跡 土坑 溝状遺構	三稜尖頭器 小型ナイフ形石器 細石刃・細石刃核 水迫式・岩本式・前平式・ 市来式土器 石鏃・石槍・石匙・スク レイパー・石斧 磨石・敲石・石皿 山ノ口式土器 成川式土器 土師器			台地上から水場の ある谷へ下る道跡 赤色顔料付着土器 片	
上山路山遺跡は、縄文時代早期を主体とする遺跡で、集石や道跡などが検出された。また、水迫式・岩本式・前平式土器などの資料が豊富で、当時の土器編年を考察する上で貴重な資料と考える。特に、台地上から水場のある谷へ下る道跡や、赤色顔料が付着した岩本式土器片は注目される。								



第1図 上山路山遺跡位置図 (1:25000)

例 言

- 1 本報告書は、南九州西回り自動車道鹿児島道路（伊集院 I C ～市来 I C）建設に伴う上山路山遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県日置市伊集院町（旧日置郡伊集院町）大田字上山路山に所在する。
- 3 発掘調査及び報告書作成（整理作業）は、建設省九州地方建設局鹿児島国道工事事務所（現国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所）から鹿児島県教育委員会が受託し、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
- 4 発掘調査は、平成 9 年 5 月 13 日から平成 9 年 8 月 28 日までと、平成 9 年 12 月 1 日から平成 10 年 3 月 30 日までの 2 回に分けて実施し、整理作業・報告書作成は、平成 18 年度に実施した。
- 5 遺物番号は通し番号とし、本文・表・挿図・図版の番号は一致する。
- 6 石器の挿図縮尺は、細石刃核や石鏃などは 1 分の 1、その他剥片石器は 4 分の 3、礫石器・大型石器は 2 分の 1 若しくは 3 分の 1 を基本とする。挿図の縮尺は、各図面に示した。
- 7 本書で用いたレベル数値は、建設省九州地方建設局鹿児島国道工事事務所が提示した工事計画図面に基づく海拔絶対高である。
- 8 発掘調査における図面の作成、写真の撮影は、調査担当者の寺原徹、桑波田武志が行った。空中写真撮影は、有限会社ふじたに委託した。
- 9 遺構実測図のトレースは、整理作業員の協力を得て藤崎光洋が行った。
- 10 土器の実測・トレースは、整理作業員の協力を得て藤崎が行った。
- 11 石器の実測・トレースは、大部分を大成エンジニアリング株式会社に委託し、監修は藤崎が行った。その他は、整理作業員が行った。
- 12 遺構内から炭化物の放射性炭素年代測定は、株式会社加速器分析研究所に委託した。
- 13 遺物の写真撮影は、吉岡康弘が行った。
- 14 本書における執筆・編集は、藤崎が担当した。
- 15 遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、展示・活用する予定である。なお、上山路山遺跡の遺物注記の略号は「上山」である。

本文目次

巻頭図版

序 文

抄 録

例 言

目 次

第 章 はじめに	1
第 1 節 調査に至るまでの経過	1
第 2 節 遺跡の概要	1
第 章 発掘調査の経過	6
第 1 節 調査の経緯	6
第 2 節 調査の組織	6
第 3 節 調査の経過（日誌抄）	7
第 章 遺跡の位置と環境	11
第 1 節 地理的環境	11
第 2 節 歴史的環境	11
第 章 発掘調査の成果	17
第 1 節 調査の方法と成果の概要	17
第 2 節 遺跡の層序	18
第 3 節 旧石器時代の調査	21
第 4 節 縄文時代の調査	27
第 5 節 弥生・古墳時代以降の調査	97
第 章 分析・同定	109
第 章 発掘調査のまとめ	117

写真図版

あとがき

挿 図 目 次

第 1 図	上山路山遺跡位置図		第36図	縄文時代の土器15 (・ 類)	53
第 2 図	南九州西回り自動車道調査遺跡位置図...	4	第37図	縄文時代の土器16 (類)	54
第 3 図	上山路山遺跡周辺地形確認トレンチ・ グリッド配置図	10	第38図	縄文時代の土器17 (類)	55
第 4 図	周辺遺跡位置図	16	第39図	縄文時代の土器18 (類)	56
第 5 図	土層柱状図	18	第40図	縄文時代の土器19 (類)	57
第 6 図	上山路山遺跡土層断面図(1)	19	第41図	縄文時代の土器20 (底部 1)	58
第 7 図	上山路山遺跡土層断面図(2)	20	第42図	縄文時代の土器21 (底部 2)	59
第 8 図	旧石器時代礫群検出位置図	22	第43図	縄文時代の土器22 (底部 3)	60
第 9 図	旧石器時代の遺構 (礫群)	22	第44図	縄文時代石器出土分布図	78
第10図	旧石器時代遺物出土分布図	24	第45図	石鏃	80
第11図	旧石器時代の遺物(1)	25	第46図	石鏃・石匙・楔形石器	81
第12図	旧石器時代の遺物(2)	26	第47図	石槍・スクレイパー	82
第13図	縄文時代遺構分布図 (b ・ 層)	28	第48図	スクレイパー	83
第14図	縄文時代の遺構 (1 号集石)	29	第49図	スクレイパー	84
第15図	縄文時代の遺構 (2 ~ 4 号集石)	30	第50図	二次加工剥片・剥片	85
第16図	縄文時代の遺構 (土坑・ピット)	31	第51図	石斧	86
第17図	縄文時代の遺構 (道跡)	32	第52図	石斧・礫器	87
第18図	縄文時代の遺構 (道跡内出土遺物)	33	第53図	磨石・敲石	88
第19図	縄文時代の土器出土状況	35	第54図	磨石・敲石	89
第20図	部分拡大図	36	第55図	磨石・敲石・石皿	90
第21図	縄文時代早期土器分類模式図	38	第56図	石皿	91
第22図	縄文時代の土器 1 (類)	39	第57図	石皿	92
第23図	縄文時代の土器 2 (類)	40	第58図	石皿	93
第24図	縄文時代の土器 3 (類)	41	第59図	石皿・その他	94
第25図	縄文時代の土器 4 (類)	42	第60図	弥生時代以降遺構分布図	98
第26図	縄文時代の土器 5 (類)	43	第61図	弥生時代以降の遺構 (土器集中遺構)	99
第27図	縄文時代の土器 6 (類)	44	第62図	弥生時代以降の遺構 (土坑)	100
第28図	縄文時代の土器 7 (類)	45	第63図	弥生時代以降の遺構 (溝状遺構)	101
第29図	縄文時代の土器 8 (類)	46	第64図	弥生時代以降の出土遺物分布状況図	102
第30図	縄文時代の土器 9 (類)	47	第65図	弥生時代・古墳時代の遺物	103
第31図	縄文時代の土器10 (類)	48	第66図	古墳時代の遺物	104
第32図	縄文時代の土器11 (類)	49	第67図	古墳時代の遺物	105
第33図	縄文時代の土器12 (類)	50	第68図	古墳時代と古代の遺物	106
第34図	縄文時代の土器13 (類)	51	第69図	早期出土土器編年図	119
第35図	縄文時代の土器14 (・ 類)	52	第70図	調査範囲と残存部分	120
			第71図	早期景観推定復元図	120

表 目 次

第1表	南九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財 発掘調査遺跡一覧表	5	第15表	縄文土器観察表9	69
第2表	上山路山遺跡周辺遺跡一覧表	14	第16表	縄文土器観察表10	70
第3表	旧石器時代礫群観察表	23	第17表	縄文土器観察表11	71
第4表	旧石器時代遺物観察表	23	第18表	縄文土器観察表12	72
第5表	縄文時代集石観察表	29	第19表	縄文土器観察表13	73
第6表	縄文時代土坑・ピット観察表	33	第20表	縄文土器観察表14	74
第7表	縄文土器観察表1	61	第21表	縄文土器観察表15	75
第8表	縄文土器観察表2	62	第22表	縄文土器観察表16	76
第9表	縄文土器観察表3	63	第23表	縄文時代石器観察表1	95
第10表	縄文土器観察表4	64	第24表	縄文時代石器観察表2	96
第11表	縄文土器観察表5	65	第25表	弥生～古代土坑観察表	98
第12表	縄文土器観察表6	66	第26表	弥生時代以降の土器観察表1	107
第13表	縄文土器観察表7	67	第27表	弥生時代以降の土器観察表2	108
第14表	縄文土器観察表8	68	第28表	古代土師器法量表	108

図 版 目 次

図版1	上山路山遺跡遠景（空撮）	121	図版11	縄文時代早期遺物出土状況・集石検出 状況	131
図版2	旧石器時代の石器	122	図版12	縄文時代早期土坑1半裁状況・道跡 検出状況・散乱礫検出状況	132
図版3	赤色顔料付着土器出土状況・土器胎 土頭微鏡写真	123	図版13	縄文時代早期土坑2断面・縄文時代早 期遺物出土状況・「土器捨て場」調査 状況	133
図版4	縄文時代の石器1（石鏃・石匙・楔 形石器など）	124	図版14	縄文時代早期土器出土状況1	134
図版5	縄文時代の石器2（石槍・スクレイ パーなど）	125	図版15	縄文時代早期土器出土状況2	135
図版6	縄文時代の石器3（礫器・石斧など）	126	図版16	縄文時代土器出土状況	136
図版7	縄文時代の石器4（磨石など）	127	図版17	縄文時代石器出土状況	137
図版8	縄文時代の石器5（磨石・敲石・石皿）	128	図版18	取り付け道路調査状況・古墳時代以降 の溝状遺構完掘状況・遺物出土状況	138
図版9	確認調査・縄文時代早期の道跡	129	図版19	弥生時代以降の遺物出土状況	139
図版10	旧石器時代遺物出土状況・礫群検出状 況・剥片出土状況	130			

図版20	縄文時代の遺構内遺物	140	図版33	縄文時代の土器13（類）	153
図版21	縄文時代の土器1（完形品124）	141	図版34	縄文時代の土器14（類）	154
図版22	縄文時代の土器2（完形品241）	142	図版35	縄文時代の土器15（底部1）	155
図版23	縄文時代の土器3（完形品254）	143	図版36	縄文時代の土器16（底部2）	156
図版24	縄文時代の土器4（完形品255）	144	図版37	縄文時代の石器6（砥石・石皿ほか）	157
図版25	縄文時代の土器5（類）	145	図版38	縄文時代の石器7（軽石・原石ほか）	158
図版26	縄文時代の土器6（・類）	146	図版39	弥生時代～古墳時代以降の遺物1	159
図版27	縄文時代の土器7（類）	147	図版40	古墳時代の遺物2	160
図版28	縄文時代の土器8（類）	148	図版41	古墳時代の遺物3	161
図版29	縄文時代の土器9（類）	149	図版42	古墳時代以降の遺物1	162
図版30	縄文時代の土器10（類）	150	図版43	古墳時代以降の遺物2	163
図版31	縄文時代の土器11（・類）	151	図版44	調査風景・作業員・整理作業	164
図版32	縄文時代の土器12（・・類）	152			



東南より上山路山遺跡を望む

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至るまでの経過

建設省九州地方建設局（中央省庁再編により平成13年1月より国土交通省九州地方整備局に改称）は、鹿児島～市来間に南九州西回り自動車道鹿児島道路の建設を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化課（組織改革により平成8年度より文化財課に改称）に照会した。この計画に伴い、文化課が平成3年6月に伊集院ⅠＣと市来ⅠＣ間の埋蔵文化財の分布調査を実施したところ、当事業区内には、27か所の遺物散布地及び確認調査の必要な地点が存在することが判明した。

事業区間内の埋蔵文化財の取り扱いについては、建設省鹿児島国道工事事務所と文化課の協議に基づき、鹿児島国道工事事務所と鹿児島県知事との間で委託契約が結ばれ、埋蔵文化財の確認調査・本調査が実施されることになった。

これを受けて、平成8年度から平成12年度にかけて、毎年度、計画的かつ継続的に各遺跡の確認調査及び本調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存を図ることになった。発掘調査は鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。

なお、事業区間内の遺跡の概要については、以下の通りである。

第2節 遺跡の概要

- 1 一ノ谷……日置市伊集院町下谷口字一ノ谷の飯牟礼台地から西側へ延びた標高90～95mの丘陵端部に位置し、調査面積は1,250㎡である。中世～近世の古道・五輪塔及び染付や近世～近代にかけての掘立柱建物跡・溝状遺構・土坑・ピットが青磁・染付・土師器・薩摩焼などと一緒に発見された。
- 2 永迫平……日置市伊集院町下谷口字下永迫の恋之原台地から延びた支脈が盆地状の水田地帯に落ちる直前の標高約150m程の小台地上に立地している。調査面積は14,000㎡で旧石器時代ナイフ形石器文化の2か所のブロックと細石刃文化期の細石刃が出土し、縄文時代早期前半の前平式期には9軒の住居跡を始め、3基の連穴土坑と9基の集石、多数の土坑を検出。その他、古墳時代から近世にかけての遺物も出土している。
- 3 下永迫A…日置市伊集院町下谷口字下永迫の標高85～110mのやせ尾根に挟まれた谷間に立地する。調査面積は2,600㎡で、縄文時代後期の指宿式土器と石鏃、古墳時代の成川式土器、古代～中世では土坑・集石が検出され、青磁・白磁が出土した。
- 4 柳原……日置市伊集院町下谷口の標高約90～100mの山間の谷間、傾斜地及び周辺のやや小高いテラス状の尾根部に立地する。調査面積は6,000㎡である。縄文時代早期の集石4基や後期の石匙、石鏃、古代の土坑、焼土跡と共に土師器・須恵器が発見された。
- 5 上山路山…日置市伊集院町大田字上山路山の標高約130mのシラス台地上に位置する。舌状台地の端部にあたり、平坦面から続く緩やかな斜面と、谷頭を含んだかなり急な斜面とからなる。調査面積は6,300㎡である。旧石器時代細石刃文化の遺物と縄文時代（早期・後期）、弥生～古墳時代の遺物が発見された。主になるのは、縄文時代早期で遺

構は、道跡や集石、遺物は岩本式・前平式・吉田式土器等が出土した。(本報告書)

- 6 大田城跡...日置市伊集院町大田字下城山迫の標高約120mの台地上に所在する。調査面積は4,000㎡である。中世山城の可能性を指摘された遺跡であったが、山城の存在を示す遺構は検出されなかった。旧石器時代ナイフ形石器文化、細石刃文化の遺物と縄文時代早期の集石、土坑等の遺構と岩本式・前平式土器等の遺物が発見された。
- 7 堂平窯跡...日置市東市来町美山の標高約85～92mの傾斜面にある江戸時代の薩摩焼の窯跡である。調査面積は3,500㎡で、窯、作業場、物原が発見された。窯は長さ約30m、幅1.2m、傾斜角17°の半円筒形をした単室傾斜窯である。陶器(甕・壺・德利・土瓶・こね鉢・摺鉢・動物形土製品)、瓦(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・のし瓦)や窯道具が多量に出土した。
- 8 池之頭.....日置市東市来町美山字池之頭にあり、美山池北西部の標高約80～100mのシラス台地の尾根状部分に立地し、調査面積は7,500㎡である。旧石器時代のナイフ・台形石器・スクレイパー・細石刃核・細石刃、縄文時代早期の集石8基・前平式・吉田式・石坂式土器や中期の春日式・並木式・阿高式土器、晩期の入佐式や黒川式土器が出土した。また古墳時代の成川式土器(甕・壺・高坏等)が多く発見された。
- 9 雪山.....日置市東市来町美山字雪山の標高約95mの台地東端に立地する。調査面積は2,700㎡で、旧石器時代の細石刃核・細石刃、縄文時代の集石2基と前平式・春日式土器・石鏃・石皿・磨石、古墳時代の成川式土器が出土したが、主体は近世～近代の薩摩焼の遺構・遺物で、炉跡・物原?・土坑等が薩摩焼(茶家・土瓶・搦鉢・瓶・碗)、染付(碗・皿)や窯道具と一緒に発見された。
- 10 猿引.....日置市東市来町長里字猿引の標高約110～115mの尾根状の台地に立地する。調査面積は800㎡で、旧石器時代ナイフ形石器文化の礫群1基と三稜尖頭器・ナイフ・台形石器・敲石や細石刃文化の細石刃核・細石刃と縄文時代前期の曽畑式土器・黒曜石片が出土した。
- 11 犬ヶ原.....日置市東市来町伊作田字犬ヶ原の標高約66mの独立丘陵のシラス台地に立地する。調査面積は、2,000㎡で、旧石器時代の細石刃核・細石刃、縄文時代の浅鉢・深鉢・石斧・石皿・石鏃・石匙、古墳時代の成川式土器(甕・壺・鉢)等が出土したが、主になるのは平安時代で、掘立柱建物跡(4間×4間・総柱)が製鉄に関する遺物(鞆羽口・鉄滓・鉄製品)・土師器・須恵器と共に多く発見された。
- 12 向梶城跡...日置市東市来町伊作田の標高約50mの独立台地上に所在する。調査面積は14,000㎡である。旧石器時代ナイフ形石器文化の剥片尖頭器・ナイフ、縄文時代草創期の隆帯文土器が多量の石鏃と一緒に見つかった。また古墳時代の竪穴住居跡や中世～近世にかけての空堀・帯曲輪・堀切・竪穴状遺構・掘立柱建物跡・炉跡などが発見され、中世山城の遺構が検出された。
- 13 堂園平.....日置市東市来町伊作田の遠見番山から下る斜面の裾部にあり、標高約50mの平坦地に立地する。調査面積は2,000㎡で、旧石器時代のナイフ形石器文化の礫群9基と剥片尖頭器・ナイフ・台形石器と細石刃文化の細石刃核・細石刃、縄文時代の集石4

基・吉田式・塞ノ神式土器や轟式土器等が発見されている。また古代の土師器・須恵器等も出土している。

- 14 今里……日置市東市来町伊作田字今里の標高約65mの台地端の傾斜地に所在する。調査面積は14,000㎡で、旧石器時代ナイフ形石器文化の礫群、剥片尖頭器・ナイフ・台形石器や細石刃文化の細石刃核・細石刃・調整剥片が出土し、縄文時代の集石や前平式・深浦式・出水式・黒川式土器や石匙などの石器、古墳時代の成川式土器が発見された。
- 15 市ノ原……市来町大里字上ノ原前から東市来町湯田字市ノ原に至る標高約50m台地西側に所在する。調査面積は62,000㎡である。遺跡は第1地点から第5地点まであり、旧石器時代ナイフ形石器文化、細石刃文化、縄文時代（早期～晩期）、弥生時代の住居跡・壺棺、古墳時代の住居跡、古代～中世、近世の街道跡など多時期に渡り、多種多様な遺構・遺物が発見された。
- 16 上ノ原……市来町大里の東シナ海を望む標高40mの台地上に立地し、三方は急峻な傾斜面となっている。調査面積は2,000㎡で縄文時代の集石3基、土坑が検出され、塞ノ神式、轟式土器と石斧・石鏃・石匙などが出土した。古墳時代では竪穴式住居跡1基と土坑・成川式土器が、古代～中世は土師器・須恵器・青磁・滑石製石鍋が発見された。

刊行報告書

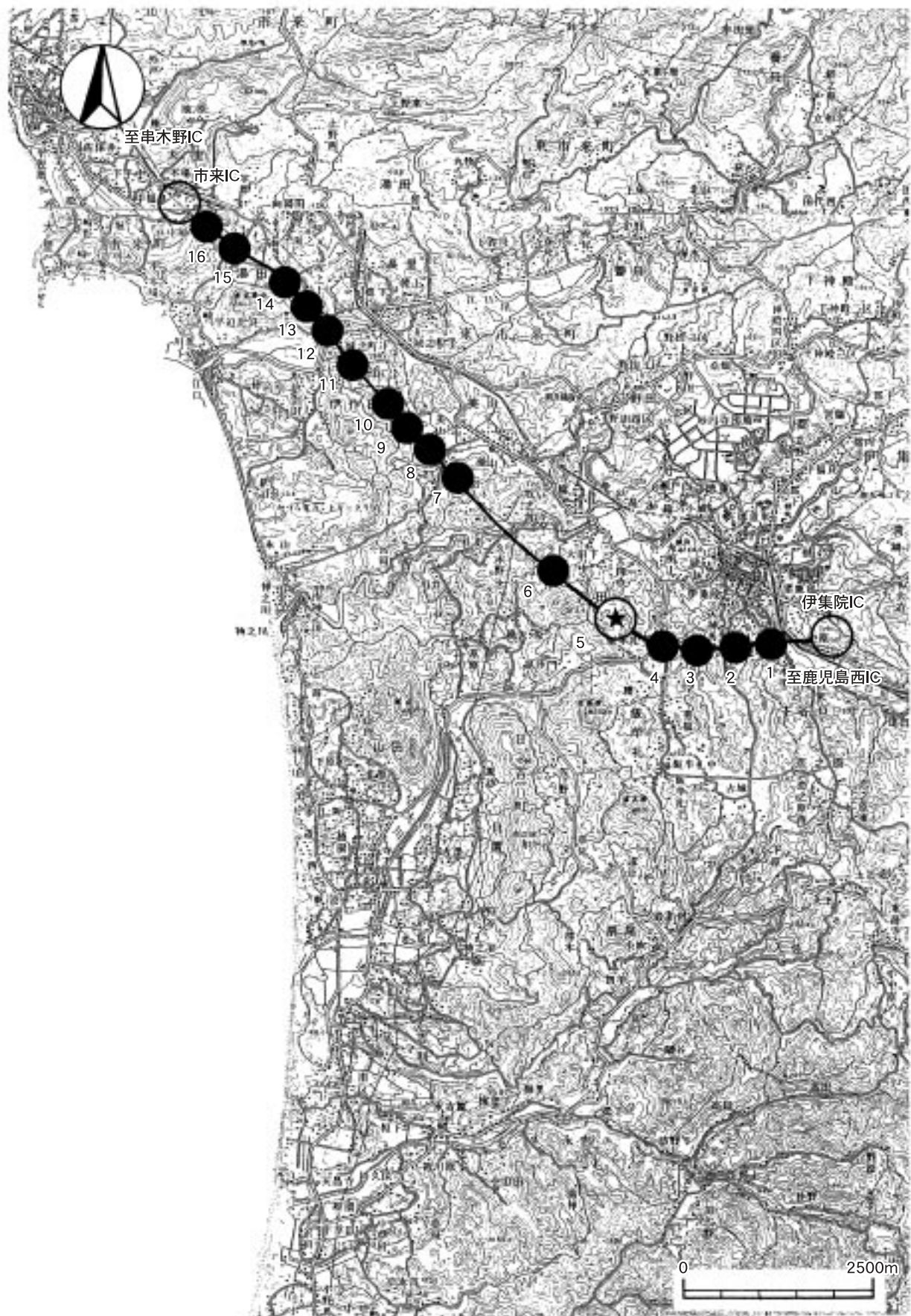
- 「一ノ谷遺跡」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(31) 2001 3
「池之頭遺跡」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(32) 2002 3
「今里遺跡」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(33) 2002 9
「市ノ原遺跡(第1地点)」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(49) 2003 3
「犬ヶ原遺跡」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(50) 2003 3
「上ノ原遺跡」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(62) 2003 3
「下永迫A遺跡」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(72) 2004 3
「永迫平遺跡」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(93) 2005 3
「柳原遺跡」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(94) 2005 3
「大田城跡」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(95) 2005 3



調査風景「道跡」



「土器捨て場」



第2図 南九州西回り自動車道（鹿児島道路）調査遺跡位置図

第Ⅱ章 発掘調査の経過

第1節 調査の経緯

建設省九州地方建設局（中央省庁再編により平成13年1月から国土交通省九州地方整備局に改称）は、鹿児島～市来間に南九州西回り自動車道鹿児島道路の建設を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化課（組織改革により平成8年度から文化財課に改称）に照会した。この計画に伴い、文化課が平成3年6月に伊集院ICと市来IC間の埋蔵文化財分布調査を実施したところ、当事業区内には、27か所の遺物散布地及び確認調査の必要な地点が存在することが判明した。

事業区間内の埋蔵文化財の取り扱いについては、建設省鹿児島国道工事事務所と文化課の協議に基づき、鹿児島国道工事事務所と鹿児島県知事との間で委託契約が結ばれ、埋蔵文化財の確認調査・本調査が実施されることになった。

上山路山遺跡については、平成9年2月12日から平成9年2月21日（実働8日）まで確認調査を行い、遺跡の範囲や性格等を把握した。これを受けて、平成9年5月13日から平成9年8月28日まで、平成9年12月1日から平成10年3月30日までの2回（実働82日）に分けて本調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存を図った。調査対象面積は6,300㎡である。なお、整理作業及び報告書作成は18年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターで行った。

第2節 調査の組織

平成8年度調査体制（確認調査）

事業主体者：建設省九州地方建設局鹿児島国道工事事務所

調査主体者：鹿児島県教育委員会

企画・調整：鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者：鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	吉永 和人
調査企画者：	次長兼総務課長	尾崎 進
	主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
	調査課長補佐	新東 晃一
調査企画・担当者：	主任文化財主事兼第三調査係長	池畑 耕一
調査担当者：	文化財研究員	三垣 恵一
	文化財調査員	桑波田武志
調査事務担当：鹿児島県立埋蔵文化財センター	主査	成尾 雅明
	主査	前屋敷裕徳
	主事	追立ひとみ

平成9年度調査体制（本調査）

事業主体者：建設省九州地方建設局鹿児島国道工事事務所

調査主体者：鹿児島県教育委員会

企画・調整：鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者：鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	吉元 正幸
調査企画者：	次長兼総務課長	尾崎 進
〃	主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
〃	調査課長補佐	新東 晃一
〃	主任文化財主事兼第三調査課長	池畑 耕一
調査担当者：鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財研究員	寺原 徹
〃	文化財調査員	桑波田武志
事務担当者：鹿児島県立埋蔵文化財センター	主査	前屋敷裕徳
〃	主査	政倉 孝弘
〃	主事	溜池 佳子

平成18年度体制（整理・報告書作成）

事業主体者：国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所

作成主体者：鹿児島県教育委員会

作成責任者：鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長（～7月31日）	上今 常雄
	所長（8月1日～）	宮原 景信
作成企画者：鹿児島県立埋蔵文化財センター	次長兼総務課長	有川 昭人
〃	次長兼南の縄文調査室長	新東 晃一
〃	調査第二課長	立神 次郎
〃	主任文化財主事兼調査第二課第二調査係長	牛ノ濱 修
〃	主任文化財主事	宮田 栄二
作成担当者：鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財主事	藤崎 光洋
事務担当者：鹿児島県立埋蔵文化財センター	総務係長	寄生田正秀
〃	主査	蒲地 俊一

報告書作成検討委員会	平成18年12月15日	宮原所長ほか	12名
報告書作成指導委員会	平成18年12月13日	新東次長ほか	3名
企画担当者	宮田栄二・寺原徹		

第3節 調査の経過（日誌抄）

調査の経過は日誌抄により略述する。

確認調査

平成9年2月12日から2月21日まで実施した（実働8日）。確認トレンチを9か所に設定し、掘り下げを行った。その結果、古代の土師器、弥生時代の土器、縄文時代早期（岩本式・前平式）・

後期（市来式）の土器や石器，旧石器時代では黒曜石のフレイク，チップなどが出土した。

本調査

平成9年5月13日～8月28日，平成9年12月1日～平成10年3月30日

平成9年5月13日（火）～5月30日（金）

取り付け道路整備。その際，層より古墳時代の土器出土。伐採された樹木などの除去。D・E - 11・12区の表土剥ぎ，アカホヤ上面検出。a・層掘り下げ，遺物取り上げ。

平成9年6月2日（月）～7月15日（火）

F～H - 8・10区及びD - 13区の表土剥ぎ，アカホヤ上面検出。a・層掘り下げ，遺物取り上げ。層上面コンタ図作成。古墳時代以降の土器集中部・土坑や縄文時代早期の1号集石とその直下の旧石器時代の礫群検出，掘り下げ，写真撮影，実測。

平成9年7月16日（水）～7月28日（月）

D - 6・7区の表土剥ぎ，アカホヤ上面検出。溝状遺構検出，掘り下げ，写真撮影，実測。

D - 13区のa層掘り下げ，遺物取り上げ。1号土坑・道跡検出，掘り下げ，写真撮影，実測。C - 13区及びE - 13・14区の表土剥ぎ，アカホヤ上面検出。

平成9年7月29日（火）～8月28日（木）

D - 6・7区の層上面コンタ図作成。土坑検出，掘り下げ，写真撮影，実測。H - 8区で集石検出，掘り下げ，写真撮影，実測。E - 13・14区の層上面コンタ図作成。C・D - 11～13区及びE - 13・14区のa・層掘り下げ，遺物取り上げ。F～H - 2～4区の表土剥ぎ。層掘り下げ，遺物取り上げ。

平成9年8月29日（金）～11月30日（日）

小倉畑遺跡調査のため中断。

平成9年12月1日（月）～12月24日（水）

F～H - 5～7区の表土剥ぎ。F～H - 2～7区b層掘り下げ，遺物取り上げ。G - 4区で集石及びF・G - 6・7区で溝状遺構検出，掘り下げ，写真撮影，実測。G - 6区層より口縁内面に赤色顔料を塗布した土器片119が出土（9日）。F・G - 2～5区の層上面コンタ図作成。

平成10年1月6日（火）～1月21日（水）

E - 6区及びG・H - 8～10区の表土剥ぎ。層掘り下げ，遺物取り上げ。F～H - 3～8区のa・層掘り下げ，遺物取り上げ。F・G - 6・7区の層上面コンタ図作成。E・F - 9～11区のa・層掘り下げ，遺物取り上げ。G - 8区で集石検出，掘り下げ，写真撮影，実測。D - 5区の表土剥ぎ，溝状遺構検出，掘り下げ，写真撮影，実測。森脇広（鹿児島大学法文学部教授）現地指導（9日）。

平成10年1月22日（木）～2月16日（月）

D～F - 5～7区のa・層掘り下げ，遺物取り上げ。D・F - 9～11区の表土剥ぎ。a・層掘り下げ，遺物取り上げ。D - 5区及びE・F - 9～11区で土坑，D・E - 10・11区で溝状遺構検出，掘り下げ，写真撮影，実測。E・F - 6・7区の層上面コンタ図作成。D・E - 12・14区の表土剥ぎ。

平成10年2月17日（火）～3月30日（月）

E・F-5・6区及びD・E-9～14区の a・ ・ 層掘り下げ，遺物取り上げ，道跡及び層上面コンタ図作成，ビデオムービー撮影。空中写真撮影（6日）。

整理・報告書作成事業の概要

上山路山遺跡の整理・報告書作成作業は，平成18年4月～12月に行った。

4月 整理作業開始。図面及び遺物の確認，点検。遺物を土器と石器に分け，石器選別及び土器の接合を開始する。

5月 地形や遺構配置などの確認。土器接合。石膏による補強及び復元。実測委託用石器の選別。

6月 土器接合。石膏による補強及び復元。実測用土器選別及び拓本。実測委託用石器の選別。

7月 土器の石膏による補強及び復元。実測用土器選別及び拓本。土器実測。石器実測委託。14C化学分析委託。

8月 土器実測及び石器実測委託の図面点検，修正。

9月 土器実測及びトレース。石器実測委託の図面納品。追加石器の実測。データー入力。ドット図の整理。14C化学分析委託の成果品納品。

10月 遺構トレース。土器トレース及び拓本貼り。データー入力。本田道輝（鹿児島大学法文学部助教授）遺物指導（24日）。文章作成。

11月 遺構トレース。土器トレース及び拓本貼り。仮レイアウト。データー入力。文章作成。

12月 遺構トレース。土器トレース及び拓本貼り。仮レイアウト及びレイアウト。データー入力。遺物写真撮影。文章作成。入札のための起案。

1月 文章確認，修正。入札。校正。一般遺物の収納。

2月 校正。現場図面及び遺物の実測図の整理，仮収納。

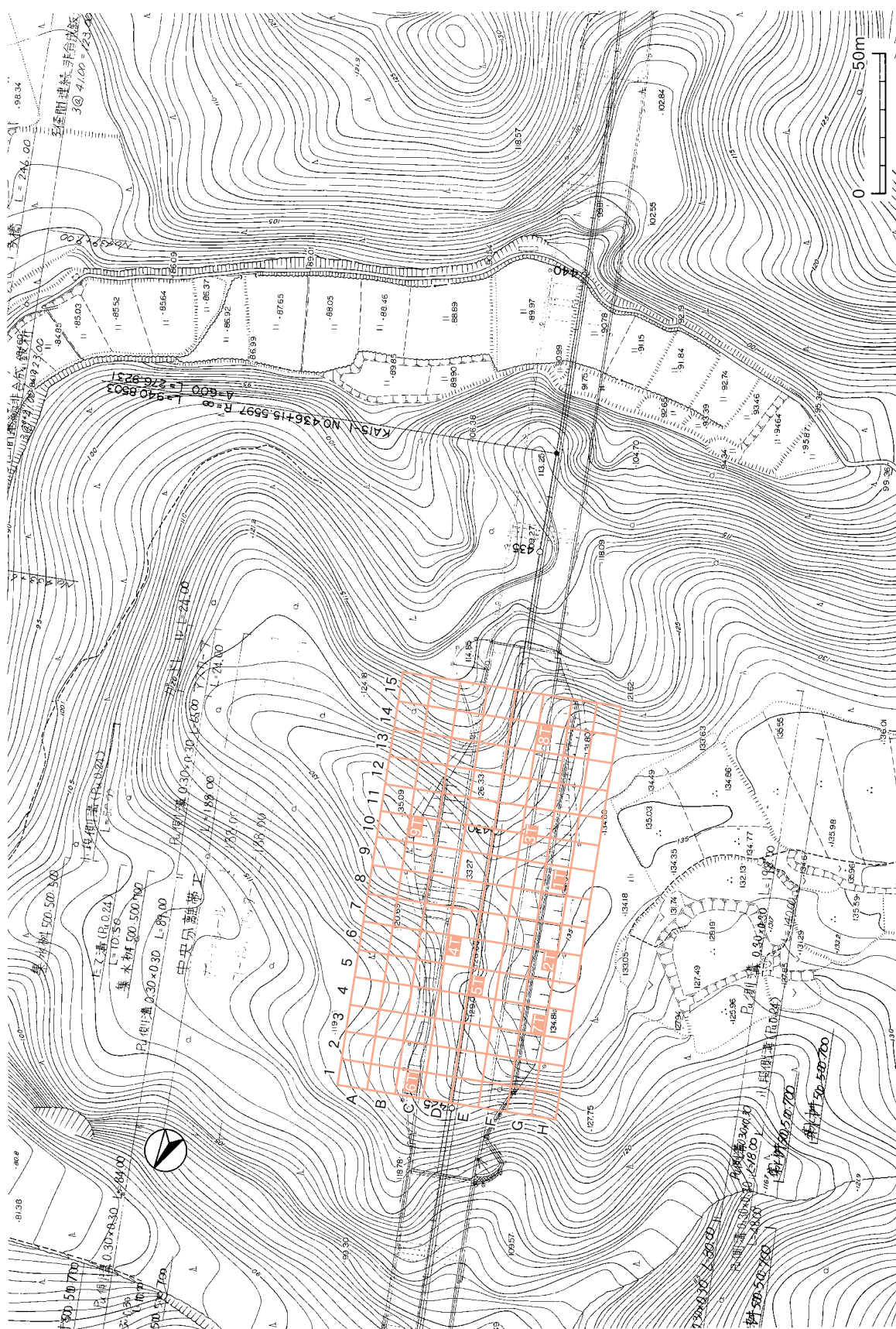
3月 校正。報告書掲載遺物の整理，仮収納。報告書納入。これにより，上山路山遺跡の報告書作成作業の全てを終了する。

また，報告書作成にあたっては，調査及び企画担当者のほか下記の方に指導・助言をいただいた。

内村光伸・黒川忠広・相美伊久雄・繁昌正幸・日高正人・平美典・前迫亮一・馬籠亮道・堂込秀人
なお，整理作業従事者は，次のとおりである。

有満菜穂美・今村智子・川崎弘子・北住靖子・逆瀬川恵子・新富弥生・新田洋美・園田ひとみ・藤本恵子・古川千代子・三谷加代子（50音順，敬称略）





第3図 上山路山遺跡周辺地形・確認トレンチ・グリッド配置図

第Ⅲ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

上山路山遺跡は、日置市伊集院町（旧日置郡伊集院町）大田字上山路山に所在する。町の西部，標高約130mの台地上に位置する。日置市は，平成の大合併により，平成17年5月1日に東市来町・伊集院町・日吉町・吹上町の4町が合併して誕生した市である。ここでは，伊集院町に絞って述べることにする。

伊集院町は，薩摩半島のほぼ中央に位置し，北東から南は鹿児島市，北西は東市来町，西は日吉町に接している。藩政時代には，主要道路として参勤交代にも利用された道（九州街道）が通るなど，地理的な位置から古くから日置郡の中心として栄えてきた。50年代からは，大型団地の分譲や住宅建設が増え，道路整備が進むと，豊かな自然や良好な教育環境を求めて，県都鹿児島市のベッドタウンとして人口が増加してきた。また，教育の町作りをモットーに，子供たちの教育にも力を入れてきた町でもある。鹿児島の三大大行事のひとつである「妙円寺詣り」は，平成5年より10月の第4日曜日に実施し，多くの子供たちが参加している。

伊集院町の地形は，北部に重平山（523.1m）など旧期火山岩山地が連なり，鹿児島市及び東市来町と境界をなしている。南西部には，矢筈岳（302.9m）や諸正岳（301.4m）があり，日吉町と町界をなしている。これらの台地を除くと町の大部分は，海拔150m前後の火山灰台地である。平地は，この火山灰台地が東シナ海まで注いでいる2級河川の神之川とその支流などの影響で作られた狭い谷底平地となっている。台地と平地との境は崖地となっていてところが多く，湧水地点もある。つまり，海に面しない，やや内陸的気候の特徴を持つ，小規模な盆地状地形となっている。

伊集院町の基盤地質は，北部の重平山と町の中心部から南西には輝石安山岩が分布している。本遺跡を含め矢筈岳や諸正岳など町の西部の山地は，中世代の四万十層群に属する砂岩・頁岩・礫岩等の互層が分布し，一部ホルンフェルス化している部分もある。河川流域には，小規模な沖積層が分布している。それ以外の地域は，県本土を広く被っている約24,000年前に始良カルデラから噴出した入戸火砕流堆積物（シラス）の台地である。

第2節 歴史的環境

伊集院町の考古学的発掘調査の歴史は新しく，昭和62年に大田地区（通称：城山）で，一字治城跡の部分的発掘調査が行われたのが，始まりである。翌年に刊行された発掘調査報告書の遺跡地名表には，町内の49か所の遺跡が紹介されているが，ほとんどが寺院・墓地等に伴う石塔が中心である。以前から集落の畑や神社の裏山から縄文・弥生時代の土器片や石器が断片的に採集されるだけの状況であった。

しかし，平成8年に始まった南九州西回り自動車道鹿児島道路（伊集院IC～市来IC間）の建設や九州新幹線鹿児島ルート（新八代～鹿児島中央間）の建設に伴う考古学的発掘調査が行われたことにより，約2万数千年前の遺構・遺物が発見されるなど伊集院町の歴史が旧石器時代ナイフ形石器文化期まで遡ることとなった。

そこで，周辺遺跡と併せて伊集院町の主な遺跡を時代順に若干紹介することにする。

旧石器時代

伊集院町周辺の地形は、地層や岩盤の堆積状況、海水準の変動等を考慮すると、現在の地形に近い姿となっていたと推定できる。湧水地もあり、早くから人が生きていくことができる要因が揃う。

伊集院町では、ナイフ形石器や剥片尖頭器などナイフ形石器文化期の遺物が出土した永迫平遺跡（下谷口）や大田城跡（大田）がある。旧石器時代の終焉となる細石刃文化期には隣接する鹿児島市仁田尾（旧日置郡松元町）に広い範囲で遺物が分布する九州最大級の遺跡が存在するが、伊集院町でも瀬戸頭A・B遺跡（竹之山）や竹之山B遺跡などの遺跡で同時期の石器が出土し、竹之山B遺跡では落とし穴も確認されている。

縄文時代

瀬戸頭遺跡では、草創期の土器片が出土する。大田城跡で主体となる時期の縄文時代早期では、気候が温暖化してきたと考えられ、永迫平遺跡で竪穴住居跡9基、連穴土坑3基、集石遺構12基、道跡3条などが発見され、縄文時代早期前葉の定住集落の存在が確認された。これと同じ時期の集落として大田城跡（大田）でも土坑や集石遺構が発見されている。さらに、これらの集落より一段階古い時期とされ、日本でも最古級の縄文時代早期初頭の赤色顔料土器が出土した稲荷原遺跡（恋之原）がある。いずれも、伊集院町の歴史の古さを窺わせるものばかりである。

早期後半以降、遺跡数は少なくなる。後期の上ノ平遺跡（下神殿）では、竪穴住居跡が5基発見され、当時の人々が同じ地に何度も回帰していたことを示すものとなった。

弥生～古墳時代

南九州は、始良カルデラから噴出した入戸火砕流堆積物（シラス）の台地などが多く、稲作に適した地域が少なかった為に稲作の生産性が低かったと考えられている。その為、北部九州ほど弥生文化は発達していない。また、これまでの発掘調査対象地域も台地や丘陵地が多いせいも、弥生時代・古墳時代の遺跡数は少ない。伊集院町周辺では、東市来町からいちき串木野市市来町にかけて位置する市ノ原遺跡（いちき串木野市市来町大里）で、弥生時代の埋設壺4基が確認されたほか、弥生時代前期の突帯文系土器、中期の北九州系とも考えられる土器などが出土した。古墳時代の土器である成川式土器の出土遺跡は、これまでも県内で報告されているものの伊集院町郡に所在する石坂遺跡（町報12）では、竪穴住居跡と思われる遺構を検出し、遺構中心部内からは完形に近い成川式土器も出土した。

古代～中世

伊集院町の町名の由来は、古代に租税の物品を収納し、管理する倉庫（＝院）が置かれたことにはじまると考えられている。その後、中世から近世にかけては、幾度かの争いにより薩摩藩主島津氏の拠点の一つとして位置付けられている。その為か、町の歴史も中世以降の文献史学の研究が中心となっていたが考古学的発掘調査によって、さらに当時の生活を知る手懸かりとなった。西原遺跡（郡）・石坂遺跡（郡：県埋セ報58）や下永迫A遺跡（下谷口）では、古代の焼土・掘立柱建物跡を検出、越州窯青磁碗や赤色土器・墨書土器等が多数出土した。古代末から中世初期に作成された建久図田帳には当遺跡が所在する大田という地名が出てくる。山ノ脇遺跡（郡）では、中世の伊集院町周辺一帯を治めていた在地豪族が暮らしていた居館群が発見され、当時の豪族の権力の一端を示すものとなった。勢力争いが激化してくる、この頃になると各地で多数の山城が作られるよう

になるが、伊集院町では、一字治城跡（大田）などがある。この山城は、島津貴久がフランシスコ・ザビエルと会談した城として知られ、大きく4つの郭群からなり、多くの曲輪が造られ曲輪間には多数の空堀が掘られていた。現在は、史跡公園として整備されている。

参考文献・引用文献

〔報告書〕

伊集院町教育委員会1988『一字治城跡』伊集院町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）

伊集院町教育委員会2000『石坂遺跡』伊集院町埋蔵文化財発掘調査報告書（12）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2001『竹ノ山A・B遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（29）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『市ノ原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（49）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『犬ヶ原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（50）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『雪山・猿引遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（53）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『山ノ脇・石坂・西原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（58）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004『上ノ平遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（70）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004『下永迫A遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（72）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004『宮尾遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（73）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005『大田城跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（95）

上山路山遺跡の道跡



第2表 上山路山遺跡の周辺遺跡地名表

番号	遺跡名等	所在地	地形	時代	遺物等	文献等
1	雪山	東市来町美山字雪山	台地	旧石器 縄文 近世～近代	剥片尖頭器 前平式土器 陶磁器類・窯道具	
2	五本松窯	東市来町美山500・498 - 2	丘陵	近世	陶器	(町指) 昭和57 2 20
3	池之頭	東市来町美山字池之頭	台地	旧石器 縄文 古墳	細石刃 縄文土器 成川式土器	
4	池之平	東市来町美山池之平ほか	丘陵	古墳 近世	土器・土師器 陶器	平成3年北薩・伊佐分布調査
5	御定式窯	東市来町美山973・974	丘陵	近世(後)	陶器	(町指) 昭和57 2 20
6	南京皿山窯	東市来町美山975	丘陵	近世(後)	陶器・白磁	(町指) 昭和57 2 20
7	水溜	東市来町美山上水溜ほか	段丘	中世 近世	土師器 陶器・磁器	平成3年北薩・伊佐分布調査
8	原	東市来町宮田原ほか	丘陵	弥生 古墳・中世 近世	土器 土師器 陶器	平成3年北薩・伊佐分布調査
9	馬通	東市来町美山馬通ほか	丘陵	弥生 古墳 近世	土器 土師器 陶器	平成3年北薩・伊佐分布調査
10	中宮田	東市来町宮田字中宮田	河岸段丘	古墳	土器片	昭和61年分布調査
11	伊勢後	東市来町養母伊勢後	段丘	古墳 中世 近世	土器 土師器 陶器	平成3年北薩・伊佐分布調査
12	松尾城跡	日吉町日置城の下	山麓緩斜面	文治年間	飛来大権現(板碑)	小野小太郎家綱の時よりの城, 別称「日置城」「山田城」
13	桂山寺跡	日吉町日置城の下	山麓緩斜面		仁王像2基・供養申塔	(町指) 昭和52 8 .12
14	鎮守前	日吉町日吉字鎮守前	低地	奈良～平安	土師器・須恵器	昭和62年分布調査
15	安養院跡	日吉町日置中牟礼	低地	近世 (元禄10)	寺の門前にあった仁王像(板碑)	永禄10年(1567年)2月開墓
16	大乘寺跡	日吉町日置古里東	台地		磁石・宝篋印塔・石の階段・寺院跡墓地	(町指) 昭和44 3 .11
17	熊野神社境内	伊集院町飯牟礼	低地		五輪塔・宝塔	
18	道祖瀬戸	伊集院町				

番号	遺跡名等	所在地	地形	時代	遺物等	文献等
19	狩待迫	伊集院町				
20	上山路山	伊集院町		縄文 古墳		
21	木場田	伊集院町				
22	敷田尾	伊集院町				
23	大田城跡	伊集院町大田城山迫	丘陵	旧石器 縄文（早）	三稜尖頭器 岩本式土器・前平式 土器・石斧	本報告書
24	報恩寺跡	伊集院町大田中	低地	中世・近世	五輪塔・宝塔外	
25	大知跡	伊集院町大田上	台地	中世・近世	五輪塔・無縫塔	
26	一字治城跡	伊集院町大田	丘陵	中世 （鎌倉初期）		別称「鉄丸山」 「伊集院城跡」
27	大内山城跡	伊集院町小城	山地	中世		別称「小城」
28	寺脇	伊集院町寺脇楠牟礼	台地 （海岸段丘）		貝殻条痕文・弥生土 器	
29	円福寺墓地群	伊集院町寺脇南ノ内663	小丘	中世	伊集院忠国夫婦の墓	（町指）昭和40 .10 .12

引用文献

鹿児島県埋蔵文化財情報データベース
 鹿児島県立埋蔵文化財センター報告書（53）
 鹿児島県立埋蔵文化財センター報告書（32）
 日吉町郷土誌編さん委員会
 伊集院町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）～（6）

2004年 「市町村別遺跡一覧」
 2003年 「雪山・猿引遺跡」
 2002年 「池之頭遺跡」
 1982年 「日吉町郷土誌 上巻」
 1988年～1993年 「一字治城跡」



G－6区検出の土坑，縄文時代後期と思われたが，底からガラスビンの破片が出てきた。



第4図 周辺遺跡位置図

第Ⅳ章 発掘調査の成果

第1節 調査の方法と成果の概要

平成8年度 確認調査

平成3年度に実施した分布調査やその後に行われた国と県の協議の結果に基づき、平成9年2月12日から21日まで確認調査を実施した（実働8日）。

地形を勘案しながら2m×3mを基本とするトレンチを9か所に設定し、層位的に人力で掘り下げを行った。第2トレンチでは、旧石器時代細石器文化期のa層から黒曜石のフレイクやチップ類が出土した。第1・2・3・7トレンチでは、縄文時代早期のb層から、岩本式土器に加えて少量の前平式土器や打製石斧・スクレイパー・黒曜石のフレイクやチップ類が出土した。また、平安時代の土師器も1点出土している。第4トレンチでは、縄文時代後期のa層から市来式土器が、弥生時代中期から後期のb層からは山ノ口式土器などが出土している。その他の第5・6・8・9トレンチでは、遺物が出土しなかった。

平成9年度 本調査

確認調査の結果を踏まえ、国と県が協議を行った結果、平成9年5月13日から8月23日までと12月1日から平成10年3月30日までの2回に分けて本調査を実施した（実働82日）。建設省（現国土交通省）が設定した道路センター杭「№425」と「№430」を結ぶ直線を基準軸として10m間隔の区画（グリッド）の設定から行った。グリッドは南北方向にA、B、C・・・、南西方向に1、2、3・・・と呼称している。

遺物包含層（a層・b層・・・層）については手掘りで調査を行い、表土と無遺物層については作業の効率化を図るため重機により廃土処理をした。本遺跡は、谷頭を含んだ急な斜面がある上に、一部が開墾により削平されていた。草木が繁茂していたこともあって、地層が不安定な場所が多く、欠落した所もあった。a層は、所々に残存するのみだったが、弥生時代や古墳時代の土器が少量出土した。これには、取り付け道路整備の際出土した遺物も含まれる。a層からの遺物も少なく、縄文時代後期の市来式土器が少量出土したのみであった。b層（アカホヤ火山灰）下位のc層は比較的良く残っており、縄文時代早期の遺構と遺物がまとまって出土した。主な遺構は、集石が4基、道跡が2条、土坑である。特に道跡については、台地上から谷の下まで、アカホヤ火山灰を掘り込むようにくっきりと残っていた。土器については、数は少ないが水迫式があり、主体となる土器は岩本式と前平式である。特にE・F-6区には、傾斜地にも関わらず大量の土器片が集中していた。当時の土器廃棄のあり方を考える上で、貴重な資料となろう。石器は、層が安定しないため、縄文時代の物としかわからない状況である。a層からは、旧石器時代の遺物が少量出土した。しかし、縄文時代早期には、すでに露出していたようで、早期の遺物が混在している。また、奈良時代の土師器も1点出土しているが、樹根によるものである。

以上のように、本遺跡は、かなり長期にわたって形成されたものである。道跡の残存状況から考えると、南側に続く台地上には、集落跡が残っている可能性が高いものと思われる。

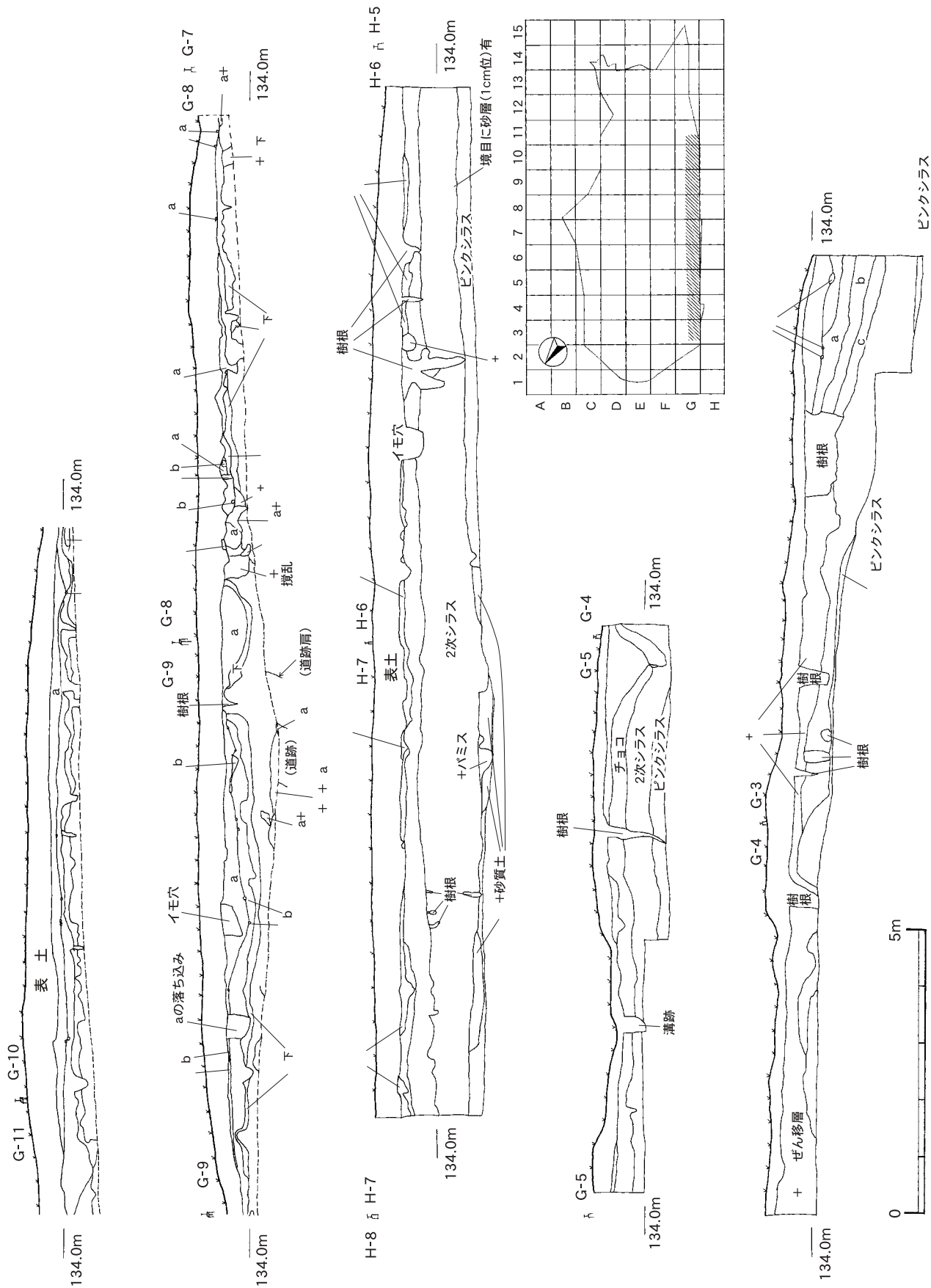
第2節 遺跡の層序

基本的層序

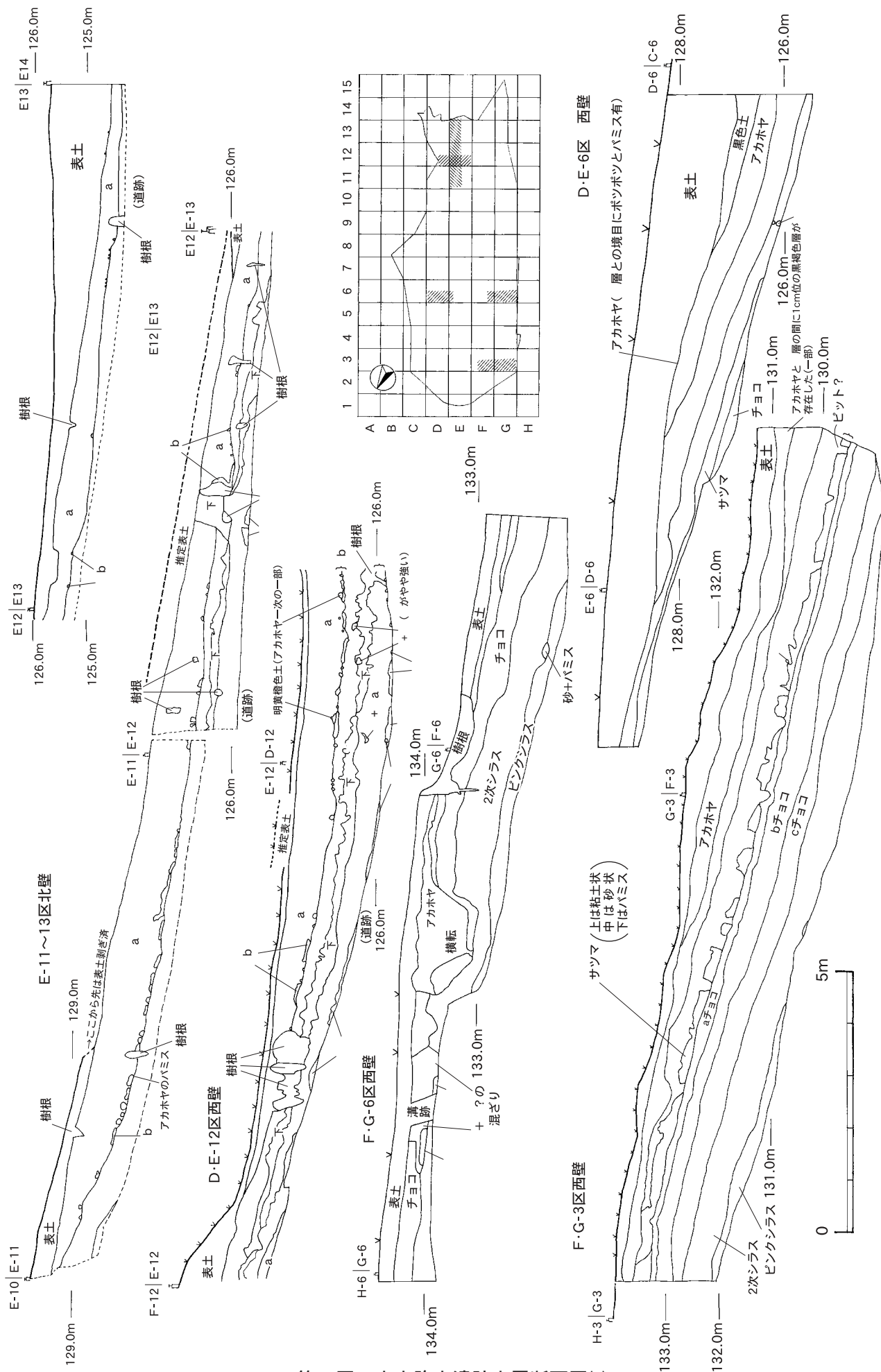
本遺跡は、標高約130mのシラス台地上に位置している。現地地形は舌状台地の端にあたり、平坦面から続く緩斜面と、谷頭を含んだ急な斜面とからなる。一部が開墾により削平され、草木が繁茂していたこともあり、地層の欠落した所がある。基本的層序及び遺物包含層・年代・文化との関係は以下の通りである。（印は遺物包含層）

	層	現耕作土	
	層	黒色粘質土	古墳時代の遺物包含層
a	a層	明黄橙色土	縄文時代後期の遺物包含層
b	b層	明黄橙色パミス	アカホヤ火山灰（約6300年前 鬼界カルデラ起源）
	層	黄橙色土	縄文時代早期の遺物包含層
	層	黒褐色土	縄文時代早期の遺物包含層
	層	黄褐色パミス	薩摩火山灰（P14 約11500年前 桜島起源）
a	a層	暗茶褐色粘質土	旧石器時代の遺物包含層
b	b層	茶褐色粘質土	通称 チョコ層
	層	黄褐色砂質土	シラス二次堆積土
	層	黄灰色砂質土	シラス入戸火砕流 （約24500年前 姶良カルデラ起源）

第5図 土層柱状図



第6図 上山路山遺跡土層断面図(1)



第7図 上山路山遺跡土層断面図(2)

第3節 旧石器時代の調査

旧石器時代の遺物包含層は、 $a \cdot b$ 層で、細石器文化期とナイフ形石器文化期を含む。しかし、大部分が傾斜地であるため、F・G - 2・3区では、薩摩火山灰（層）降下前に崩落した形跡があり、遺物の集中するG - 8・9区では、縄文時代早期の遺物の混入が見られた。台地の縁辺部であるため、縄文時代早期には層が露出していたらしい。そのため、遺物については、形態や層の状態から、確実に旧石器時代のものであると判断できるもののみを記載している。結果として、磨石・敲石・石皿等は含まれていないが、他の遺跡の例から、存在していた可能性は高いものと思われる。

遺構は、台地の縁辺部で礫群1基と石器製作跡（ブロック）1基が確認された。

石器は、小型ナイフ形石器・三稜尖頭器・細石刃・細石刃核・スクレイパー・礫器・使用痕石器・石器制作に伴う剥片・碎片など97点が出土している。

(1) 遺構

G - 8区で、礫群1基が確認された。また、同じ区で、上牛鼻系黒曜石片の集中が見られた。細石刃や調整剥片が含まれることから、石器製作跡と思われる。

礫群（第9図）

G - 8区、縄文時代早期の1号集石の下部層から検出された。1号集石が形成された時点で上部を破壊された模様で、旧石器時代と縄文時代早期の遺物が混在している。掘り込みは確認できなかったが、石が団子状に集められていた。石はあまり赤化していないものの破砕しているものが見られる。

遺構内遺物としては、早期の土器が混在する中で2点を確認した。これらは、遺物の特徴や層位から旧石器時代の物と判断したものである。1は、層から出土した小型ナイフ形石器である。三船系黒曜石製で、自然面の残る剥片に、部分的刃潰し加工をしている。2は、 b 層から出土した貝殻状の剥片である。ホルンフェルス製で、使用痕は認められない。

石器製作跡（ブロック）

礫群同様G - 8区で検出された。上牛鼻系黒曜石片がほとんどで、数点の頁岩や安山岩も認められるが、これは混入した物である可能性がある。遺物の出土状況から細石刃製作の跡と考えられる。

(2) 石器

前述したように、層が不安定であったり遺物の混在があつたりするため、石器は、形状等から確実に旧石器時代と判断できた物のみを記載することにした。出土した層は層が大部分であるが、

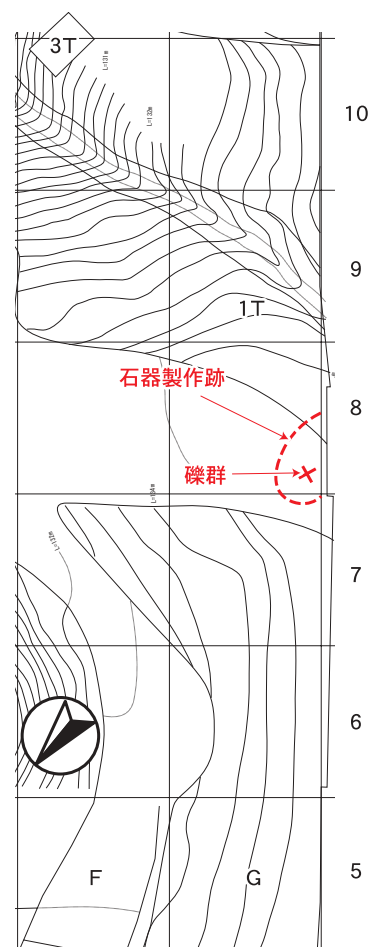
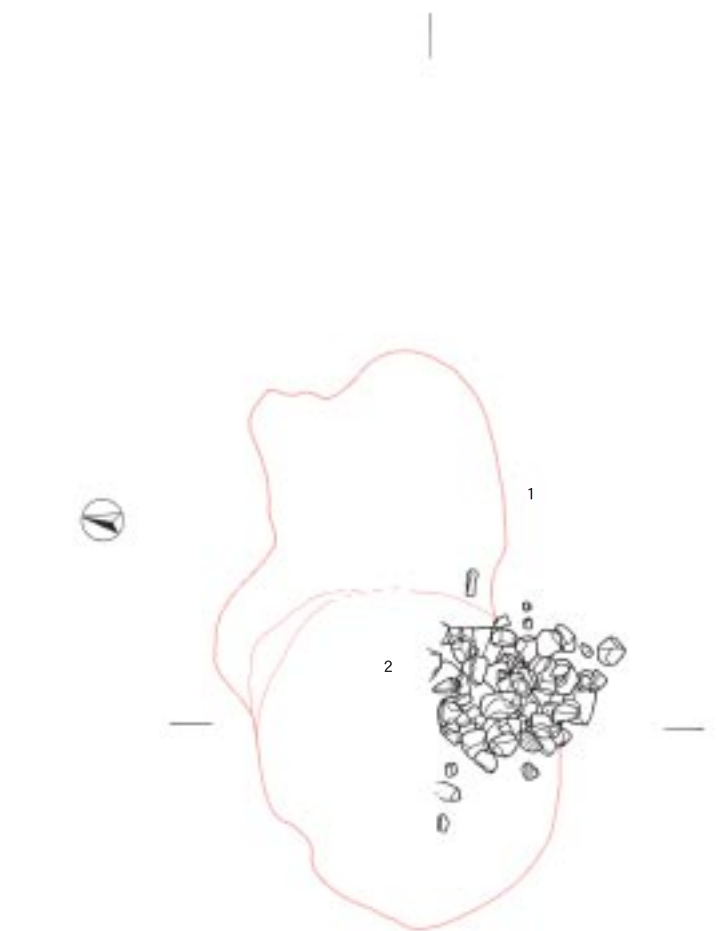
$a \cdot b$ 層や一部 a 層出土のものも含まれる。図化した遺物は、礫群内の2点を含めて21点である。

三稜尖頭器

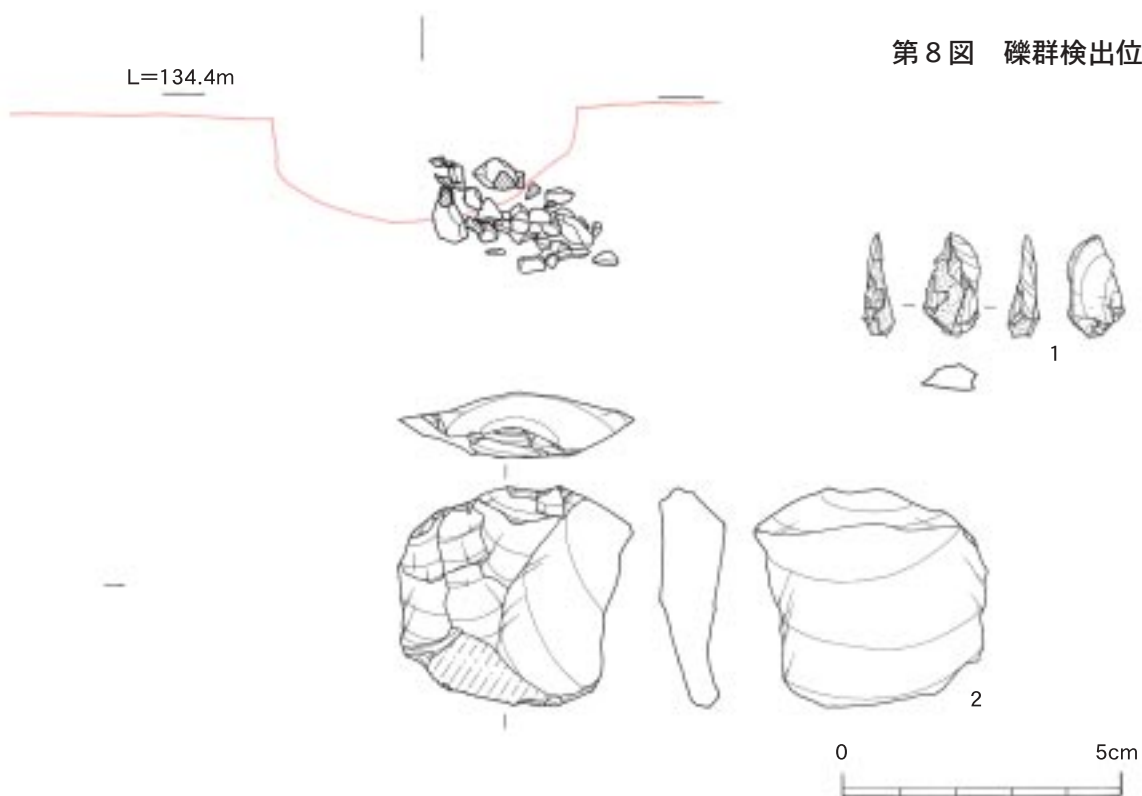
3は、三稜尖頭器で、三船系黒曜石製である。稜の高い断面三角形の横長剥片を素材とし、基部分や左縁辺部分に急傾斜剥離調整を施している。

細石刃

4～8は、細石刃である。石材は、いずれも上牛鼻系の黒曜石であり、13・15～18の剥片と同質であるため、同じ母岩から製作された可能性がある。



第 8 図 礫群検出位置図



第 9 図 旧石器時代の遺構（礫群）

細石刃核

9～11は、細石刃核である。石材は、9が三船系黒曜石、10が上牛鼻系の黒曜石であり、11が針尾系黒曜石である。9・11は4～8の細石刃とは材質が異なる。層出土で、傾斜地で流れた位置という状況である。いずれも船底に似た形状で、9は2面、10は3面、11は1面に、細石刃を作り出した跡がある。

スクレイパー

12は、スクレイパーである。層出土だが、細石刃と同じ上牛鼻系の黒曜石製である。自然面を残す偏平な剥片から、荒い急角度の調整で刃部を作り出している。

剥片

13～18は、剥片である。石材は、14のみ三船系黒曜石で、他は上牛鼻系黒曜石である。13は、一見ナイフ状だが、基部の調整や使用痕等は見られない。14・15は、打面再生時に生じたものである。16は上下で、17は上部が切断されている。18は、被熱によるはじけや荒れが見られる。

礫器

19・20は、ホルンフェルス製の礫器である。19は、石核の可能性もある。扁平な自然礫を打ち欠いて刃部を作り出している。20は、石斧制作中に遺棄されたものである可能性がある。

使用痕石器

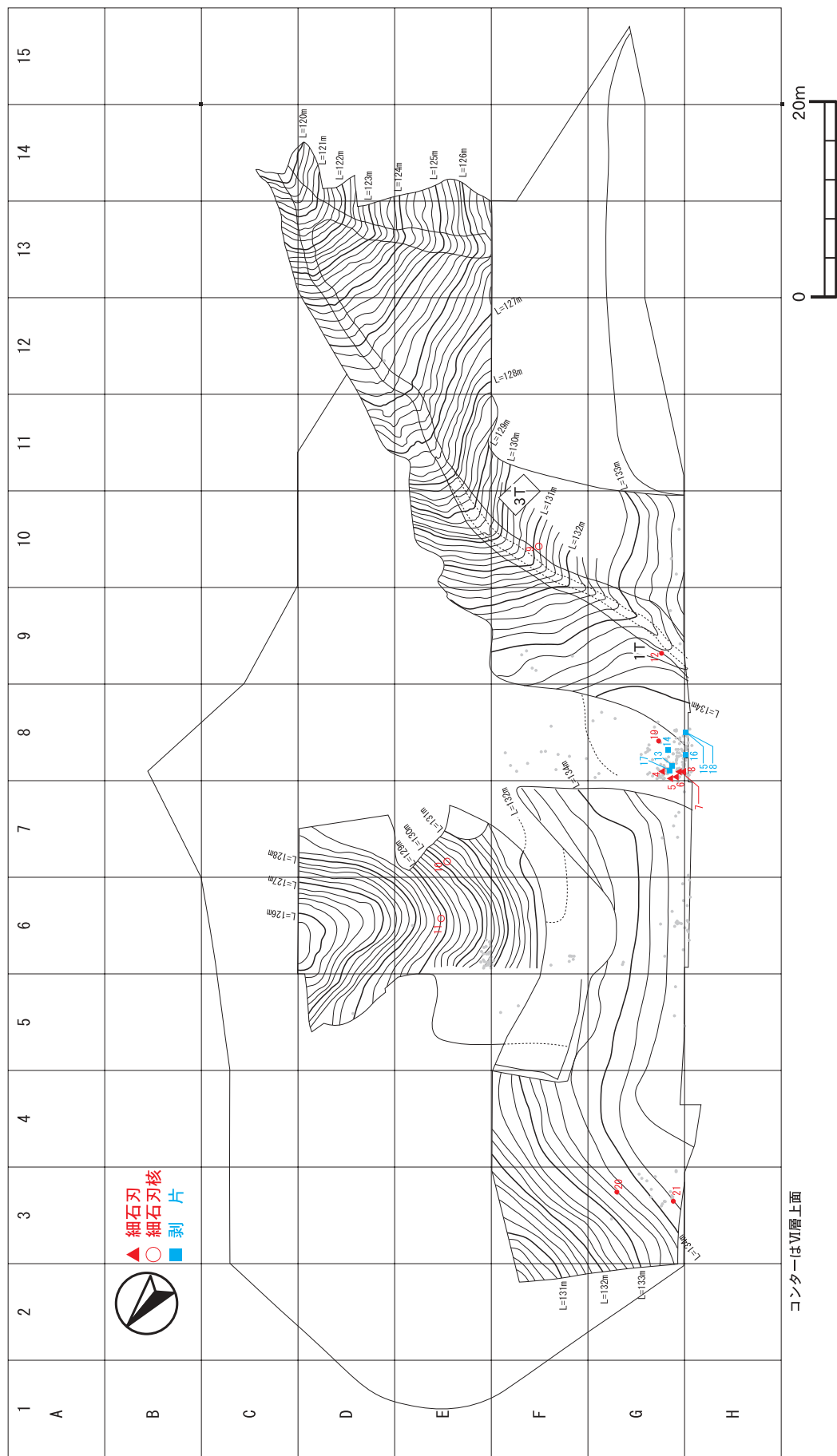
21は、砂岩製の使用痕石器である。棒状の直方体で、一部磨面が見られる。

第3表 旧石器時代（Ⅶb層）礫群観察表

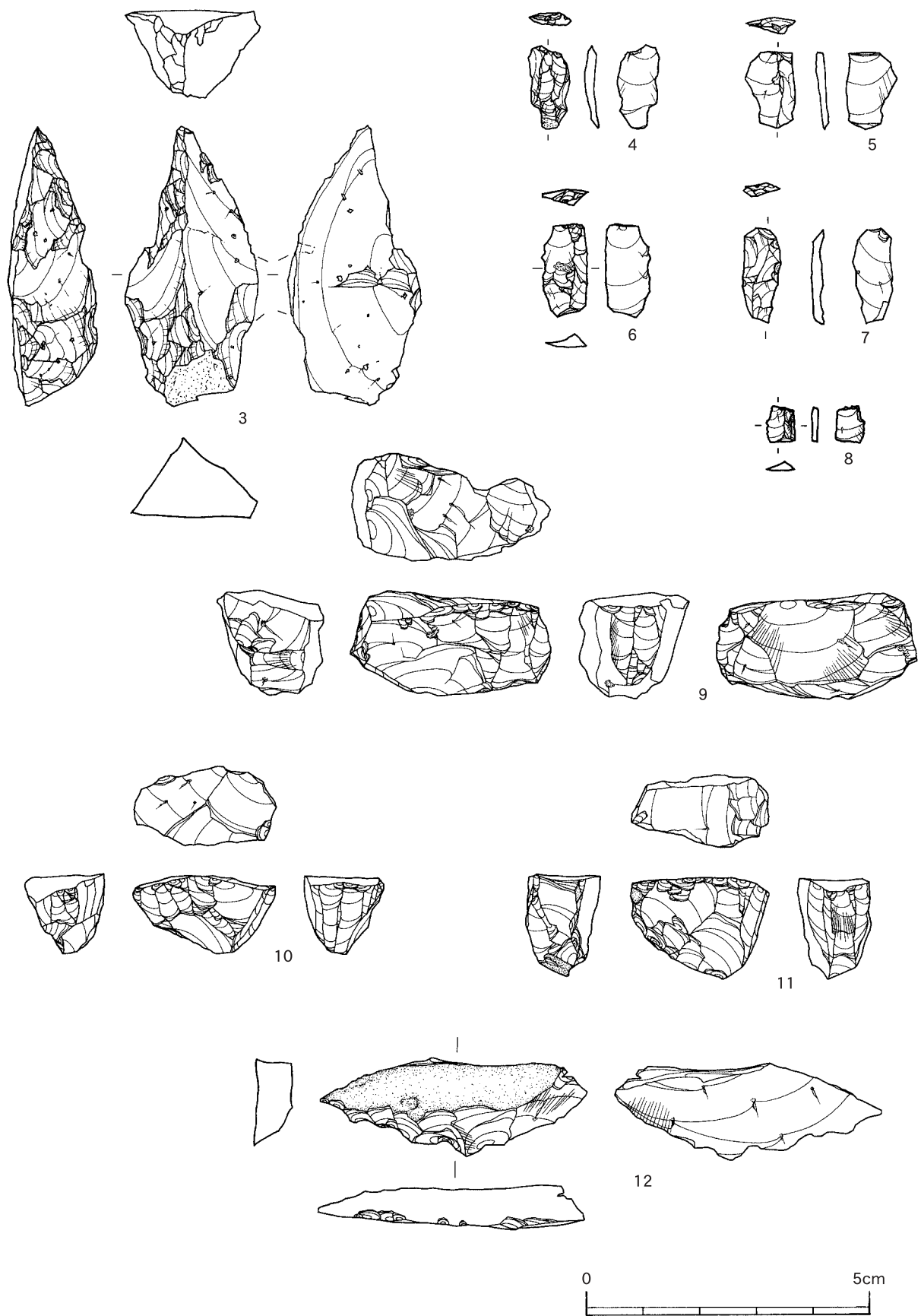
挿図	番	検出区	礫数	床面レベル	大きさ	掘り込み	備 考（遺構内遺物）
9	1	G - 8	79	134 .68	320×178	無	上部は1号集石により破壊されている。 （小型ナイフ1・剥片2）

第4表 旧石器時代石器観察表

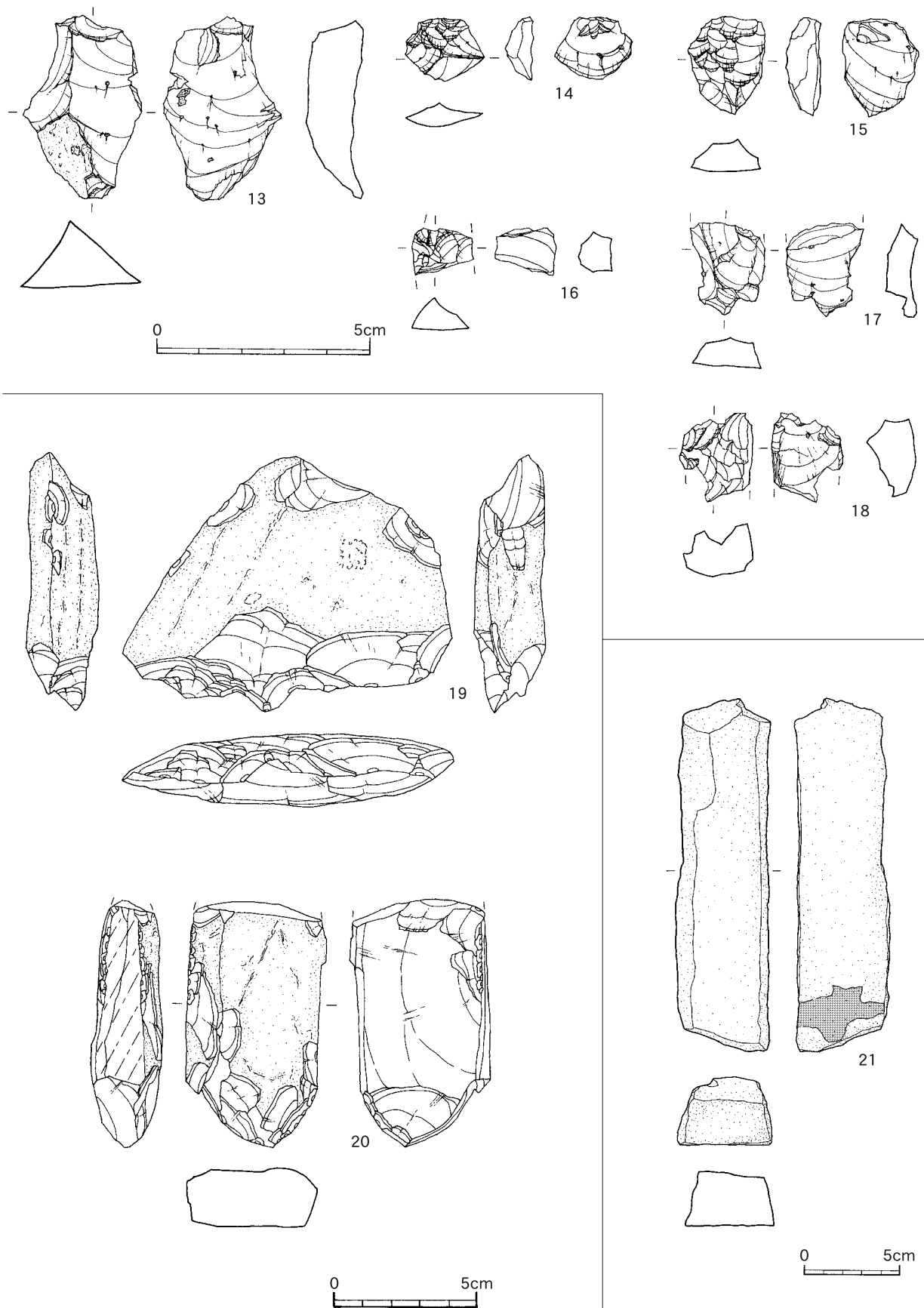
挿図	番号	出土区	層	遺物番号	器 種	石 材	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
9	1	G - 8		1010	小型ナイフ形石器	三船系黒曜石	1.80	1.00	0.60	0.68	礫群内、一部自然面
	2	G - 8	b	1007	剥片(シェルフレイク)	ホルンフェルス	3.80	4.10	1.10	16.61	礫群内、一部損壊面
11	3	D - 6	a	一括	三稜尖頭器	三船系黒曜石	5.00	2.30	1.60	12.32	基部調整、一部自然面
	4	G - 8		2754	細石刃	上牛鼻系黒曜石	1.50	0.70	0.20	0.15	
	5	G - 8		2806	細石刃	上牛鼻系黒曜石	1.40	0.90	0.20	0.20	下部折れ
	6	G - 8		2814	細石刃	上牛鼻系黒曜石	1.60	0.80	0.30	0.32	下部折れ
	7	G - 8		2818	細石刃	上牛鼻系黒曜石	1.70	0.70	0.20	0.20	
	8	G - 8		2819	細石刃	上牛鼻系黒曜石	0.70	0.50	0.16	0.05	上下折れ
	9	F - 10		7408	細石刃核	三船系黒曜石	3.50	1.90	1.90	12.42	船底形
	10	E - 7		3214	細石刃核	上牛鼻系黒曜石	2.50	1.40	1.40	3.76	船底形
	11	E - 6		3412	細石刃核	針尾系黒曜石	2.40	1.80	1.30	5.60	船底形
	12	1T・G - 9		10235	スクレイパー	上牛鼻系黒曜石	4.70	1.70	0.80	5.32	
12	13	G - 8		2758	剥片	上牛鼻系黒曜石	4.30	2.80	1.50	14.23	
	14	G - 8		2787	剥片	三船系黒曜石	1.50	1.80	0.65	1.25	打面再生
	15	H - 8		2863	剥片	上牛鼻系黒曜石	2.30	1.80	0.80	3.42	打面再生
	16	H - 8		2875	剥片	上牛鼻系黒曜石	1.10	1.40	1.30	1.14	上下折れ
	17	G - 8		2757	剥片	上牛鼻系黒曜石	2.20	1.75	0.70	2.71	折れあり
	18	H - 8		2863	剥片	上牛鼻系黒曜石	2.10	1.70	1.30	3.92	被熱によるはじけあり
	19	G - 8	下	2800	礫器	ホルンフェルス	9.00	11.60	2.50	253.02	石核の可能性あり
	20	G - 3		1502	礫器	ホルンフェルス	8.60	5.00	2.60	153.05	石斧制作中の可能性あり
	21	G - 3		1480	使用痕石器	砂岩	18.60	4.70	3.60	468.00	四角棒状、一部摩耗あり



第10図 旧石器時代遺物出土分布図



第11図 旧石器時代の遺物(1)



第12図 旧石器時代の遺物(2)

第4節 縄文時代の調査

縄文時代早期の遺物包含層は、Ⅰ層である。Ⅱ層は、後期であるが、早期の遺物が混在しているところもあった。旧石器時代のものと同様、大部分が傾斜地であるため、調査区内だけでも、最高地の標高が135.0m、最低地の標高が119.8mであり、その差は約15mに達する。また、近世の開墾で削平を受けているところもあった。

遺構は、集石4基・土坑5基・ピット22基・道跡2条が確認された。道跡以外は、台地の縁辺部に分布する。道跡は、台地上から谷の途中まで約80mにわたって検出されており、このような例は、当時の生活を考察する上で貴重である。

遺物の集中は、台地の縁辺部と谷頭・道跡に見られるが、道跡の遺物は、急傾斜のため流れているものが多い。しかし、谷頭であるE-6区周辺は、特に多量に集中していた。土器捨て場の可能性が指摘されているが、やはり傾斜に沿って流れており、他の時代の遺物も混在している状況である。

土器は、早期の水迫式・岩本式・前平式が大部分で、口縁部の施文のバリエーションが豊富である。この中には、赤色顔料が付着した物もある。その他、早期では吉田式土器・桑ノ丸式土器など、前期では轟式土器・曽畑式土器、中期の阿高系の土器、後期では市来式など、他の時代の土器も若干出土している。

石器は、打製石鏃・調整剥片・石匙・楔形石器・石槍・スクレイパー・使用痕剥片・剥片・石斧・石鎌・礫器・磨石・敲石・石皿等が出土している。

(1) 遺構

① 集石

台地の縁辺部で4基検出された。1～3号はG-8区周辺に集中しているが、4号は離れている。

1号集石（G-8）

台地の縁辺部のやや傾斜した面に設置されていたようであるが、近世の開墾で削平を受けているため、上部は部分的に破壊されている。石は赤化しているものがあり、地面にも熱の影響が見られ、炭化物も含まれていた。掘り込みの中に石が集められているが、中心部は石が少なく、周囲にも石が散在しているため、ここから食材が取り出されたものと思われる。時期については、Ⅰ層が露出し、旧石器時代の石器1・2が混在しているが、集石内に前平式土器を含むことから、早期の集石であると判断した。なお、旧石器時代の項でも述べたように、下部からは礫群が検出された。

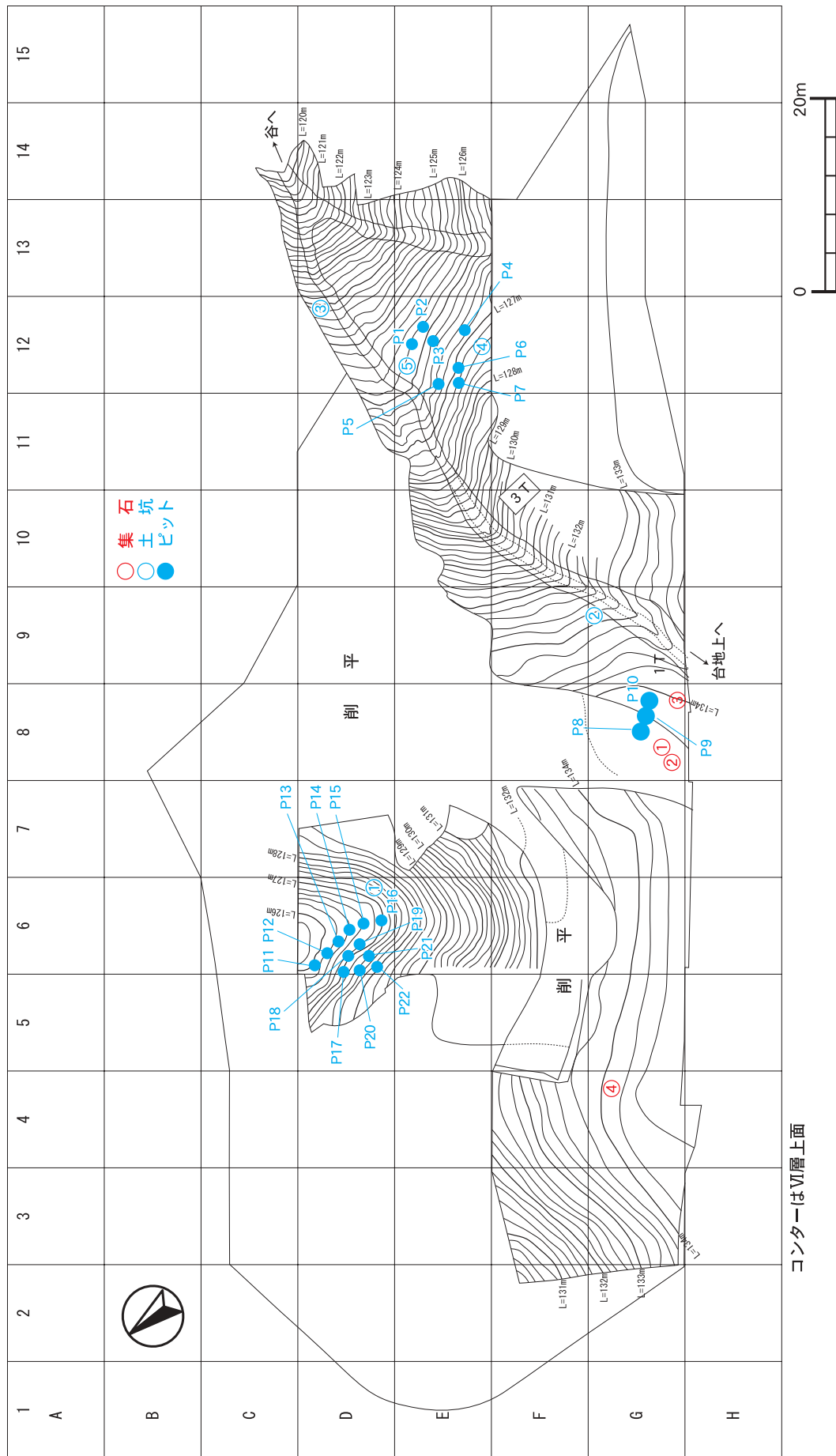
集石と同時に、Ⅰ層（岩本式）土器22～26、Ⅱ層（前平式）土器27～30が出土している。詳細は、土器観察表を参照されたい。

2号集石（G-8）

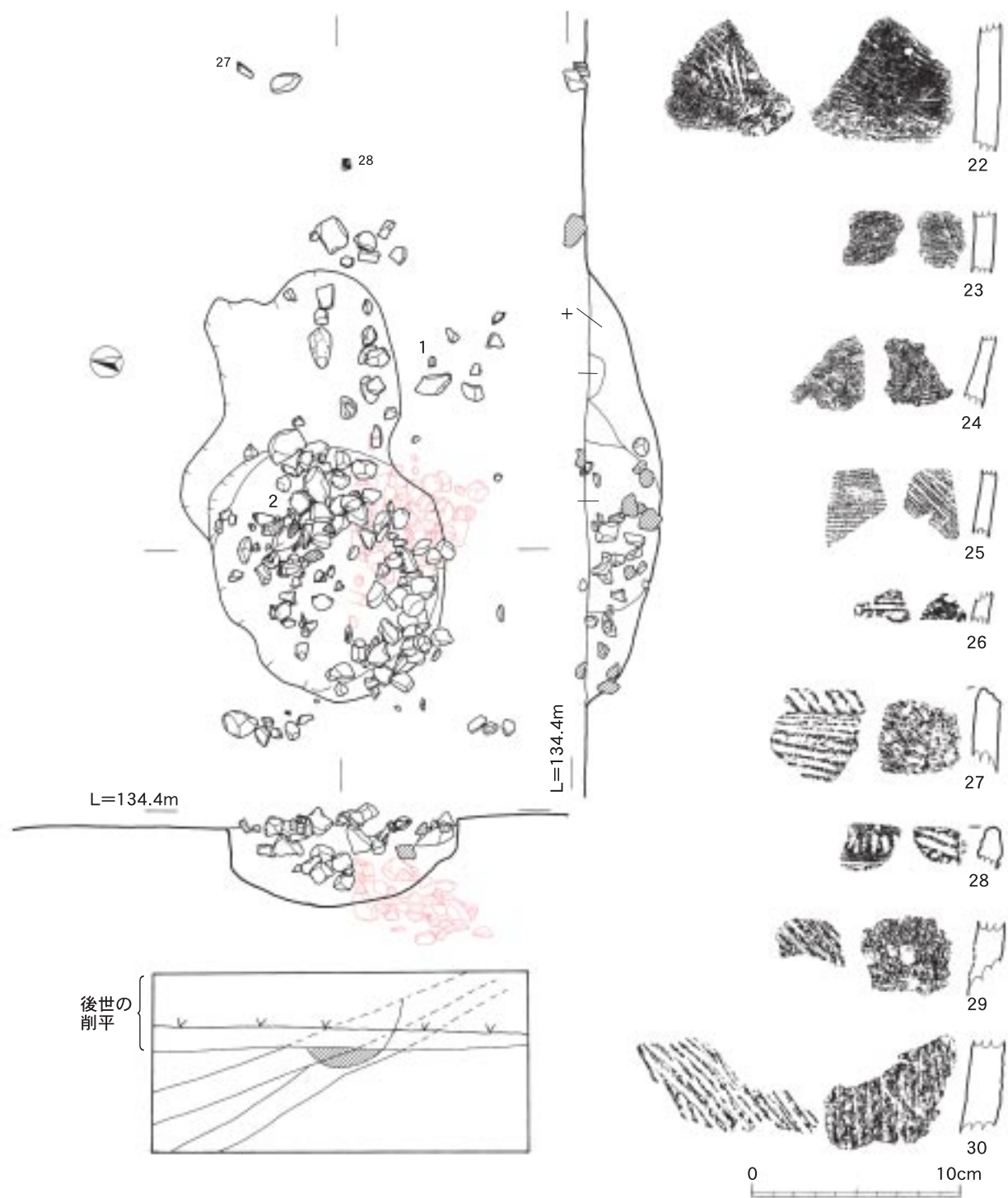
1号集石に隣接した位置で、やや下位の面から検出された。ほぼ平らな面に設置されている。Ⅰ層から検出され、旧石器時代の石器制作ブロック内にあるが、時期は早期前半と思われる。集石中に土器片を含むこと、Ⅰ層が薄くⅡ層がないこと、集石の下位より旧石器時代の剥片が出土していることなどの状況から判断した。石は散在し、軽く赤化している。石材はシルト質が多い。

3号集石（H-8）

1・2号集石に隣接した位置で、ややⅠ層上面で検出された。やや傾斜した面に設置されていて、傾斜の低い方は、石が流れているようである。



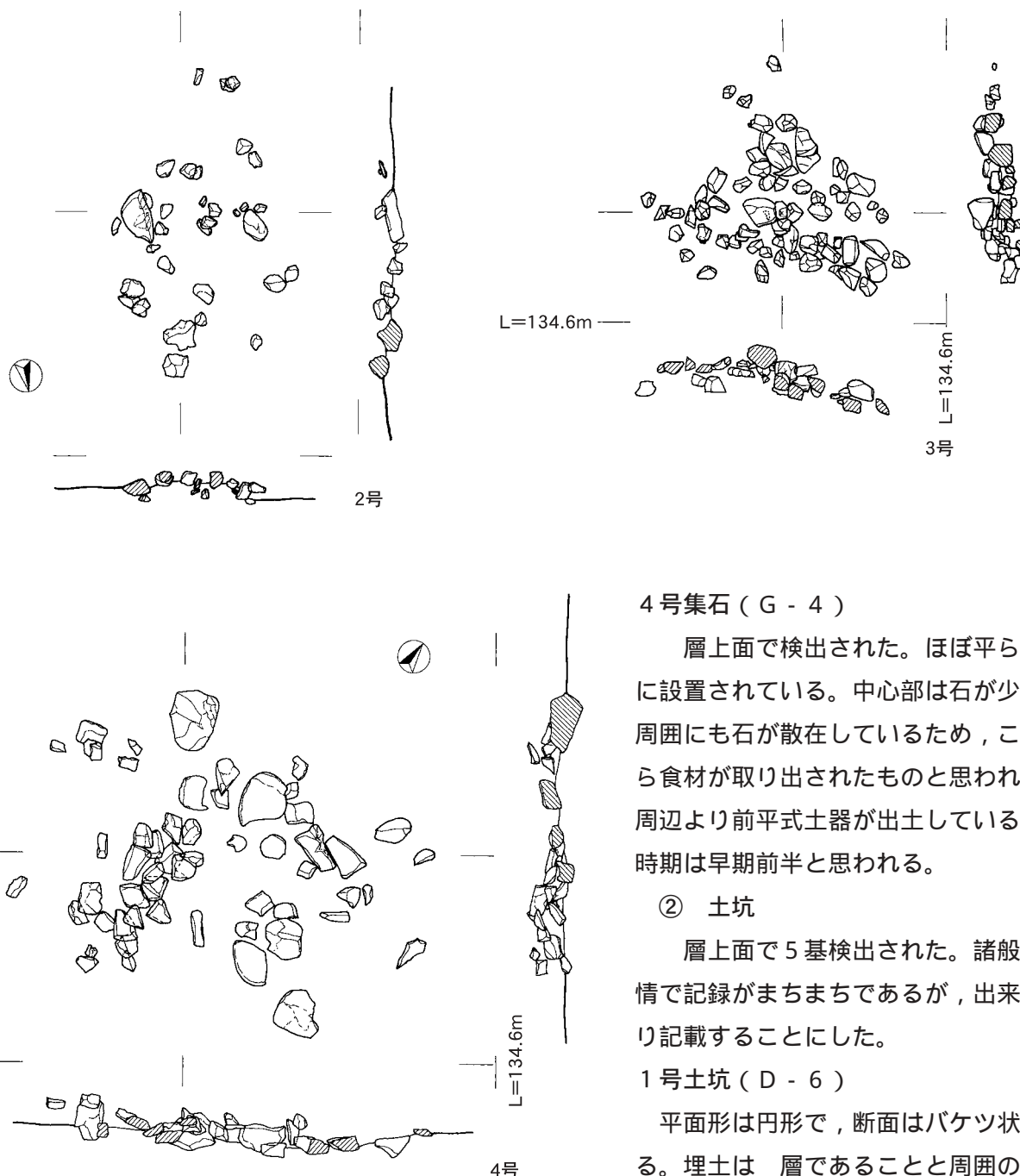
第13図 縄文時代遺構分布図 (Ⅲb・Ⅳ層)



第14図 縄文時代の遺構（1号集石）

第5表 縄文時代早期（Ⅳ・Ⅴ層）集石観察表

挿図 番号	番号	検出区	礫数	床面レベル (m)	大きさ (cm)	掘り込み			備考（遺構内遺物）
						有無	大きさ(cm)	深さ(cm)	
14	1	G - 8	173	134 36	127×93	有	82×75	27	下部に旧石器の礫群 (土器22～30)
15	2	G - 8	34	134 30	95×57	無			層検出だが早期
	3	H - 8	67	134 37	83×74	無			
	4	G - 4	54	134 41	130×107	無			



第15図 縄文時代の遺構（2～4号集石）

4号集石（G - 4）

層上面で検出された。ほぼ平らな面に設置されている。中心部は石が少なく、周囲にも石が散在しているため、ここから食材が取り出されたものと思われる。周辺より前平式土器が出土しているため、時期は早期前半と思われる。

② 土坑

層上面で5基検出された。諸般の事情で記録がまちまちであるが、出来る限り記載することにした。

1号土坑（D - 6）

平面形は円形で、断面はバケツ状である。埋土は 層であることと周囲の状況から、時期は縄文時代後期であろう。

2号土坑（G - 9）

埋土は + 層である。平面・断面共に形が不安定であり、埋土の状況から樹根の可能性がある。

3号土坑（D - 12）

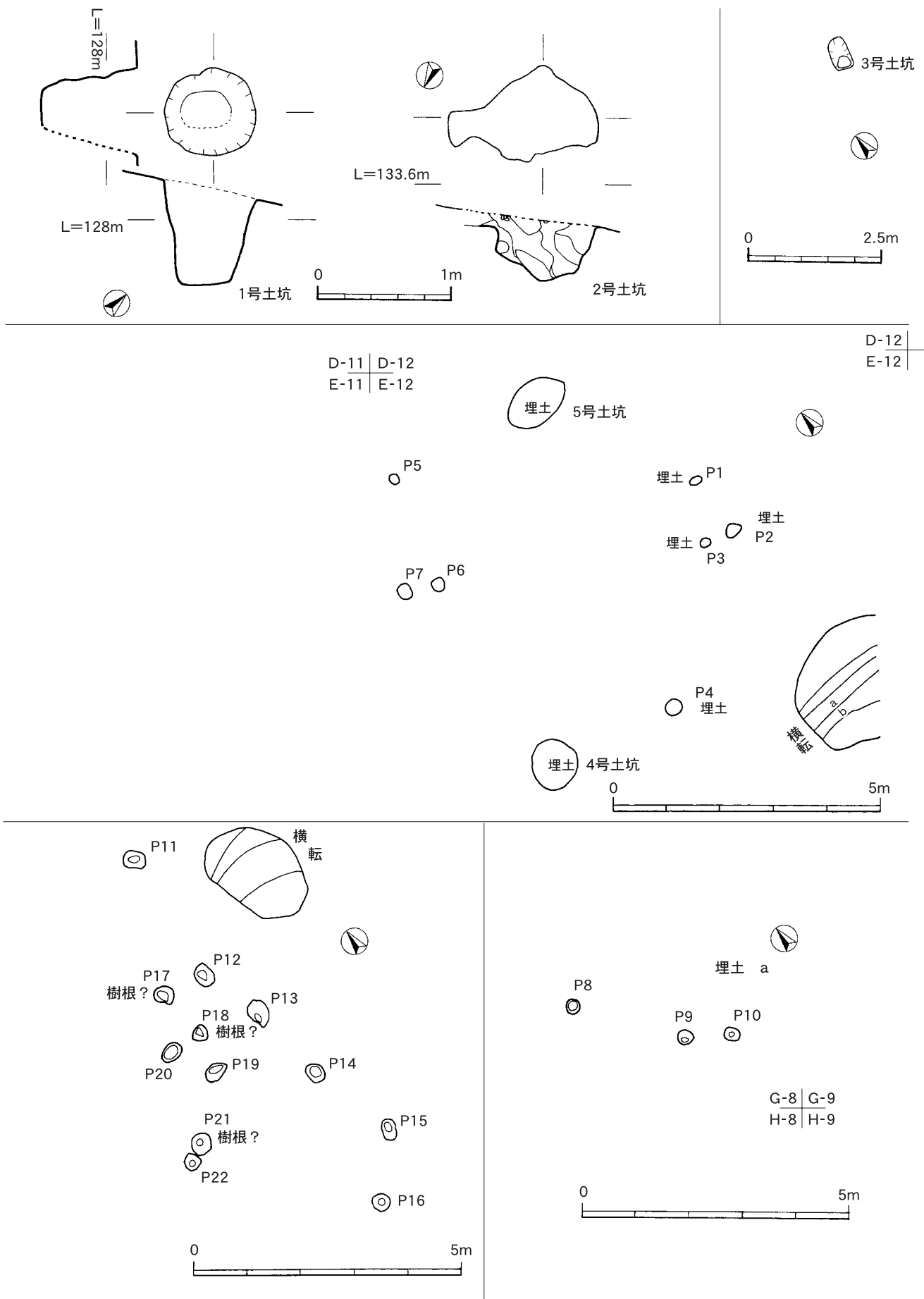
平面形は楕円形で、埋土は 層である。

4号土坑（E - 12）

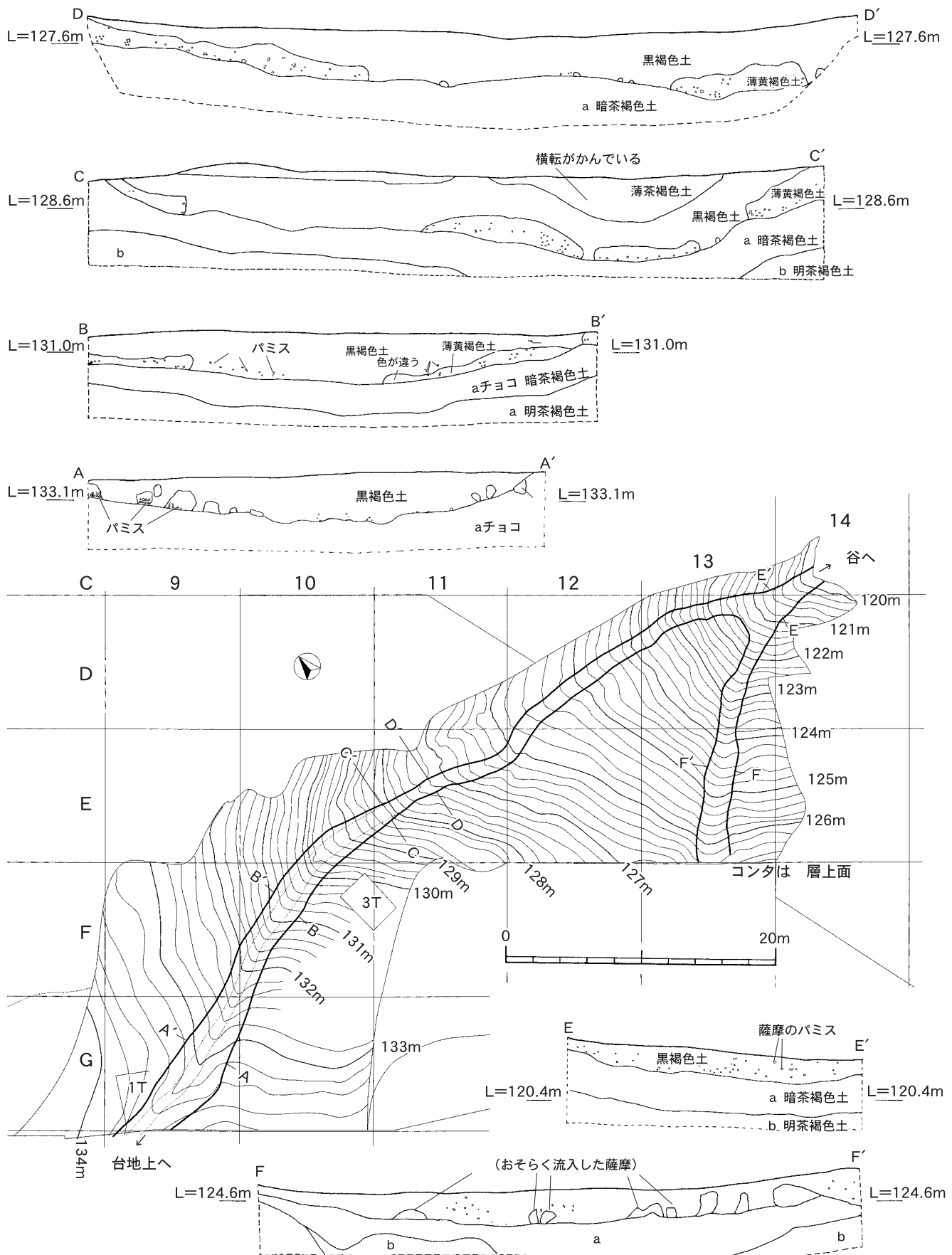
平面形は円形で、埋土は 層である。

5号土坑（E - 12）

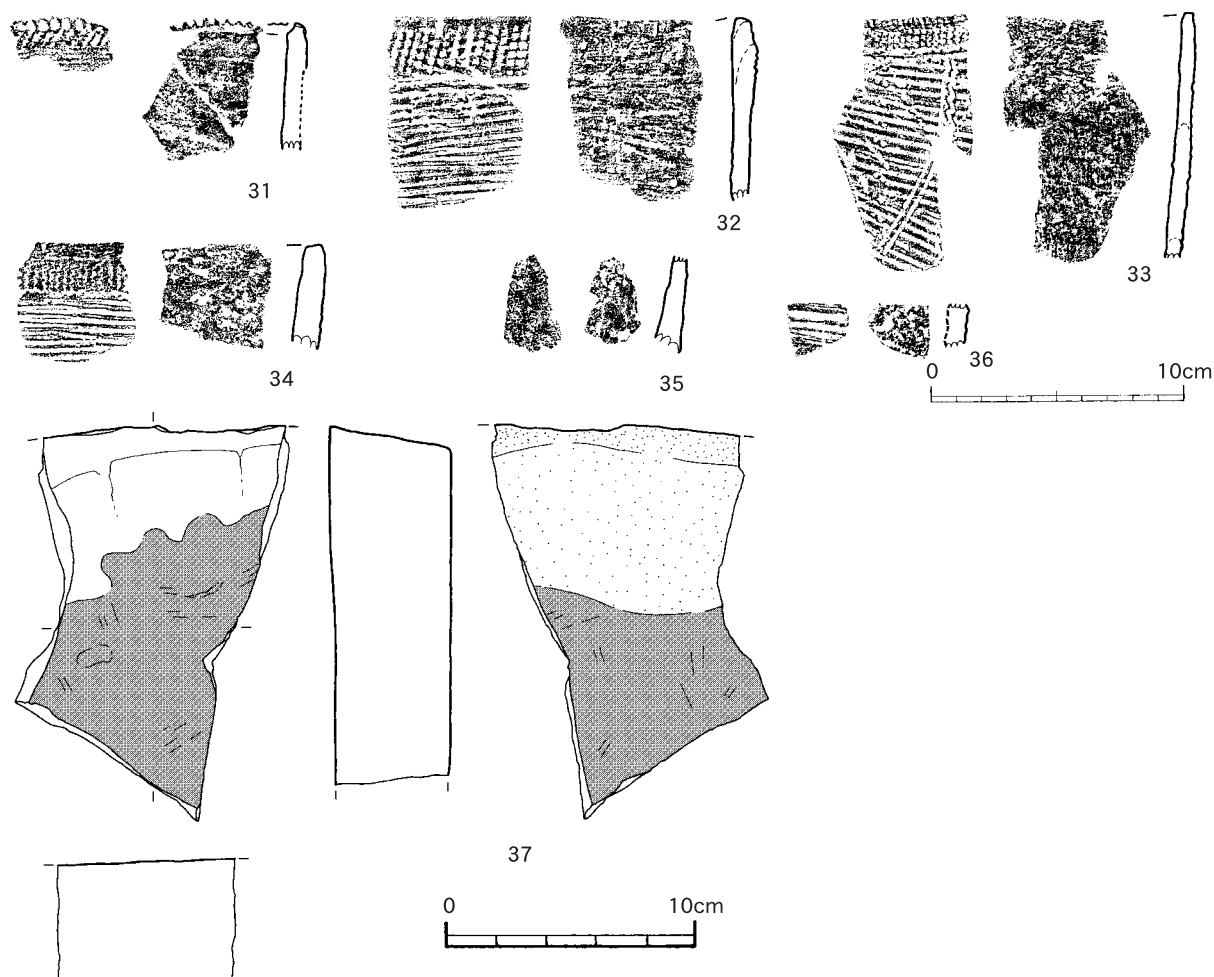
平面形は楕円形で、埋土は 層である。



第16図 縄文時代の遺構（土坑・ピット）



第17図 縄文時代の遺構（道跡）



第18図 縄文時代の遺構（道跡内出土遺物）

第6表 縄文時代（Ⅲ a・Ⅳ・Ⅴ層）土坑・ピット観察表

空欄は記録なし

挿図 番号	番号	検出区	床面レベル (m)	大きさ (cm)	検出面から の深さ(cm)	備考（遺構内遺物）
16	1	D - 5	128.22	66×59	80	埋土 a層, 断面形はバケツ状
	2	G - 9	133.37	111×73	49	埋土 + 層, 樹根の可能性あり
	3	D - 12	124.62	65×35	97.5	
	4	E - 12		95×85		埋土 層
	5	E - 12		125×75		埋土 層
	P 1	E - 12		25×15		埋土 層
	P 2	E - 12		30×25		埋土 層
	P 3	E - 12		20×15		埋土 層
	P 4	E - 12		32.5×30		埋土 層
	P 5	E - 12		125×75		
	P 6	E - 12		25×25		
	P 7	E - 12		30×30		
	P 8	G - 8		30×25	60	埋土 層
	P 9	G - 8	134.03	30×30	21	埋土 a層
	P 10	G - 8	133.97	30×25	24.5	埋土 a層
	P 11	D - 6	127.64	42.5×30	31.5	埋土 層
	P 12	D - 6	127.065	45×35	38.5	埋土 層
	P 13	D - 6	126.79	50×40	41	埋土 層
	P 14	D - 6	126.655	37.5×35	37	埋土 層
	P 15	D - 6	126.645	40×30	62.5	埋土 層
	P 16	D - 6	126.675	35×35	52.5	埋土 層
	P 17	D - 6	127.2	37.5×35	13.5	埋土 層, 樹根の可能性あり
	P 18	D - 6	126.925	32.5×30	34	埋土 層, 樹根の可能性あり
	P 19	D - 6	126.835	45×35	75.5	埋土 層
	P 20	D - 6	127.1	40×37.5	33	埋土 層
	P 21	D - 6	126.98	42.5×40	49.5	埋土 層, 樹根の可能性あり
	P 22	D - 6	127.03	32.5×32.5	67	埋土 層

③ ピット

層上面で22基検出された。土坑同様、諸般の事情で記録がまちまちであるが、出来る限り記載することにした。個々の規模等に関しては、観察表を参照されたい。なお、用途については不明である。

E - 12区では、7基検出されている。P 1 ~ 4の埋土は 層であるが、P 5 ~ 7は記録がない。

G - 8区では、3基検出されている。P 8の埋土はの埋土は 層、P 9・10の埋土は a層である。

D - 6区では、11基検出されている。P 1 ~ 10よりもやや規模が大きい。並んでいるように見えるものもあるが、用途については、今後の資料の増加を待ちたい。P 11 ~ 22はいずれも埋土は 層である。なお、P 17・18・21は樹根の可能性はある。

④ 道跡

層上面で2条検出された。層が溝状になくなり 層が露出した状態であるが、硬化面は確認されていない。埋土は 層の黒褐色土で、薩摩火山灰のブロックを含む。1条は、台地の縁G - 9区、標高133.8mからC - 14区、標高119.8mの約80mにわたって検出された。自然地形を利用した水場のある谷へ行き来する道であろう。標高差は14mにもなる。もう1条はD - 13区、標高121mから分岐してE・F - 13区の境界、標高126.2mまで、約30mにわたって、標高差6mあまりを駆け上がる。こちらは、自然地形を横切るように検出されているのが注目される。

遺構内遺物は、道跡と記録のあるものに限って掲載した。実際は流れ込みと思われる遺物が多数出土している。詳細は、別項、遺物出土状況図等を参照されたい。

土器は、6点を図化した。いずれも貝殻文系土器である。31は、 類（岩本式）土器、32 ~ 34は 類（前平式、志風頭タイプ）土器の角筒である。35・36は小片で、詳細は不明である。

石器は、1点を図化した。37は、砂岩製の石皿である。正面は剥離面のようなが、強い摩滅が認められる。裏面にも磨面があり、部分的に赤化と剥離が認められる。

木炭がF - 9区 層で出土している。分析の結果は、年代が 9630 ± 60 yrBPで、樹種は落葉広葉樹のケヤキに同定された。土器の示す時期を補強する資料と言える。

⑤ その他

G - 8区周辺に多量の礫が散乱していた。集石の痕跡と思われる。また、E・F - 6区に多量の遺物の集中が見られる。土器捨て場の可能性が指摘されているが、土器の接合関係や共伴する石器の多様性から考えると、流れ込みの可能性も否定できない。

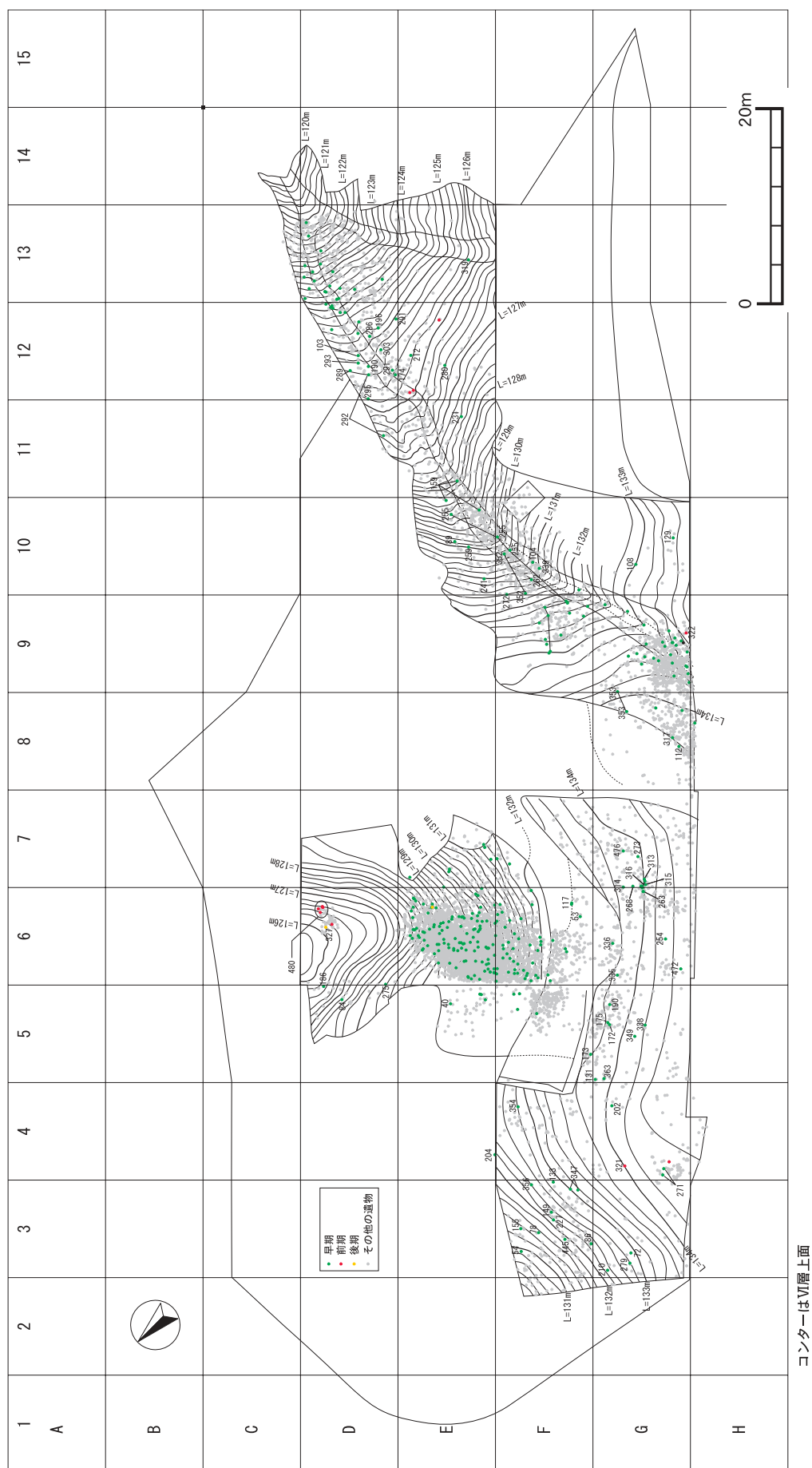
(3) 遺物

遺物は土器片と石器及び炭化物等が出土した。出土した層は ・ 層が大部分であるが、若干a層出土のものも含まれる。取り上げた遺物はパンケースに詰め込んで50箱あまりであった。

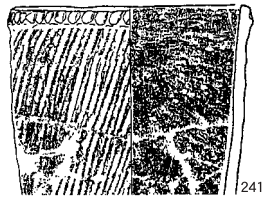
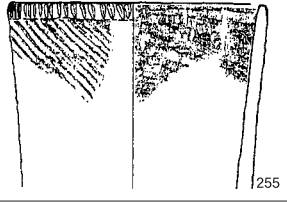
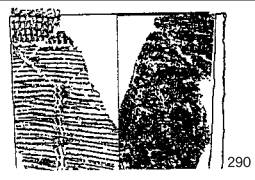
土器

出土した土器片は、小粒で計上できないものを除き総数約7200点である。接合作業の結果、完形品1点、底部のみを欠く準完形品（復元品）3点を得、破片を含め347点を図化した。

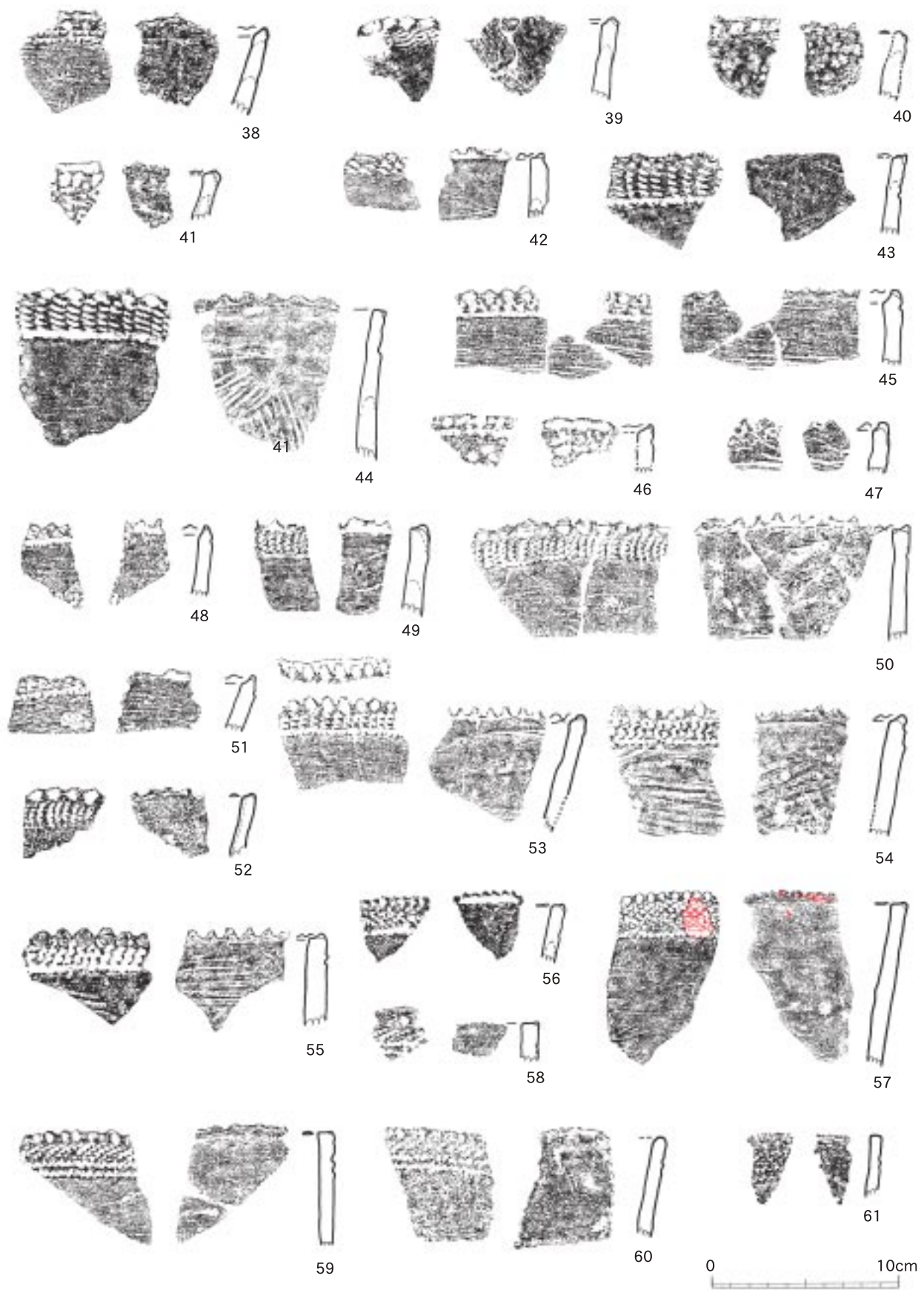
分類は、これまでに公表された資料を参考に、また比較しやすいよう ~ 類までおこなった。観点は、第21図縄文時代早期土器分類模式図のとおりである。なお、特記事項以外の詳細については、土器観察表を参照されたい。



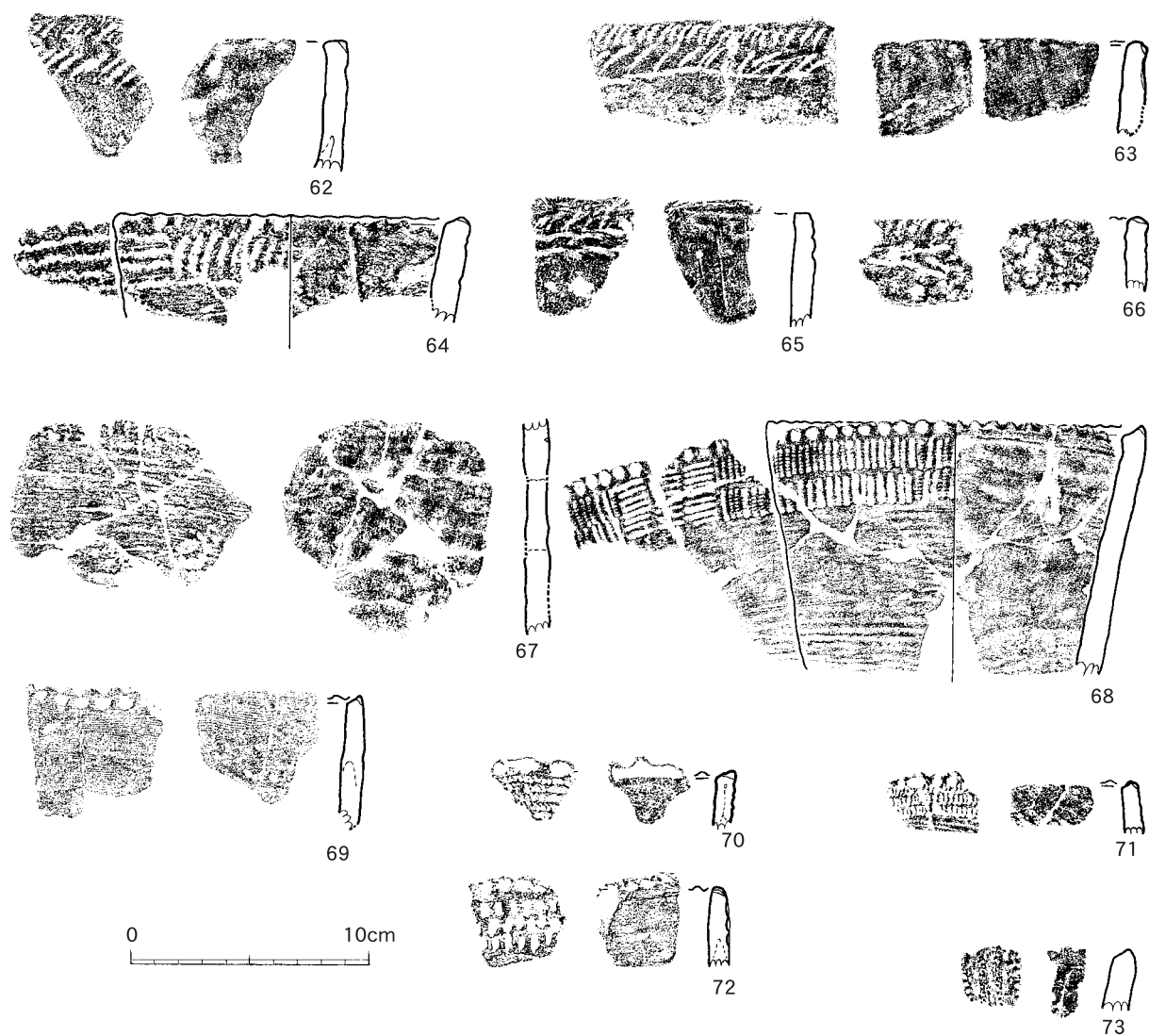
第19図 縄文時代土器出土状況図

種類	口縁部外面	口縁部内面	胴部外面	胴部内面	模式図
水迫式土器	a類 ・口縁部上端に貝殻による横位の連続刺突 ・口唇部は貝殻押圧により小波状 ・丁寧なナデ調整	・口縁部内面に段を有する	・丁寧なナデ調整・木口状もしくは繊維状の工具による調整・極細の貝殻条痕調整	・浅い横、斜位の貝殻条痕調整	
	b類 ・口縁部上端に貝殻，ヘラ等による縦，斜位の押し引きや連続刺突 ・口唇部は小波状 ・丁寧なナデ調整				
	c類 ・類と 類の特徴を併せ持つもの ・口縁部上端に貝殻，ヘラ等による縦，斜位の連続刺突 ・ナデ調整は丁寧なものと粗いもの				
岩本式土器	類 ・口縁部上端に貝殻，ヘラ等による横位の連続刺突(波線1～4条) ・口唇部は小波状 ・丁寧なナデ調整	・口縁部内面に浅い段を有する	・木口状もしくは繊維状の工具による調整・極細の貝殻条痕調整		
	類 ・口縁部上端に貝殻，ヘラ等による縦，斜位の連続刺突 ・口唇部は小波状 ・浅い貝殻条痕調整				
前平式土器	類 ・口唇端部は平坦で，口唇端部と口縁部上端に，それぞれ貝殻，ヘラ等による「く」の字または逆「く」の字状の連続刺突	・口縁部内面に浅い段，または段がない	・横，斜位の貝殻条痕調整	・口唇部では横位，胴部では縦位の貝殻条痕調整	
	類 ・口唇端部は平坦で，口縁部上端に貝殻，ヘラ等による1列の縦，斜位の連続刺突（斜め上から）				
	類 ・口唇端部は平坦で，口縁部上端に，貝殻，ヘラ等による1列の縦，斜位の連続刺突（ほぼ真横から）				
	類 ・口唇端部は平坦で，貝殻，ヘラ等による連続刺突。口縁部上端に，貝殻，ヘラ等による1列の縦，斜位の連続刺突				
志風頭タイプ	類 ・口唇端部は貝殻，ヘラ等による刻み。口縁部上端に，貝殻による縦位1列の連続刺突。		・横位の貝殻条痕調整。 ・連点文や貝殻条痕を重ねる	・口唇部では横位，胴部では縦位の削り痕	
その他	類 ・上記以外の土器（無文・爪形文・吉田式・桑ノ丸式等） ・後期の市来式土器までを含む				
	底部 ・底部を一括したもの（平底）				

第21図 縄文時代早期土器分類模式図



第22図 縄文時代の土器 1 (I類)

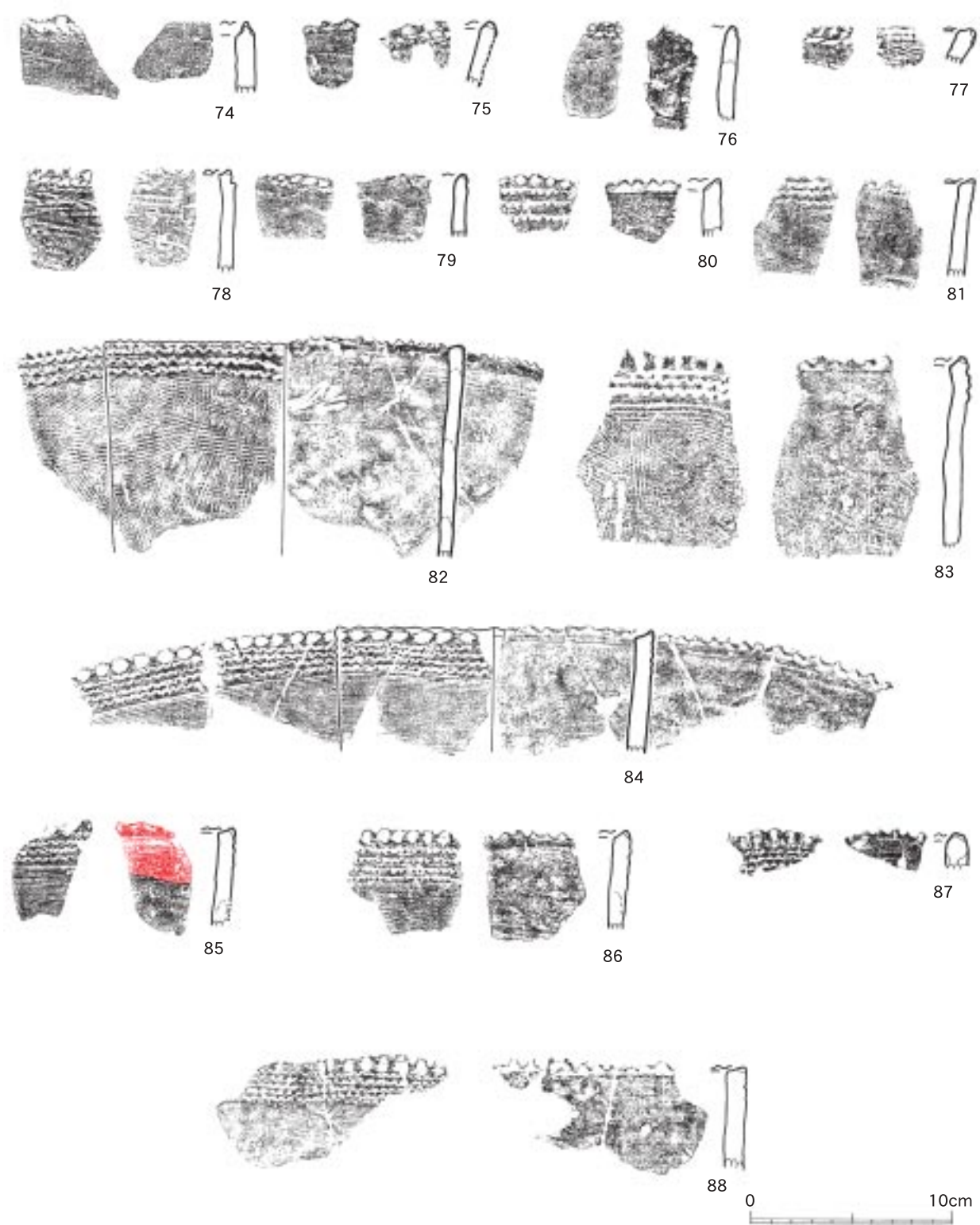


第23図 縄文時代の土器 2 (I 類)

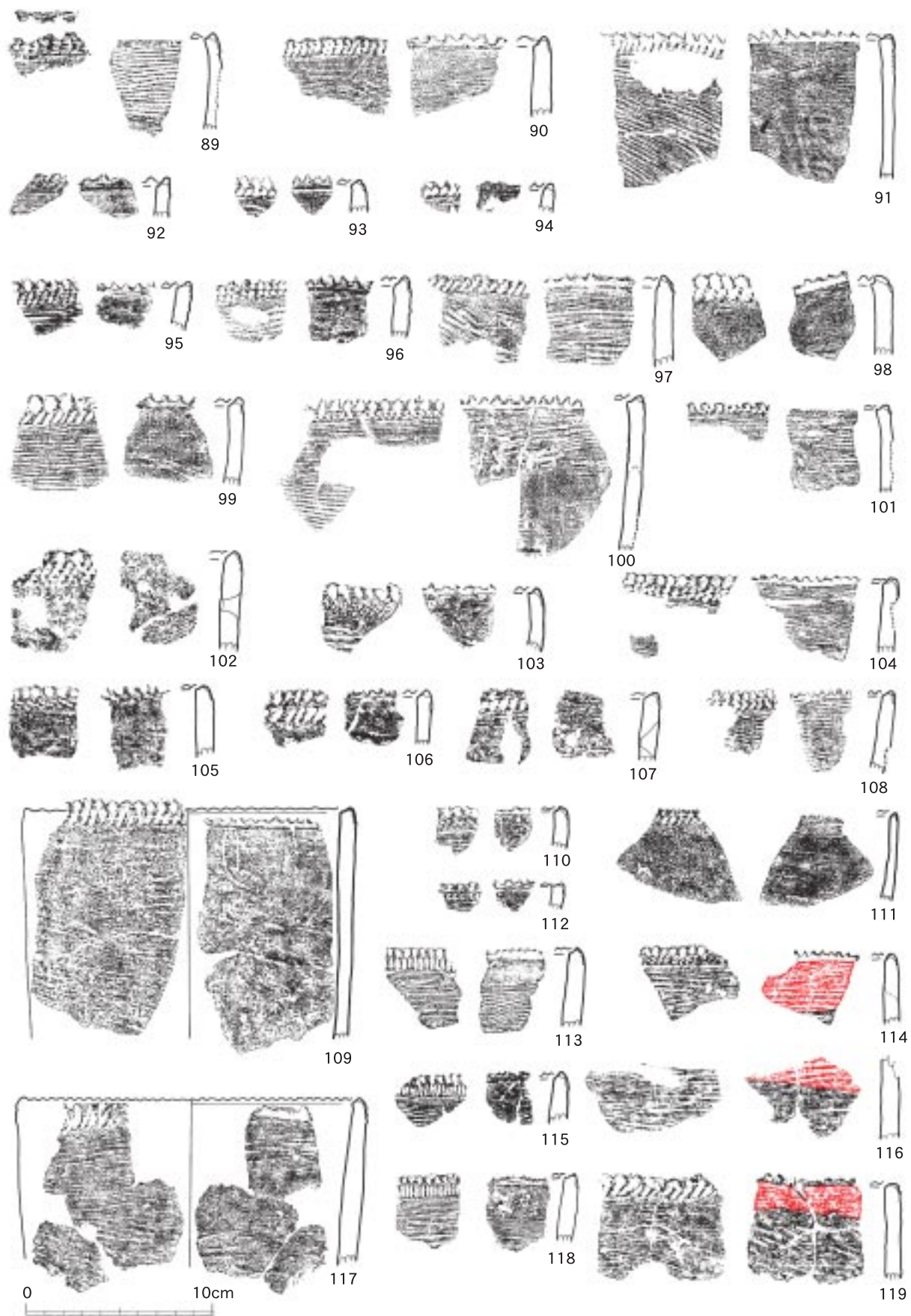
～ 類は、口縁内面に明瞭な段を有する貝殻条痕文系円筒土器である。

類は、38～73である。従来の分類では、水迫式土器に該当するが、報告書によっては岩本式土器に含まれる。この中で a 類は口唇部に貝殻腹縁押圧を施された38の1点だけである。 b 類は、39～61である。45・50は、口縁部に粘土を貼り付けた様子が観察できる。57には、赤色顔料が付着している。62～73は、 c 類で、水迫式土器と岩本式土器古段階との中間的な土器である。特に、64と68は、途中で文様構成の変更が行われており、両方の特徴を併せ持つ。

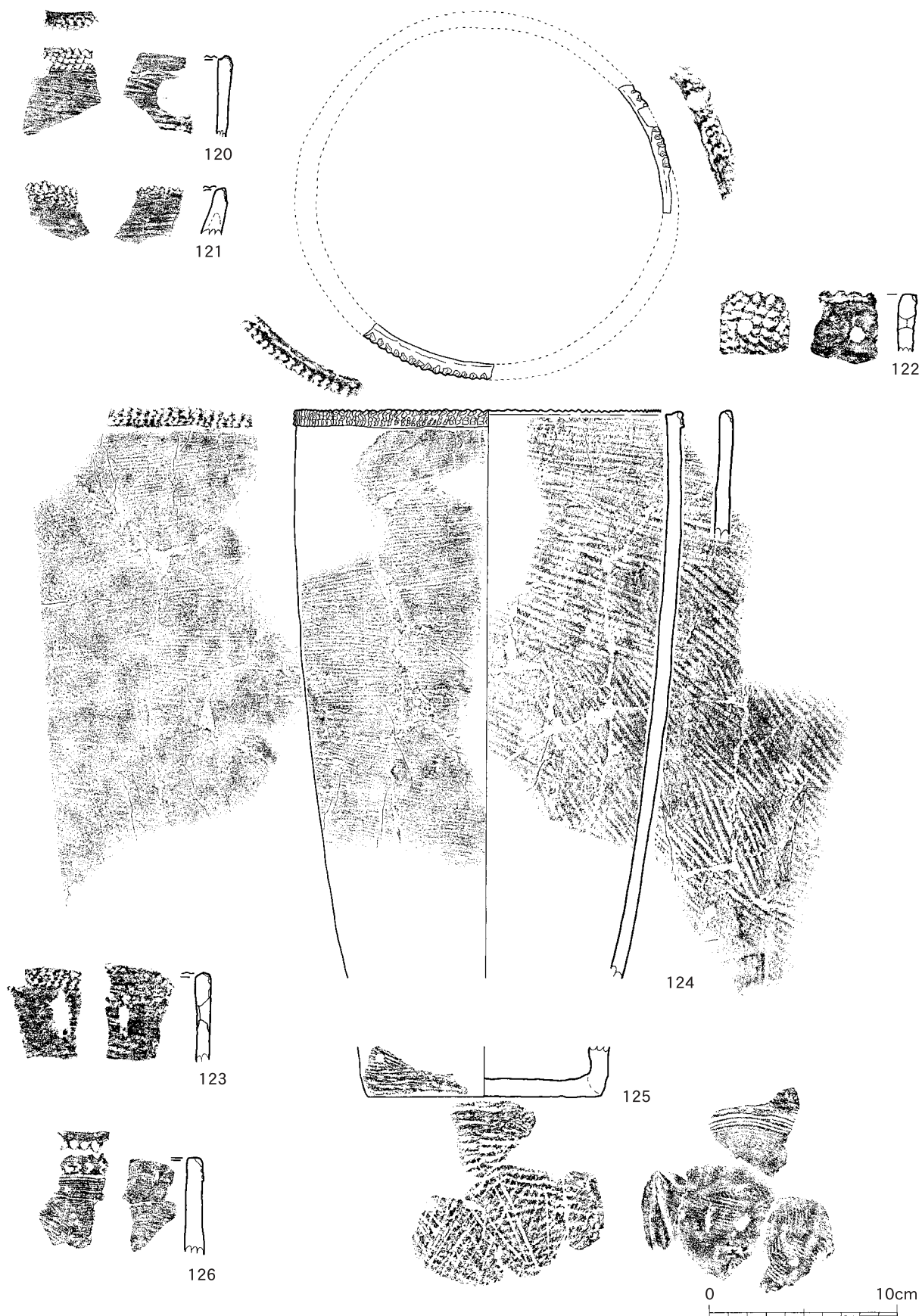
類は、74～88である。従来の分類では、岩本式土器古段階に該当する。85の内面には、赤色顔料が付着している。また、87には補修孔が認められる。91は、口縁部に粘土を貼り付けた様子が観察できる。



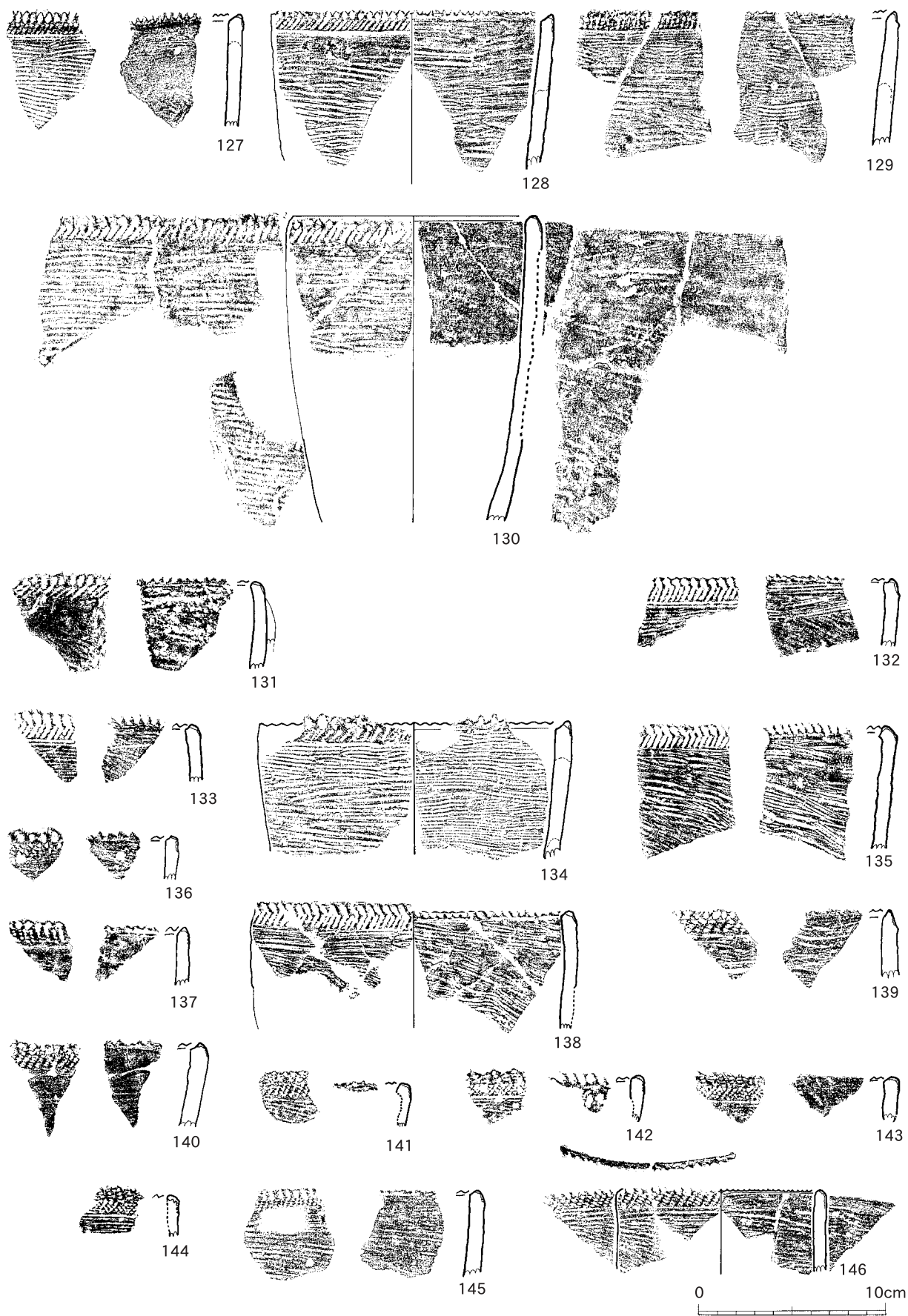
第24図 縄文時代の土器 3 (Ⅱ類)



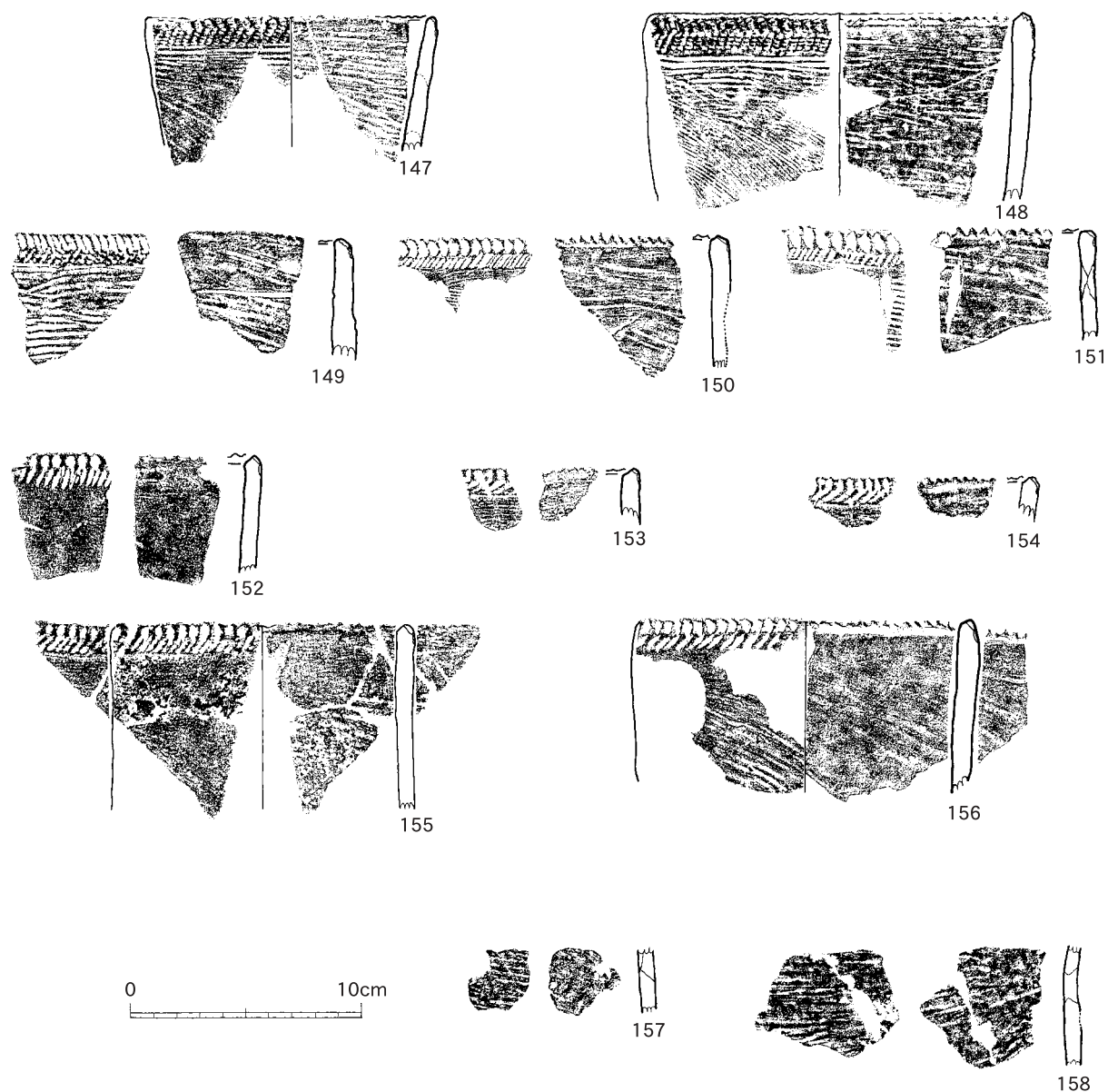
第25図 縄文時代の土器 4 (Ⅲ類)



第26図 縄文時代の土器 5 (Ⅲ類)

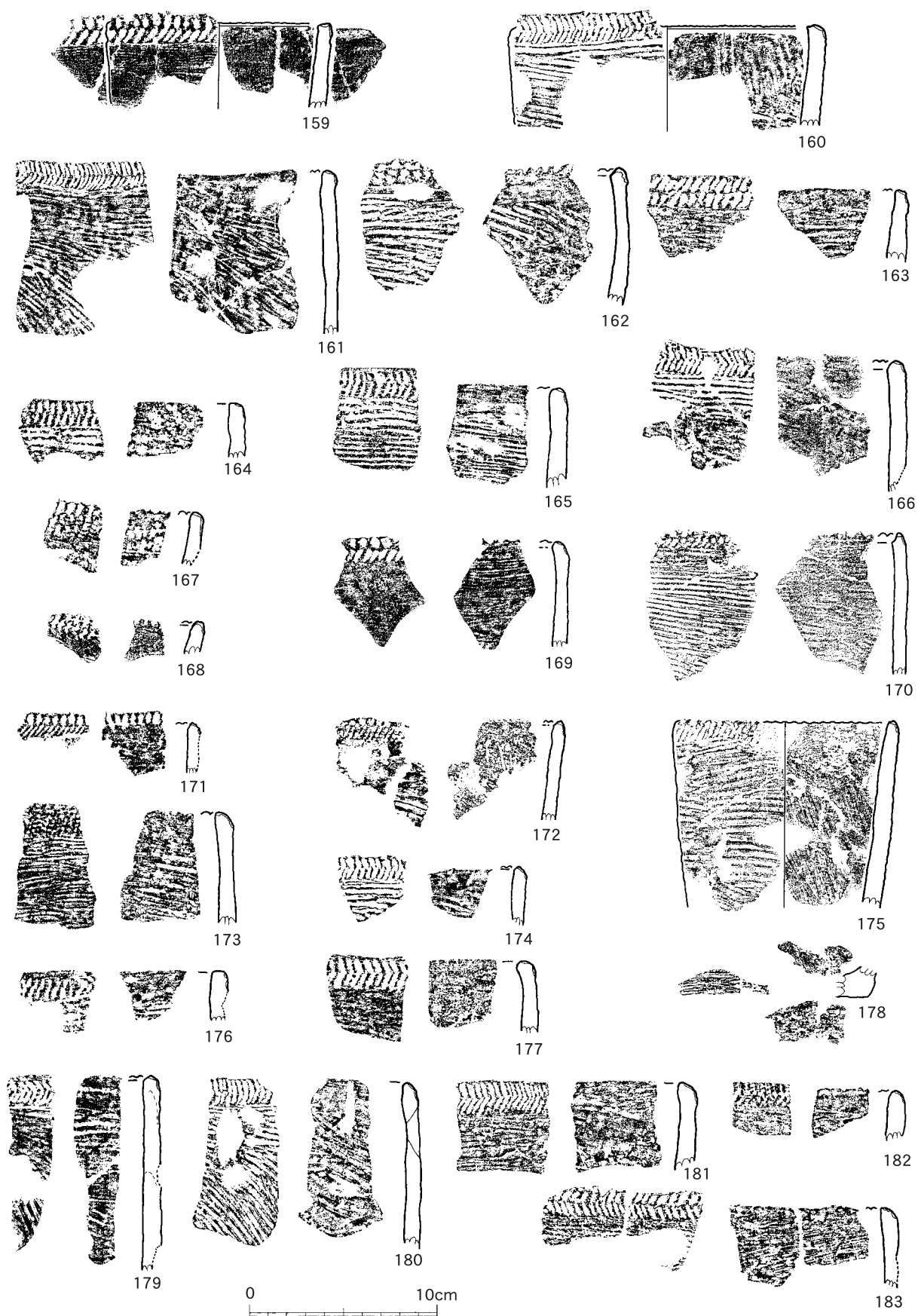


第27図 縄文時代の土器 6 (Ⅲ類)

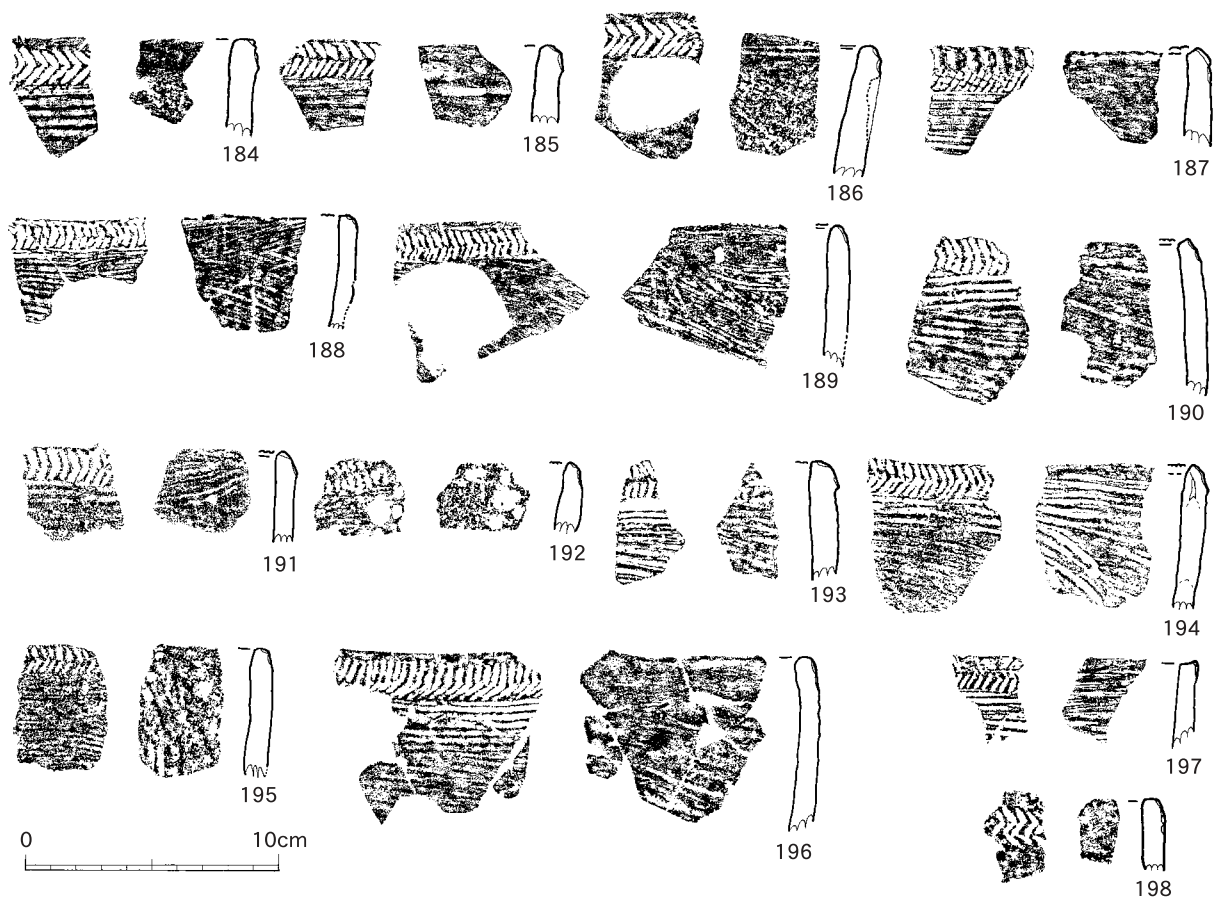


第28図 縄文時代の土器 7（Ⅲ類）

類は、89～158である。従来の分類では、岩本式土器新段階に該当する。ほとんどが円筒土器であるが、131は器形が異なり縦の隆帯が貼り付けられている。114・116・119の内面には、赤色顔料が付着している。また、155は炭化物が多量に付着している。分析の結果は、 9690 ± 50 yrBPであった。124は底部を欠くが、他は残存率の高い準完形土器である。口縁部文様帯と胴部との境界が、段ありから面一に変化していく様子が観察できる。なお、125は124の底部と思われるが接合はできなかった。補修孔は、回転による円形が102・122に、すり切りによる縦長が123・157・158に認められる。



第29図 縄文時代の土器 8 (Ⅳ類)



第30図 縄文時代の土器 9 (Ⅳ類)

類は、159～198である。岩本式土器から前平式土器への移行期に当たる物と考えられている。口縁内面の段はなくなるか痕跡となり、口縁部外面に「く」の字または逆「く」の字状の刺突を施す。従来の分類では、前平式土器に該当する。175・178は他の土器と胎土や焼成が著しく異なる。補修孔は、すり切りによる縦長が180に認められる。

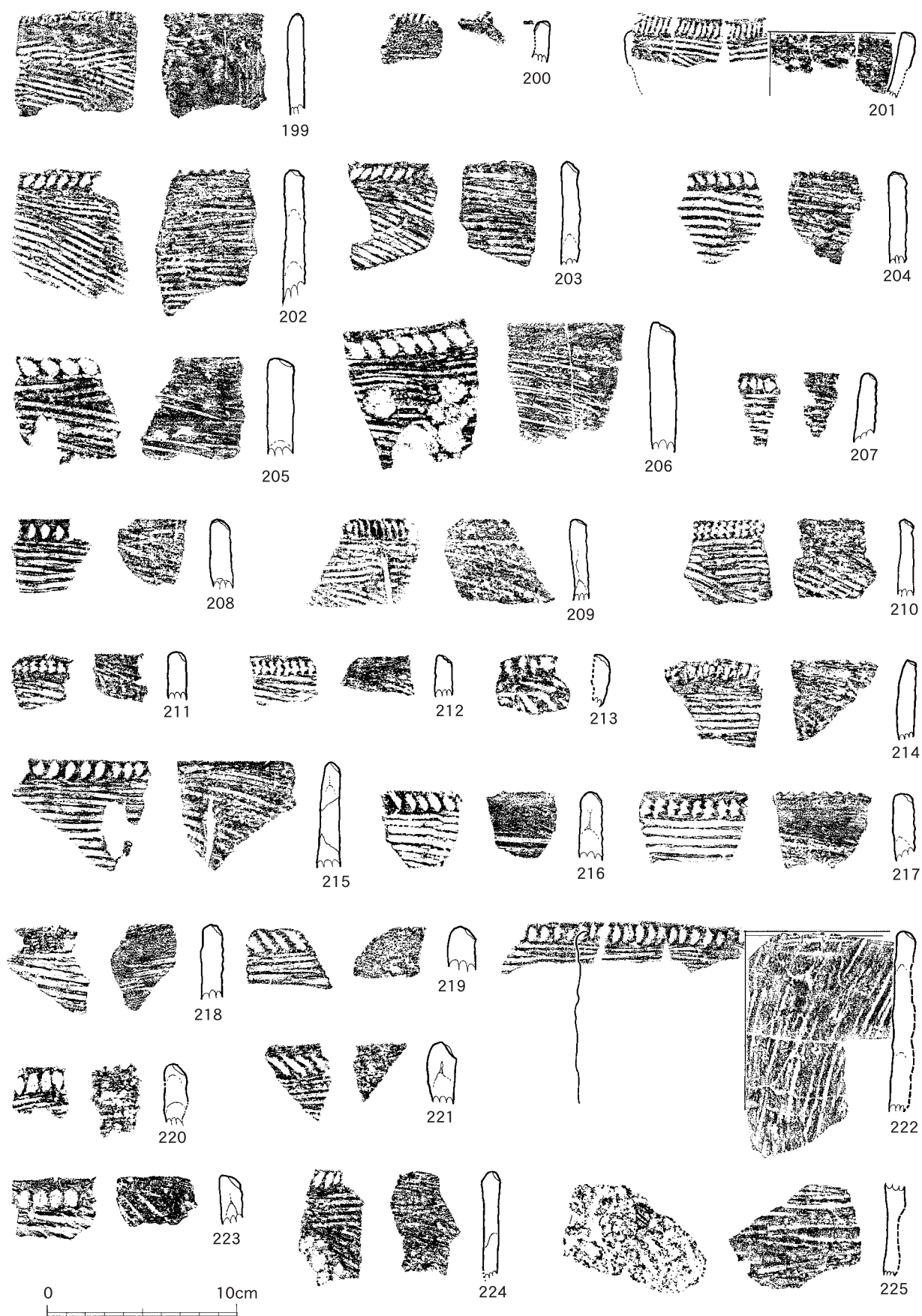
類は、199～242である。従来の分類では、前平式土器に該当する。241は底部を欠くが、他は残存率の高い準完形土器で、まとまって出土した。補修孔は、すり切りによる縦長が215に認められる。

類は、243～266である。従来の分類では、前平式土器に該当する。245は底部を欠くが、他は残存率の高い準完形土器で、まとまって出土した。255は完形土器であるが、破片は広範囲に分布していた。

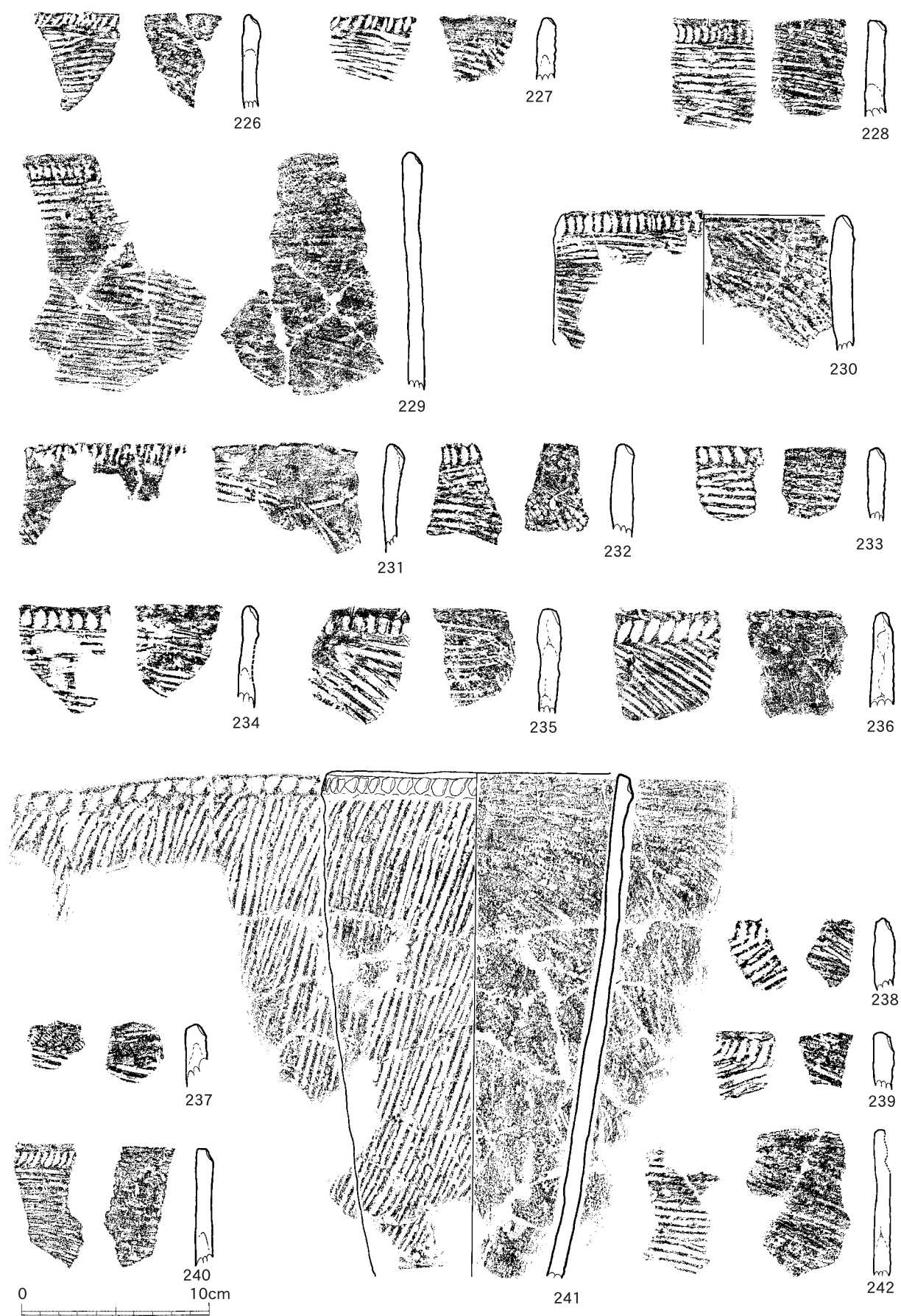
類は、267～273である。従来の分類では、前平式土器に該当する。

274～279は、～類いずれかに含まれると思われる土器である。口縁部の刺突や刻みが、正面から見えないように施されている。

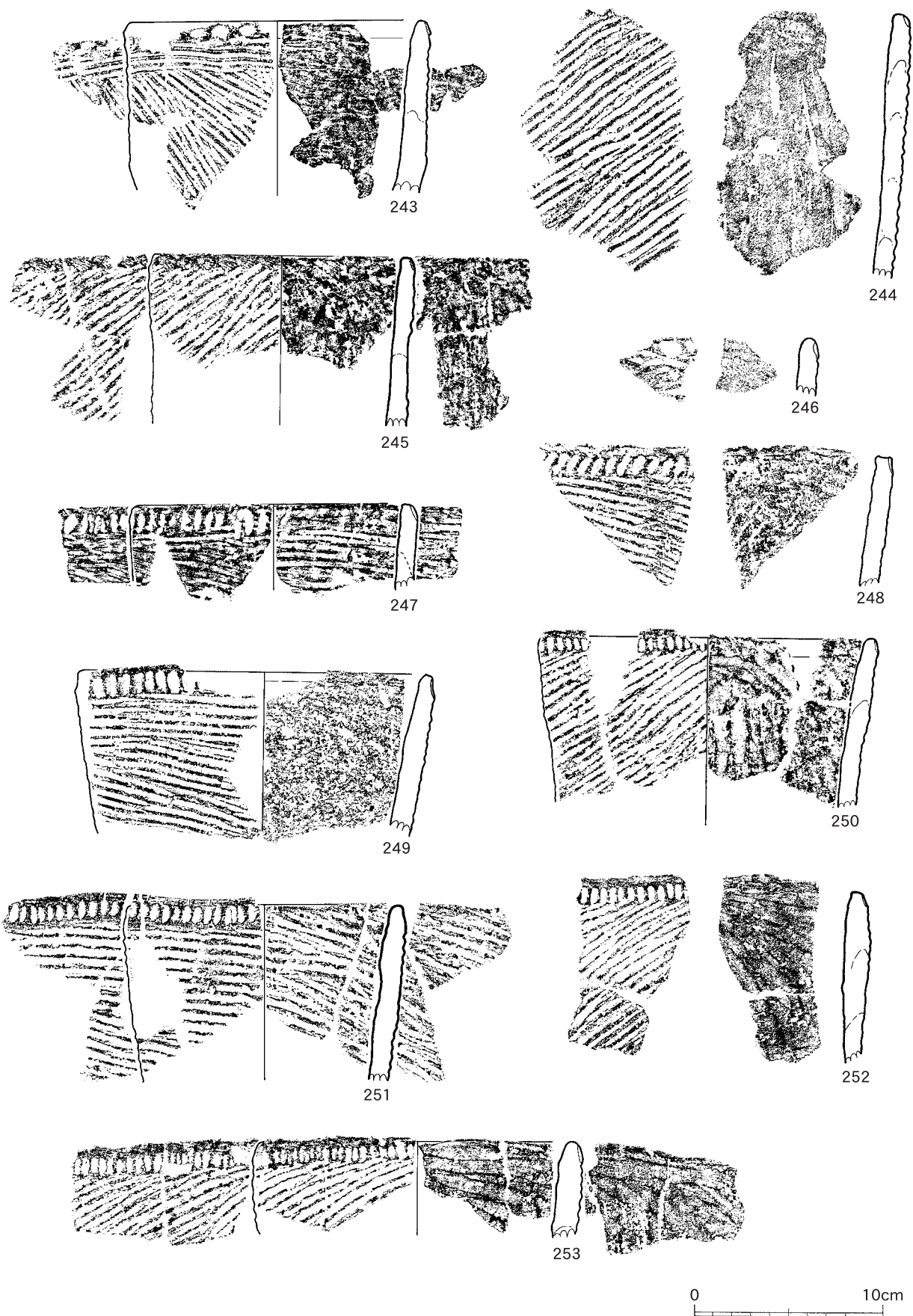
類は、280～304である。従来の分類では、前平式土器の志風頭タイプに該当する。D - 12・13区の道跡周辺に、特に多く出土している。補修孔は、すり切りによる縦長が280に認められる。



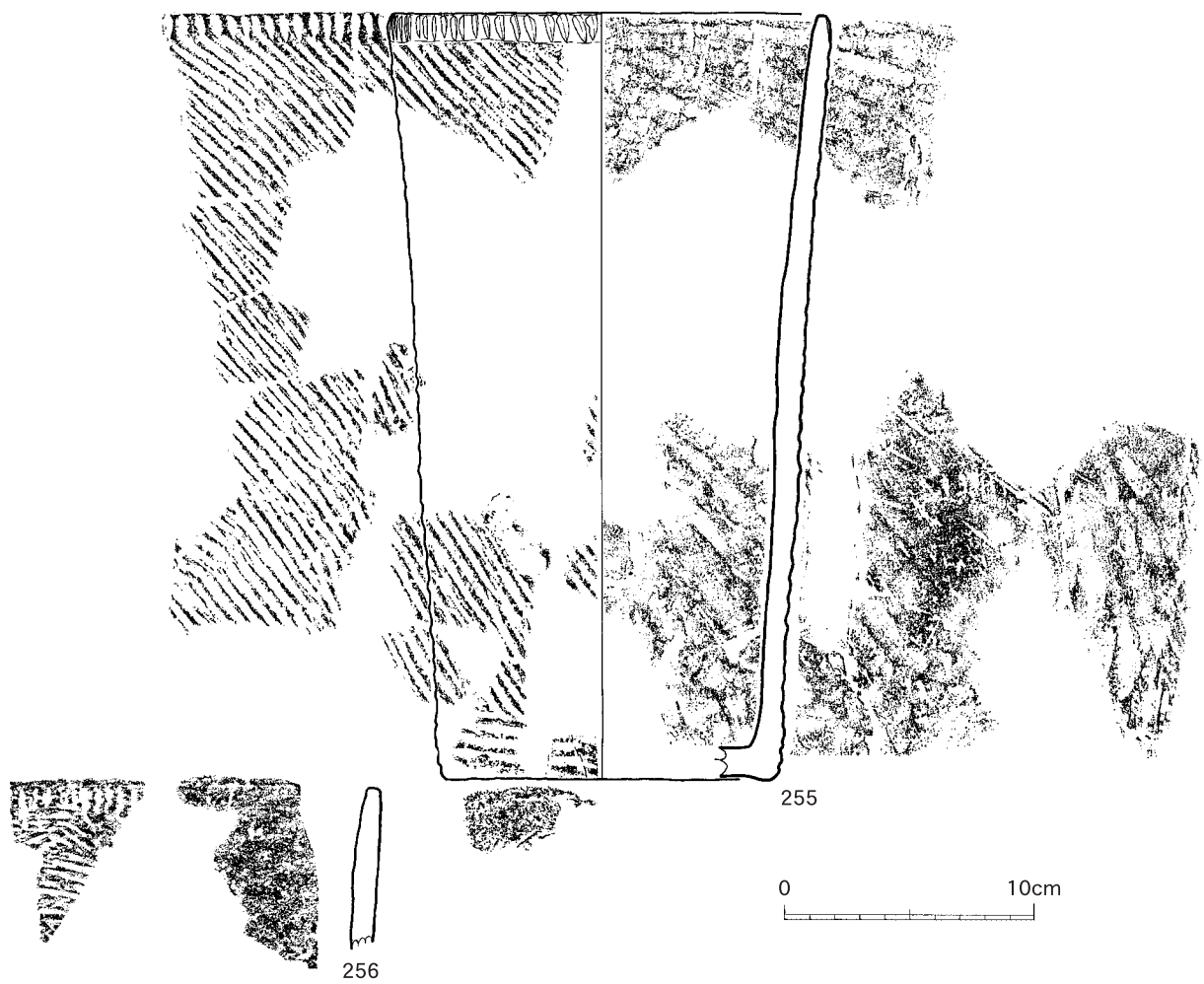
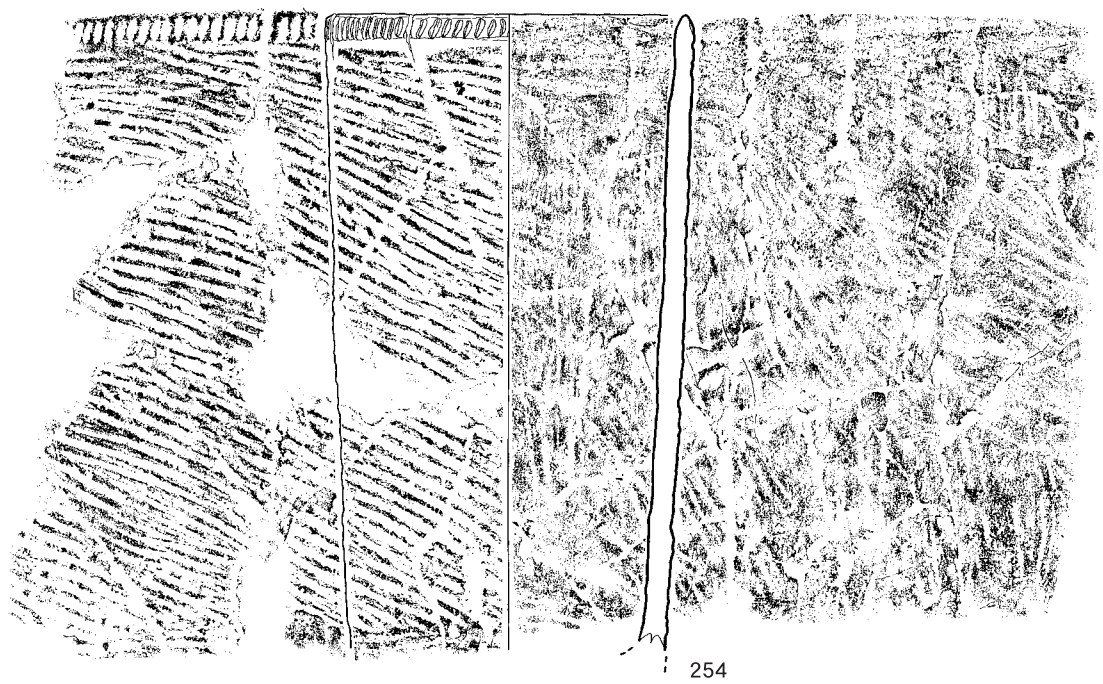
第31図 縄文時代の土器10 (V類)



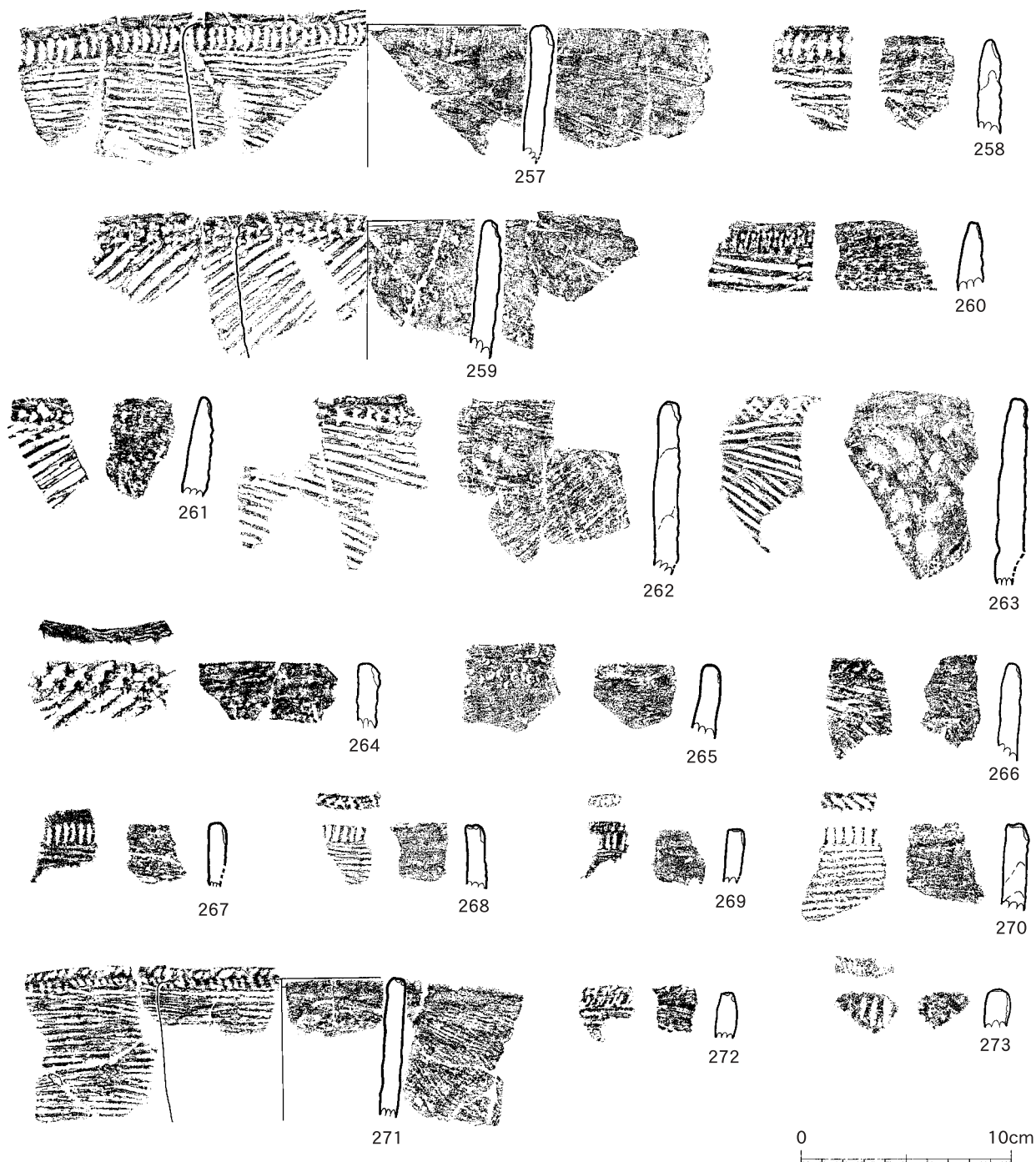
第32図 縄文時代の土器11 (V類)



第33図 縄文時代の土器12 (VI類)



第34図 縄文時代の土器13 (Ⅵ類)



第35図 縄文時代の土器14（Ⅵ・Ⅶ類）

類は，上記以外の土器を一括した物である。305は無文土器，306は列点文土器である。これらは，・類土器との関連が指摘されている。309は，爪形文土器である。これらは，いずれも小片のため，詳細は不明である。307・308・310は，所属不明の土器である。おそらく類土器と近縁の土器ではないかと思われる。311・312は，吉田式土器である。313～316は，桑ノ丸式土器である。317は，条痕文土器である。318～320は，苫浜式土器である。



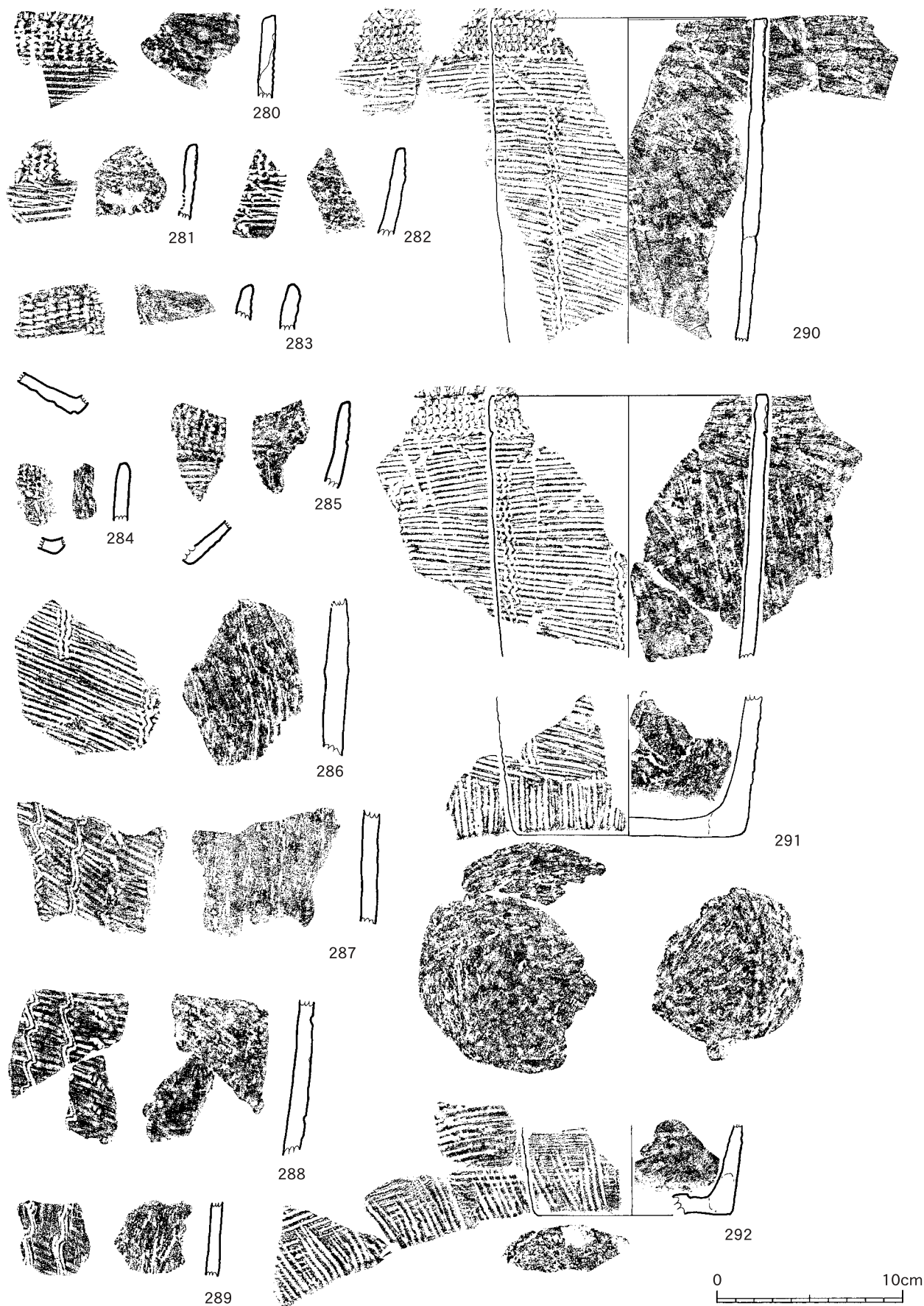
第36図 縄文時代の土器15（V・VI類）

縄文時代前期の土器も若干出土している。312は、壘式土器で、322・323は、曽畑式土器である。縄文時代後期の土器は、ややまとまって出土した。324～334は、市来式土器である。

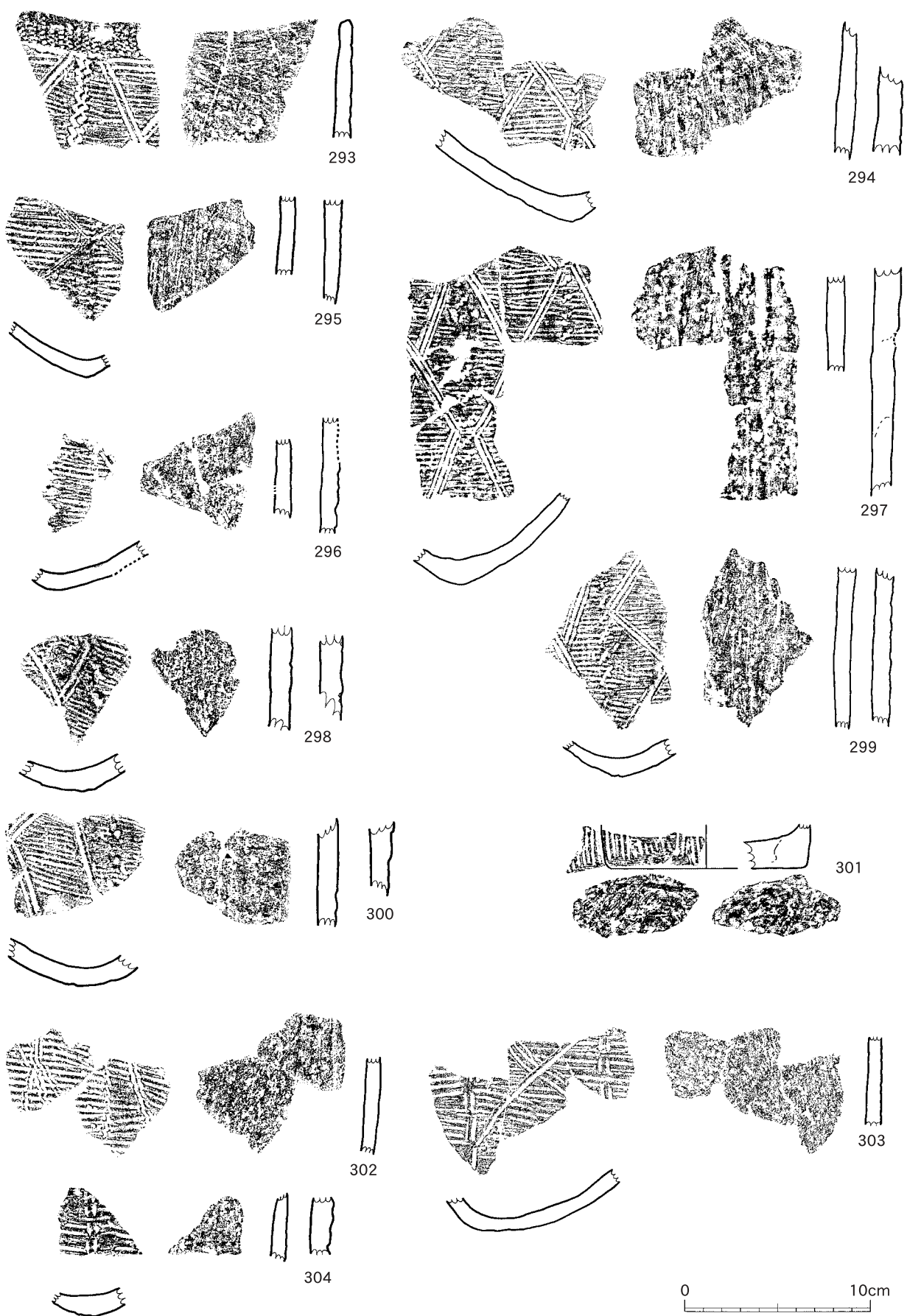
底部

底部については、明確な分類が難しい物もあるので、一括して掲載した。335～351は、円筒土器である。～ 類に該当する。352～366も、円筒土器である。～ 類に該当する。

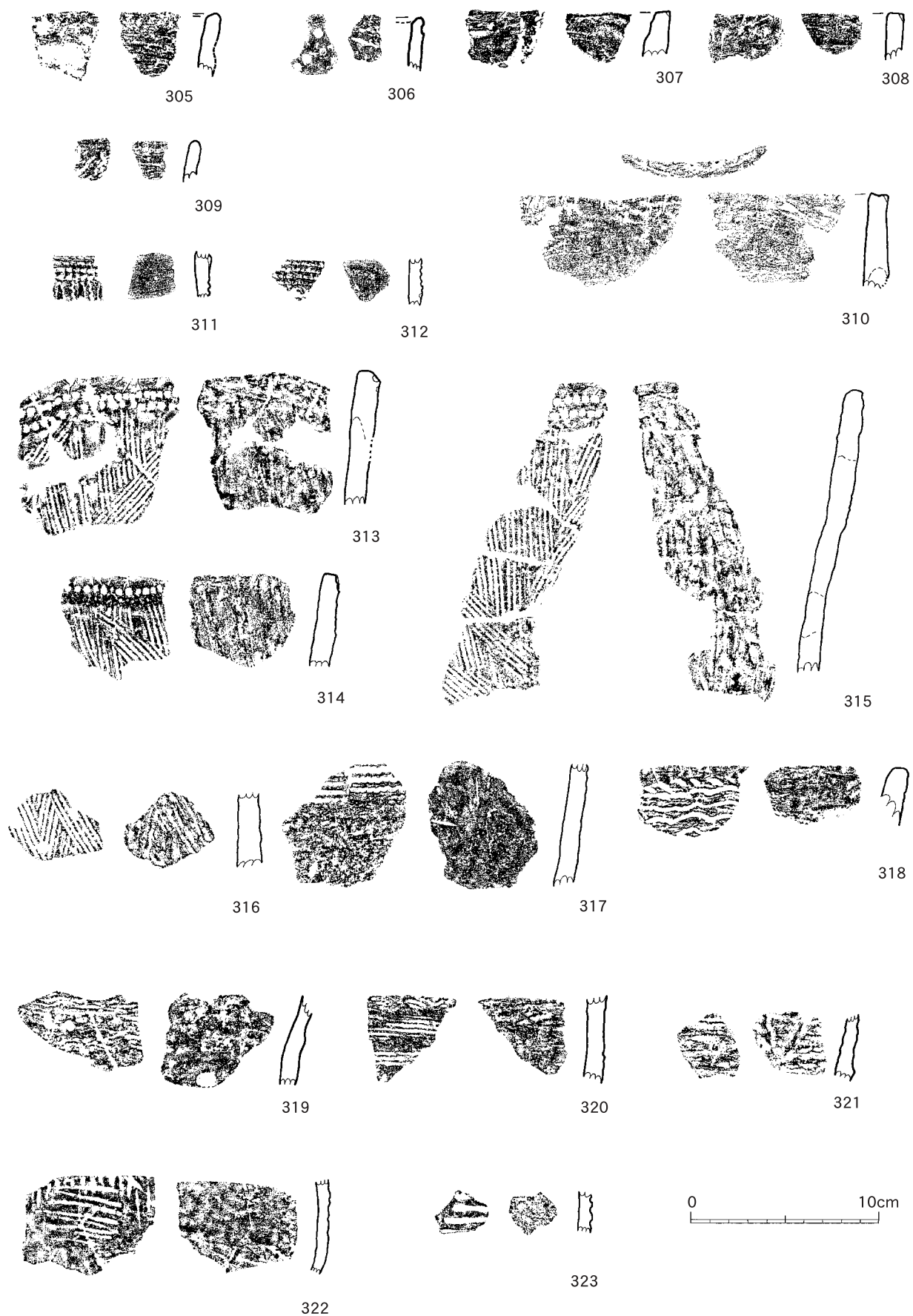
縄文時代中期の土器底部も出土している。367～369は阿高系の土器である。367は組織痕、368・369は葉脈痕が認められる。



第37図 縄文時代の土器16 (Ⅷ類)



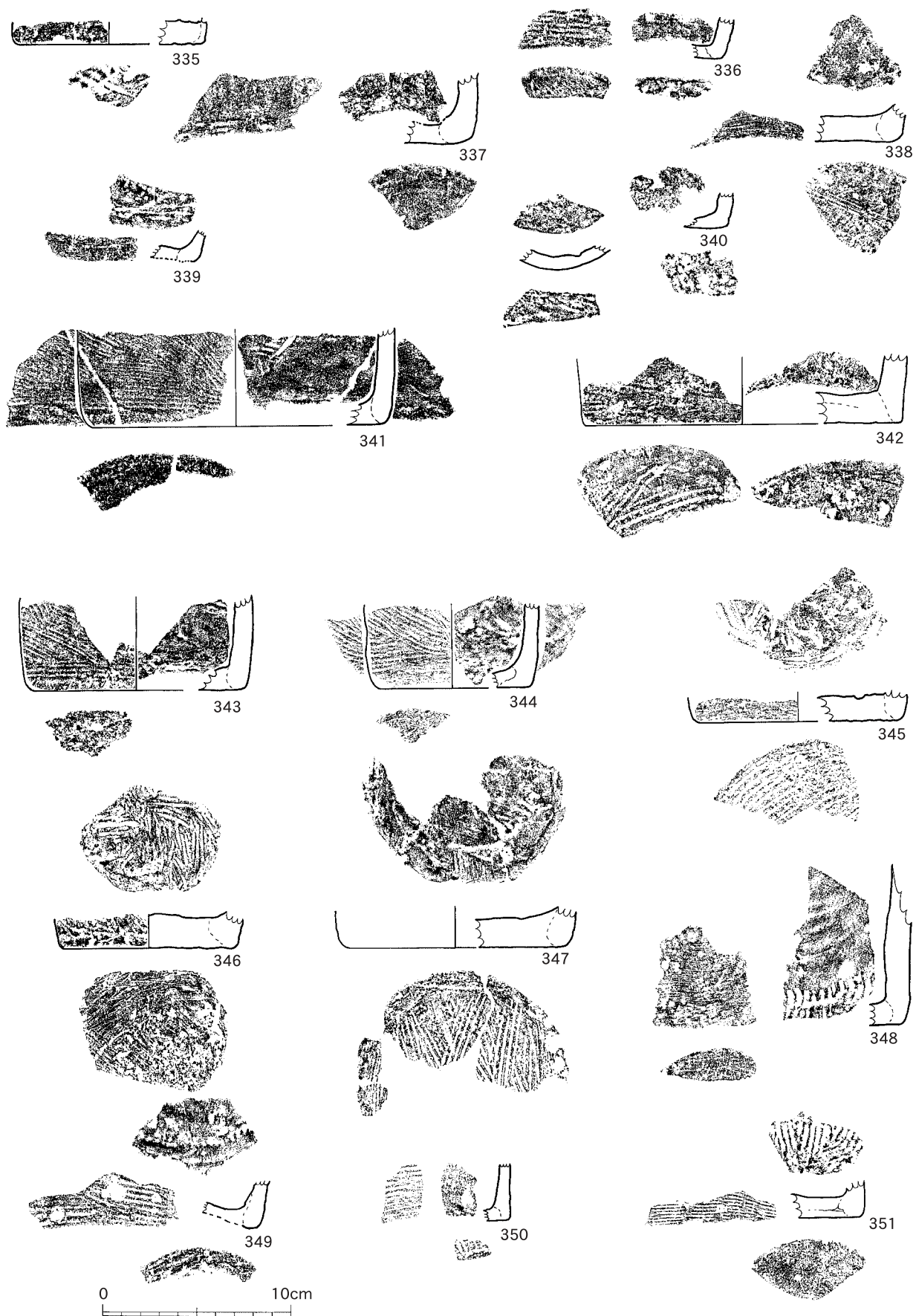
第38図 縄文時代の土器17 (Ⅷ類)



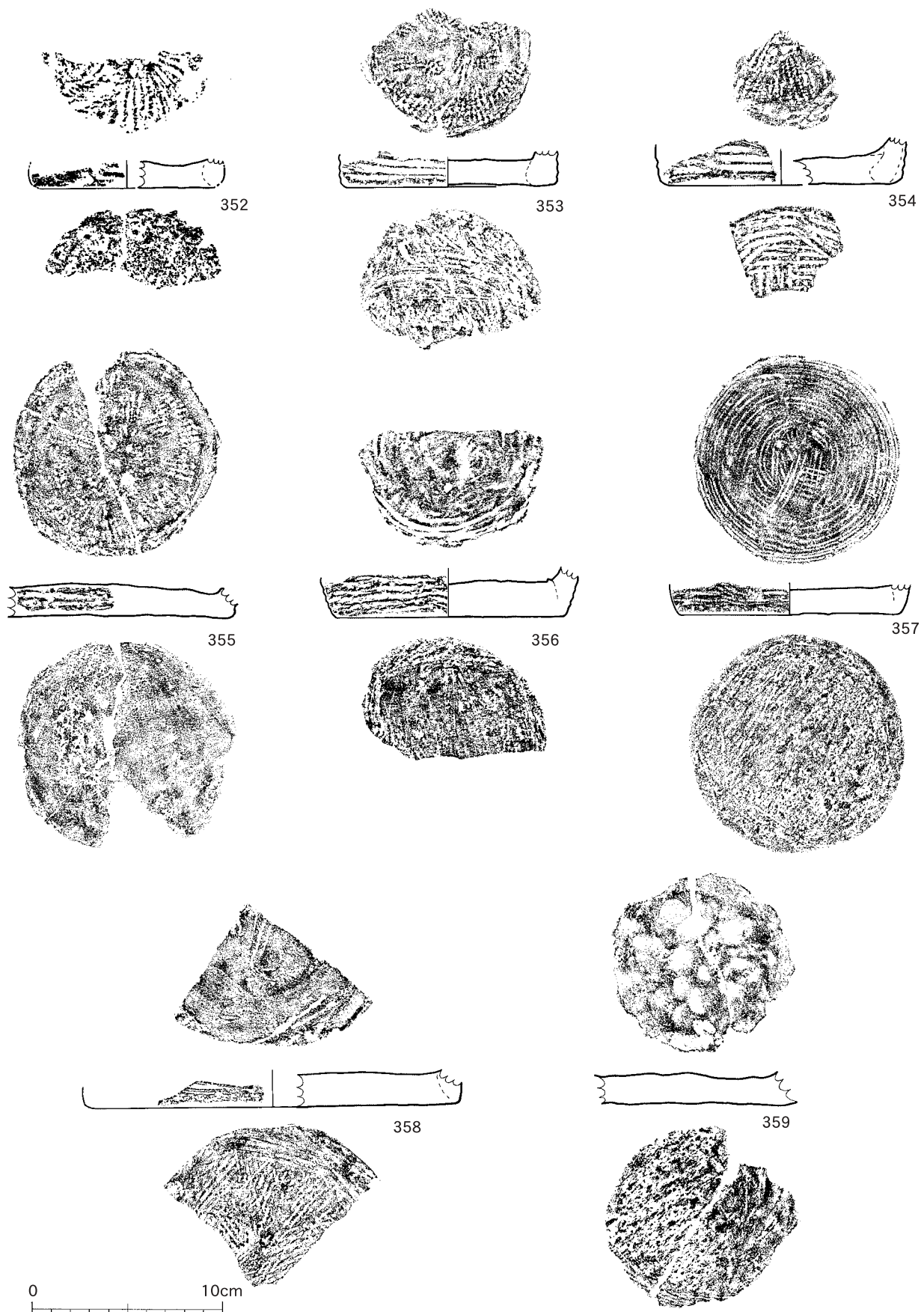
第39図 縄文時代の土器18 (Ⅸ類)



第40図 縄文時代の土器19 (Ⅸ類)



第41図 縄文時代の土器20（底部1）



第42図 縄文時代の土器21（底部2）



第43図 縄文時代の土器22（底部3）

第7表 縄文土器観察表

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃	その他		
14	22	SS1 (29)	H-8		岩本	円筒	胴	ケズリ, ナデ, かすかに条痕	ケズリ, ナデ		10YR 7/4 にぶい黄 橙	10YR 7/3 にぶい黄 橙	○	○			白・赤・灰・黒粒, 砂少ない	普通	集石内
	23	SS1 (4)	G-8		岩本?	円筒	胴	ケズリ, ナデ, かすかに条痕	ケズリ, ナデ, 一部 条痕		2.5Y 7/4 浅黄	2.5Y 7/4 浅黄	○	○			小礫, 白粒, 砂普通	良	集石内
	24	SS1 (6)	H-8		岩本	円筒	胴	ナデ, 条痕 (一部にハケ目状の 条痕)	ケズリ, ナデ		2.5Y 7/3 浅黄 ~ 2.5Y 8/2 灰色	2.5Y 3/1 黒褐	○	○			黒粒, 砂少ない	良	集石内破 損後被熱 している
	25	SS1 (14)	H-8		岩本	円筒	胴	ケズリ, 条痕, ハケ 目状の条痕(ヨコ)	ケズリ		10YR 6/4 にぶい黄 橙 ~ 10YR 3/2 黒褐	10YR 4/2 灰黄褐	○	○		○	黒曜石少し, 砂やや 少なめ	良	集石内
	26	SS1 (219)	H-8		円筒?	胴	ナデ, 貝殻条痕	ナデ			5YR 6/6 橙 ~ 5Y R 5/2 灰褐	10YR 5/2 灰黄褐	○	○			白・赤・灰粒, 砂や 少なめ	普通	集石内
	27	SS1 (95)	G-8		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕	ケズリ, ナデ	ヘラキザミ	7.5YR 6/4 にぶい 橙 ~ 10YR 6/4 にぶ い黄橙	5YR 6/6 橙	○	○			礫, 白・黒・灰粒, 砂普通	やや脆 い	集石内
	28	SS1 (94)	G-8		前平	円筒	口縁	ナデ, 条痕	ケズリ, 深い条痕	貝殻キザミ	5YR 4/3 にぶい赤 褐 ~ 5YR 3/2 暗赤 褐	5YR 4/3 にぶい赤 褐 ~ 5YR 3/2 暗赤 褐	○	○			白・赤・灰粒, 砂普 通	良	集石内
	29	SS1 (42)	H-8		前平	角筒?	胴	ケズリ 貝殻条痕(斜)	ケズリ		2.5YR 5/6 明赤褐	2.5YR 3/1 暗赤灰	○	○			礫(白・灰・黒), 白 粒, 砂やや多め	良	集石内
	30	SS1 (96)	G-8		前平	円筒	胴	ケズリ, 貝殻条痕	ケズリ		5YR 5/6 明赤褐	5YR 5/2 灰褐	○	○			礫, 白・赤粒, 砂や や多い	良	集石内 SS142と 同一個体?
18	31	道跡	F-10		岩本	円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕) ハガレ, 貝殻キザミ	ケズリ後ナデ	小丸棒押圧 (キザミ)	7.5YR 8/4 浅黄橙 ~ 6/3 にぶい褐	10YR 8/4 浅黄橙, 顔料? (5YR 6/6 橙)	○	○			赤・黒・灰粒, 小礫 (灰・凝灰岩系) 1コ 砂は少ない	普通	道跡
	32	道跡	D-13		前平 (加栗山?)	角筒?	口縁	ケズリ後ナデ波状貝 殻刺突	ケズリ(ヨコ)	平らにナデ	10YR 6/4 にぶい黄 橙 ~ 10YR 3/1 黒褐	10YR 2/1 黒	○	○			火山ガラス透明, 白・ 灰・赤粒, 砂普通	良	道跡
	33	道跡	D-13		前平 (志風頭?)	角筒	口縁	ケズリ, ナデ, 貝殻 刺突, 貝殻条痕(ナ メ)の上に直線交 差と刺突(タテ)	ケズリ	キザミ(か すか)	5YR 6/6 橙 ~ 5Y R 3/2 暗赤褐	5YR 5/6 明赤褐 ~ 2/2 黒褐	○	○			白・赤粒, 砂やや多 い	良	道跡
	34	道跡	D-13		前平 (加栗山?)	角筒?	口縁	ナデ, 貝殻刺突, キ ザミ, 貝殻条痕	ケズリ後ナデ	ナデ	5YR 5/3 にぶい赤 褐 ~ 5YR 4/1 褐灰	5YR 5/6 明赤褐	○	○			軽石所々, 赤・白粒, 砂普通	良	道跡
	35	道跡	D-13		岩本	円筒	胴	ナデ	ケズリ後ナデ		2.5YR 6/6 橙	5YR 4/1 褐灰	○	○			黒・赤粒, 砂少ない	良	道跡
	36	道跡	D-13		前平	円筒?		ケズリ?, 条痕, 貝 殻条痕(ヨコ)	不明(ハガレ)		2.5YR 4/6 赤褐	不明	○	○			白・灰礫少し, 黒・ 白粒, 砂普通	普通	道跡
22	38	876	G-9		Ia 水迫	円筒	口縁	ハケ目状条痕, 貝殻 刺突, 貝殻刺突によ る沈線横1条	ケズリ後ナデ	貝殻押圧	7.5YR 6/4 にぶい 橙 ~ 5YR 7/8 橙 (一部)	5YR 7/8 橙	○	○			黒粒, 砂少なめ	良	
	39	879	G-9		Ib 水迫	円筒	口縁	ナデ, 貝殻押引(波 状)	ケズリ後ナデ	貝殻縁押引?	5YR 6/6 橙	10YR 5/3 にぶい黄 褐	○	○			赤・白粒, 砂少なめ	良	21と同一 個体
	40	3688	E-5		Ib 水迫	円筒	口縁	ナデ, 貝殻押引(波 状)	ナデ	貝殻縁押引?	5YR 6/8 橙 ~ 4/ 2 灰褐	5YR 5/3 にぶい赤 褐	○	○			赤・白・黒粒, 白・ 赤小礫, 砂やや少な い	普通	16と同一 個体
	41	6483	E-6		Ib 水迫	円筒?	口縁	ナデ, 貝殻押引	ケズリ後ナデ	貝殻縁押引?	5YR 7/8 橙	5YR 7/8 橙	○	○		○	砂少ない	普通	
	42	一括	D-6		Ib 岩本	円筒?	口縁	ナデ, 横一部ハケ目 状条痕, 貝殻腹縁? 押圧	ナデ, 一部貝殻条痕	ヘラ? 押圧	5YR 6/4 にぶい橙 ~ 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 7/4 にぶい 橙	○	○			白・黒粒, 砂は少な い	良	
	43	8431	E-6		Ib 水迫	円筒	口縁	ケズリ後ナデ, 貝殻 押引, 貝殻刺突によ る沈線1条	ケズリ後ナデ, 一部 貝殻条痕	貝殻押圧	5YR 6/6 橙 ~ 4/ 2 灰褐	5YR 6/6 橙 ~ 4/ 2 灰褐	○	○			赤・白粒, 灰小礫, 砂少ない	良	18と同一 個体
	44	7300	E-6		Ib 水迫	円筒	口縁	ケズリ後ナデ, 貝殻 押引, 貝殻刺突によ る沈線1条	ケズリ後ナデ, 一部 貝殻条痕	貝殻押圧	5YR 6/6 橙 ~ 4/ 2 灰褐	5YR 4/2 灰褐	○	○			赤・白粒, 灰小礫, 砂少ない	普通	19と同一 個体
	45	6167 8083	F6 E6		Ib 水迫	円筒	口縁	ハケ目状条痕, 貝殻 刺突(ナメ), 沈線 1条	ケズリ後ナデ	指頭押圧	10YR 4/4 褐 ~ 3/ 2 黒褐	7.5YR 6/6 橙	○	○		○	白・黒粒, 砂少なめ	良	
	46	4819	E-6		Ib 水迫	円筒?	口縁	ナデ, 貝殻刺突(ナ メ), 貝殻刺突によ る沈線1条	? アバタ状のハガレ が激しい	何か? の押 圧	10YR 7/6 明黄褐	7.5YR 6/6 橙	○	○		○	白・黒粒, 砂普通	やや脆 い	
	47	一括	D-6		Ib 水迫		口縁	ナデ, 一部貝殻条痕 が残る, 貝殻押引, 貝殻刺突による沈線 1条	ケズリ後ナデ	貝殻縁押圧	7.5YR 2/2 黒褐	5YR 5/4 にぶい赤 褐	○	○			赤・白粒, 砂はやや 少なめ	普通	
	48	4288	E-6		Ib 水迫	円筒?	口縁	ナデ(ヨコ), 貝殻押 引(ナメ), 貝殻刺 突による沈線1条	ナデ(ヨコ)	指頭? 押圧	10YR 5/4 にぶい黄 褐 ~ 3/2 黒褐	7.5YR 7/8 黄橙	○	○			白小礫, 白・黒粒, 砂やや多め	良	
	49	5574	E-6		Ib 水迫	円筒	口縁	ケズリ, ハケ目状, 貝殻刺突による沈線 1条	ケズリ, ハケ目状	指頭押圧, 貝殻キザミ	5YR 5/4 にぶい赤 褐	5YR 5/4 にぶい赤 褐	○	○			粒(白・黒), 砂はや や少なめ	良	

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石英	長石	雲母	角閃	その他		
22	50	7738	F - 6		Ib 水迫	円筒	口縁	ナデ, ハケ目状条痕, 貝殻押引, 貝殻刺突による沈線1条	ケズリ後ナデ, 所々ハケ目状条痕	指頭押圧	7 5YR 3 / 3 暗褐 ~ 3 / 2 黒褐	10YR 6 / 4 にぶい黄橙 ~ 4 / 2 灰黄褐	○	○			赤・白粒, 砂は少なめ	普通	
	51	126	E - 6		Ib 水迫	円筒?	口縁	ナデ, ハケ目状条痕, 貝殻押引(ナナム), 貝殻押引?による沈線1条	ナデ, ハケ目状条痕	指頭?押圧	10YR 5 / 4 にぶい黄褐 ~ 3 / 1 黒褐	7.5YR 7 / 6 橙 ~ 10 YR 7 / 6 明黄褐	○	○		○	黒曜石, 白・黒・灰・赤粒, 砂少し多め	普通	
	52	7853	E - 6		Ib 水迫	円筒	口縁	ナデ, 貝殻刺突, 沈線1条	ケズリ後ナデ	ヘラ?押圧	5 YR 4 / 4 にぶい赤褐 ~ 3 / 2 暗赤褐	3 / 2 暗赤褐	○	○			灰小礫1コ, 白・赤粒, 砂は少ない	やや脆い	
	53	1952	F - 6		Ib 水迫	円筒	口縁	ハケ目状条痕(ヨコ), 貝殻押引(ややナナム), 貝殻刺突による沈線1条	ケズリ後ナデ, ハケ目状条痕	丸棒?押圧	5 YR 5 / 4 にぶい赤褐 ~ 2 / 1 黒褐	5 YR 6 / 6 橙 ~ 6 / 4 にぶい橙	○	○			赤・白・黒・灰粒, 砂普通	良	
	54	1587	F - 3		Ib 水迫	円筒	口縁	ナデ, 一部貝殻条痕, 貝殻押引, 貝殻刺突による沈線1条	ケズリ後ナデ, 一部貝殻条痕(所々ハガレ)	丸棒?押圧	5 YR 6 / 6 橙 ~ 10Y R 6 / 6 明黄褐	2 5YR 6 / 6 橙 ~ 10 YR 6 / 6 明黄褐	○	○			白・赤小礫, 6mm大(こげ茶・砂岩?)礫1コ, 赤・白・黒粒, 砂普通	良	
	55	一括	D - 6		Ib 水迫	円筒	口縁	ナデ, 一部貝殻条痕, 貝殻押引, 貝殻刺突による沈線1条	ケズリ後ナデ, 一部貝殻条痕	指頭押圧	7 5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 3 / 1 黒褐	2 5YR 6 / 8 橙	○	○			赤・白粒, 白礫(凝灰岩?), 礫が目立つが砂はやや少なめ	良	
	56	8143	E - 6		Ib 水迫	円筒	口縁	ナデ, 貝殻刺突, 貝殻刺突による沈線1条	ナデ(部分的に風化)	爪?押圧	5 YR 4 / 6 赤褐	5 YR 7 / 6 橙	○	○			赤・白粒, 砂は少ない	脆い	
	57	2335	F - 6	下	Ib 水迫	円筒	口縁	ケズリ, ハケ目状条痕, 貝殻刺突(ナナム・湾曲)とそれによる沈線1条	ケズリ後ナデ	角棒?押圧	10YR 6 / 4 にぶい黄橙 ~ 4 / 2 灰黄褐	7 5YR 7 / 6 橙	○	○			赤・白・黒・灰粒, 所々白・灰(凝灰岩?)礫, 礫はあるが砂は少なめ	良	赤色顔料付着
	58	2524	F - 5		Ib 水迫	円筒?	口縁	ナデ, 貝殻刺突(ナナム)とそれによる沈線2条	ナデ	指頭押圧	7 5YR 4 / 3 褐	7 5YR 7 / 6 橙	○	○			白・黒・灰粒, 砂は少なめ	良	
	59	5666	E - 6		Ib 水迫	円筒	口縁	ケズリ後ナデ, 一部ハケ目状条痕, 貝殻刺突(ナナム), 貝殻刺突による沈線2条	ナデ, 一部ハケ目状条痕	指頭押圧	7 5YR 7 / 4 橙	7 5YR 7 / 6 橙	○	○		○	赤・黒小礫, 赤・白・黒・灰粒, 砂は少なめ	良	
	60	8003	F - 6		Ib 水迫	円筒?	口縁	ナデ, 一部ハケ目状条痕, 貝殻刺突(ナナム)とそれによる沈線2条	ナデ(風化が進んでいる)	何かを押圧	5 YR 4 / 2 灰褐	7 5YR 7 / 6 橙	○	○			灰(凝灰岩)小礫, 赤・白・黒・灰粒, 砂は普通	やや脆い	
	61	8167	E - 6		Ib 水迫	円筒?	口縁	ナデ, 横位の2条貝殻刺突文その上にさらに連続刺突文	ナデ	ナデ	2 5YR 4 / 4 にぶい赤褐	5 YR 7 / 6 橙 ~ 7 5 YR 6 / 3 にぶい褐	○	○			白(珊瑚?系)・赤・灰(泥岩系)粒, 砂は少なめ	普通	粉っぽい
23	62	一括	D - 6		Ic 岩本?		口縁	指押さえとナデ, ツメキザミ(ナナム)	指押さえとナデ	ツメキザミ(ナナム)	7 5YR 7 / 4 にぶい橙 ~ 3 / 1 黒褐	7 5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 5 / 2 灰褐	○	○		○	黒・灰・白・赤粒, 砂は普通	良	爪形文土器と関連?
	63	7829 8117	E - 6		Ic 岩本?		口縁	ナデ, 風化が激しい	ナデ	ツメキザミ(ナナム)	10YR 4 / 2 灰黄褐 ~ 3 / 1 黒褐	10YR 6 / 4 にぶい黄橙 ~ 4 / 2 灰黄褐	○	○		○	灰粒	やや脆い	爪形文土器と関連?
	64	6045 6118 6316	E - 6		Ic 岩本?	円筒	口縁	ナデ, 貝殻刺突による沈線4条, 途中からタテの貝殻刺突と沈線1条	ナデ	丸棒押圧	10YR 4 / 3 にぶい黄褐 ~ 2 / 2 黒褐	7 5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 5 / 3 にぶい褐	○	○		○	白・灰・黒粒	やや脆い	水迫と岩本の中間?
	65	7708	F - 6		Ic 岩本?		口縁	ナデ, ツメキザミ(ナナム), ツメによる沈線2条	ケズリ後ナデ	削って平らにしている	2 5YR 6 / 6 橙 ~ 7 5 YR 4 / 2 灰褐	7 5YR 5 / 3 にぶい褐 ~ 4 / 2 灰褐	○	○		○	灰・赤粒, 砂は少し	普通	爪形文土器と関連?
	66	一括	D - 6 下		Ic 岩本?		口縁	ナデ, 風化が激しい	ナデ	ツメキザミ	10YR 7 / 4 にぶい黄橙 ~ 3 / 1 黒褐	7 5YR 7 / 4 にぶい橙	○	○		○	赤・灰粒, 砂はやや多い	やや脆い	爪形文土器と関連?
	67	6600	E - 6		Ic 水迫	円筒	胴	ナデ, 所々ハケ目状条痕, 貝殻刺突(タテ)とそれによる沈線1条ただし「すれちがい」	ナデ		10YR 5 / 4 にぶい黄褐 ~ 3 / 1 黒褐	10YR 5 / 4 にぶい黄褐	○	○		○	赤・白・黒粒, 砂は普通	やや脆い	
	68	一括	D - 6		Ic 岩本?	円筒	口縁	貝殻とハケ目状条痕, 貝殻刺突(タテ2段, 一部3ユニット分)	ケズリ後ナデ(上部のみ), ケズリ	貝殻(縁辺)押圧	5 YR 6 / 6 橙 ~ 7 5 YR 5 / 3 にぶい褐	7 5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 5 / 2 灰褐	○	○			白・灰粒, 砂は少ない	良	水迫と岩本の中間?
	69	8319	F - 6		Ic 岩本?	円筒	口縁	ハケ目状条痕, 一部ナデ, 口縁は連点状	ハケ目状条痕, 一部ナデ	貝殻縁辺を連続して押圧	2 5Y 7 / 2 灰褐 ~ 4 / 1 黄灰	10YR 4 / 4 褐 ~ 2 / 1 黒	○	○			白粒, 礫少々, 砂はやや少なめ	良	
	70	8087	E - 6		Ic 水迫?		口縁	ナデ, 丸棒?の押引での沈線4条	ナデ	貝殻?押圧	10YR 6 / 3 にぶい黄橙	10YR 4 / 2 灰黄褐	○	○		○	白・黒粒, 砂は少ない	良	
	71	一括	D - 6		Ic 水迫?		口縁	条痕後磨き?(J)字状の列点3列	ナデ	貝殻角頂押圧	10YR 5 / 2 灰黄褐 ~ 7 / 4 にぶい黄橙	7 5YR 7 / 6 橙	○	○			赤・白粒, 砂は少なめ	良	
	72	1673	G - 3		Ic 水迫?		口縁	ナデ, 列点3段(丸棒か?)	ナデ	ヘラ?押圧	10YR 7 / 4 にぶい黄橙	10YR 5 / 3 にぶい黄褐	○	○		○	赤・黒粒, 砂は普通	良	

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼 成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃	その他		
23	73	5617	E - 6		Ic 水迫	深鉢	口縁	貝殻条痕, ナデ, 貝 殻刺突(タテ)	ナデ	丸棒による 浅いキザミ	7 5YR 4/3 褐	7 5YR 3/2 黒褐	○	○			粒(白・赤), 礫 (安山岩)), 砂は普 通	良	
24	74	一括	D - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ナデ, ツメ? キザミ (ナナメ)	ケズリ後ナデ	指腹? 押圧	7 5YR 4/2 灰褐	7 5YR 6/6 橙	○	○			白・赤粒, 砂は少な い	良	
	75	4088	E - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ナデただしほとんど 剥離, ツメ? による 連続(ナナメ)刺突, 貝殻刺突による沈線 1条	ナデ	指頭? 押圧	10YR 3/2 黒褐	10YR 7/4 にぶい黄 橙	○	○			白・赤・黒粒, 砂は 少なめ	普通	
	76	7120	E - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ナデ(一部ハケ目状 条痕), 貝殻刺突によ る沈線1条	ナデ	指腹? 押圧	7 5YR 3/1 黒褐	7 5YR 5/4 にぶい 褐	○	○			赤・灰・黒粒, 砂は 少なめ	良	
	77	1367	D - 13	下	岩本		口縁	ナデ, 一部ハケ目状 条痕, 貝殻刺突, た だしつながって「線」 にならない(とびと び)	貝殻条痕	貝殻刺突 (ナナメ)	5 YR 6/6 橙	5 YR 5/6 明赤褐	○	○			白・黒粒, 灰・赤(砂 岩か)小礫, 砂はや や少なめ	良	
	78	1584	F - 3		岩本	円筒 ?	口縁	貝殻条痕後ナデ, ヘ ラ先? キザミによる 沈線1条	貝殻条痕後ナデ	ヘラ? 押圧	7 5YR 3/1 黒褐	7 5YR 5/3 にぶい 褐~ 4/2 灰褐	○	○			白粒, 砂は少ない	良	
	79	7802	E - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ナデ, 貝殻刺突によ る沈線1条	ナデ	貝殻(縁) 押圧	5 YR 3/1 黒褐	5 YR 5/4 にぶい赤 褐~ 4/2 灰褐	○	○			赤・灰・白粒, 砂は 少なめ	良	
	80	一括	E - 6		岩本		口縁	ナデ, 貝殻刺突によ る沈線3条	ナデ	ヘラ? 押圧	7 5YR 7/4 にぶい 橙	10YR 7/4 にぶい黄 橙	○	○			黒曜石少し, 白・黒・ 灰・小礫粒, 砂は少 ない	普通	粉っぽ い胎土
	81	7875	E - 6		岩本		口縁	ナデ(ヨコ), 貝殻刺 突による沈線3条	貝殻条痕(ミガキ)	ヘラ? 押圧	10YR 7/4 にぶい黄 橙~ 3/2 黒褐	10YR 7/3 にぶい黄 橙~ 4/2 灰黄褐	○	○			砂は少ない	やや 脆い	粉っぽ い胎土
	82	8145	E - 6		岩本	円筒	口縁	クシ目状条痕(タテ・ ヨコ・ナナメ), 貝殻 刺突による沈線3条	ケズリ後ナデ, 指押 さえ(やや浅い)	ヘラ? による 押さえ	10YR 6/4 にぶい黄 橙~ 3/1 黒褐	7 5YR 7/6 橙	○	○			黒粒, 砂は少ない	普通	や や 粉っぽ い胎土
	83	6000	F - 6		岩本	円筒	口縁	クシ目状条痕(タテ・ ヨコ・ナナメ), 貝殻 刺突による沈線3条	ケズリ, ナデ, 指押 さえ	ヘラ? 押圧	10YR 7/4 にぶい黄 橙	10YR 7/5 にぶい黄 橙	○	○			黒曜石少し, 黒・白 粒, 砂は少ない	やや 脆い	粉っぽ い胎土
	84	3881 一括	D - 5, D - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ(ハケ目状), 貝殻刺突による沈線 3条	ナデ	丸棒? 押圧	2 5Y 8/4 淡黄~ 5 /2 暗灰黄	7 5YR 7/6 橙	○	○	○		白・黒・赤粒, 砂は 少なめ	良	
	85	3868	F - 5		岩本	円筒 ?	口縁	クシ目状条痕(ヨコ), 貝殻刺突による沈線 4条	ケズリ後ナデ	ヘラ 押 圧 (ナナメ)	7 5YR 3/1 黒褐	10YR 4/2 灰黄褐	○	○			白・灰粒, 砂は少な い	良	
	86	1541	F - 3		岩本	円筒	口縁	ケズリ後ナデ, 一部 クシ目状条痕, 貝殻 刺突による沈線4条	ケズリ後ナデ, 指押 さえ	貝殻縁押圧	2 5Y 6/2 灰黄	2 5Y 5/2 暗灰黄	○	○			白(方解石? 粒が1 mm 大でやや大きい) ・灰粒, 砂は普通	良	
	87	4376	E - 6		岩本		口縁	ナデ, 貝殻刺突によ る沈線4条(一番下 はかすかに残る)	ナデ	丸棒? 押圧	5 YR 4/3 にぶい赤 褐~ 2/1 黒褐	7 5YR 7/6 橙	○	○			赤・灰・白・黒粒, 砂は少なめ	普通	
	88	5987	E - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ(ハケ目状条 痕), 貝殻刺突による 沈線5条	ナデ	丸棒? 押圧	7 5YR 4/2 灰褐	5 YR 5/6 明赤褐~ 3/2 暗赤褐	○	○			白・黒・赤粒, 砂は 少なめ	良	
25	89	7468	E - 10		岩本		口縁	ケズリ(ハケ目状条 痕), 貝殻刺突(押し 引きぎみ)	貝殻条痕	指腹押圧	7 5YR 6/6 橙~ 4 /3 褐	7 5YR 6/6 橙	○	○			白・黒・赤粒, 砂は やや少なめ	良	
	90		表		岩本	円筒	口縁	ハケ目状条痕, 貝殻 刺突	ハケ目状条痕	貝殻(縁) 押圧	7 5YR 6/4 にぶい 橙~ 10YR 6/4 にぶ い黄橙	7 5YR 6/4 にぶい 橙~ 10YR 6/4 にぶ い黄橙	○	○			黒粒, 砂は少なめ	良	
	91	8432	E - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻刺突	ケズリ, 貝殻条痕	貝殻縁キザ ミ(フラッ トに近い)	7 5YR 5/4 にぶい 褐~ 10YR 4/2 灰黄 褐	5 YR 6/8 橙~ 4/ 2 灰褐	○	○			黒曜石, 白・赤粒, 砂は少なめ	良	
	92	832	F - 9		岩本	円筒	口縁	ケズリ(ハケ目状条 痕), 貝殻刺突(ナナ メ)	ナデ	貝殻縁押圧	7 5YR 7/6 橙	10YR 6/4 にぶい黄 橙	○	○			白・灰・赤粒, 砂は 少ない	良	
	93	4435	E - 6		岩本	円筒 ?	口縁	貝殻条痕, ヘラ刺突	ケズリ, ナデ(かす かに貝殻条痕)	ヘラキザミ	10YR 7/4 にぶい黄 橙	10YR 5/3 にぶい黄 褐	○	○			白・黒(黒曜石)粒, 砂は少なめ	良	
	94	3973	E - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラ刺突	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	10YR 7/4 にぶい黄 橙	10YR 6/4 にぶい黄 橙	○	○			白・黒(黒曜石)粒, 砂は少なめ	普通	
	95	一括	D - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻押引(ナナメ)	ケズリ, 貝殻条痕	貝殻縁キザ ミ	7 5YR 6/6 橙	5 YR 6/6 橙	○	○			黒曜石, 白・赤・黒 粒, 砂は普通, 小礫 少し	良	
	96		表		岩本	円筒 ?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻刺突	ケズリ後ナデ	貝殻縁キザ ミ	5 YR 7/6 橙~ 7 5 YR 6/3 にぶい褐	5 YR 6/6 橙	○	○	○		赤・白・黒粒(軽石) 小礫1コ, 砂は少 なめ	良	
	97	2604	F - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ, ナデ(一部 貝殻条痕), 貝殻刺突 (ナナメ)	ケズリ, 貝殻条痕	丸棒押圧	5 YR 6/6 橙	5 YR 6/6 橙~ 4/ 2 灰褐	○	○			白・赤・黒粒, 砂は 少なめ, 小礫3コ	良	多孔質
98	882	G - 9	下	岩本	円筒	口縁	丁寧なナデ(ミガキ に近い), 貝殻押引 (ナナメ)	丁寧なナデ(ミガキ に近い)	ヘラキザミ	7 5YR 7/6 橙~ 4 /2 灰褐	7 5YR 7/6 橙	○	○			黒(黒曜石)・白(大 理石・軽石片)粒, 砂はやや少なめ	良		

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼 成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃	その他		
25	99	2987	D - 7		岩本	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻刺突 (ナナメ)	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	10YR 8 / 4 浅黄橙 - 1 7 / 1 黒	8 / 4 浅黄橙 - 7 / 4 にぶい黄橙	○	○			黒 (黒曜石)・白粒, 砂は少なめ	良	
	100	7909	F - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻刺突 (ナナメ)	ケズリ, 貝殻条痕, 一部ナデ	ヘラキザミ	10YR 6 / 4 にぶい黄 橙 - 4 / 3 にぶい黄 褐	7.5YR 7 / 6 橙	○	○			白・灰粒, 小礫 1 コ (軽石)	良	
	101	6179	E - 5		岩本	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻刺突 (ナナメ)	ケズリ, 貝殻条痕	ヘラキザミ	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙	○	○			黒粒 (牛鼻?), 白 粒 (軽石片), 砂は少 なめ	良	
	102	6174	E - 5		岩本	円筒 ?	口縁	ナデ, かなり風化し ている, 貝殻キザミ (ナナメ)	ナデ, かなり風化し ている	ヘラキザミ	5YR 7 / 8 橙 - 7.5 YR 4 / 2 灰褐	5YR 7 / 8 橙 - 4 / 2 灰褐	○	○			白・灰 (凝灰岩系)・ 黒 (光らない) 粒, 砂は少ない	脆 い	やや 粉っぱ い胎土
	103	6975	F - 6		岩本	円筒 ?	口縁	貝殻条痕, ナデ, 貝 殻刺突 (ナナメ)	ナデ	ヘラキザミ	10YR 4 / 2 灰黄褐 - 2 / 2 黒褐	7.5YR 4 / 2 灰褐 - 4 / 1 褐灰	○	○			黒 (黒曜石)・白 (軽 石) 粒, 小軽石 2 コ, 砂は少なめ	良	
	104	7414	F - 6	下	岩本	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻刺突 (ナナメ)	ケズリ, 貝殻条痕	ヘラキザミ	7.5YR 4 / 3 褐	5YR 6 / 6 橙 - 10Y R 7 / 6 明黄褐	○	○			黒 (黒曜石)・白粒, 砂は少なめ	良	
	105	2336	F - 6	下	岩本	円筒	口縁	ケズリ後ナデ (一部 貝殻条痕), 貝殻刺突 (ナナメ)	ケズリ後ナデ (一部 貝殻条痕)	細丸棒押圧	7.5YR 5 / 4 にぶい 褐 - 3 / 2 黒褐	5YR 6 / 6 橙	○	○			黒・灰・白 (軽石な ど) 粒, 小礫 (灰・ 白)	普通	
	106	8342	E - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ケズリ後ナデ, ナメ 短沈線連続	ケズリ後ナデ	細丸棒? 押 圧	7.5YR 7 / 6 橙	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙	○	○			白・赤・黒粒, 砂は 少なめ	普通	
	107	7709	F - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ナデ, 一部貝殻条痕 (風化しつつあり), 貝殻キザミ (ナナメ 押し引きぎみ)	ナデ	ヘラキザミ	5YR 6 / 6 橙 - 10Y R 4 / 3 にぶい黄褐	5YR 7 / 6 橙 - 10Y R 4 / 2 灰黄褐	○	○			赤粒, 砂は少ない	普通	
	108	199	G - 10		岩本	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻刺突 (ナナメ)	ケズリ, 貝殻条痕	貝殻縁押圧	2.5Y 7 / 4 浅黄	10YR 8 / 4 浅黄橙	○	○			赤・白・灰・黒粒, 角礫 (凝灰岩) 3 コ, 砂は少なめ	良	
	109	8175	E - 6		岩本	円筒	口縁	貝殻条痕, 貝殻刺突 (ナナメ)	ケズリ後ナデ (一部 かすかに貝殻条痕)	細丸棒? キ ザミ	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙 - 4 / 2 灰黄褐	5YR 7 / 8 橙 - 10Y R 5 / 3 にぶい黄褐	○	○			黒 (黒曜石)・白粒, 砂は少なめ	やや 脆い	
	110	8258	E - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻刺突 (ナナメ)	ナデ	ヘラキザミ	10YR 5 / 3 にぶい黄 褐	7.5YR 5 / 4 にぶい 褐	○	○			白 (軽石)・黒粒, 砂 は少なめ	良	
	111	6912	E - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ハケ目状条痕 (風化 が進んでいる), 貝殻 刺突	ハケ目状条痕	ヘラキザミ	10YR 6 / 4 にぶい黄 橙	7.5YR 6 / 4 にぶい 橙 - 1 7 / 1 黒	○	○			白粒, 砂少ない	やや 脆い	粉っぱ い胎土
	112	2866	G - 8		岩本	円筒 ?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻押し	ナデ	ヘラキザミ	7.5YR 6 / 6 橙 - 3 / 1 黒褐	7.5YR 6 / 4 にぶい 橙	○	○			黒 (黒曜石)・白粒, 砂は少なめ	良	
	113	332	G - 9	下	岩本	円筒	口縁	ケズリ (貝殻条痕), ヘラキザミ (ほぼ垂 直)	貝殻条痕, 上部のみ ナデ	ヘラキザミ	2.5YR 5 / 6 明赤褐 - 4 / 6 赤褐	2.5YR 4 / 6 赤褐	○	○			赤・白 (大理石)・灰 (大理石)・黒 (黒曜 石) 粒, 角礫 3 コ, 砂は少なめ	良	
	114	3000	D - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ケズリ (貝殻条痕), 貝殻キザミ	ケズリ (貝殻条痕)	小丸棒押圧 (キザミ)	2.5YR 5 / 6 明赤褐 - 4 / 3 にぶい赤褐	2.5YR 5 / 6 明赤褐, 顔料 (7.5R 4 / 6 赤)	○	○		○	白 (軽石系)・黒・赤 粒, 凝灰岩?, 砂 はやや少なめ	良	
	115	3855	E - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, ヘラキザミ (ほぼ垂 直)	ナデ (一部貝殻条痕)	ヘラキザミ	5YR 4 / 4 にぶい赤 褐 - 3 / 4 暗赤褐	5YR 4 / 3 にぶい赤 褐	○	○	○		赤・白粒, 小礫赤, 砂は少なめ	良	
	116	表	E - 6		岩本	円筒 (口縁 近く)	口縁	ケズリ (貝殻条痕)	ケズリ (貝殻条痕)	貝殻条痕	7.5YR 5 / 4 にぶい 褐 - 3 / 1 黒褐	5YR 5 / 6 明赤褐 - 4 / 4 にぶい赤褐, 顔 料 (10YR 4 / 8 赤)	○	○			白・黒粒, 砂はやや 少ない	良	内面に 赤色顔 料付着
	117	1945 2196	F - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻キザミ (やや雑)	ケズリ, 貝殻条痕	ツメキザミ	5YR 6 / 6 橙	5YR 5 / 6 明赤褐	○	○			赤・白・黒粒, 赤化し た小礫 4 コ, 灰色小礫 1 コ, 砂は少なめ	良	
	118	5057	E - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ケズリ (貝殻条痕), ヘラキザミ (垂直)	ハケ目状条痕, 上部 のみナデ	ヘラキザミ	2.5YR 5 / 8 明赤褐 - 4 / 4 にぶい赤褐	2.5YR 5 / 8 明赤褐 - 3 / 1 暗赤灰	○	○			赤・白・灰・黒粒, 砂岩礫 1 コ, 砂は少 なめ	良	
	119	2000	F - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ (貝殻条痕) 後ナデ, ヘラキザミ	ケズリ (貝殻条痕) 後ナデ	ヘラキザミ	7.5YR 7 / 4 にぶい 橙 - 5 / 3 にぶい褐	7.5YR 7 / 6 - 6 / 6 橙, 顔料 (10YR 4 / 6 赤)	○	○			白 (大理石系)・黒粒, 砂は少ない	良	口縁内 面に赤 色顔料 付着
26	120	一括	D - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ナデ (かすかな貝殻 条痕), 貝殻キザミ	ケズリ (貝殻条痕) 後ナデ	貝殻キザミ	7.5YR 7 / 4 にぶい 橙 - 6 / 4 にぶい橙	7.5YR 7 / 4 にぶい 橙 - 4 / 2 灰褐	○	○			赤・白・黒粒, 砂少 ない	良	ちよつ と須恵 器っぱ い胎土
	121	3922	E - 6		岩本	鉢? 円筒 ?	口縁	ナデ, 貝殻押し	ケズリ後ナデ (かす かに条痕)	ヘラキザミ	5YR 7 / 4 にぶい橙 - 6 / 3 にぶい橙	5YR 7 / 6 橙	○	○			白・赤粒, 白 (軽石・ タンバク石?) 小礫, 砂少ない	良	
	122	8073	E - 6		岩本 or 石坂 ?	円筒 ?	口縁	貝殻キザミ (押し引 きぎみ)	ナデ	貝殻キザミ	7.5YR 6 / 6 橙	5YR 6 / 6 橙 - 7.5 YR 6 / 4 にぶい橙	○	○			黒曜石, 白 (軽石系)・ 黒 (光らない) 粒, 小礫 (黒・灰・白・ 軽石) 3 コ, 砂はや や少なめ	良	
	123	5555	E - 6		岩本	円筒 ?	口縁	ケズリ後ナデ, 貝殻 キザミ (ナナメ)	ケズリ後ナデ	貝殻キザミ (ナナメ)	5YR 5 / 6 明赤褐	5YR 6 / 6 橙	○	○			白 (タンバク石系)・ 黒 (光らない)・赤粒 砂は普通	やや 脆い	

挿入 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土				焼 成	備 考	
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃			その他
26	124	7695 740 2281 7987 9767 4625 7717 2253 2267 5532 2250	F - 6 E - 6 G - 5		岩本	円筒	口縁 ～ 胴	ケズリ、ハケ目状条 痕	ケズリ、貝殻条痕	貝殻キザミ	2 5YR 6 / 6 橙～ 5 YR 3 / 1 黒褐	2 5YR 6 / 6 橙	○	○			小礫（白・黒）	良	準完形 125と 同一個 体？
	125	7119 6148 6988 980	E - 6 F - 6 F - 10 G - 9	下	岩本	円筒	底部	ケズリ、ハケ目状条 痕	ケズリ、一部貝殻条 痕		2 5YR 6 / 6 橙～ 5 YR 6 / 4 にぶい橙	2 5YR 5 / 6 明黄褐 ～ 2 5YR 赤黒	○	○			小礫（白・黒）	良	124と 同一個 体？
	126	3582	F - 6	下	岩本	円筒	口縁	ケズリ、貝殻条痕、 貝殻刺突	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙	10YR 6 / 4 にぶい黄 橙～ 4 / 2 灰黄褐	○	○			白粒、砂は少なめ	良	
	127	3225	E - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	2 5YR 6 / 8 橙～ 5 YR 4 / 2 灰褐	5 YR 6 / 6 橙	○	○		○	白・赤・灰・黒粒、 赤・灰（凝灰岩系） 小礫、砂少ない	良	
	128	900	G - 9	下	岩本	円筒	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ	ケズリ（貝殻条痕）	ヘラキザミ	7 5YR 7 / 6 橙～ 4 / 1 褐灰	2 5YR 6 / 8 橙～ 5 / 1 赤灰	○	○			黒曜石、白・灰・黒 粒、砂やや少なめ	良	
	129	200	G - 10		岩本	円筒	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ（ややナ メ）	ケズリ（貝殻条痕）	ヘラキザミ	10YR 8 / 6 黄橙～ 6 / 2 灰黄褐	7 5YR 7 / 6 橙	○	○		○	白（凝灰岩系・大理 石系）・黒・赤粒、小 礫（凝灰岩）2 コ、 砂やや少なめ	良	
	130	7938 7698 8404	F - 6 E - 6		岩本	円筒	口縁 ～ 胴	ケズリ、貝殻条痕（ヨ コ浅い）、貝殻キザミ	ケズリ後ナデ（かす かにハケ目）	ヘラキザミ	7 5YR 7 / 4 にぶい 橙～ 4 / 2 灰褐	7 5YR 7 / 6 橙～ 2 / 2 黒褐	○	○			白（軽石、凝灰岩系） ・黒・赤・灰（凝灰岩 系）粒、礫2 コ（砂 岩丸石）、砂は普通	普通	
	131	1775	G - 5		岩本	鉢？	口縁	ケズリ後ナデ（一部 貝殻条痕）、貝殻キザ ミ（ナメ）	ケズリ後ナデ（一部 貝殻条痕）	小丸棒押圧 （キザミ）	7 5YR 7 / 4 にぶい 橙	7 5YR 7 / 4 にぶい 橙	○	○			白・黒粒、砂は少な い	普通	やや 粉っぽ い胎土
	132	6854	E - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ（逆くの 字）	ケズリ（貝殻条痕）、 一部ナデ	貝殻キザミ （逆くの字）	10YR にぶい黄橙～ 4 / 2 灰黄褐	7 5YR 7 / 6 橙～ 10 YR 4 / 2 灰黄褐	○	○		○	白・黒粒、砂はやや 少なめ	良	
	133	1646	F - 3		岩本	円筒 ？	口縁	ケズリ、貝殻キザミ	ケズリ後ナデ	貝殻キザミ	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙～ 3 / 2 黒褐	10YR 6 / 4 にぶい黄 橙	○	○			白粒、砂少ない	良	
27	134	3869	F - 5		岩本	円筒	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ	ケズリ（貝殻条痕）	貝殻キザミ	2 5YR 6 / 8 橙～ 5 YR 4 / 1 褐灰	7 5YR 7 / 6 橙～ 5 / 2 灰褐	○	○			白・赤・黒粒、赤・ 灰小礫、砂少ない	良	
	135	6477	E - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ、貝殻条痕（や やナメ少し粒い）、 ヘラキザミ（ナメ）	ケズリ、貝殻条痕（ナ メ少し粒い）	ヘラキザミ	2 5YR 5 / 8 明赤褐 ～ 7 5YR 5 / 4 にぶ い褐	7 5YR 6 / 6 橙	○	○			赤・白・黒粒、砂は 少なめ	良	
	136	一括	D - 6	a	岩本	円筒 ？	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 ナデ、貝殻刺突（ナ メ）	ケズリ（貝殻条痕）、 ナデ	丸棒押圧	10YR 6 / 3 にぶい黄 橙	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙	○	○			白（大理石系）粒、 砂少なめ	良	
	137	3910	E - 6		岩本	円筒 ？	口縁	ケズリ後ナデ（かす かに貝殻条痕）、貝殻 キザミ（ナメ）	ケズリ後ナデ	貝殻キザミ （ナメ）	5 YR 5 / 4 にぶい赤 褐	5 YR 6 / 6 橙	○	○			白・黒粒、砂は少な め	良	
	138	172	G - 9		岩本	円筒	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 やや粘り、ヘラキザ ミ（ナメ）	ケズリ（貝殻条痕）、 やや粘り	ヘラキザミ	10YR 6 / 4 にぶい黄 橙～ 5 / 3 にぶい黄 褐	7 5YR 6 / 4 にぶい 橙	○	○			赤・白（大理石）・灰 （大理石）・黒粒、角 礫3 コ、砂は少なめ	良	
	139	一括	D - 6	下	岩本	円筒	口縁	ケズリ、貝殻条痕、 ナデ、貝殻キザミ（押 し引きぎみ）	ケズリ、貝殻条痕、 ナデ	丸棒押圧	5 YR 5 / 4 にぶい赤 褐～ 2 / 2 黒褐	5 YR 5 / 6 明赤褐～ 4 / 2 灰褐	○	○			金雲母、白（タンバ ク石）粒、砂少なめ	良	
	140	一括	D - 6		岩本	円筒	口縁	ナデ（貝殻条痕かす か）、貝殻刺突、キザ ミ	ナデ（貝殻条痕かす か）	貝殻刺突、 キザミ	7 5YR 5 / 4 黒褐	7 5YR 5 / 4 にぶい 褐	○	○		○	白（大理石系）・灰粒 小礫（砂岩）、砂やや 少なめ	普通	
	141	889	G - 9				口縁	ケズリのちナデ（か すかに貝殻条痕）、貝 殻キザミ（斜め、レー ス状）	ナデ（残っている分 だけ）	貝殻キザミ	7 5YR 5 / 4 にぶい 褐	5 YR 6 / 6 橙	○	○		○	白（軽石系）・黒（黒 曜石）・赤粒、砂は少 なめ	良	
	142	4219	E - 6		岩本	円筒 ？	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ（レース 状）	ナデ（風化が激しい）	貝殻キザミ	10YR 8 / 4 浅黄橙～ 5 / 1 褐灰	7 5YR 8 / 4 浅黄橙	○	○			赤・黒・白粒、砂は 少ない	良	
	143	2956	E - 6		岩本	円筒 ？	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ（レース 状）	ケズリ後ナデ	貝殻キザミ	10YR 8 / 6 黄橙～ 6 / 2 灰黄褐	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙	○	○		○	赤・白・黒粒、砂は 少ない	普通	やや 粉っぽ い胎土
144	一括	E - 6	混合	岩本	円筒 ？	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ（レース 状）	ハガレで不明	貝殻キザミ	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙～ 5 / 2 灰黄褐	ハガレで不明	○	○			黒粒、砂は大変少な い	良	やや 粉っぽ い	
145	1657	F - 3		岩本	円筒	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ（ほぼ レース状）	ケズリ（貝殻条痕）、 上部のみナデ	貝殻キザミ （ほぼレー ス状）	10YR 8 / 4 浅黄橙～ 5 / 2 灰黄褐	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙	○	○		○	白（大理石系）・黒粒 砂やや少なめ	普通	やや 粉っぽ い胎土	
146	6749 6946	E - 6 F - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ（レース 状に近づく）	ケズリ（貝殻条痕） 後ナデ	貝殻キザミ （レース状 に近づく）	7 5YR 4 / 3 褐～ 2 / 2 黒褐	7 5YR 5 / 4 にぶい 褐～ 2 / 2 黒褐	○	○			黒曜石、白・灰粒、 灰（凝灰岩系）小礫、 砂やや少ない	良		
28	147	4102 4606	E - 6 F - 6		岩本	円筒 ？	口縁	ケズリ（貝殻条痕）、 貝殻キザミ	ケズリ（貝殻条痕）、 ナデあり	貝殻キザミ	10YR 5 / 2～ 4 / 2 灰黄褐	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙～ 4 / 1 褐灰	○	○			白粒（大理石系と軽 石等）・灰・黒粒、砂 はやや少なめ	良	

挿入 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土				焼 成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃		
28	148	6178	E - 5		岩本	円筒	口縁	ケズリ(貝殻条痕ヨコ・ナナメ), 貝殻キザミ(逆くの字)	ケズリ(貝殻条痕ヨコ・ナナメ)	貝殻キザミ(逆くの字)	7.5YR 6 / 6 橙 ~ 5 / 3 にぶい褐	5 YR 6 / 6 橙 ~ 4 / 1 褐灰	○	○		白・黒粒, 砂は少なめ	良	
	149	1570	F - 3		岩本	円筒	口縁	ケズリ(貝殻条痕), 貝殻キザミ(逆くの字)	ケズリのち上部のみナデ(ミガキ?), 沈線? 1条	貝殻キザミ(逆くの字)	5 YR 7 / 6 橙 ~ 3 / 2 暗赤褐	7.5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 4 / 2 灰褐	○	○	○	白・黒・明灰(凝灰岩系)・粒(凝灰岩系)明灰小礫, 砂はやや少なめ	良	
	150	878	G - 9		岩本		口縁	ナデ, 一部貝殻条痕, ツメキザミ(細かい)	ケズリ, 貝殻条痕(やや粗っぽい後ナデ)	ヘラキザミ	7.5YR 4 / 2 灰褐	5 YR 6 / 6 橙	○	○	○	赤・白・黒粒, 赤(砂岩系)・白礫, 砂は少なめ	良	口唇内側に赤色顔料
	151	7777	F - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ(貝殻条痕), 貝殻キザミ(逆くの字に近い)	ケズリ(貝殻条痕)後ナデ	ヘラキザミ	10YR 4 / 3 にぶい黄褐 ~ 2 / 2 黒褐	2.5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 4 / 4 にぶい赤褐	○	○		黒曜石(光る), 赤・白・黒粒, 砂は少ない	良	外表面はほとんどハゲている
	152	表			岩本	円筒	口縁	ケズリ後丁寧なナデ(かすかに条痕), ツメキザミ(やや雑)	ケズリ後丁寧なナデ(かすかに条痕)	ヘラキザミ	7.5YR 3 / 3 暗褐	7.5YR 6 / 3 にぶい褐	○	○		白・黒(黒曜石)・灰・赤粒, 小礫(赤化砂岩)4 ~ 6 コ, 砂はやや少なめ	良	
	153	7682	F - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ, ハケ目状条痕, ナデ, ヘラキザミ(ナナメ)	ケズリ, ハケ目状条痕, ナデ	ヘラキザミ	7.5YR 4 / 3 褐 ~ 3 / 2 黒褐	7.5YR 4 / 2 灰褐	○	○		白(凝灰岩系)・粒, 砂はやや少なめ	普通	
	154	一括	D - 6		岩本?	円筒?	口縁	ケズリ後ナデ(一部条痕), ヘラキザミ(逆くの字)	ナデ	ヘラキザミ(逆くの字)	5 YR 2 / 1 黒褐	5 YR 2 / 2 黒褐	○	○		白(大理石系)・粒, 砂はやや少なめ	普通	
	155	6373 1579	E - 6 F - 3	下	岩本		口縁	ケズリ(ハケ目と貝殻状条痕), 貝殻キザミ(逆くの字)	ケズリ(貝殻条痕), 上部ナデ	貝殻縁キザミ	10YR 7 / 6 明黄褐 ~ 1.7 / 1 黒	10YR 8 / 6 黄橙 ~ 1.7 / 1 黒	○	○		黒・白・赤粒, 小礫(軽石)3 コ, 砂は少なめ	良	¹⁴ C定9600 ±50内外に炭化物多量付着
	156	8218	F - 6		岩本	円筒	口縁	ケズリ, ナデ, 貝殻条痕(ナナメ), ツメ? キザミ(逆くの字)	ケズリ, ナデ, 貝殻条痕(ナナメ)	ヘラキザミ	7.5YR 5 / 3 にぶい褐	10YR 7 / 6 明黄褐	○	○		白・黒・赤粒, 小礫(凝灰岩系・砂岩)3点, 砂は普通	良	
	157	6728	E - 6		岩本		口縁	貝殻条痕	ナデ		7.5YR 3 / 2 ~ 3 / 1 黒褐	7.5YR 4 / 3 褐 ~ 3 / 1 黒褐	○	○		白(軽石系)・粒, 砂はやや少なめ	良	
29	158	一括	H - 8		? 岩本	円筒	胴	貝殻条痕	ケズリ後ナデ(一部貝殻条痕が残る)		7.5YR 7 / 6 橙 ~ 5 / 3 にぶい褐	10YR 5 / 2 灰黄褐	○	○		白(軽石, 凝灰岩系)・赤・黒(光らない)・粒, 灰(凝灰岩系)・礫, 礫があるが砂は少なめ	良	
	159	6550 7057 7357	E - 10 E - 11			円筒	口縁	ケズリ(ハケ目状), 貝殻キザミ(ナナメ)	ケズリ後ナデ	貝殻キザミ(ナナメ)	10YR 7 / 4 にぶい黄橙 ~ 4 / 1 褐灰	7.5YR 6 / 4 にぶい橙	○	○		黒曜石(光る), 白(大理石系)・黒(光らない)・赤粒, 砂は普通	普通	
	160	8210 8415	E - 6 F - 6			円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, ヘラキザミ	ケズリ, 上部のみナデ	ヘラキザミ	7.5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 3 / 1 黒褐	7.5YR 6 / 6 橙 ~ 10 YR 5 / 2 にぶい灰黄褐	○	○		白(軽石系)・灰粒, 砂はやや少なめ	良	
	161	7625	F - 6			円筒	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラキザミ	ケズリ, 上部のみ指押さえ	ヘラキザミ	10YR 6 / 4 にぶい黄橙 ~ 4 / 2 灰黄褐	7.5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 3 / 1 黒褐	○	○		白・赤・灰(凝灰岩系)・粒, 砂は普通	良	
	162	一括	D - 6			円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕), 貝殻キザミ	ケズリ(貝殻条痕), 上部のみナデ	丸棒キザミ	10YR 4 / 3 にぶい黄褐 ~ 3 / 2 黒褐	5 / 3 にぶい黄褐 ~ 4 / 2 灰黄褐	○	○		黄銅礫? 赤1コ・灰(凝灰岩系)・粒, 砂は普通	良	
	163	8116	F - 6			円筒	口縁	ケズリ後ナデ, かすかに条痕, ヘラキザミ(ナナメ)	ケズリ後ナデ, かすかに条痕	ヘラキザミ	2.5YR 6 / 3 にぶい黄 ~ 3 / 1 黒褐	2.5YR 7 / 4 浅黄 ~ 5 / 2 暗灰黄	○	○		白・灰(小さく少ない, 大理石系)・粒, 砂は少なめ	良	
	164	4558	E - 6			円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕, はっきり), ヘラキザミ(逆くの字風)	ケズリ(風化している)	ヘラキザミ(逆くの字風)	5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 3 / 2 明赤褐	5 YR 6 / 6 橙	○	○	○	白(珊瑚?系)・黒粒・軽石(小礫1コ), 粉っぽい胎土, 砂は普通	やや脆い	表面特に内面の風化が進んでいる
	165	4374	E - 6			円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラキザミ(ナナメ)	ケズリ(貝殻条痕)後ナデ	ヘラキザミ(ナナメ)	5 YR 3 / 1 黒褐	5 YR 6 / 6 橙 ~ 5 / 4 にぶい赤褐	○	○	○	白・黒・灰(凝灰岩系)・粒, 小礫1コ, 砂は普通	良	
	166	7257	E - 6			円筒	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラキザミ	かすかに貝殻条痕	ヘラキザミ	10YR 4 / 2 にぶい灰黄褐 ~ 3 / 2 黒褐	7.5YR 7 / 6 橙	○	○		黒曜石, 白灰(凝灰岩系)・粒, 砂はやや多い	普通	
	167	一括	D - 6	a		円筒	口縁	ナデ(風化が進んでいる), 貝殻キザミ(タテ長・ナナメ)	ナデ	ヘラキザミ	7.5YR 7 / 4 にぶい橙 ~ 5 / 2 灰褐	7.5YR 7 / 6 橙	○	○		黒曜石・白(凝灰岩系)・赤・灰(凝灰岩系)・黒(光らないものも多い)・粒, 砂はやや多い	やや脆い	
168	8443	E - 6			円筒?	口縁	ナデ, 一部貝殻条痕, 貝殻キザミ	ナデ	ヘラキザミ	5 YR 6 / 6 橙	5 YR 4 / 2 灰褐	○	○		赤・白・灰(軽石系)・粒, 砂は少ない	普通	やや粉っぽい胎土	
169	6845	E - 6			円筒?	口縁	ナデ(かすかに貝殻条痕), 小丸棒キザミ(くさび状)	ケズリ(貝殻条痕)後ナデ(上部のみ), 小丸棒キザミ(くさび状)	小丸棒キザミ	5 YR 4 / 3 にぶい赤褐	7.5YR 7 / 6 橙 ~ 6 / 4 にぶい橙	○	○		黒曜石, 白・赤・灰粒, 灰(凝灰岩系)・礫, 砂は普通	やや脆い	粉っぽく, 角がすれていく感じの胎土	
170	一括	D - 6			円筒	口縁	ケズリ, はっきりした貝殻条痕, ヘラキザミ(ナナメ)	ケズリ後ナデ, かすかに貝殻条痕	ヘラキザミ(ナナメ)	7.5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 4 / 2 灰褐	7.5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 5 / 2 灰褐	○	○	○	黒曜石・白(軽石系)・灰・黒(光らない)・赤粒, 灰(凝灰岩系)・礫, 砂は普通	良		

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石英	長石	雲母	角閃	その他		
29	171	7563	E - 6			円筒	口縁	ヘラキザミ, 表はハガレ	ナデ(貝殻条痕がすかに残る)	ヘラキザミ	10YR 8 / 4 浅黄褐 ~ 3 / 1 黒褐	10YR 8 / 4 浅黄褐 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			黒曜石(光る), 白・灰(砂岩系 1 コ) 粒, 砂はやや少なめ	普通 ~ 良	
	172	1815	G - 5			円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻キザミ(ナナメ), 表面が数ヶ所でハガレしている	ケズリ, 口縁上部のみナデ, 貝殻キザミ(ナナメ)	小丸棒キザミ	2 5YR 4 / 6 赤褐 ~ 3 / 4 暗赤褐	2 5YR 4 / 6 赤褐 ~ 7 5YR 5 / 4 にぶい褐	○	○			赤・白(大理石系) 粒, 白・灰礫, 砂はやや多い	固いが脆い	139・141と同一個体?
	173	1772	F - 3			円筒	口縁	ケズリ(貝殻条痕), 貝殻キザミ	ケズリ(貝殻条痕, 上部のみナデ)	貝殻キザミ	7 5YR 7 / 6 橙 ~ 4 / 1 褐灰	7 5YR 7 / 3 にぶい橙 ~ 2 / 1 黒	○	○			白(大理石? 珊瑚? 系)・黒(光らない)・赤・灰(凝灰岩系) 粒, 砂は普通	良	
	174	1024	D - 12			円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラキザミ	ケズリ(貝殻条痕) 後ナデ	ヘラキザミ	5 YR 6 / 6 橙 ~ 4 / 1 褐灰	10YR 6 / 3 にぶい黄褐 ~ 4 / 2 灰黄褐	○	○			白(珊瑚? 系) 灰(凝灰岩系) 粒, 赤小礫 1 コ, 砂岩, 砂は少なめ	良	
	175	1814	G - 5			円筒	口縁	ケズリ, はっきりした貝殻条痕, 貝殻キザミ(ナナメ), 表面が数ヶ所でハガレしている	ケズリ, 口縁上部のみナデ, 貝殻キザミ(ナナメ)	小丸棒キザミ	2 5YR 4 / 6 赤褐 ~ 2 / 1 赤黒	2 5YR 3 / 6 暗赤褐 ~ 5 YR 4 / 4 にぶい赤褐	○	○			赤・白(軽石系) 粒, 小礫(灰), 砂はやや多い	固いが脆い	140・141と同一個体?
	176	6444	E - 6			円筒?	口縁	ケズリ後ナデ(一部貝殻条痕), ヘラキザミ	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	5 YR 7 / 8 橙 ~ 4 / 3 にぶい赤褐	5 YR 6 / 6 橙	○	○			白(珊瑚? 系)・黒(光らない) 粒, 砂は普通	良	
	177	7191	F - 6			円筒?	口縁	ケズリ後ナデ(かすかに条痕), 貝殻キザミ	ケズリ後ナデ(かすかに条痕)	貝殻キザミ	10YR 3 / 1 黒褐 ~ 2 / 1 黒	10YR 6 / 2 灰黄褐 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			黒曜石, 砂は多め	やや脆い	
	178	4411	E - 6			円筒平底	底部	ケズリ, 目の細かい条痕	ナデ		10R 4 / 6 赤 ~ 2 / 2 極暗赤褐	10R 3 / 4 暗赤	○	○			赤・白(大理石系) 粒, 灰(凝灰岩系) 礫, 砂はやや多い	固いが脆い	139・140と同一個体?
	179	4620	F - 6			円筒	口縁	ケズリ後ナデ(所々貝殻条痕), ヘラキザミ	ケズリ後ナデ(所々貝殻条痕, 上部のみナデ)	ヘラキザミ	10YR 6 / 2 灰黄褐 ~ 2 / 1 黒	7 5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 3 / 2 黒褐	○	○			白(大理石系)・黒・赤・灰(凝灰岩系) 粒, 小礫, 砂はやや少なめ	良	
	180	7166	E - 6			円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, 貝殻キザミ	ケズリ, 貝殻条痕, 上部のみ後ナデ	貝殻キザミ	7 5YR 5 / 4 にぶい褐 ~ 2 / 2 黒褐	5 YR 6 / 6 橙 ~ 2 / 2 黒褐	○	○			白(大理石系)・黒(黒曜石)・赤粒, 小礫所々白(凝灰岩系)・赤, 砂は普通かやや多め	良	
	181	8409	E - 6			円筒	口縁	ケズリ後ナデ(かすかに条痕), 貝殻キザミ	ケズリ後ナデ(かすかに条痕)	貝殻キザミ	5 YR 6 / 6 橙 ~ 7 5YR 3 / 2 黒褐	7 5YR 7 / 4 にぶい橙 ~ 10YR 7 / 3 にぶい黄橙	○	○			白(大理石系) 粒, 礫 1 コ, 砂岩, 砂はやや多め	良	
	182	一括	D - 6	下			口縁	ケズリ後ナデ(かすかに条痕), 貝殻キザミ(ナナメそろえている, 逆くの字, レース状)	ケズリ後ナデ(かすかに貝殻条痕)	貝殻キザミ	2 5Y 8 / 3 淡黄	2 5Y 8 / 4 淡黄	○	○			白・黒・灰粒, 砂は少なめ	普通	
	183	8235	F - 6			円筒	口縁	ケズリ後ナデ(かすかに条痕), ヘラキザミ(そろえている, 逆くの字)	ケズリ後ナデ(かすかに条痕)	ヘラキザミ	7 5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 5 / 3 にぶい褐	7 5YR 7 / 3 にぶい褐 ~ 6 / 3 にぶい褐	○	○			白・灰粒, 白礫 1 コ(凝灰岩系), 砂は普通	普通	
30	184	150	G - 9			円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラキザミ(そろっている, 逆くの字)	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	2 5YR 4 / 2 灰赤 ~ 4 / 3 にぶい赤褐	2 5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 5 / 4 にぶい赤褐	○	○		○	白・黒(光らない) 粒, 赤小礫 1 コ, 砂はやや少なめ	良	163に似ている
	185	888	G - 9			円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラキザミ(途中で変わる, 逆くの字)	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	5 YR 6 / 6 橙 ~ 5 / 3 にぶい赤褐	2 5YR 6 / 6 橙	○	○		○	白・黒粒, 砂はやや少なめ	良	164に似ている
	186	3892	D - 5			円筒?	口縁	ナデ, ヘラキザミ(そろっていない, 逆くの字)	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	5 YR 6 / 6 橙 ~ 5 / 6 明赤褐	2 5YR 6 / 6 橙 ~ 5 / 6 明赤褐	○	○		○	白・灰(軽石, 凝灰岩系)・黒粒, 砂はやや少なめ	普通	
	187	8274	F - 6			円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕), 貝殻キザミ(細かい, 逆くの字)	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	2 5YR 6 / 6 橙 ~ 7 5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 2 / 1 黒	7 5YR 5 / 3 にぶい褐 ~ 4 / 1 褐灰	○	○			白・赤粒, 砂はやや少なめ	良	
	188	7148	E - 6			円筒?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕, ヘラキザミ(そろっている, 逆くの字)	ケズリ, 貝殻条痕	ヘラキザミ	7 5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 2 / 2 黒褐	10YR 5 / 3 にぶい黄褐 ~ 1 7 / 1 黒	○	○			白(凝灰岩系) 粒, 砂はやや少なめ	良	
	189	一括	D - 6			円筒	口縁	ケズリ(浅く細かい貝殻条痕), ヘラキザミ(そろっている, 逆くの字)	ケズリ(貝殻条痕, 上部のみ後ナデ)	ヘラキザミ	10YR 4 / 2 灰黄褐 ~ 3 / 1 黒褐	7 5YR 7 / 6 橙 ~ 4 / 2 灰褐	○	○			白(軽石系) 粒, 砂はやや少なめ	良	
	190	1852	G - 5			円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラキザミ(そろっている)	ケズリ(貝殻条痕, 上部のみ後ナデ)	ヘラキザミ	10YR 8 / 4 浅黄褐 ~ 5 / 2 灰黄褐	7 5YR 7 / 6 橙 ~ 7 / 4 にぶい橙	○	○			白・黒粒, 白(凝灰岩系) 灰(砂岩系) 小礫, 砂は普通	普通	169と同一個体?
	191	7643	F - 6			円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラキザミ()) そろっている, 逆くの字)	ケズリ(貝殻条痕) 後ナデ	ヘラキザミ()) そろっている, 逆くの字)	7 5YR 8 / 4 浅黄褐 ~ 5 / 2 灰褐	5 YR 6 / 6 橙 ~ 7 5YR 6 / 4 にぶい橙	○	○			白(凝灰岩系)・黒(光らない) 粒, 小礫(白) 所々にあり, 砂はやや多い	普通	168と同一個体?
	192	一括	E - 6	混			口縁	かすかに条痕, 貝殻キザミ	ナデ	貝殻キザミ	7 5YR 7 / 6 橙 ~ 7 / 4 にぶい橙	7 5YR 7 / 6 橙	○	○			白・赤・黒(光らない) 粒, 小礫(白(凝灰岩系)・赤・黒), 砂は普通	普通	内外とも風化が進んでいる
	193	一括	E - 6			円筒?	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラキザミ(くさび形文字みたい, 逆くの字に近い)	ケズリ(貝殻条痕) 後さらっとナデ	くさび形文字みたい, 逆くの字に近い	7 5YR 5 / 4 にぶい褐 ~ 3 / 2 黒褐	10YR 6 / 4 にぶい黄橙 ~ 5 / 3 にぶい黄褐	○	○			白・灰(凝灰岩系, やや粒が大きい) 粒, 砂は少ない	良	

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼 成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 灰	長 石	雲 母	角 閃	その他		
30	194	6455	E - 6			円筒	口縁	ケズリ(貝殻条痕), ヘラキザミ()) 所 ろっている, 逆くの 字)	ケズリ(貝殻条痕) はっきりしている	ヘラキザミ ()) 所 ろっている, 逆 く(の字)	5 YR 7 / 8 橙 ~ 2 / 2 黒褐	5 YR 6 / 6 橙 ~ 10Y R 4 / 2 灰黄褐	○	○			白(軽石系)粒,赤(1 コ)小礫,砂はやや 少なめ	良	
	195	6123	F - 6			円筒 ?	口縁	貝殻条痕(極浅い), ヘラキザミ	ケズリ(粗い,上部 のみ後ナデ)	ヘラキザミ	7.5 YR 7 / 6 橙 ~ 5 / 3 にぶい褐	2.5 YR 5 / 8 明赤褐 ~ 7.5 YR 7 / 6 橙	○	○			黒(黒曜石,あまり 光らない)・赤・白 (凝灰岩系)粒,砂 は普通	やや 脆い	
	196	1077	D - 12			円筒	口縁	ケズリ(貝殻条痕, 割とはっきりした), ヘラキザミ	ケズリ(貝殻条痕, 割とはっきりした) 上部のみ後ナデ	ヘラキザミ	5 YR 7 / 8 橙 ~ 6 / 6 橙	5 YR 6 / 6 橙	○	○		○	白(珊瑚?系)・赤・ 黒粒,小礫(黒),砂 はやや少なめ	普通 やや や良	や や 粉 っ ば い 胎 土
	197	一括	D - 7	下		円筒 ?	口縁	ケズリ(はっきりし た深い貝殻条痕),ヘ ラキザミ	ケズリ(はっきりし た深い貝殻条痕)	ヘラキザミ	7.5 YR 7 / 6 橙	7.5 YR 7 / 6 橙 ~ 5 / 3 にぶい褐	○	○			白・赤・黒(光るも の光らないものあ り)粒,小礫白(凝 灰岩系),砂はやや 少なめ	良	
	198	5234	E - 6				口縁	ナデ,先の丸いヘ ラ?キザミ	ナデ	先の丸いヘ ラ?キザミ	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙	10YR 6 / 4 にぶい黄 橙	○	○		○	白・赤・黒粒,小礫(凝 灰岩系),砂は普通	普通	
31	199	6676	E - 6			円筒	口縁	ナデ一部貝殻条痕 (深くはっきりして いる)	ケズリ後ナデ	真上から貝 殻刺突(連 続 - キザ ミ)	2.5 YR 4 / 4 にぶい 赤褐 ~ 3 / 1 暗赤灰	2.5 YR 6 / 8 橙 ~ 4 / 4 にぶい赤褐	○	○			白(凝灰岩系)・赤・ 黒(光る)粒,小礫 (白),砂は普通	良	
	200	一括	D - 6	下			口縁	ナデ,一部貝殻条痕	一部貝殻条痕,ほと んどカケている	ツメ?キザ ミ	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙 ~ 4 / 2 灰黄褐	10YR 4 / 2 灰黄褐	○	○			白・灰粒,砂は少な い	普通	
	201	3928 3946 6825	D - 6			円筒	口縁	貝殻条痕	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	7.5 YR 5 / 4 にぶい 褐 ~ 2 / 2 黒褐	10YR 7 / 4 にぶい黄 褐 ~ 4 / 3 にぶい黄 褐	○	○			黒曜石,白灰(凝灰 岩系)黒(光らない) 粒,砂はやや少なめ	普通	
	202	1750	G - 4			円筒	口縁	ケズリ,貝殻条痕 (くっきり深い)	ケズリ,貝殻条痕 (くっきり深い),上 部のみ後ナデ	ツメ?キザ ミ(ナナメ)	5 YR 4 / 6 赤褐 ~ 4 / 2 灰褐	5 YR 4 / 6 赤褐 ~ 3 / 3 暗赤褐	○	○			黒曜石,白(大理石 系,凝灰岩系)・黒粒 砂は普通	良	土 抗 埋 土
	203	848	F - 9	下		円筒	口縁	ケズリ,貝殻条痕 (くっきり深い)	ケズリ,貝殻条痕, 上端?のみナデ	先の丸い? ヘラキザミ (ツメの可 能性あり)	7.5 YR 5 / 3 にぶい 褐 ~ 2 / 1 黒	7.5 YR 4 / 4 褐 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			白(軽石,凝灰岩系) 粒,砂は普通	良	外面に炭化物 少し付着 9
	204	1704	F - 4		前平	?	口縁	ケズリ,貝殻条痕(深 く,くっきり)	ケズリ,貝殻条痕(深 く,くっきり)上部 のみ後ナデ	ツメキザミ	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙 ~ 4 / 1 褐灰	5 YR 6 / 6 橙 ~ 6 / 4 にぶい橙	○	○			白(珊瑚?系)・黒(黒 曜石)粒,砂はやや 少なめ	良	
	205	1205	H - 8	下		円筒	口縁	ケズリ,貝殻条痕(浅 い)	ケズリ,貝殻条痕(浅 い),上部のみ後ナデ	貝殻刺突 (大きく)	7.5 YR 4 / 2 灰褐 ~ 1.7 / 1 黒	2.5 YR 7 / 2 灰黄 ~ 2 / 1 黒	○	○			白(凝灰岩系)・赤粒 砂は普通	良	外面に炭化 物付着,ま るで瓦な みの厚さ
	206	326	G - 9	下		円筒	口縁	貝殻条痕(浅いが はっきり)	ケズリ後貝殻条痕に よるミガキ?,口縁 部のみナデ	貝殻刺突 (大きく)	10YR 6 / 3 にぶい黄 橙 ~ 4 / 1 褐灰	7.5 YR 7 / 6 橙 ~ 6 / 4 にぶい橙	○	○			白(大理石系と凝灰 岩系)・赤粒,小礫白 (大理石系),砂はや や少なめ	良	表面があ ちこちハ ジけている
	207	4051	E - 6				口縁	ケズリ(はっきりし た深い貝殻条痕)	ケズリ上部のみ後ナ デ	貝殻刺突 (キザミ)	5 YR 4 / 2 灰褐 ~ 2 / 1 黒褐	2.5 YR 6 / 8 橙 ~ 7.5 YR 7 / 6 橙	○	○		○	白(大理石系と珊瑚 系)・黒粒,砂は普通	良	
	208	331	G - 9	下	前平	?	口縁	貝殻条痕(少し浅い)	ケズリ後ナデ(かす かに貝殻条痕)	ヘラ 押 圧 (ぼぼまっ すぐ)	7.5 YR 4 / 2 灰褐 ~ 2 / 1 黒	7.5 YR 4 / 2 灰褐 ~ 2 / 1 黒	○	○			白(軽石系,凝灰岩 系)・赤粒,砂はやや 少なめ	普通	
	209	一括	D - 6		前平	円筒 ?	口縁	ケズリ,貝殻条痕(深 い),上までケズリの まま	ケズリ,貝殻条痕(深 い),上までケズリの まま	ツメキザミ (右下がり)	5 YR 4 / 3 にぶい赤 褐 ~ 3 / 1 黒褐	5 YR 5 / 4 にぶい赤 褐	○	○			黒曜石,白(軽石系・ 凝灰岩系)粒,砂は 普通	良	
	210	1514	G - 3		前平	?	口縁	ケズリ(貝殻条痕)	ケズリ(貝殻条痕), 上部のみ後ナデ	貝殻キザミ (ぼぼまっ すぐ)	5 YR 7 / 6 橙 ~ 7.5 YR 7 / 6 橙	7.5 YR 7 / 4 にぶい 橙 ~ 10YR 6 / 3 にぶ い黄橙	○	○			黒曜石,白(凝灰岩 系)粒,礫(白(凝 灰岩系))3コ,砂は やや少なめ	普通 良	
	211			表	前平	?	口縁	ケズリ,貝殻条痕	ケズリ(貝殻条痕), 上端のみナデ	貝殻キザミ	7.5 YR 7 / 6 橙 ~ 7 / 4 にぶい橙	7.5 YR 8 / 4 浅黄橙 ~ 7 / 4 にぶい橙	○	○			白(大理石系)・赤・ 黒(光らない)粒, 砂はやや少なめ	良	
	212	400	E - 12		前平	?	口縁	ケズリ,貝殻条痕	ケズリ後ナデ(一部 貝殻条痕)	貝殻キザミ	7.5 YR 7 / 4 にぶい 橙 ~ 3 / 1 黒褐	5 YR 7 / 6 橙 ~ 10Y R 7 / 4 にぶい黄橙	○	○			白(大理石系)・黒 (光る)粒,砂はや や少なめ	普通 やや や良	
	213	697	G - 9			?	口縁	ケズリ,貝殻条痕(荒 い)	ハガレの為不明	貝殻刺突	5 YR 6 / 6 橙	不明	○	○			白(軽石?)・赤粒, 赤小礫1コ,砂は少 なめ	普通	
	214	793?	F - 6			円筒	口縁	ケズリ,貝殻条痕 (はっきり)	ケズリ,一部条痕 (くっきり)	ヘラ?キザ ミ	7.5 YR 7 / 6 橙	7.5 YR 6 / 6 橙 ~ 5 / 2 灰褐	○	○			白(大理石系)・赤・ 黒(少し)粒,砂は やや少なめ	良	11
	215		F - 10			円筒	口縁	ケズリ,貝殻条痕 (はっきり)	ケズリ(貝殻条痕), 上部のみ後ナデ	ヘラ 刺 突 (キザミ,や やナナメ, 右上がり)	2.5 YR 6 / 6 橙 ~ 7.5 YR 7 / 6 橙	7.5 YR 7 / 4 にぶい 橙	○	○			白(大理石系,軽石 系)・黒粒,砂はや や少なめ	良	補修孔 (タテ 長)
	216	6100	E - 6			円筒?	口縁	貝殻条痕(はっきり している)	貝殻条痕(はっきり している),上部のみ ナデ	貝殻刺突 (ナナメ,右 下がり)	7.5 YR 3 / 1 黒褐 ~ 2 / 1 黒	2.5 YR 5 / 6 明赤褐 ~ 4 / 6 赤褐	○	○			白(凝灰岩・軽石系) 赤粒,砂は普通	良	

挿入 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼 成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃	その他		
31	217	8275	F - 6			円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(くつきり深い)	ケズリ, 貝殻条痕, 上部のみナデ	貝殻刺突(キザミ, やや斜め, 右上がり)	7.5YR 5/3 にぶい褐 ~ 2/1 黒	7.5YR 5/2 灰褐 ~ 2/1 褐	○	○			白(珊瑚?系)・灰粒, 砂はやや少なめ	良	
	218	3908	E - 6		前平	?	口縁	貝殻条痕(幅広, くつきり)	貝殻条痕(ナメ, 右下がり)		5YR 6/6 橙 ~ 7.5YR 5/3 にぶい褐	2.5YR 5/6 明赤褐 ~ 5YR 4/3 にぶい赤褐	○	○			白(軽石)・黒(光らない)粒, 小礫1コ, 砂は普通	良	
	219	一括	D - 6	下	前平	?	口縁	ケズリ(貝殻条痕)	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	2.5YR 5/6 明赤褐 ~ 7.5YR 5/2 灰褐	2.5YR 5/6 明赤褐	○	○			白(軽石系)・黒(光る黒曜石)・赤(白(軽石系)・赤)3 ~ 4コ, 砂は普通	普通 良	
	220	325	G - 8	下	前平	?	口縁	貝殻条痕(上部ナデ)	ケズリ, 上部端のみ後ナデ	ヘラキザミ	10YR 7/4 にぶい黄橙 ~ 4/1 褐灰	10YR 7/4 ~ 6/3 にぶい黄橙	○	○			白(凝灰岩系)・赤・灰(凝灰岩系)粒, 小礫(白・灰), 砂は普通	普通 良	10
	221	一括	D - 6		前平	?	口縁	ケズリ(貝殻条痕)	ケズリ後ナデ	ヘラキザミ	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/6 明赤褐 ~ 7.5YR 6/6 橙	○	○			白(大理石系)・赤・黒粒, 砂は普通	普通 良	
	222	885 440 839	G - 9 F - 9	V 下		円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(はっきり)	ケズリ, 貝殻条痕(はっきり), 上部のみ後ナデ	ヘラキザミ	10YR 5/2 灰黄褐 ~ 3/1 黒褐	7.5YR 6/6 橙 ~ 10YR 7/4 にぶい黄橙	○	○			白(大理石系 軽石)・赤粒, 砂は普通	普通 良	214と 同一個 体
	223	7256	E - 6		前平	?	口縁	貝殻条痕(深く, くつきり)	ケズリ(少々粗い)後ナデ	角のすりへった角材押圧	7.5YR 3/1 黒褐 ~ 2/1 黒	2.5YR 4/4 にぶい赤褐 ~ 7.5YR 4/2 灰褐	○	○			白(凝灰岩系)・灰・赤粒, 小礫(灰(凝灰岩系))1コ, 砂は普通	良	
	224	6089	E - 6			円筒 ?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕	ケズリ, 上部端のみ後ナデ	ツメキザミ	7.5YR 6/4 にぶい橙 ~ 4/2 灰褐	5YR 6/6 橙 ~ 3/1 黒褐	○	○			黒曜石(光る), 白・赤粒, 白(軽石)小礫1コ, 砂はやや多め	普通 良	
32	225	7965	D - 14			円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(はっきり)	ケズリ, 貝殻条痕(はっきり), 上部のみ後ナデ	ヘラキザミ	10YR 5/2 灰黄褐 ~ 3/1 黒褐	7.5YR 6/6 橙 ~ 10YR 7/4 にぶい黄橙	○	○			白(大理石系 軽石)・赤粒, 砂は普通	普通 良	213と 同一個 体
	226	一括	D - 6	下		円筒 ?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕	ケズリ, 貝殻条痕(くつきり), 上部のみ後ナデ	ツメキザミ	5YR 5/4 にぶい赤褐 ~ 2/1 黒褐	5YR 5/4 にぶい赤褐 ~ 3/1 黒褐	○	○			白(凝灰岩系), 赤粒(黒曜石)1コ(長石), 砂は普通	良	
	227	1567	F - 3			円筒? レモン?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(くつきり)	ケズリ, 貝殻条痕(くつきり), 上部のみ後ナデ	ヘラキザミ	7.5YR 7/4 にぶい橙 ~ 1/1 黒	7.5YR 5/3 にぶい褐 ~ 10YR 4/2 灰黄褐	○	○			白(凝灰岩系, 大理石系)・赤粒, 砂はやや少なめ	良	
	228	8139	E - 6		前平	円筒	口縁	ケズリ(貝殻条痕, はっきりしている)	ケズリ(貝殻条痕), 口縁近くのみ後ナデ	ツメキザミ(ほぼ垂直)	10YR 6/4 にぶい黄橙 ~ 2/2 黒褐	5/4 にぶい黄褐 ~ 4/4 褐	○	○			白(軽石)・赤粒, 礫1コ(赤), 砂は普通	良	
	229	8000	F - 6		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕	ケズリ(貝殻条痕), 上部のみ後ナデ	貝殻キザミ	10YR 6/3 にぶい黄橙 ~ 3/1 黒褐	7.5YR 6/4 にぶい橙	○	○			白(大理石系)・黒(黒曜石)粒, 砂はやや多い	普通 良	
	230	6723 7238	E - 6			円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(くつきり)	ケズリ, 貝殻条痕(くつきり), 上部のみ後ナデ	貝殻キザミ	10YR 8/4 浅黄橙 ~ 3/1 黒褐	10YR 7/4 ~ 6/3 にぶい黄橙	○	○		○	白(軽石)・灰(凝灰岩系)・黒粒, 白(軽石)・灰(凝灰岩)礫, 砂はやや多め	普通 良	216と 同一個 体
	231	950 860	G - 8 G - 9	下		円筒	口縁	ケズリ(一部かすかに条痕, ハガレあり)	ケズリ(粗い)後ナデ	ヘラキザミ	5YR 5/6 明赤褐 ~ 2/1 黒褐	5YR 6/6 橙 ~ 7.5YR 4/2 灰褐	○	○			黒(黒曜石)・白(軽石)・灰粒, 砂は普通	良	
	232	7809	E - 6			円筒 ?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(くつきり)	ケズリ, 貝殻条痕(くつきり), 上部のみ後ナデ	貝殻キザミ	10YR 5/3 にぶい黄褐 ~ 3/2 黒褐	10YR 7/4 にぶい黄橙	○	○			白・灰(凝灰岩系)粒, 白(軽石)礫, 砂はやや多め	良	215と 同一個 体
	233	5122	E - 6		前平	?	口縁	貝殻条痕(深く, くつきり)	ケズリ後ナデ	丸棒? 押圧(ナナメ, 右下がり)	5YR 6/8 橙 ~ 3/3 黒褐	10YR 7/4 にぶい黄橙 ~ 5/2 灰黄褐	○	○			黒曜石, 白(軽石系)・黒粒, 小礫1コ(白), 砂は普通	良	
	234	7523	E - 11		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深く, くつきり)	ケズリ, 貝殻条痕(くつきり), 上部のみ後ナデ, やや荒っぽい	貝殻? 刺突	7.5YR 6/6 橙 ~ 3/1 黒褐	5YR 6/6 橙 ~ 7.5YR 3/1 黒褐	○	○			白(大理石系)・赤粒, 白小礫(凝灰岩系), 砂は普通	良	
33	235	4626	F - 6		前平	円筒	口縁	貝殻条痕(深くはつきり)	ケズリ後ナデ(所々に条痕)	指頭押圧	5YR 5/6 明赤褐 ~ 2/1 黒褐	5YR 4/8 赤褐 ~ 3/2 暗赤褐	○	○			白(軽石)・赤・黒(光らない)粒, 礫, 砂は普通	良	
	236	3645	F - 6		前平	円筒	口縁	貝殻条痕(くつきり)	ケズリ後ナデ	丸棒押圧(ナナメ)	2.5YR 5/6 明赤褐 ~ 7.5YR 5/2 灰褐	5YR 6/8 橙 ~ 10YR 6/4 にぶい黄橙	○	○			黒曜石, 白(軽石)・赤粒, 小礫(白), 砂はやや少なめ	良	
	237	473	F - 9	下	前平	?	口縁	貝殻条痕(はっきり)	ケズリ後ナデ(ていねい)	貝殻刺突(ナナメ, 浅い)	5YR 4/3 にぶい赤褐 ~ 2/1 黒褐	5YR 4/3 にぶい赤褐	○	○			白(大理石系, 軽石系)・黒・灰(凝灰岩系)粒, 砂は普通	良	
	238	463	G - 9 (1T)				口縁	ケズリ(貝殻条痕, くつきり深い)	ケズリ(貝殻条痕, くつきり深い), 上部のみナデ	ヘラキザミ(ほぼ垂直)	5YR 4/1 褐灰 ~ 2/1 黒褐	5YR 4/2 灰褐 ~ 3/1 黒褐	○	○			白(軽石系)・黒(光らない)粒, 小礫(黒), 砂はやや少ない	良	
	239	329	G - 9	下			口縁	貝殻条痕(深くはつきり)	ナデ	ヘラキザミ(やや粗っぽい)	5YR 5/6 明赤褐 ~ 4/1 褐灰	5YR 5/4 にぶい赤褐	○	○			白(珊瑚系)・灰(凝灰岩系)・黒(黒曜石)粒, 小礫(灰), 砂は普通	良	
	240	8222	F - 6			円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(目が細かくナナメ)	ケズリ後ナデ	一見ヘラに見えるが実は貝殻によるキザミ	10YR 6/4 にぶい黄橙 ~ 3/1 黒褐	10YR 7/4 にぶい黄橙	○	○			白(大理石系)・灰(凝灰岩系)粒, 白・灰礫(凝灰岩), 砂は普通	良	

挿 入 番 号	番 号	注 記 番 号	区	層	類 別	器 種	部 位	調 整 ・ 文 様			色 調		胎 土				焼 成	備 考	
								外 面	内 面	口 唇 部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃			その他
32	241	468 500 802 7334	E - 10 F - 9 G - 9 (1T)	下	前平	円筒	準完形	貝殻条痕, ケズリ(ナ ナメ)	ケズリ	指頭押圧	5 YR 6 / 6 橙 ~ 7.5 YR 3 / 1 黒褐	5 YR 6 / 6 橙 ~ 5 Y R 3 / 1 黒褐	○	○			粒 (白・黒・赤)	良	準完形
	242	8020	F - 6	V か	前平	円筒	口縁	貝殻条痕(くっきり)	ケズリ, 上部のみ後 ナデ	? (ハガレ のため)	10YR 4 / 2 灰黄褐 ~ 2 / 1 黒	7.5 YR 5 / 3 にぶい 褐 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			白(凝灰岩系)粒, 礫 白(凝灰岩系))1 コ	良	
33	243	2984 3215 7254 3216	D - 7 E - 7 E - 6 E - 7	下 V 下	前平	円筒	口縁	ケズリと荒いナデ (一部条痕)	ケズリ後ナデ	貝殻角頂押 圧	2.5 YR 6 / 6 橙 ~ 7.5 YR 3 / 1 黒褐	7.5 YR 6 / 4 にぶい 橙 ~ 5 / 4 にぶい褐	○	○			白(凝灰岩系)・赤・ 黒(黒曜石, 光る) 粒, 砂はやや多め	良	
	244	2887	E - 6		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ケズリ, 上部のみ後 ナデ	貝殻腹押圧	2.5 YR 5 / 6 明赤褐 ~ 7.5 YR 2 / 1 黒	2.5 YR 5 / 6 明赤褐 ~ 7.5 YR 4 / 2 灰褐	○	○			白・赤・黒(1コ) 粒, 白礫(軽石, 凝 灰岩系), 砂は普通か らやや多め	良	221と 同一個 体?
	245	4355 5211 3953	E - 6 E - 7		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ケズリ, 上部のみ後 ナデ	貝殻腹押圧	7.5 YR 4 / 3 褐 ~ 2 / 1 黒	2.5 YR 5 / 6 明赤褐	○	○		○	白(大理石系, 軽石) 粒, 白礫(軽石), 砂 は普通	良	222と 同一個 体?
	246	5854	E - 6		前平	円筒	口縁	ケズリ(ミガキに近 い), 貝殻条痕(元々 深い物が繰り返し施 される為ミガキに近 くなる)	ケズリ, 貝殻条痕	ヘラキザミ (少々荒つ ばい)	7.5 YR 5 / 4 にぶい 褐 ~ 3 / 1 黒褐	7.5 YR 7 / 6 橙	○	○		○	白(凝灰岩系, 軽石)・ 灰(凝灰岩系, 軽石)・ 赤粒, (白・赤1コず つ)礫, 砂は普通	良	
	247	一括 2880	D - 6 E - 7	下	前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ケズリ後ナデ(一部 条痕わずか)	貝殻腹押圧	7.5 YR 7 / 4 にぶい 橙 ~ 3 / 1 黒褐	7.5 YR 7 / 4 にぶい 橙 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			白(凝灰岩系)黒(黒 曜石)粒, 白(凝灰 岩系)小礫, 砂は普 通からやや多め	良	
	248	7250	E - 6		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ケズリ	丸棒?ヘラ ?押圧	10YR 5 / 4 にぶい黄 褐 ~ 2 / 1 黒	5 YR 6 / 6 橙 ~ 7.5 YR 5 / 4 にぶい褐	○	○			白(凝灰岩系, 大理 石系)・赤・黒(黒曜 石)粒, (白・赤)小 礫, 砂は普通からや や多め	良	
	249	1000	F - 10		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ケズリ, 頂部のみナ デ	丸棒?押圧	7.5 YR 7 / 6 橙 ~ 2 / 1 黒	5 YR 6 / 6 橙 ~ 4 / 2 灰褐	○	○			白(凝灰岩系, 大理 石系)・赤粒, 白(大 理石系, 凝灰岩系) 礫, 砂は普通	良	
	250	2988	D - 7 F - 6	表	前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ケズリ上部一部ナデ と言うかヘラミガキ	片刃ナイフ 状のヘラキ ザミと言う より押圧	7.5 YR 4 / 3 褐 ~ 3 / 1 黒褐	7.5 YR 4 / 2 灰褐 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			白(凝灰岩系, 大理 石系, 軽石)黒(少ない) 赤・灰(凝灰岩系)粒, 礫1個(泥岩), 砂はや や多め	普通 良	
	251	334 一括	G - 9 道跡	下	前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり, 右下が りのナナメ, 特に荒 い, 但し方向はほぼ 一定, 上端のみナデ)	片刃ナイフ 状のヘラキ ザミ	2.5 YR 6 / 6 橙 ~ 5 YR 3 / 1 黒褐	2.5 YR 5 / 6 明赤褐 ~ 5 YR 6 / 6 橙	○	○			白(凝灰岩系, 大理 石系)・黒(光らな い)・赤・灰(凝灰岩 系)粒, 砂はやや多 め	良	道跡
	252	3614	F - 6		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ヘラ?ケズリ後ナデ と言うより上部ミガ キ	一見丸棒状 だがナイフ (片刃)状 のキザミ	7.5 YR 5 / 3 にぶい 褐 ~ 3 / 1 黒褐	10YR 5 / 2 灰黄褐 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			白(凝灰岩系, 軽石)・ 黒粒, 砂は普通	良	
	253	5399 5173 8359 一括	E - 6 D - 6 F - 6	下	前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ヘラ?ケズリ, 上端 のみ後ナデ	片刃ナイフ 状のヘラキ ザミ	5 YR 6 / 3 にぶい橙 ~ 2 / 1 黒褐	7.5 YR 4 / 2 灰褐 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			白(凝灰岩系, 大理 石系)・黒・灰(凝灰 岩系)粒, 灰(凝灰 岩系)小礫3コ, 砂 はやや多め	普通 良	
34	254	2050	G - 6		前平	円筒	準完形	ケズリ(ナナメ), 貝 殻条痕	ケズリ後ナデ, 一部 貝殻条痕	ヘラキザミ	2.5 YR 5 / 8 明赤褐 ~ 2.5 YR 2 / 1 赤黒	2.5 YR 5 / 8 明赤褐 ~ 2.5 YR 3 / 2 暗赤 褐	○	○			粒 (白・黒・赤・軽 石)	良	準完形
	255	5950 7310 7495 6516 917 823 820 470 176 490 819 36?	E - 11 F - 19 F - 10 G - 9 D - 12	下 上 a下	前平	円筒	完形	ケズリ(ナナメ), 貝 殻条痕	ケズリ	ヘラキザミ	5 YR 6 / 6 橙 ~ 7.5 YR 3 / 1 黒褐	5 YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 5 YR 3 / 1 黒褐	○	○			粒 (白・黒・赤)	良	完形
	256			表	前平	深鉢	口縁	貝殻条痕(横ナナメ), 貝殻キザミ	ケズリ後ナデ	貝殻キザミ	7.5 YR 6 / 4 にぶい 橙 ~ 7.5 YR 3 / 2 黒 褐	7.5 YR 6 / 4 にぶい 橙 ~ 7.5 YR 2 / 1 黒	○	○			粒 (白・黒・赤), 礫 (赤), 砂はやや少な め	良	
35	257	117 8136 一括	E - 5 E - 6	混	前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕 (元々は深くくっ きりだが何回も繰り 返して為浅くなっ ている所が多い)	ヘラ?ケズリ後ナデ	貝殻キザミ	7.5 YR 7 / 6 橙 ~ 3 / 1 黒褐	7.5 YR 6 / 6 橙	○	○			黒曜石, 白(凝灰岩 系, 大理石)・黒・赤 粒, 赤小礫1コ, 砂 はやや少なめ	良	
	258	5853	E - 6		前平	?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ケズリ, 上部のみ後 ナデ	貝殻キザミ	5 YR 4 / 1 褐灰 ~ 2.5 Y 3 / 1 黒褐	7.5 YR 6 / 4 にぶい 橙 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			黒曜石, 白(凝灰岩 系, 大理石)・黒・赤 灰粒, 灰小礫3コ, 砂は普通	良	
	259	6879 6539	E - 6 E - 10 D - 7	下	前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(幅 広, 深く, くっきり)	ケズリ	貝殻キザミ	7.5 YR 8 / 6 浅黄橙 ~ 3 / 3 暗褐	5 YR 7 / 6 橙 ~ 7.5 YR 7 / 6 橙	○	○			白(軽石)・赤(多く 目立つ)・黒(光らな い)粒, 礫(所々赤), 砂はやや多い	良	

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃	その他		
35	260	5282	E - 6		前平	円筒 ?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(幅 広い, くっきり)	ケズリ	貝殻キザミ (押し引き ぎみ)	7.5YR 7 / 6 橙 ~ 4 / 1 褐灰	5 YR 6 / 6 橙 ~ 7.5 YR 4 / 2 灰褐	○	○			白(凝灰岩系, 軽石)・ 黒(黒曜石)・赤・灰 (凝灰岩系, 軽石) 粒, 白(軽石, 凝灰 岩系)・灰(軽石, 凝 灰岩系)小礫, 砂は 普通	良	12
	261	?	D - 12		前平	?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ケズリ後ナデ	貝殻刺突 (キザミ)	5 YR 6 / 6 橙 ~ 4 / 2 灰褐	5 YR 6 / 6 橙 ~ 4 / 1 褐灰	○	○			白(少し, 軽石)・赤 (少し)・黒(黒曜石 光るものと光らない ものがある)粒, 砂 は普通	良	
	262	7401 8989	F - 10	横	前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(深 く, くっきり)	ケズリ, 上部のみ後 ナデ	貝殻刺突 (キザミ, 押し引きぎ み)	2.5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 7.5YR 2 / 1 黒	2.5YR 4 / 6 赤褐 ~ 4 / 4 にぶい赤褐	○	○		○	白(軽石, 凝灰岩系)・ 赤(多く目立つ)・黒 (黒曜石, 光らない) 粒, 砂はやや多い	良	
	263	2027	G - 6		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕 (くっきり)	ケズリ(荒い), 上部 のみ後ナデ	貝殻腹縁押 圧	7.5YR 8 / 6 浅黄橙 ~ 10YR 8 / 4 浅黄橙	7.5YR 8 / 6 浅黄橙	○	○			白(大理石系, 凝灰 岩系)・赤・黒(黒曜 石, 光るものと光ら ないものがある) 粒, 砂は普通	普通	やや粉 っぽい
	264	一括	D - 7		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(幅 の広い, 深い, 荒々 しい物「鬼の様な印 象」)	ヘラ?ケズリ後ナデ	貝殻押し, ナナム	10YR 5 / 8 赤 ~ 2.5 YR 5 / 6 明赤褐	2.5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 4 / 4 にぶい赤褐	○	○			白(凝灰岩系, 軽石)・ 赤・灰(砂岩, 泥岩) 粒, 礫(目立つ), 砂 はやや多め	良	
	265	8325	E - 6			?	口縁	ナデ	ナデ	貝殻刺突 (浅く不揃 い)	7.5YR 7 / 4 にぶい 橙 ~ 10YR 7 / 4 にぶ い黄橙	10YR 6 / 2 灰黄褐 ~ 4 / 1 褐灰	○	○			白(凝灰岩系, 軽石)・ 黒・赤粒, 砂は普通	良	
	266	一括	D - 6		前平	?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(浅 く粗い)	ケズリ後ナデ(粗い)	貝殻刺突 (浅い)	5 YR 6 / 6 橙	5 YR 6 / 6 橙 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			白(軽石系)・赤・黒 曜石(光る)粒, 砂 は普通	良	
	267	5891	E - 6		前平	?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕	ケズリ, 上部のみ後 ナデ	貝殻キザミ	10YR 8 / 6 黄橙 ~ 2 / 1 黒	10YR 7 / 6 明黄褐	○	○			白(凝灰岩系)・黒 (光らない)・赤粒, 白小礫(バラバラ入 る), 砂はやや多め	普通	
	268	2129	F - 6		前平	?	口縁	貝殻条痕, ヘラ刺突	ナデ, ケズリ	貝殻刺突	5 YR 6 / 6 橙 ~ 7.5 YR 7 / 6 橙	10YR 7 / 6 明黄褐 ~ 4 / 2 灰黄褐	○	○			白(凝灰岩系)・灰 (凝灰岩系)・黒(黒 曜石)粒, 砂はやや 少なめ	良	13
	269	5554	E - 6		前平	?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕(ヨ コ), ヘラ刺突(キザ ミ・タテ)	ケズリ後ナデ	貝殻刺突 (キザミ)	7.5YR 5 / 4 にぶい 褐	10YR 4 / 2 灰黄褐	○	○			白(凝灰岩系)・赤・ 黒(黒曜石)粒, 砂 はやや少なめ	普通 良	
	270	7171	E - 6		前平	?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕	ケズリ後ナデ	貝殻連続刺 突(キザミ)	10YR 6 / 4 にぶい黄 橙 ~ 3 / 1 黒褐	5 YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 10YR 6 / 4 にぶい 黄橙	○	○			灰・黒(黒曜石)・ 赤・白(軽石系)粒, 砂はやや少なめ	良	
36	271	330 428	G - 4 (7T)		前平	円筒	口縁	ケズリ, 貝殻条痕	ケズリ, 上部のみ後 ナデ	ヘラ?連続 刺突	2.5YR 6 / 6 橙 ~ 10 YR 7 / 4 にぶい黄橙	10YR 7 / 6 明黄褐 ~ 2 / 2 黒褐	○	○			白(軽石系)・赤・黒 (光らない)・灰(凝 灰岩系)粒, 小礫白 (軽石系)・赤, 砂は 少なめ	良	
	272	5753	F - 10		前平	?	口縁	ケズリ, 貝殻条痕	ケズリ後ナデ(一部 条痕)	ヘラ?連続 刺突(キザ ミ)	5 YR 7 / 6 橙 ~ 7.5 YR 5 / 2 灰褐	5 YR 6 / 4 にぶい橙	○	○			白(大理石系)・赤粒 砂は普通	良	
	273	2116	G - 7		?	?	口縁	ナデ, 貝殻刺突(タ テ)いずれも浅い	ナデ	貝殻キザミ	7.5YR 6 / 4 にぶい 橙	7.5YR 4 / 2 灰褐 ~ 4 / 1 褐灰	○	○			白(凝灰岩系)・赤 (えび茶色)・黒曜石 (光る)粒, 砂はや や少なめ	普通	
	274	一括	D - 6	下 ?	前平 ?	円筒	口縁・ 胴	貝殻条痕(左下がリ)	ケズリ	条痕	7.5YR 7 / 6 橙 ~ 3 / 1 黒褐	5 YR 6 / 6 橙 ~ 3 / 1 黒褐	○	○		○	白(大理石系, 凝灰 岩系, 軽石)・赤・黒 (黒曜石)・赤・黒 (灰・赤), 砂はや や多い	普通 やや良	
	275	3875	D - 6		前平 ?	円筒	胴	貝殻条痕(左下がリ)	ケズリ		5 YR 6 / 6 橙 ~ 1.7 / 1 黒	10YR 7 / 4 にぶい黄 橙 ~ 5 / 3 にぶい黄 褐	○	○		○	白(凝灰岩系)・赤・ 黒(黒曜石)・光る 粒, 礫1コ(赤), 砂 はやや多い	普通	
	276		表		前平	?	胴	貝殻条痕(右下がり, タテ, 左下がリ)	ケズリ, ナデ		7.5Y 5 / 2 灰オー プ ~ 3 / 1 オー プ黒	10YR 6 / 4 にぶい黄 橙 ~ 1.7 / 1 黒	○	○			白(軽石)・赤・黒(黒 曜石, 光る)粒, 礫 1コ(砂岩), 砂は普 通	良	
	277	3842	E - 6		前平? 岩本	円筒	胴	貝殻条痕(胴部は斜 位, 底部近くは横位, 浅いタイプ)	ナデ		10YR 6 / 3 にぶい黄 橙 ~ 4 / 1 褐灰	10YR 4 / 2 灰黄褐 ~ 3 / 2 黒褐	○	○			白(軽石, 凝灰岩系)・ 赤・黒(光らない) 粒, 砂は普通	やや良	
	278	8077	E - 6		前平	レモン 形?	胴	貝殻条痕	ケズリ		7.5YR 7 / 6 橙	7.5YR 5 / 2 灰褐 ~ 2 / 1 黒	○	○			白(大理石系, 凝灰 岩系)・黒(光らな い)・灰(凝灰岩系, 小礫少し)粒, 砂は やや少なめ	普通	やや粉 っぽい胎土
	279	1508	G - 3		前平? 岩本	角筒	胴	ケズリ	ナデ		7.5YR 6 / 4 にぶい 橙	5 YR 5 / 4 にぶい赤 褐 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			白(凝灰岩系)・黒 (黒曜石, 光らない ものと光るもの)・赤 粒, 砂はやや少なめ	普通	

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土				焼 成	備 考	
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃			その他
37	280	411	E - 12		志風頭	円筒	口縁	貝殻条痕(ヨコ),縦位の刺突文,その下は横位の条痕文,口縁文様帯と胴部の境に沈線1条(刺突)	ケズリ	キザミ	7.5YR 4 / 3 褐 ~ 2 / 2 黒褐	7.5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 4 / 2 灰褐	○	○	○		白(大理石)・黒(にぶく光る)・黄(パミス)・赤粒,砂はやや少なめ	良	
	281	1225	D - 13	a	前平	?	口縁	貝殻条痕(ヨコ,一部右下がり),貝殻連続刺突(キザミ,タテ)	ケズリ後ナデ		7.5YR 6 / 6 橙 ~ 5 / 4 にぶい褐	5YR 5 / 4 にぶい赤褐	○	○			黒(黒曜石光る,粘板岩?),白(大理石)・赤・黄土(凝灰岩系,パミス)粒,黒(粘板岩)・赤・灰(パミス)小礫目立つ,砂は普通	やや良	
	282	3955	E - 7		前平	?	口縁	貝殻条痕文,縦位の短い貝殻刺突文の下に2条に横位の刺突文,胴は横位の条痕文の上に斜位に刺突文,上から下に横位の貝殻連続刺突	ケズリ	浅いキザミか?	2.5YR 6 / 6 橙	7.5YR 6 / 4 にぶい橙	○	○			白(大理石系)・黒(黒曜石)・赤粒,砂はやや多め	良	
	283	4345	D - 12			角筒	口縁	ナデ,貝殻連続刺突(タテ,やや押し引きぎみ)	ナデ	ヘラあて(簡単にざっとすませた感じ)	5YR 6 / 6 橙 ~ 6 / 4 にぶい橙	5YR 7 / 6 橙 ~ 10YR 7 / 3 にぶい黄橙	○	○			白(軽石系)・赤・黒(黒曜石)粒,砂は普通	普通	
	284	7948	D - 13			角筒	口縁	ナデ(残りが少なく分かりにくい),貝殻連続刺突(タテ)	ナデ(残りが少なく分かりにくい)		5YR 4 / 3 にぶい赤褐 ~ 3 / 1 黒褐	5YR 5 / 4 にぶい赤褐 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			白(凝灰岩系)・灰(凝灰岩系)・赤粒,砂はやや少なめ	普通	
	285	1254	D - 13	a	前平	角筒	口縁	貝殻条痕文,縦位の刺突文,1条貝殻刺突文(線),胴部は横位の条痕文	ケズリ		7.5YR 8 / 4 浅黄橙	10YR 7 / 4 にぶい浅黄橙 ~ 5 / 2 灰黄褐	○	○			白(軽石)・黒(黒曜石,光る)粒,黒(安山岩系)礫3コ,砂は普通だが礫が目立つ	普通	
	286	792	D - 12	下		円筒	胴	貝殻条痕(右下がり),条痕地に波状沈線(途中で終わる物有り)	ケズリ		7.5YR 7 / 4 にぶい橙 ~ 10YR 4 / 2 灰黄褐	2.5Y 浅黄 ~ 10YR 3 / 2 黒褐	○	○			白(凝灰岩系,大理石)・赤・灰・黒(大理石)粒,白(大理石)・灰・黒(砂はやや多め	良	
	287	1317 1340	D - 13	下		円筒	胴	貝殻条痕(右下がり)ぎみ,条痕地に波状沈線と貝殻連続刺突	ケズリ		2.5YR 6 / 6 橙 ~ 5YR 7 / 6 橙	5YR 6 / 6 橙 ~ 5 / 3 にぶい赤褐	○	○			黒曜石(よく光る),白(大理石),凝灰岩系)・赤・灰(凝灰岩系)粒,砂はやや多め	良	
	288	7155	E - 6 表			円筒	口縁	貝殻条痕(右下がり,浅い),条痕地にタテの波二重沈線と貝殻連続刺突(ナナメ)	ケズリ		5YR 7 / 6 橙 ~ 3 / 2 暗赤褐	5YR 6 / 6 橙 ~ 4 / 2 灰褐	○	○			黒曜石(黒),白(軽石)・赤粒,赤礫1コ,砂はやや多め	良	14
	289	729	D - 12	下		?	胴	貝殻条痕(浅い,やや右下がり),条痕地に波状沈線(タテ)	ケズリ		2.5YR 6 / 8 橙 ~ 7.5YR 6 / 4 にぶい橙	7.5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 4 / 2 灰褐	○	○			白(凝灰岩系)・赤・黒(黒曜石)粒,砂は普通	普通 良	やや粉っぽい胎土
38	290	784 780 759 1310	D - 12 D - 13	下	志風頭	円筒	口縁・胴	貝殻条痕(やや右下がり),縦方向の刺突文,口縁文様帯と胴部の境に横方向の刺突文(1条の沈線),胴部は斜位の貝殻条痕文の上に斜位及び縦位の刺突文	ケズリ	平坦でキザミ目有り	7.5YR 4 / 3 褐 ~ 2.5Y 6 / 4 にぶい黄	10YR 6 / 4 にぶい黄橙 ~ 2 / 2 黒褐	○	○			白(凝灰岩系,大理石)・赤・灰・黒(光らない)粒,泥岩(円礫・大理石(マール)礫2コ,砂はやや多め	良	
	291	1020 752 732 764	D - 12	下	志風頭	円筒	口縁・胴	貝殻条痕(横,下に行くにつれてだんだん右下がり),縦位の刺突文,口縁文様帯と胴部の境に横方向の刺突文(1条の沈線),胴部は斜位の条痕文の上から斜位及び縦位の刺突文	ケズリ	キザミ	2.5YR 6 / 4 にぶい黄 ~ 3 / 1 黒褐	2.5YR 7 / 3 浅黄 ~ 10YR 3 / 2 黒褐	○	○			白(凝灰岩系,大理石)・赤・黒(にぶく光る)粒,泥岩(円礫)礫2コ,砂はやや多め	良	
		7953	D - 12 D - 14	下	前平 or 志風頭	円筒	底部	貝殻条痕(右下がり)と底回りはタテ,条痕地にタテ沈線	ケズリ,ナデ		10YR 5 / 3 にぶい黄橙 ~ 3 / 2 黒褐	10YR 7 / 4 にぶい黄橙 ~ 4 / 2 灰黄褐	○	○			白(凝灰岩系)・赤・黒(黒曜石,泥岩系)粒,礫1コ,砂はやや少なめ	普通 やや良	
	292	7379 1345 7969 1341	D - 11 D - 13	下		円筒	底部	貝殻条痕(右下がり)と底回りは荒っぽい	ナデ		2.5YR 7 / 6 橙 ~ 10YR 3 / 3 暗褐	5YR 6 / 6 橙 ~ 10YR 5 / 2 灰黄褐	○	○			白(凝灰岩系)・黒(黒曜石)・赤粒,砂は少なめ	普通	粉っぽい胎土
38	293	7952	D - 14		前平	角筒	口縁	貝殻条痕(ヨコ),貝殻連続刺突(タテ,わん曲する物),胴「X」状に交差する二重沈線と鋸歯状の二重波線(タテ)	ケズリ	ナデ	7.5YR 5 / 4 にぶい褐 ~ 3 / 2 黒褐	7.5YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 10YR 5 / 2 灰黄褐	○	○			白(凝灰岩系)・赤・黒(黒曜石)粒,白(1コ)・赤(3コ)礫,砂はやや多い	普通 良	
	294	7960	D - 14 表		前平	角筒	胴	貝殻条痕(ヨコ),条痕地に二本沈線(X状)と角に貝殻連続刺突(ナナメ)	ケズリ		2.5YR 4 / 6 赤褐 ~ 2.5YR 3 / 1 黒褐	2.5YR 5 / 8 明赤褐 ~ 7.5YR 7 / 6 橙	○	○			白(凝灰岩系)・赤・灰(安山岩系)粒,黒(光らない)黄(凝灰岩系)・こげ茶・灰(安山岩系)礫,砂はやや多め	良	
	295	1442	D - 11		前平	角筒	胴	貝殻条痕(ヨコ),条痕地に三・二本の沈線と貝殻連続刺突	ケズリ		7.5YR 2 / 2 黒褐 ~ 2 / 1 黒	10YR 5 / 3 にぶい黄褐	○	○			白(凝灰岩系)・黒(黒曜石,にぶく光る)・赤粒,礫(白・黒),砂は普通だが礫が目立つ	やや良	

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土				焼成	備 考	
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃			その他
38	296	7949	D - 13			角筒もしくはレモン形	胴	貝殻条痕(やや右下がりぎみ、ハガレ有り)、条痕地に沈線(X状)と角に貝殻連続刺突(ナナム)	ケズリ		7 5YR 4 / 2 灰褐～3 / 1 黒褐	7 5YR 6 / 6 橙～10 YR 6 / 3 にぶい黄橙	○	○			白(凝灰岩系)・赤・黒(泥岩系)粒、黒(泥岩系)・赤礫、砂はやや多め	普通 良	
	297	1273 1376 7962	表 D - 13 D - 14	a 下		角筒	胴	貝殻条痕(ヨコ)、条痕地に二～三本沈線(X状)と角に連続刺突文(ナナム)	ケズリ		2 5YR 4 / 6 赤褐～5 / 6 明赤褐	7 5YR 6 / 6 橙	○	○			白(大理石系、凝灰岩系)・赤・灰(凝灰岩系)粒、白(凝灰岩系)・灰(凝灰岩系)・こげ茶(泥岩系)礫、砂はやや多め	良	
	298	1306	D - 13			角筒	胴	貝殻条痕(右下がり)、条痕地に二～三本沈線、貝殻連続刺突	ケズリ		5 YR 6 / 6 橙～10Y R 7 / 4 にぶい黄橙	10YR 6 / 4 にぶい黄橙～5 / 3 にぶい黄褐	○	○			黒(黒曜石光る)・白(凝灰岩系)・赤粒、礫(白・赤)目立つ、砂は普通だが礫が多く目立つ	普通	15
	299	1015	D - 12			角筒もしくはレモン形	胴	貝殻条痕(ヨコ)、条痕地に二本沈線(X状)、角に貝殻連続刺突(ナナム)	ケズリ		2 5YR 4 / 6 赤褐～5 YR 5 / 6 明赤褐	7 5YR 6 / 6 橙	○	○			黒曜石(光る)、白(大理石系、凝灰岩系)・赤粒、灰(泥岩系)・白(凝灰岩系)・黒(黒曜石)礫、砂はやや多め	良	
	300	7947	D - 13		前平	レモン形?	胴	貝殻条痕(右下がり)、条痕地に二本沈線(X状)、ゆるやかな角に貝殻連続刺突(ナナム)	ケズリ		7 5YR 6 / 4 にぶい橙～4 / 2 灰褐	7 5YR 5 / 3 にぶい褐～4 / 2 灰褐	○	○			白(凝灰岩系)・赤・灰(凝灰岩系)粒、礫多数、砂はやや多め	普通 良	
	301	7958	D - 14		岩本	角筒?	底部	貝殻条痕(タテ、目の細かい貝殻?一部ナデ?)	ナデ		10YR 5 / 8 赤～2.5 YR 5 / 4 にぶい赤褐	5 YR 6 / 6 橙	○	○			白(大理石系、軽石)・赤・黒(黒曜石にぶく光る)・黄土色(パミス)粒と礫、砂は普通、礫は底辺のみ	良	
	302	7955	D - 13			円筒?	胴	貝殻条痕(右下がり)、条痕の上に波状と直線「X」の貝殻沈線、上から下へ二つの点が連続して並ぶ	ケズリ		2 5YR 5 / 6 明赤褐～7 5YR 3 / 2 黒褐	2 5YR 5 / 4 にぶい赤褐～7 5YR 3 / 1 黒褐	○	○			白(軽石系)赤・灰(長石系)粒、うす黄(凝灰岩系)礫、砂は普通	良	
	303	1364 766 38	D - 13 D - 12	下 a		角筒	胴	貝殻条痕(ヨコ)、条痕地に二本沈線(X状)と貝殻押引(タテ)	ケズリ		10YR 7 / 4 にぶい黄橙～3 / 1 黒褐	5 YR 5 / 6 明赤褐	○	○	○		白(凝灰岩系、大理石)・灰・黒粒、白(大理石、凝灰岩系)・赤礫、砂はやや多め	良	
304	7939	D - 13		前平	円筒	胴	貝殻条痕文、横位の条痕文の上に豆粒状の文様	ケズリ		2 5YR 5 / 6 明赤褐～7 5YR 4 / 2 灰褐	5 YR 6 / 6 橙	○	○			黒(黒曜石)、白(凝灰岩系)・赤粒、灰(凝灰岩系)・黄(パミス)礫、砂は普通	良		
39	305	4677	F - 6		or 岩本?	不明	口縁	ナデ(風化?)	ナデ(一部貝殻条痕)		5 YR 6 / 4 にぶい橙～4 / 2 灰褐	5 YR 5 / 4 にぶい赤褐	○	○	○		白・灰・赤粒、砂は普通	良	
	306	6919	E - 6		I?	不明	口縁	ナデ、丸棒?による列点(ランダムに見える)	ナデ		7 5YR 7 / 4 にぶい橙	7 5YR 5 / 3 にぶい褐	○	○			白・赤粒、小礫あり、砂はやや少なめ	良	列点?
	307	712	G - 9		or 岩本?	円筒?	口縁	ナデ	ナデ	ツメキザミ	7 5YR 2 / 2 黒褐～3 / 2 黒褐	7 5YR 6 / 3 にぶい褐	○	○			白・灰・赤粒、小礫所々砂はやや少なめ	良	
	308	6659	E - 6		or 岩本?		口縁	ナデ	ナデ	ツメキザミ	2 5Y 4 / 2 暗灰黄～2 / 1 黒	10YR 4 / 3 にぶい黄褐～3 / 2 黒褐	○	○	○		白粒、砂はやや少なめ	良	
	309		表		ツメ形文	不明	口縁	ナデ、ツメ形文	ナデ		7 5YR 5 / 4 にぶい褐	7 5YR 5 / 3 にぶい褐	○	○			粒(白・赤・黒)礫(灰)1コ、砂は普通	良	
	310	一括	D - 6		or 岩本?		口縁	ナデ	ナデ	ツメキザミ	2 5Y 6 / 2 灰黄	7 5YR 7 / 6 橙～2 5 Y 6 / 2 灰黄	○	○			白・灰・赤粒、小礫所々砂はやや少なめ	良	
	311	一括	G - 3	下	吉田	円筒?	口縁近く	ナデ、施文、クサビ、貝殻刺突(タテ)、貝殻押引(ヨコ)	ナデ(丁寧)		7 5YR 6 / 4 にぶい橙～4 / 2 灰褐	7 5YR 6 / 4 にぶい橙	○	○			白(凝灰岩)・黒(泥岩)粒、砂は普通	良	
	312	一括	G - 4	下	吉田?	円筒?	胴	貝殻押引と刺突	ナデ		7 5YR 6 / 4 にぶい橙	7 5YR 5 / 4 にぶい褐～4 / 1 褐灰	○	○			白(凝灰岩)赤・黒(光らない)粒、砂はやや少なめ	やや良	
	313	2210 2220 2509 2511 2515	G - 6 G - 7			桑ノ丸?	円筒	ナデ、施文、竹管?連点2条、胴は貝殻条痕(綾杉)	ケズリ、ナデ		10YR 6 / 3 にぶい黄橙～2 / 2 黒褐	10YR 6 / 3 にぶい黄橙～3 / 2 黒褐	○	○			白(凝灰岩系)・赤・黒(光らない物とにぶく光る物がある)・黄土(パミス)粒、砂はやや多い	良	
	314	2130	G - 7			桑ノ丸?	円筒	ナデ、施文、連結2条、胴は貝殻条痕(綾杉)	ケズリ		10YR 6 / 4 にぶい黄橙～4 / 2 灰黄褐	10YR 6 / 4 にぶい黄橙～5 / 3 にぶい黄褐	○	○			白・赤・黒・黄土粒、礫(安山岩)、砂はやや少ない	良	
	315	2027 2299 2508 2512	G - 6 G - 7			桑ノ丸	円筒深鉢	貝殻条痕(綾杉)	ケズリ	連点以上	5 YR 6 / 6 橙～7 5 YR 6 / 4 にぶい橙	7 5YR 4 / 3 褐	○	○			粒(白・黒)、礫(軽石)、砂はやや多い	良	316と同一個体
316	2126	G - 7			桑ノ丸	円筒深鉢	貝殻条痕(綾杉)	ケズリ	連点以上	5 YR 6 / 6 橙～7 5 YR 6 / 4 にぶい橙	7 5YR 4 / 3 褐	○	○			粒(白・黒)、礫(軽石)、砂はやや多い	良	315と同一個体	
317	72	G - 8			条痕文	深鉢	口縁近くの胴	ナデ、貝殻押引	丁寧なナデ	7 5YR 6 / 4 にぶい橙	7 5YR 5 / 3 にぶい褐	○	○	○		粒(白・黒)、礫(軽石・赤)、砂は普通	良		
318	8225	F - 6			苦浜式	深鉢	口縁	ナデ、貝殻条痕(波状)	ナデ	丸棒のナメキザミ	7 5YR 5 / 3 にぶい褐	7 5YR 4 / 2 灰褐	○	○			粒(白・赤・黒)、礫(砂岩(大、赤)・灰・赤)、砂は普通	良	
319	1214	E - 13			苦浜式	深鉢	頸部	ナデ、貝殻条痕、突帯1条	ケズリ、ナデ		5 YR 6 / 6 橙	5 YR 2 / 1 黒褐	○	○			粒(黒・白・赤)、小礫(赤・黒)、砂は多い	良	

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土				焼 成	備 考	
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃			その他
39	320	215	E - 13		吉浜式	深鉢	口縁	ナデ, 所々横位の貝殻条痕但し一番上は波状	ケズリ後ナデ		7 5YR 7 / 6 橙 ~ 5 / 3 にぶい褐	7 5YR 7 / 4 にぶい橙 ~ 4 / 2 灰褐	○	○			黒曜石, 白 (軽石)・赤・黄 (1コ) 粒, 灰 (泥岩系)・白 (軽石)・うす茶 (泥岩系) 礫目立つ, 砂は普通	普通 やや良	
	321	1700	G - 4		轟	不明	口縁近く	ケズリ, ナデ, 貝殻条痕, ミミズ腫れ突帯	ケズリ, 貝殻条痕		7 5YR 6 / 4 にぶい橙	7 5YR 4 / 1 褐灰	○	○			粒 (白・黒・赤), 礫 (灰), 砂は多い	良	
	322	132	G - 9		曹畑	深鉢	胴	ナデ, 幾何学沈線文	ナデ		7 5YR 7 / 4 にぶい橙 ~ 7 5YR 6 / 3 にぶい褐	10YR 7 / 4 にぶい黄橙	○	○			粒 (黒・白・赤), 小礫 (灰), 砂は少なめ	良	
	323	一括	D - 6	a	曹畑	深鉢	胴	ナデ, 幾何学沈線文	ナデ		7 5YR 4 / 2 灰褐	7 5YR 6 / 4 にぶい橙	○	○			粒 (黒・白・赤), 礫 (灰), 砂は普通	良	
40	324	一括	D - 6	a	市来	深鉢	口縁	ナデ, 突帯	ケズリ, ナデ		5 YR 6 / 6 橙 ~ 5 Y R 1 7 / 1 黒	5 YR 5 / 6 明赤褐 ~ 5 YR 4 / 4 にぶい赤褐	○	○			粒 (黒・白・赤), 礫 (赤・白・軽石), 砂は少なめ	良	
	325	一括	D - 6	a	市来	深鉢	口縁	ナデ, ヘラキザミ	ナデ		5 YR 5 / 6 明赤褐	2 5YR 6 / 8 橙 ~ 7 5 YR 7 / 6 橙	○	○		○	粒 (白・黒), 砂は少なめ	良	
	326	一括	D - 6	a	市来	深鉢	口縁	ナデ, ヘラキザミ (角の部分二の字)	ナデ, ケズリ		2 5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 5 YR 6 / 6 橙	2 5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 5 YR 6 / 6 橙	○	○			黒曜石, 粒 (黒・白), 小礫 (軽石), 砂はやや少なめ	良	327と同一個体
	327	400	D - 6 (4T)		市来	深鉢	口縁	ナデ, ヘラキザミ (角の部分二の字)	ナデ, ケズリ		2 5YR 5 明赤褐 / 6 ~ 5 YR 6 / 6 橙	2 5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 5 YR 6 / 6 橙	○	○			黒曜石, 粒 (黒・白), 小礫 (軽石), 砂はやや少なめ	良	326と同一個体
	328	一括	D - 6	a	市来	深鉢	口縁	ナデ, 貝殻キザミ (角の部分に三の字)	ケズリ後ナデ		2 5YR 5 / 6 明赤褐	2 5YR 6 / 8 橙 ~ 2. 5YR 4 / 2 灰赤	○	○			黒曜石, 粒 (黒・白), 礫 (灰 1コ), 砂は普通	良	329と同一個体
	329	一括	D - 6		市来	深鉢	口縁	ナデ, 貝殻キザミ (角の部分に三の字)	ケズリ後ナデ		2 5YR 5 / 6 明赤褐	2 5YR 6 / 8 橙 ~ 2.5 YR 4 / 2 灰赤	○	○			黒曜石, 粒 (黒・白), 礫 (灰 1コ), 砂は普通	良	328と同一個体
	330	一括	D - 6	a	市来	深鉢	口縁	ケズリ, ナデ, ヘラキザミ (2条), 沈線 (2条)	ケズリ, ナデ, 角に沈線 3条		2 5YR 5 / 6 明赤褐 5YR 5 / 4 にぶい赤褐	2 5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 5 YR 5 / 4 にぶい赤褐	○	○			粒 (白・黒・黒曜石), 礫 (黒), 砂はやや少なめ	良	331と同一個体
	331	一括	D - 6	a	市来	深鉢	口縁	ケズリ, ナデ, ヘラキザミ (2条), 沈線 (2条)	ケズリ, ナデ, 角に沈線 3条		2 5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 5 YR 5 / 4 にぶい赤褐	2 5YR 5 / 6 明赤褐 ~ 5 YR 5 / 4 にぶい赤褐	○	○			粒 (白・黒・黒曜石), 礫 (黒), 砂はやや少なめ	良	330と同一個体
	332	3032	E - 6	a	市来	深鉢	口縁	ナデ, ヘラキザミ, 沈線 1条	ナデ		10YR 7 / 6 明黄褐	10YR 7 / 6 明黄褐	○	○			粒 (白・黒・灰), 砂は少なめ	普通	332と同一個体
	333		表		市来	深鉢	口縁	ナデ, ヘラキザミ, 沈線 1条	ナデ		10YR 7 / 6 明黄褐	10YR 7 / 6 明黄褐	○	○			粒 (白・黒・灰), 砂は少なめ	普通	332と同一個体
	334	一括	D - 6 E - 7	a	市来	深鉢	口縁	ケズリ, 貝殻条痕 (一部), ナデ, ヘラキザミ, 部分的にタテにキザミ (四本)	ケズリ, 貝殻条痕	ナデ	2 5YR 6 / 8 橙	2 5YR 6 / 8 橙 ~ 7 5 YR 6 / 4 にぶい橙	○	○		○	粒 (白・黒), 礫 (白・軽石), 砂は普通	良	
41	335	2377	G - 6		岩本	円筒	底部	ナデ	ナデ		5 YR 7 / 6 橙	7 5YR 6 / 4 にぶい橙					白 (凝灰岩系)・赤・黒 (黒曜石) 粒, 砂は少なめ	普通	
	336	1999	G - 6		? 岩本	円筒	底部	貝殻条痕 (かすかにヨコ), 底ナデ	ナデ (一部ケズリ?)		10YR 7 / 4 にぶい黄橙 ~ 4 / 2 灰黄褐	7 5YR 7 / 6 橙 ~ 3 / 1 黒褐	○	○			白 (凝灰岩系・大理石系)・赤・黒 (光らない) 粒, 砂は普通	普通	やや粉っぽい胎土
	337	一括	D - 6		岩本	円筒	底部	ナデ	ナデ		7 5YR 7 / 6 橙	7 5YR 6 / 4 にぶい橙	○	○			白 (軽石, 凝灰岩系, 大理石, パミス)・赤・黒 (光る物, 光らない物がある) 粒, 砂は普通	普通	粉っぽい胎土
	338	1827	G - 5		? 岩本	円筒	底部	貝殻条痕 (ヨコ), 底部はナデ, 一部条痕	ナデ		7 5YR 7 / 6 橙 ~ 7 / 3 にぶい橙	10YR 8 / 4 浅黄橙 ~ 5 / 2 灰黄褐	○	○			白 (大理石系 (方解石), パミス, 凝灰岩系)・黄 (パミス, 凝灰岩系)・黒粒, 小礫 (白凝灰岩系), 砂は普通	普通	やや粉っぽい胎土
	339	7409	F - 10		? 岩本	円筒	底部	ナデ, 底は剥がれている	ナデ		7 5YR 7 / 4 にぶい橙 ~ 8 / 6 黄橙	10YR 8 / 6 黄橙	○	○		○	白 (凝灰岩系, 大理石系)・黒粒, 砂は普通	普通	
	340		E - 6		レモン? または円筒	底部	ナデ, 一部貝殻条痕が残る	ナデ			5 YR 7 / 6 橙 ~ 10Y R 7 / 4 にぶい橙	10YR 4 / 2 灰黄褐	○	○			白 (凝灰岩系)・黒 (黒曜石, にぶく光る) 粒, 砂は少なめ	普通	粉っぽい胎土
	341	6722 6834	E - 6		岩本	円筒	底部	貝殻条痕 (浅く細かい, 右下がり), 底部はナデ	ナデ (一部貝殻条痕)		7 5YR 7 / 6 橙	10YR 7 / 2 にぶい黄橙 ~ 2 / 1 赤黒	○	○			白 (軽石)・灰 (凝灰岩系) 粒, 砂はやや少なめ	普通	粉っぽい胎土
	342	7770	E - 6		or 岩本	円筒	底部	ケズリ後ナデ一部貝殻条痕, 底も同じ	ケズリ後ナデ		10YR 7 / 4 にぶい黄橙 ~ 4 / 1 褐灰	10YR 8 / 3 浅黄橙	○	○		○	白 (凝灰岩・軽石)・黒・赤粒, 砂はやや少なめ	普通	やや粉っぽい胎土
	343	6726	E - 6		岩本	円筒	底部	貝殻条痕 (浅く細かい, 右下がり), 底部周辺のみ横	ナデ (一部条痕)		7 5YR 7 / 6 橙	7 5YR 4 / 2 灰褐 ~ 2 / 1 黒	○	○			白・黄土 (凝灰岩系)・黒粒, 黄土 (凝灰岩系) 礫 1コ, 砂はやや少なめ	普通	粉っぽい胎土
344	一括	D - 6		岩本	円筒	底部	貝殻条痕 (ヨコ, ナメ), 胴部は斜位の条痕文, 底部近くは横位の条痕文, ナデ	ケズリ		5 YR 4 / 4 にぶい赤褐 ~ 7 5YR 5 / 4 にぶい褐	5 YR 6 / 6 橙 ~ 7 5 YR 5 / 3 灰褐	○	○			白 (凝灰岩系)・灰 (凝灰岩系)・赤・黒 (黒曜石, 光る) 粒, 砂はやや少なめ	良		

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼 成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃	その他		
41	345	690 898	G - 9	下	or 岩本	円筒	底部	ナデ, 底はケズリ・貝殻条痕	ケズリ, 一部貝殻条痕(放射状)後ナデ		7.5YR 7/4 にぶい 橙 ~ 5/3 にぶい褐	7.5YR 6/3 にぶい 褐 ~ 5/3 にぶい褐	○	○			白(軽石)・黒(光らない)・灰(凝灰岩・赤粒, 円礫(1mm大凝灰岩), 砂はやや少なめ	良	
	346	8191	F - 6		前平	円筒	底部	ケズリ, 荒い条痕(ナメ)底も同じ	ケズリ, 貝殻条痕		2.5YR 5/6 明赤褐 ~ 2/1 赤黒	2.5YR 5/6 明赤褐 ~ 2/2 赤黒	○	○			白(軽石)・赤・黒(黒曜石)・灰(凝灰岩, 安山岩)粒, 礫(赤・灰)砂は少なめ礫が不均一に入っている	良	
	347	1524 1525	F - 3	下	? 岩本	円筒	底部	貝殻条痕(浅いヨコただしハガレが激しい), 底は貝殻条痕	ケズリ後ナデ		7.5YR 7/4 にぶい 橙 ~ 4/1 褐灰	7.5YR 7/4 にぶい 橙 ~ 2/1 黒	○	○		○	白(凝灰岩系)・黒(黒曜石)・赤粒, 礫(黄(凝灰岩系)・黒(黒曜石)), 砂は普通	良	
	348	一括	D - 6		岩本	円筒	底部	ハケ目状条痕(横), 底部はケズリ後ナデ	ナデ, 底部縫ぎ目のみケズリ, 貝殻による		5YR 6/6 橙 ~ 5Y R5/6 明赤褐	5YR 7/6 橙 ~ 7.5 YR 4/2 灰褐	○	○			白(凝灰岩系)・黒(黒曜石)にぶく光る)・赤粒, 砂はやや少なめ	普通	粉っぽい胎土
	349	2580	F - 6		前平?	円筒	底部	貝殻条痕(ヨコ, 一部右下がりからヨコへ)	ナデ, 胴と底の境目にケズリ(貝殻条痕, 放射状)		7.5YR 7/6 橙 ~ 6 /4 にぶい橙	7.5YR 6/4 橙 ~ 2 /1 黒	○	○		○	白(大理石系)・黄(凝灰岩系)・黒(光る物と光らない物がある)粒, 礫(凝灰岩系), 砂は普通	普通	
	350	5283	E - 6		or 岩本	円筒	底部	ケズリ, 貝殻条痕(ヨコ)	ケズリ, ナデ		7.5YR 7/4 橙	10YR 7/4 にぶい黄 橙	○	○			黒曜石(にぶく光る), 白(軽石・凝灰岩)・灰(軽石・凝灰岩)・黒粒, 砂はやや少なめ	普通	やや粉っぽい胎土
	351	6389	E - 6		岩本	円筒	底部	貝殻条痕(一見タタミに見える, ヨコ一部ナメ), 底部はナデ	ケズリ(貝殻条痕, 放射状)		5YR 7/6 橙 ~ 7.5 YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 6/4 にぶい 橙 ~ 4/1 褐灰	○	○			黒曜石・白(凝灰岩系)・黒(光る物, 光らない物がある)・赤粒, 白(凝灰岩系)・黒(光る物, 光らない物がある)小礫, 砂はやや少なめ	普通	粉っぽい胎土
42	352	7024 7399	F - 10		前平?	円筒	底部	貝殻条痕(ヨコ), 底はナデ	貝殻押圧(放射状)		10YR 8/4 浅黄橙 ~ 4/2 灰黄褐	7.5YR 8/4 浅黄橙	○	○		○	白(凝灰岩系)・赤・黒粒, 砂は普通	普通	
	353	61 204	G - 8 G - 9		前平	円筒	底部	貝殻条痕(ヨコ), 底部はナデ	ナデ後刺突, 押圧		7.5YR 6/6 橙 ~ 10 YR 4/2 灰黄褐	7.5YR 6/6 橙 ~ 3 /1 黒褐	○	○		○	白(凝灰岩系, 大理石系)・黒(黒曜石)・赤粒, 礫2コ(大理石系), 砂は普通	良	
	354	1716	F - 4		前平	円筒	底部	貝殻条痕(ヨコ), 底は貝殻条痕	ナデ後押圧(放射状)		7.5YR 6/4 にぶい 橙 ~ 2/1 黒褐	5YR 6/6 橙 ~ 2/ 1 黒褐	○	○		○	白(凝灰岩系, 大理石系)・黒・灰(安山岩系)・黄(バミス)・赤粒, 礫2コ灰(安山岩系・凝灰岩系), 砂は普通	良	
	355	5000 4317	E - 6		前平?	円筒	底部	貝殻条痕(横), 底部はナデ	放射状の貝殻条痕, 指押さえ, ナデ		2.5YR 6/8 橙 ~ 7.5 YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙 ~ 2 /1 黒	○	○			白(軽石, 凝灰岩系)・赤・黒(光らない)・黄(バミス)粒, 砂は普通	良	
	356	1641	F - 2		前平	円筒	底部	貝殻条痕(一部貝殻条痕と圧痕), 横位の貝殻条痕文, 底部はナデ	ナデ		5YR 5/4 にぶい赤 褐 ~ 7.5YR 7/6 橙	2.5YR 5/6 明赤褐 ~ 5YR 1.7/1 黒	○	○			黒曜石・白(凝灰岩系, 大理石系)・黄(凝灰岩系)・黒(黒曜石)・赤粒, 大2コ(凝灰岩系)礫, 砂は普通	普通	
	357	7700	F - 6	下	or 岩本	円筒	底部	かすかな条痕(ヨコ), 底はナデ	条痕(同心円状)		10YR 8/4 浅黄橙 ~ 6/4 にぶい黄橙	10YR 8/6 浅黄橙 ~ 7/4 にぶい橙	○	○			白(大理石系, 凝灰岩系)・黒(光る物と光らない物がある)・赤粒, 小礫(白・赤), 砂は普通	良	
	358	7535	E - 6		岩本?	円筒	底部	貝殻条痕(横), 底部は中心から放射状の貝殻条痕, 周辺部は文角状に面取りする様にミガキ?	ナデ, 一部条痕		7.5YR 6/6 橙 ~ 10 YR 4/1 褐灰	10YR 7/6 明黄褐 ~ 2/2 黒褐	○	○		○	白(大理石, 凝灰岩系)・赤・黒(光る)粒, 砂はやや少なめ	良	
43	359	2972	E - 7		?	円筒	底部	ケズリとナデ, 圧痕(鈎骨?)と付着物	押さえ, ナデ		2.5YR 4/6 赤褐 ~ 5YR 3/2 暗赤褐, 5Y 8/2 灰白 ~ 8/ 1 灰白	10R 4/6 赤 ~ 2/1 赤黒	○	○			黄(バミス)・黒(にぶく光る)粒, 粘板岩系礫1コ, 砂は普通	良	但し破片からはばらと落ちる
	360		G - 5		前平	円筒	底部	ケズリ, 荒い貝殻条痕(ヨコ, 底部にタテが加わる)	ケズリ後ナデ, 指跡		5YR 7/6 橙 ~ 7.5 YR 7/6 橙	7.5YR 6/2 灰褐 ~ 4/1 褐灰	○	○			白(軽石)・黒(光らない)・赤・灰(安山岩)粒, 礫(明灰), 砂は多い	やや良	
	361	6716	E - 6		前平	円筒	底部	ケズリ, 荒い貝殻条痕(ナメ・底側はヨコ), 底はナデ	ケズリ, ナデ		2.5YR 6/8 橙 ~ 5 YR 5/6 明赤褐	5YR 4/4 にぶい赤 褐 ~ 2/1 黒褐	○	○			黒(黒曜石, 光る)・白(凝灰岩)・赤・灰(凝灰岩, 安山岩)粒, 礫(灰(安山岩)), 砂はやや多い	良	
	362	465	F - 9		前平	円筒	底部	ケズリ, 深い貝殻条痕(ナメ・底側はヨコ), 底はナデ	ケズリ, ナデ		2.5YR 6/6 橙 ~ 5 YR 5/4 にぶい赤褐	5YR にぶい赤褐 ~ 2/1 黒褐	○	○			白(軽石, 凝灰岩)・灰(凝灰岩)・赤・黒(黒曜石)粒, 砂は普通	良	
	363	1778	G - 5		or 前平	円筒	底部	条痕文(ヨコ), 底はナデ一部条痕	ナデ		5YR 6/6 橙 ~ 7.5 YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 6/4 にぶい 橙 ~ 4/3 褐	○	○		○	黒曜石, 白(凝灰岩系)・赤・黒粒, 砂は普通	良	

挿図 番号	番号	注記 番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石 英	長 石	雲 母	角 閃	その他		
43	364	4006	E - 6		or 前平	円筒	底部	貝殻条痕（幅広，右下がり，底部周辺は横），底部はケズリ，貝殻条痕	ナデ		2.5YR 5/8 明赤褐 ～ 5YR 6/6 橙	2.5YR 4/4 にぶい 赤褐～ 5YR 1.7/1 黒	○	○			黄土（パミス）・白（凝灰岩系）・赤粒，黄（パミス）・黒（泥岩）礫，砂はやや少なめ	良	中身はぼろぼろ
	365				表 前平	円筒・ 角筒の 可能性 あり	底部	貝殻条痕（縦）	ナデ		2.5YR 5/8 明赤褐 ～ 3/3 暗赤褐	2.5YR 3/2 暗赤褐 ～ 3/3 暗赤褐	○	○			白（凝灰岩系，大理石）・赤・黒（にぶい光）粒，黒（粘板岩）礫1コ，砂はやや多め	良	
	366	一括	D - 6 E - 6		下 or 岩本	円筒	底部	ケズリ，ナデ，一部貝殻条痕	ナデ，指跡		7.5YR 7/4 にぶい 橙～ 6/3 にぶい黄 橙	7.5YR 7/8 黄橙～ 7/4 にぶい橙	○	○		○	白・黒・赤粒，礫（軽石）・赤・灰（安山岩，凝灰岩），砂はやや少なめ	普通	やや粉っぽい胎土
	367	8380 8419	E - 6		or	円筒	底部	ナデ（ツメあと）	ナデ		7.5YR 7/6 橙～ 5/2 灰褐	7.5YR 6/1 褐灰～ 3/1 黒褐	○	○			白（凝灰岩系）・黒（黒曜石光る）粒，砂は普通	普通	やや粉っぽい胎土
	368	5065	E - 6		阿高系	深鉢	底部	木の葉，圧痕	ケズリとナデ		5YR 7/6 橙～ 7.5YR 5/2 灰褐	5YR 7/6 橙～ 7.5YR 5/2 灰褐	○	○		○	白（大理石，軽石，凝灰岩系）・赤（目立つ）・灰・黒粒，灰（凝灰岩系）礫1コ，砂は普通	普通	粉っぽい胎土（角がとれていく感じ）
	369	7097	E - 6		阿高系	深鉢	底部	木の葉，圧痕	ナデ		7.5YR 7/6 橙～ 4/2 灰褐	7.5YR 2/2 黒褐	○	○		○	白（大理石，凝灰岩系）・赤（目立つ）・灰・黒粒，砂は普通	やや濃い普通	粉っぽい胎土

調査中の道跡
（E-11区より）



▼谷方向



▲台地方向

石器

本遺跡では、縄文時代早期の遺物包含層であるⅠ層と、その前後の層から約1500点の石器類が出土した。自然石が515点、剥片・チップ類では黒曜石が622点・安山岩162点・ホルンフェルス5点・タンパク石16点・チャート31点・玉髄5点などである。本報告書では、その中から選択して98点を図化した。ここでは、特徴のある石器を主に説明するが、個々の詳細については、石器観察表を参照されたい。

打製石鏃

370～396は、打製石鏃である。石鏃は、破片を含め29点が出土したが、27点を図化した。おおむね小形の正三角形でえぐりのない物から大型の二等辺三角形に近いえぐりの深い物の順に並べた。石材は、黒曜石・チャート・頁岩・ホルンフェルス・安山岩・タンパク石を使用している。

調整剥片

399は調整剥片であるが、石鏃未製品の可能性があるため、ここに掲載した。

石匙

397・398は、石匙である。397は、剥片の上部をえぐって摘みを作り出している。398は、断片であるが、刃部を作り出している。

楔形石器（ピエスエスキーユ）

400・401は、楔形石器である。400は、彫器の可能性はある。

石槍

402～404は、石槍である。402・404は偏平な剥片の測辺部分に剥離を施している。

スクレイパー

405～414は、スクレイパーである。11点出土し、10点を図化した。それぞれの石材の特徴を生かして整形し、刃部を作り出している。

使用痕剥片

415～421は、使用痕剥片である。419・420は一部がかなり摩耗している。

剥片

422～427は、剥片である。38点出土し、6点を図化した。424～426は、不純物が少なく質のよい黒曜石製である。周囲を切断されているが、全体に摩耗し、角が磨れている状態である。

石斧

428～433は、打製石斧である12点出土し、6点を図化した。434～435は、磨製石斧である。ほとんどが破損しており、過酷な使用の状況が推察される。

石鎌

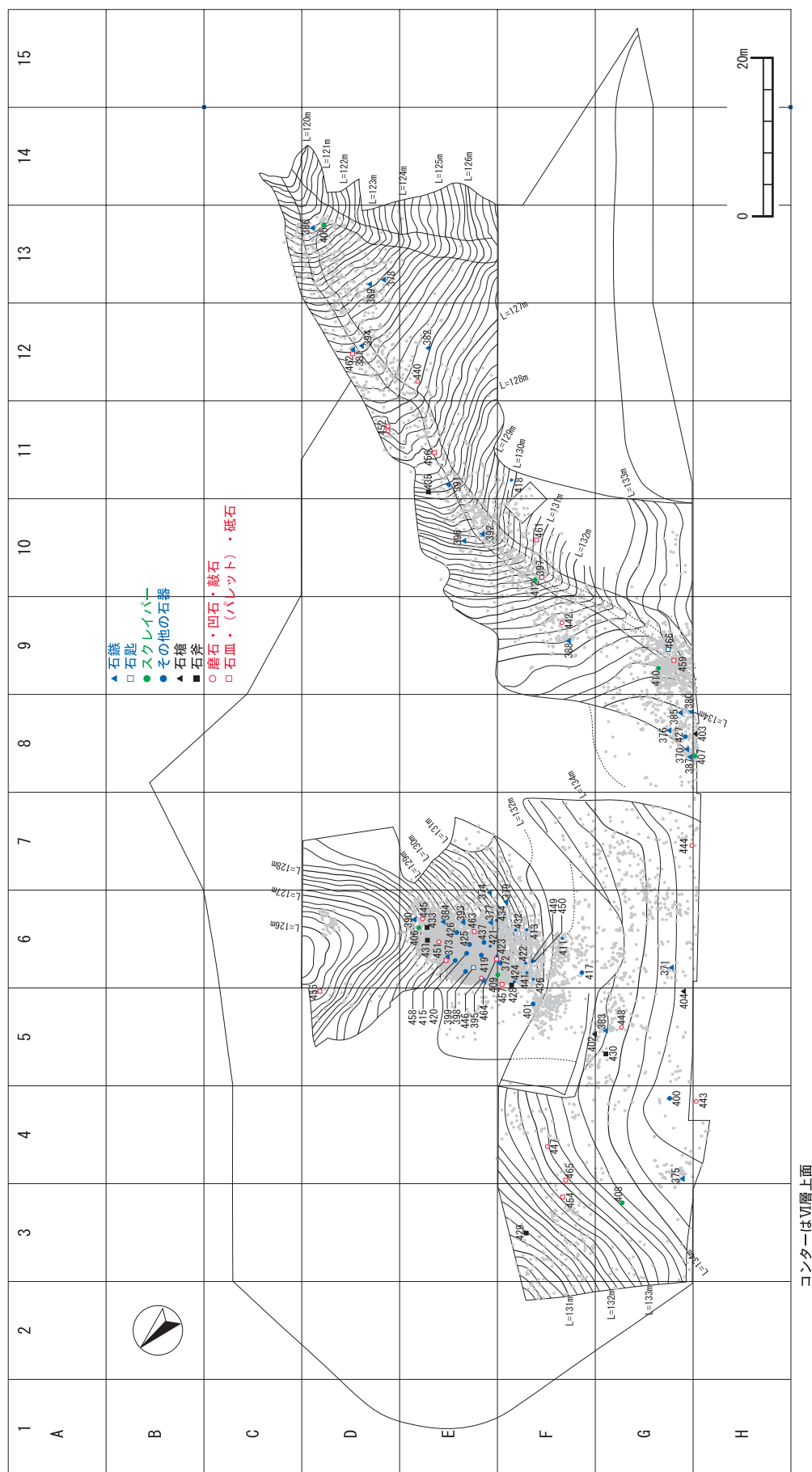
436は、石鎌であるが、石槍の可能性もある。偏平な剥片の測辺部分に剥離を施している。

礫器

437は、礫器である。主に下面の右・下部側面を打撃して形を整えている。

磨石・凹石

438～445は、磨石である。27点出土し、8点を図化した。438・439は1側面のみが煩雑に使用されている。444と445は凹石で表裏とも凹みがある。



第44図 縄文時代石器出土分布図

敲石（パンチ）

446～452は、敲石である。15点出土し、7点を図化した。446は、赤色顔料が付着しているが、意図的なものではないようだ。452は、453の石皿とセットで出土した。

石皿

453～465は、石皿である。34点出土し、13点を図化した。

455は砂岩製で、正面のほぼ全体が摩滅しているが、裏面中央部には敲打痕が認められる。456も砂岩製で、正面のほぼ全体が摩滅しているが、茶色の変色が認められる。また、正面から見て、左右を欠損しているが、右の縁辺は表裏ともに弱い摩滅と小剥離が認められ、左にはそれがないため、右欠損部が左欠損部に比べ、時間的に古い物と推測される。457も砂岩製だが、表裏面ともに認められる凹みは、明瞭な使用痕とは言い難い。欠損部の割れ口の特徴や全体の色調が赤化していることから被熱資料と考えられる。458は、小片であるが、正面に赤色顔料が付着している。459は、表裏面ともに摩滅しているが、裏面はごく一部に限られる。460は、花崗岩の剥片を利用している。461は、砂岩製である。462～465は、大きさに比べて厚みの薄い、パレット状の物である。462は剥片を利用しており、表裏面ともに部分的に偏った位置が摩滅している。463と465は扁平な自然石を利用しているが、顕著な摩滅は認められない。

砥石

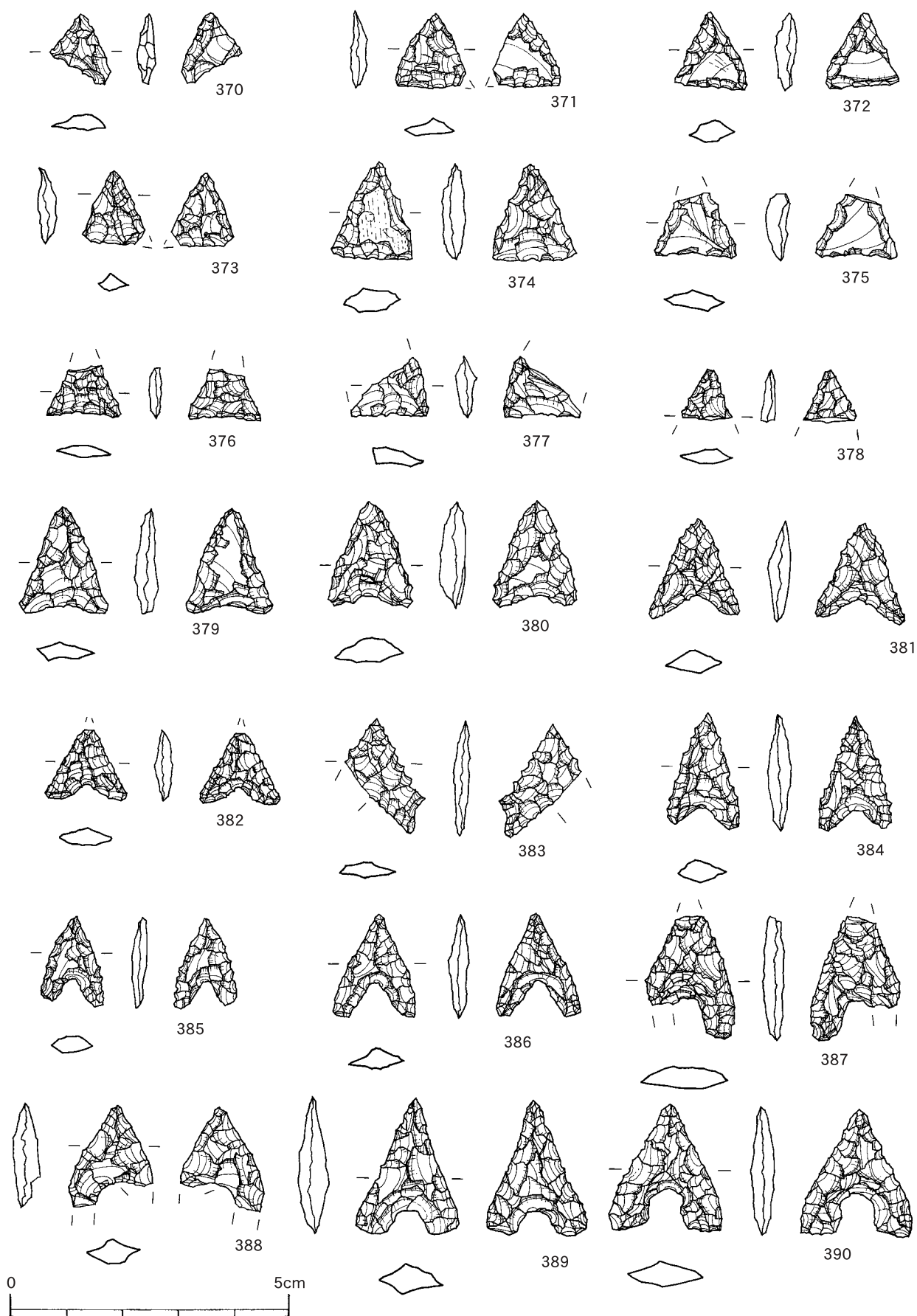
3点出土した。464は上下が破断しているが、白色泥岩製の表裏面ともに擦痕が認められる。層出土だが樹根等の落ち込みかも知れず、弥生時代以降の物である可能性がある。

ヘラ状石器

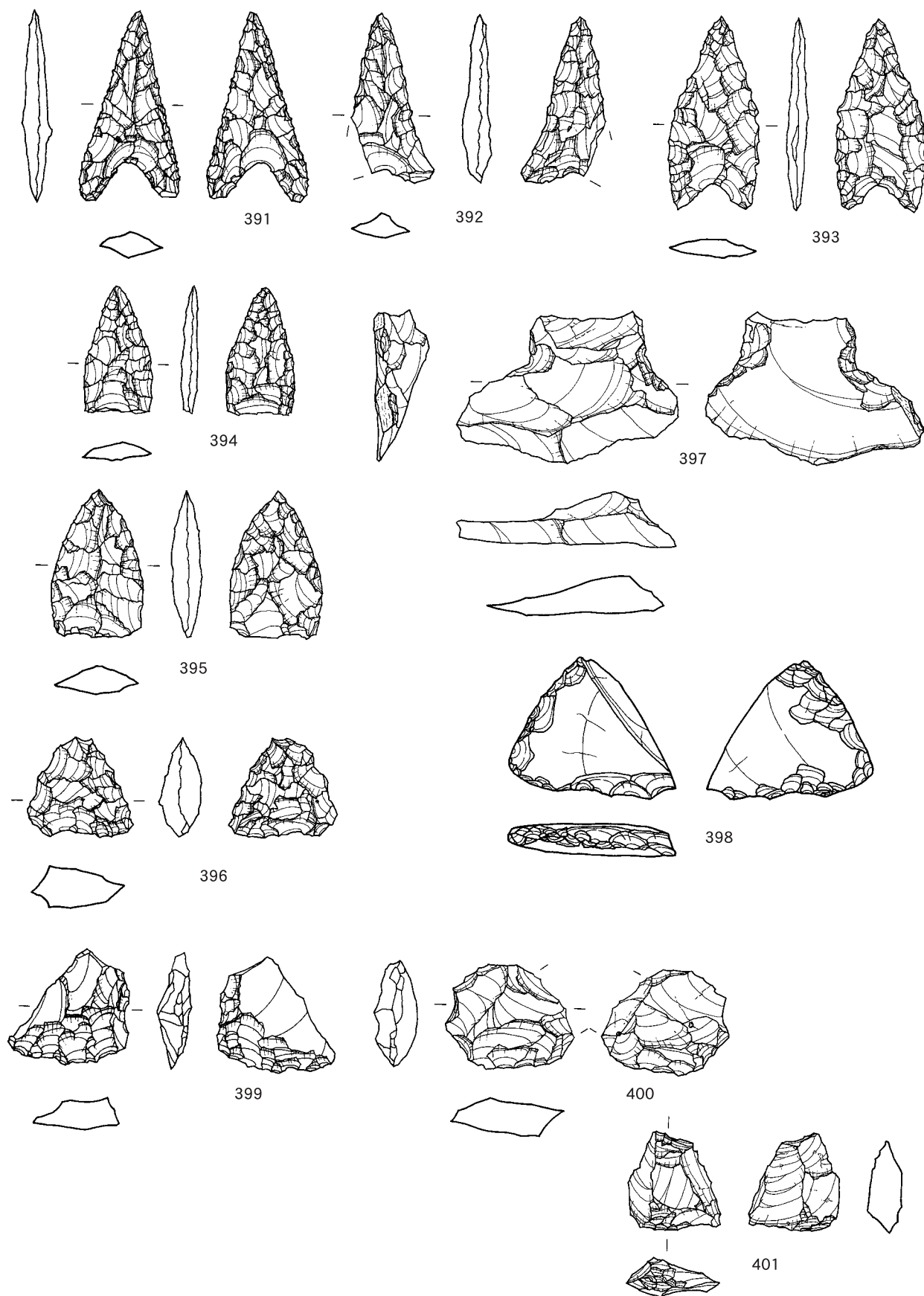
466はヘラ状の石器で、幅広の先端部や裏面に磨面や擦痕が認められる。扁平な自然石を利用しているが、同じような物は諏訪前遺跡（旧金峰町）でも出土しており、匙のように使用されたのかもしれない。

その他の遺物

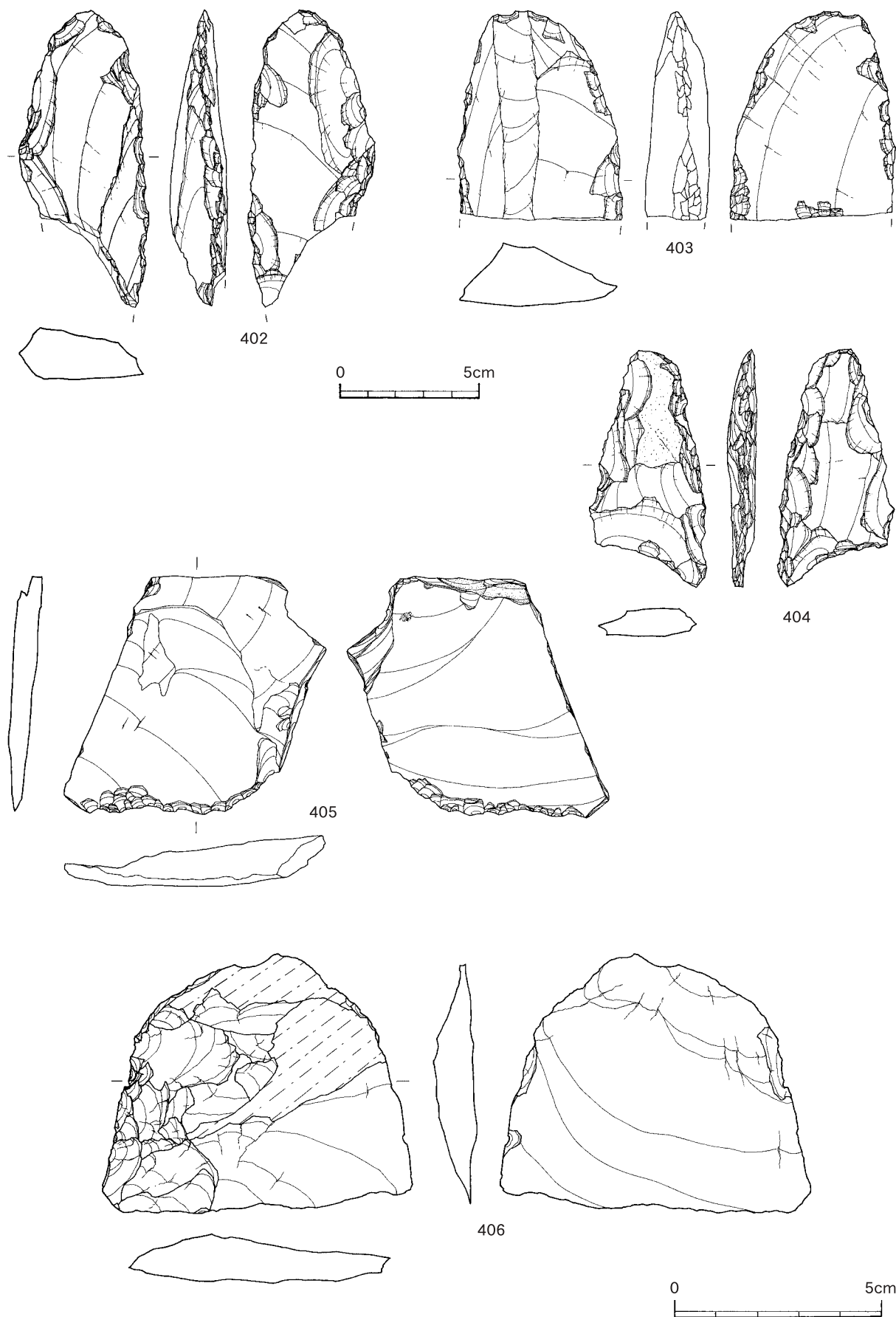
ペットストーンや原石などが出土している。図化しなかったが、石器観察表と写真図版38に掲載したので参照されたい。ペットストーンは、球形や小判型の自然石で、ごく小さな物である。また、原石で最大の物は、ほぼ立方体の砂岩で、重量は20.6kgもある。表面に加工の痕跡が認められないが、何らかの意図を持って持ち込まれた物であろう。その他、軽石も出土しているが、非常に脆く、遺物取り上げの時点で崩れてしまったため、実測できなかった。



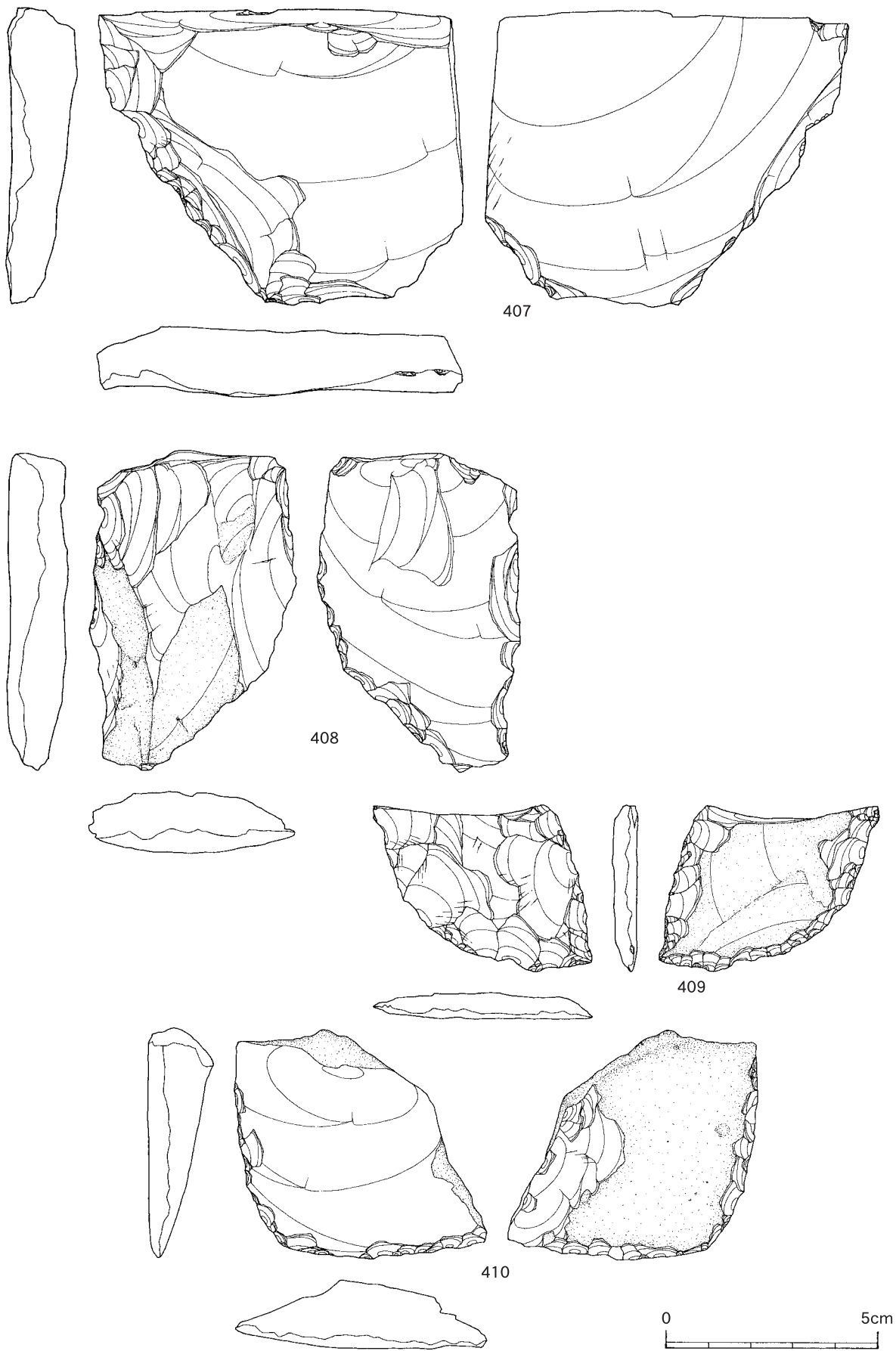
第45図 石鏃



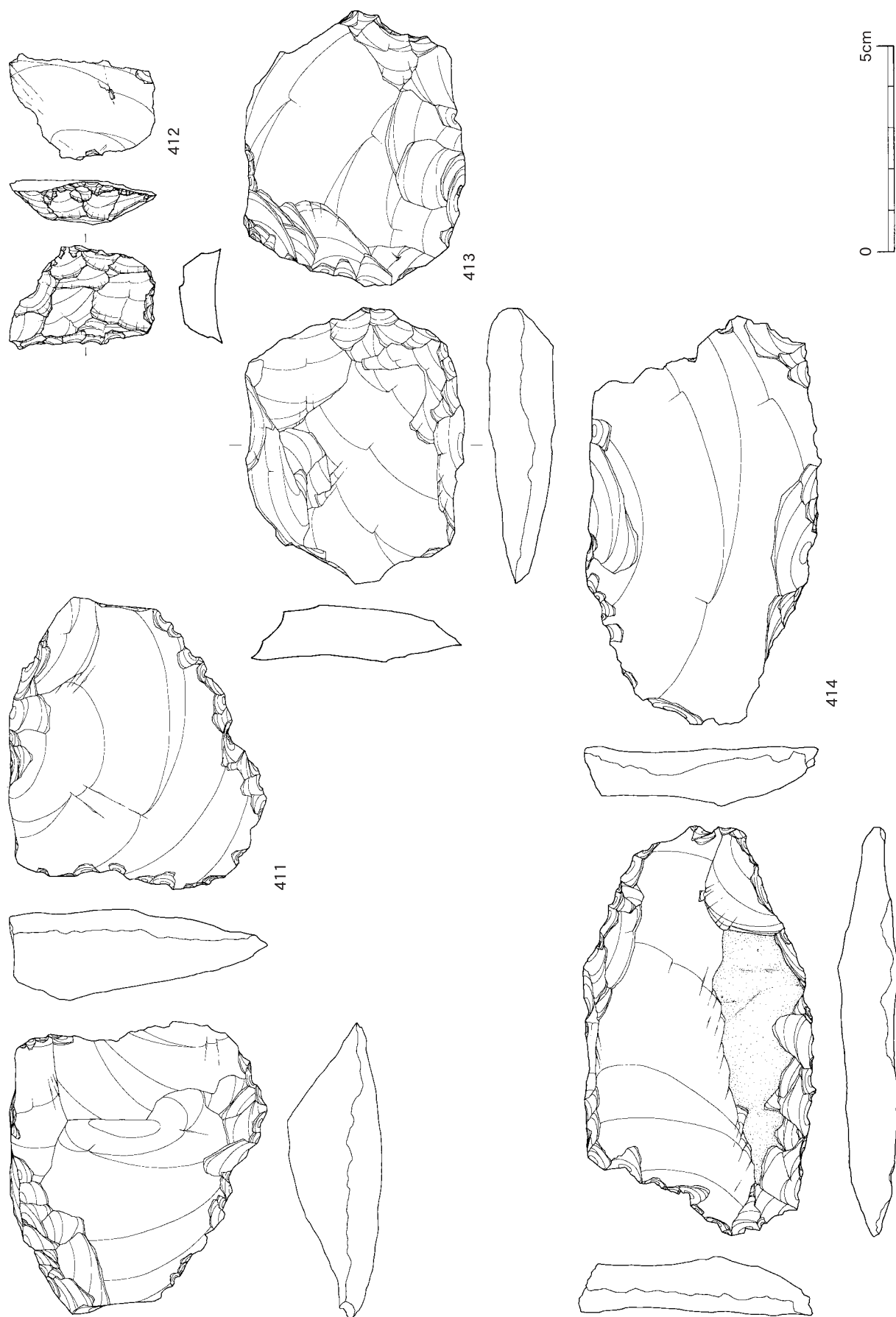
第46図 石鏃・石匙・楔形石器



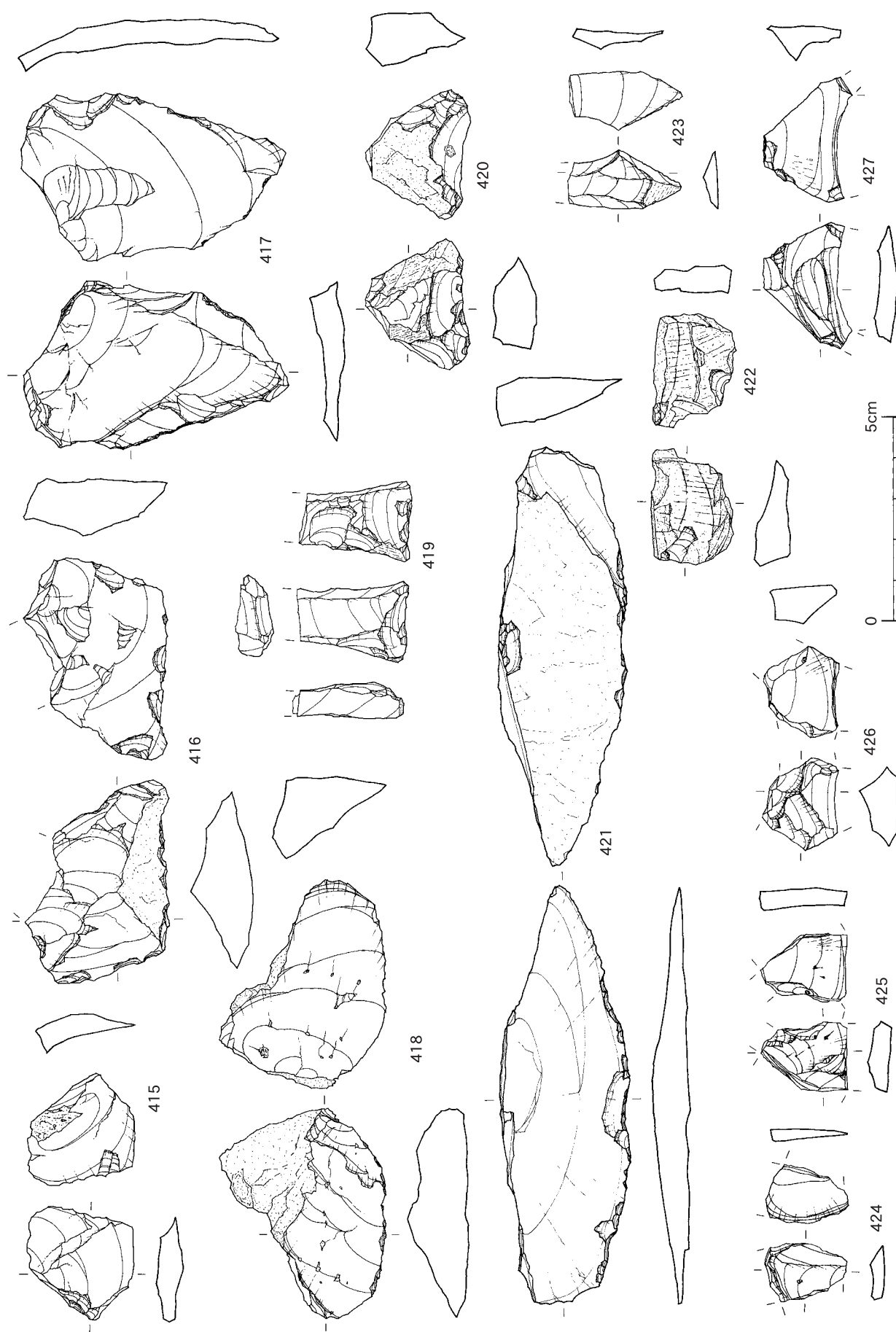
第47図 石槍・スクレイパー



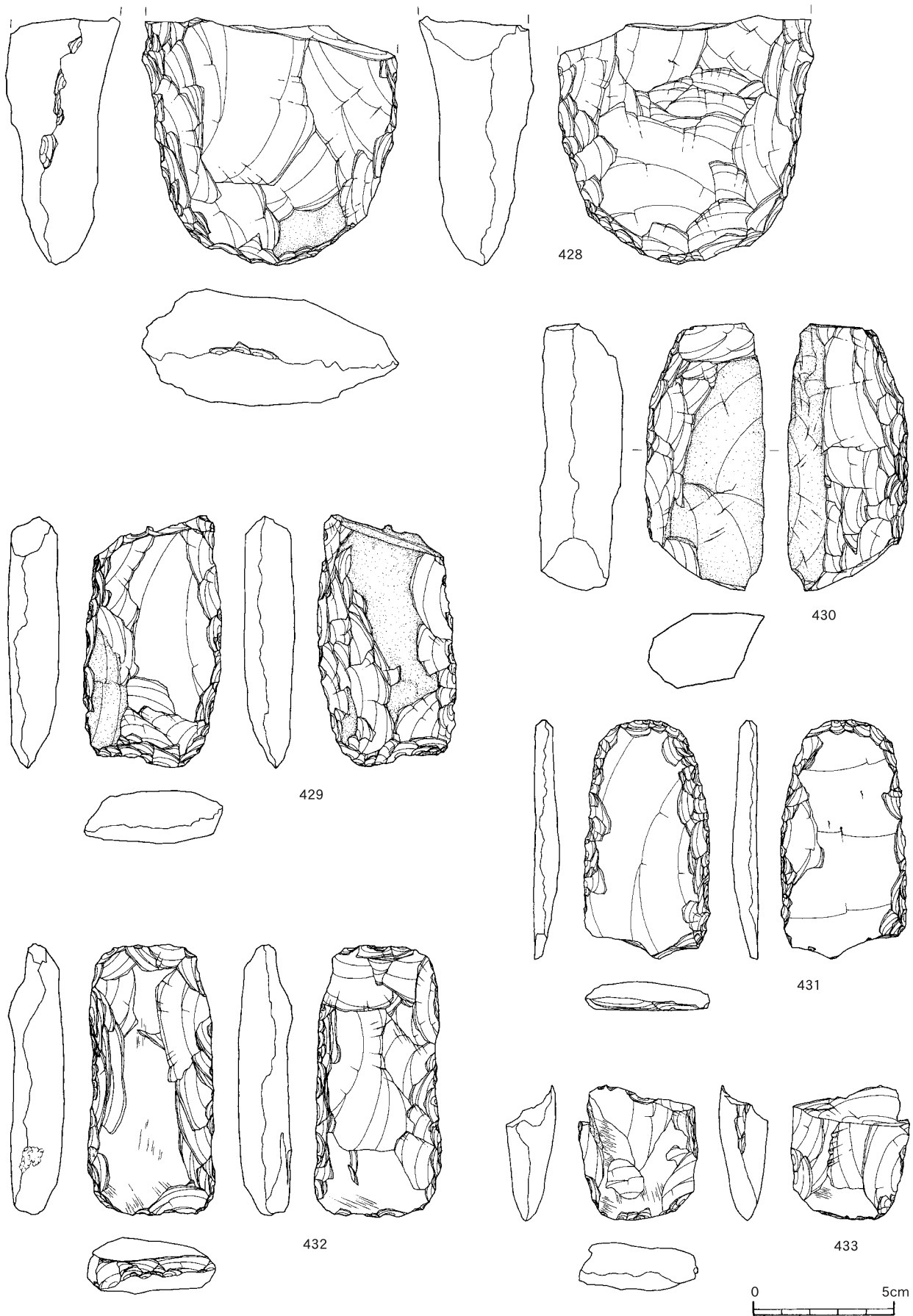
第48図 スクレイパー



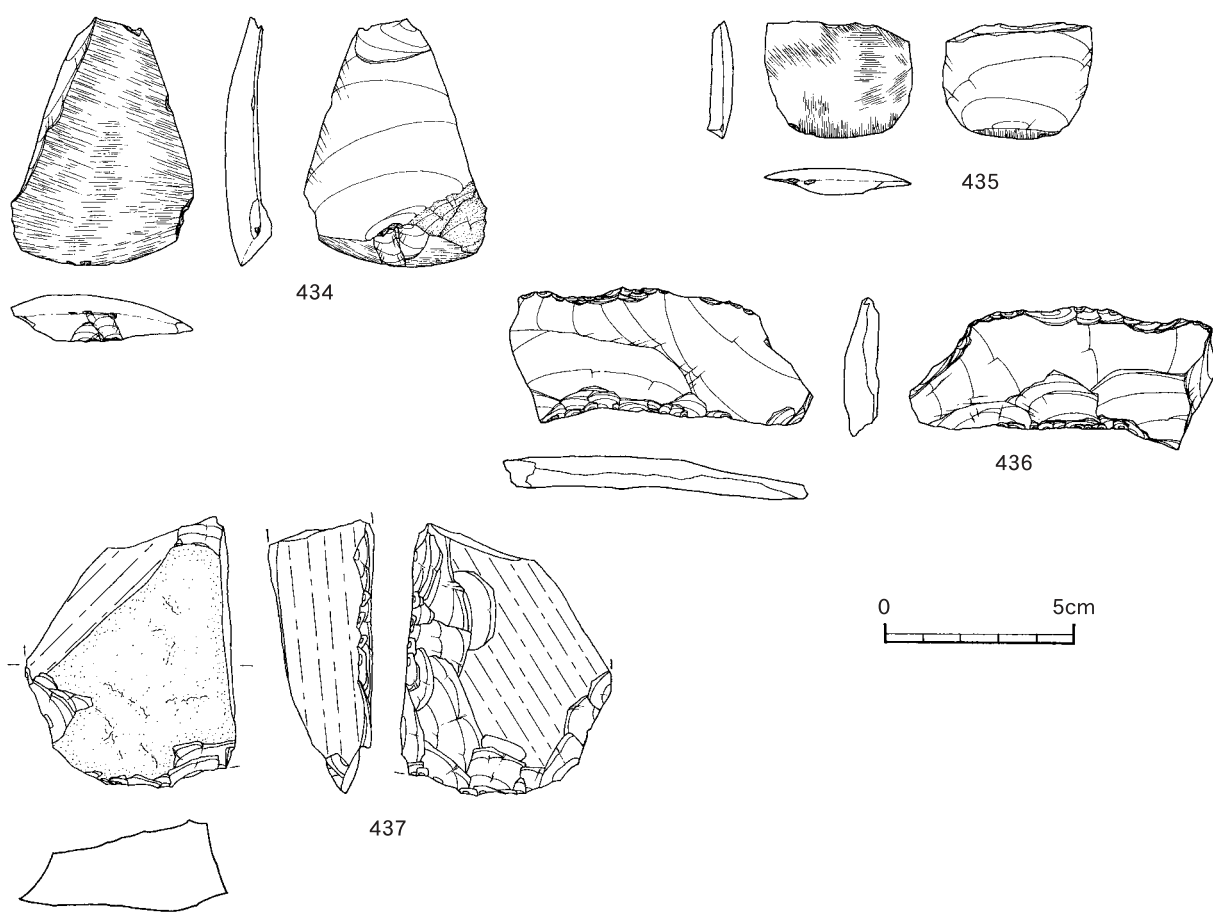
第49図 スクレイパー



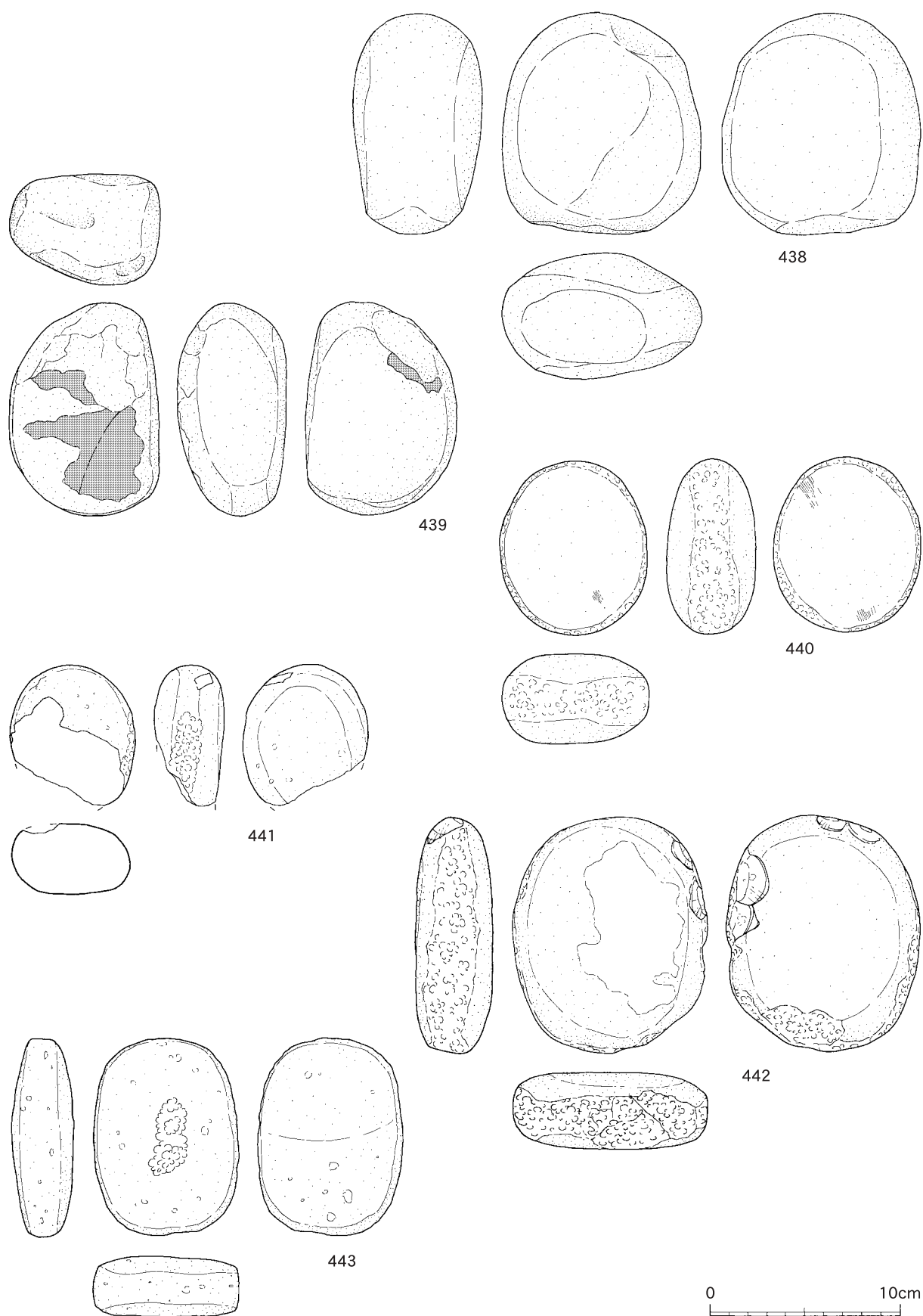
第50図 二次加工剥片・剥片



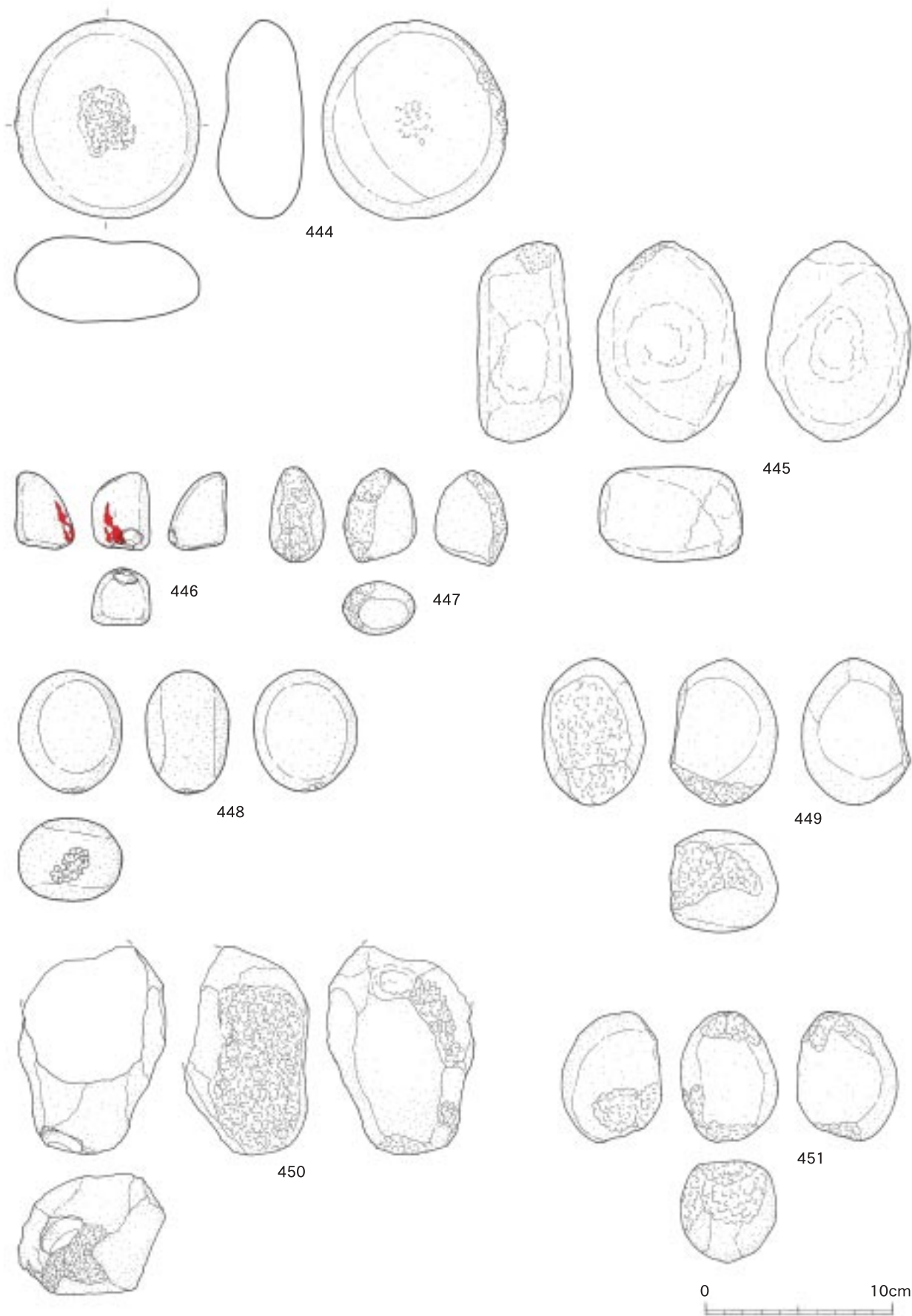
第51図 石斧



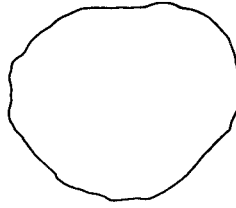
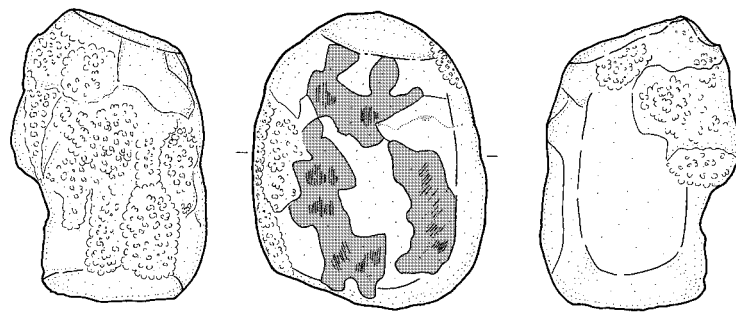
第52図 石斧・礫器



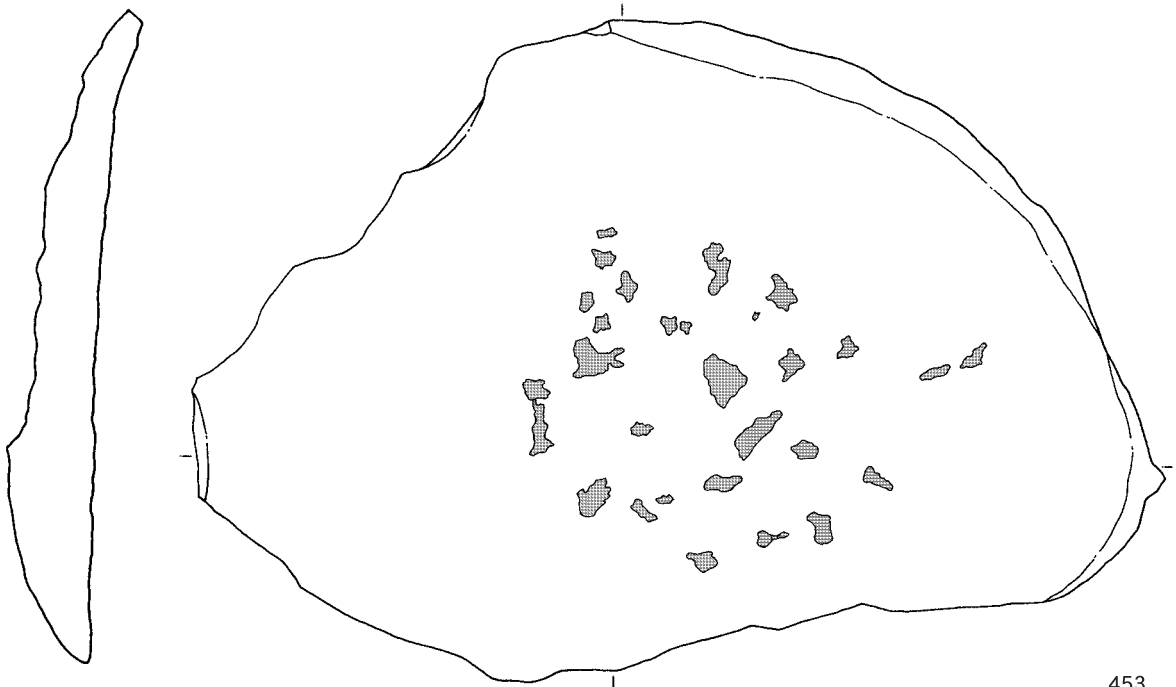
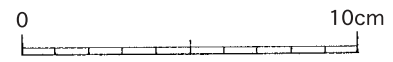
第53図 磨石・敲石



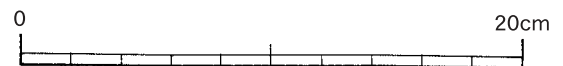
第54図 磨石・敲石



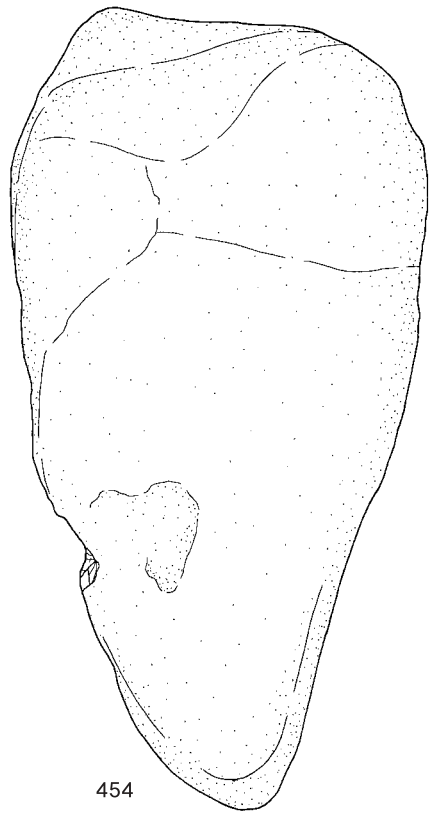
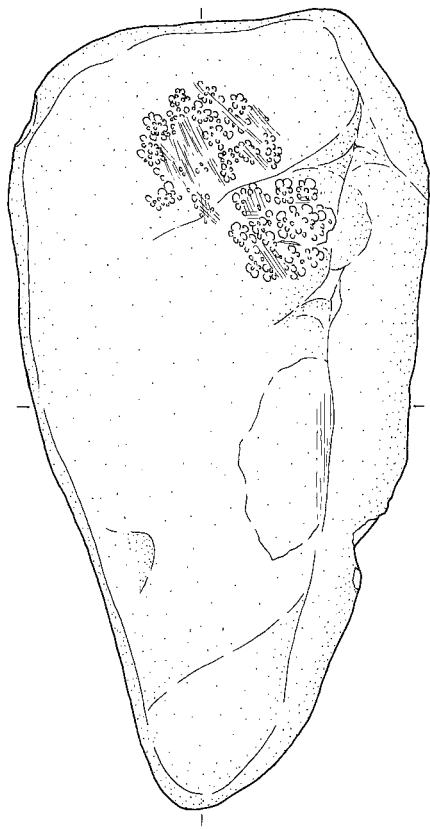
452



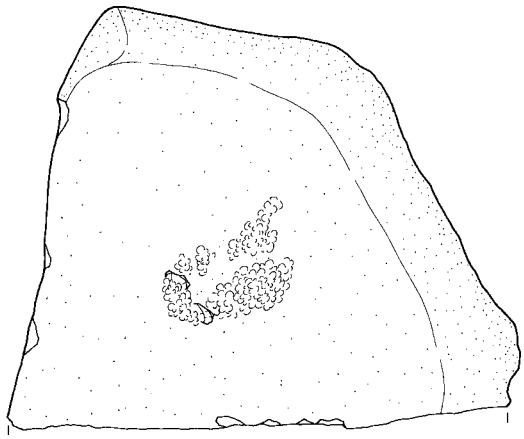
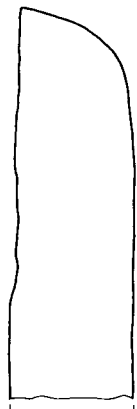
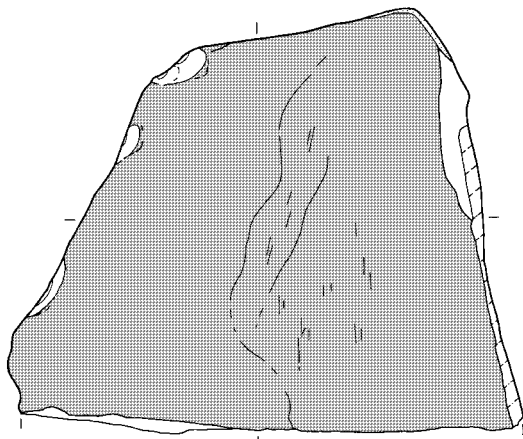
453



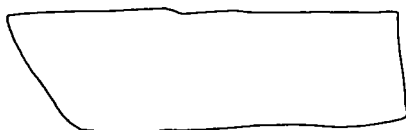
第55図 磨石・敲石・石皿



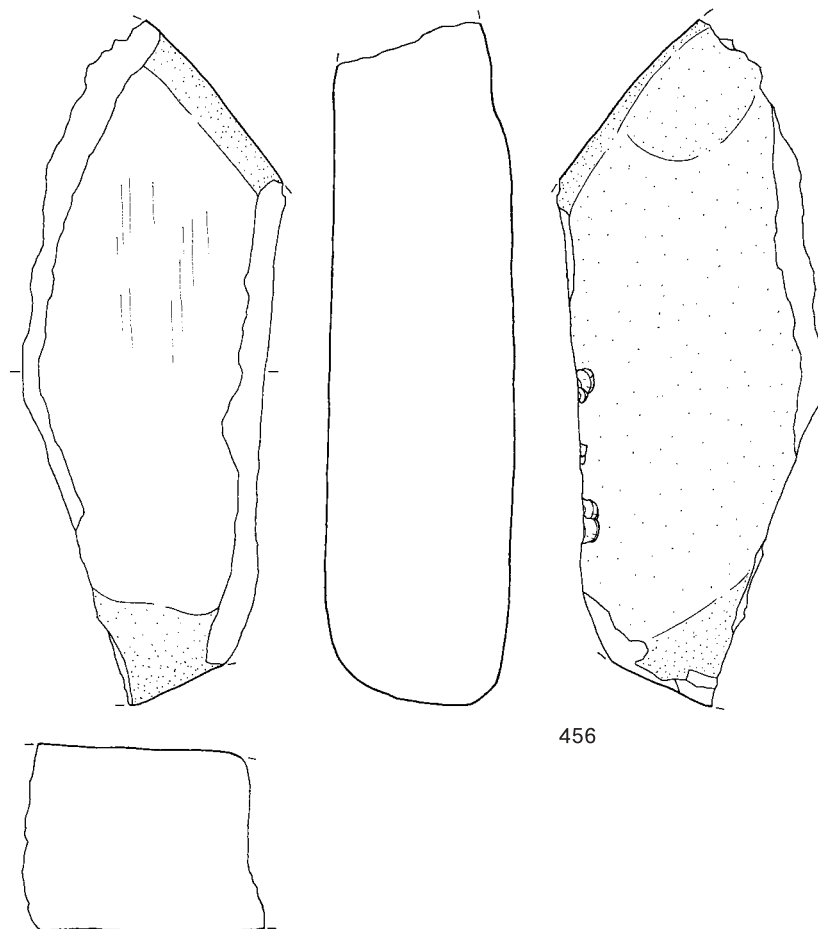
454



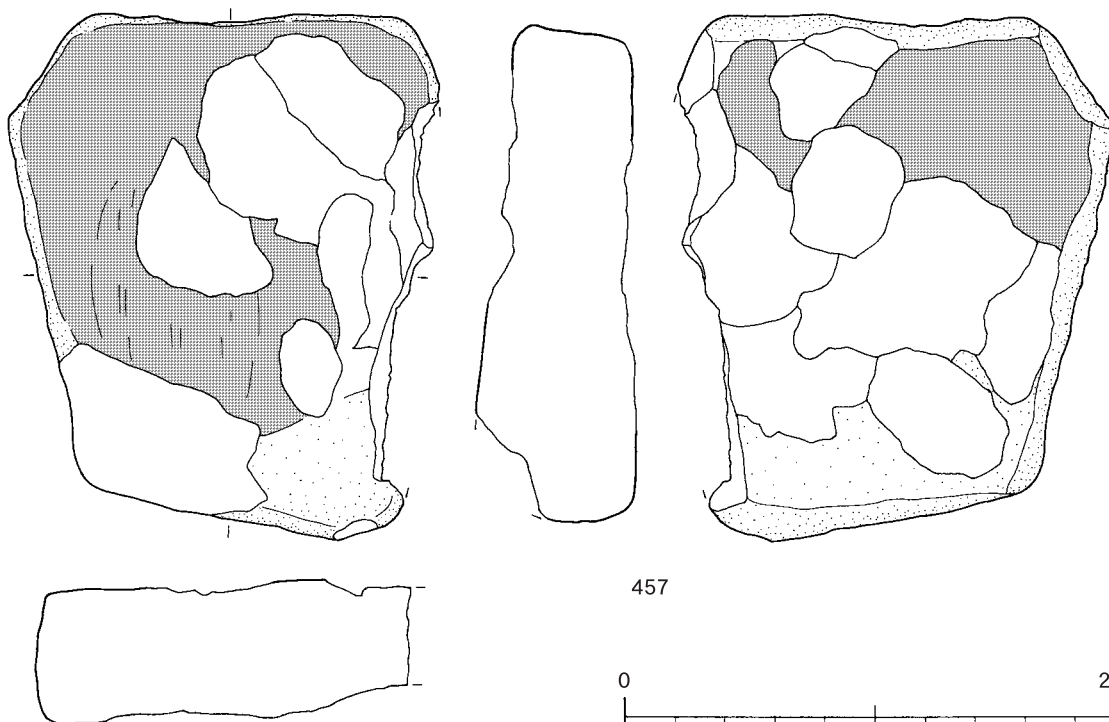
455



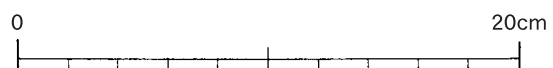
第56図 石皿



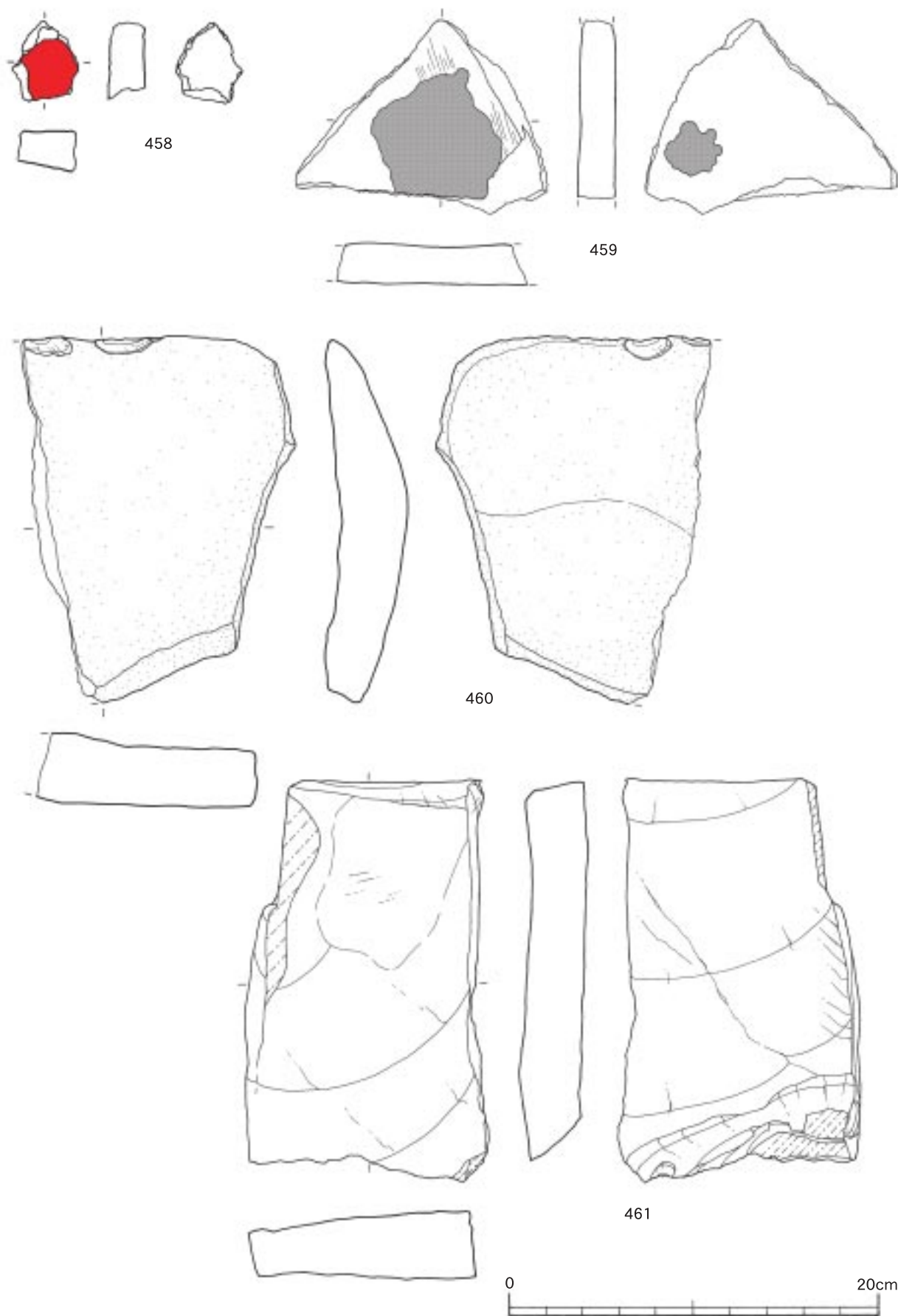
456



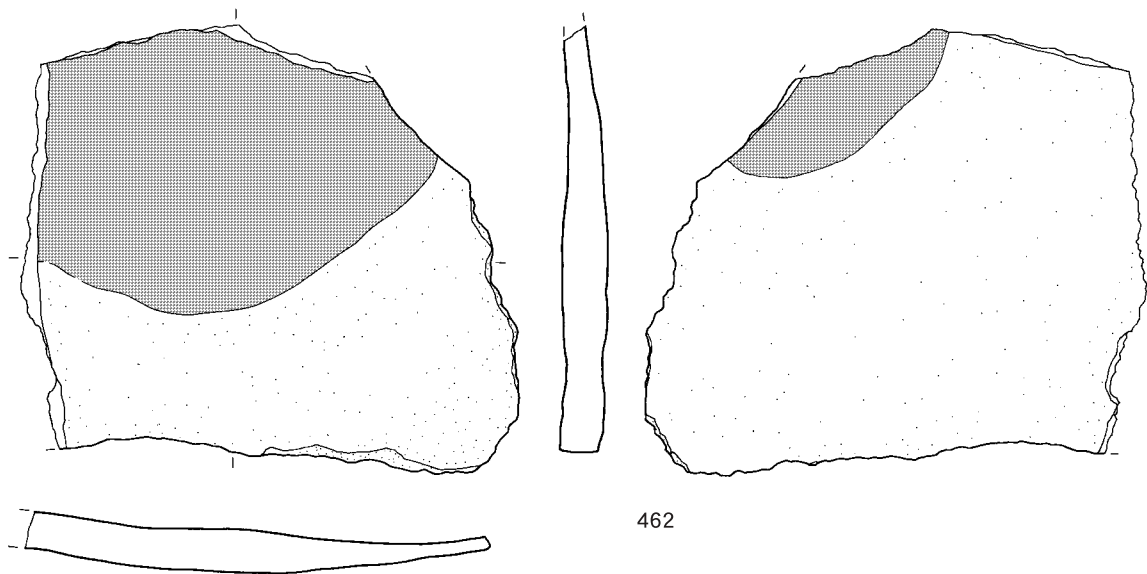
457



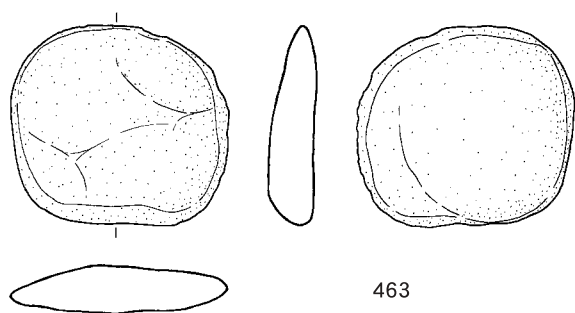
第57図 石皿



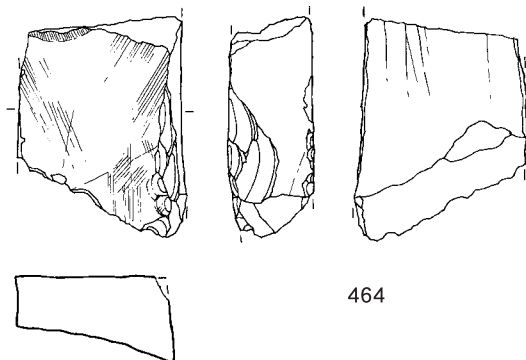
第58図 石皿



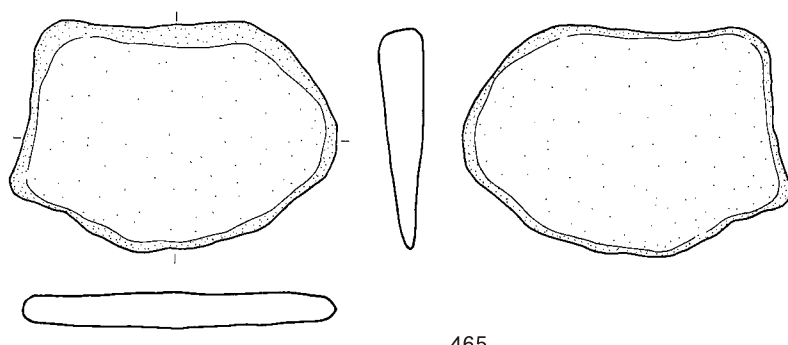
462



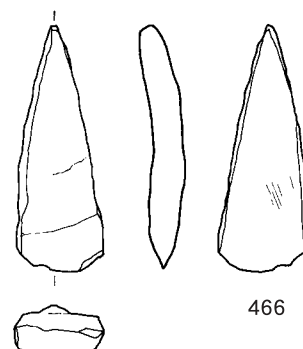
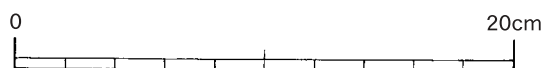
463



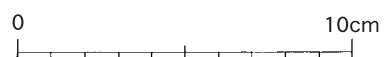
464



465



466



第59図 石皿・その他

第23表 縄文時代石器観察表 1

挿図	番号	出土区	層	遺物番号	器種	石材	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
18	37		道跡	一括	石皿	砂岩	15.70	11.10	5.10	1280.00	道跡内、一部赤化
45	370	G - 8		2862	打製石鏃	チャート(灰色)	1.20	1.10	0.30	0.24	一部欠損
	371	G - 6		2681	打製石鏃	チャート(灰色)	1.40	1.20	0.30	0.40	一部欠損, えぐりなし
	372	F - 6		3149	打製石鏃	チャート(灰色)	1.40	1.30	0.40	0.47	えぐりなし
	373	E - 6		4839	打製石鏃	三船系黒曜石	1.30	1.10	0.35	0.31	一部欠損
	374	E - 6		3197	打製石鏃	チャート(灰色)	1.75	1.40	0.40	0.83	一部自然面, えぐりなし
	375	G - 4		2677	打製石鏃	珪質頁岩	1.20	1.50	0.40	0.40	一部欠損, 浅いえぐり
	376	G - 8	下	600	打製石鏃	上牛鼻系黒曜石	0.90	1.30	0.20	0.23	先端欠損, 浅いえぐり
	377	E - 6		4044	打製石鏃	珪質頁岩	1.10	1.40	0.40	0.30	先端欠損, 浅いえぐり
	378	D - 13	a	1141	打製石鏃	針尾系黒曜石	0.95	0.90	0.30	0.15	欠損, 先端のみ
	379	F - 6		4015	打製石鏃	チャート(灰色)	1.90	1.60	0.45	0.90	浅いえぐり
	380	G - 8		500	打製石鏃	上牛鼻系黒曜石	1.90	1.50	0.40	1.01	えぐりあり
	381	D - 12	a下	360	打製石鏃	腰岳系黒曜石	1.90	1.60	0.40	1.53	えぐりあり
	382	E - 12		48	打製石鏃	上牛鼻系黒曜石	1.30	1.45	0.30	0.37	先端再生, えぐりあり
	383	G - 5		1812	打製石鏃	三船系黒曜石	2.00	1.50	0.30	0.42	一部欠損, 角あり, V字状えぐり
	384	E - 6		3700	打製石鏃	針尾系黒曜石	2.05	1.30	0.40	0.69	鋸歯状, えぐりあり
	385	G - 8		615	打製石鏃	黒色安山岩	1.60	1.10	0.30	0.36	一部鋸歯状, 深いV字状えぐり
	386	D - 13		1400	打製石鏃	チャート(褐色)	1.80	1.50	0.40	0.55	深いV字状えぐり
	387	G - 8	下	570	打製石鏃	上牛鼻系黒曜石	2.20	1.60	0.35	1.10	先端・脚部欠損, 深いU字状えぐり
	388	F - 9	上	423	打製石鏃	上牛鼻系黒曜石	1.90	1.50	0.50	0.85	脚部欠損, 深いU字状えぐり
	389	D - 13		1238	打製石鏃	珪質頁岩	2.40	1.80	0.60	1.33	深いU字状えぐり
46	390	E - 6		6400	打製石鏃	針尾系黒曜石	2.20	2.00	0.40	1.13	深いU字状えぐり
	391	E - 11		6300	打製石鏃	頁岩	3.40	1.80	0.50	1.62	深いV字状えぐり
	392	E - 10		6545	打製石鏃	頁岩	3.00	1.50	0.50	1.32	脚部欠損, えぐりあり
	393	E - 6		4000	打製石鏃	タンパク石	3.50	1.60	0.40	1.65	木の葉状, V字状えぐり
	394	D - 12	下	735	打製石鏃	珪質頁岩	2.30	1.20	0.30	0.79	木の葉状, 浅いえぐり
	395	E - 6		3200	打製石鏃	珪質頁岩	2.60	1.70	0.50	2.02	木の葉状, 浅いえぐり
	396	E - 10		6267	打製石鏃	上牛鼻系黒曜石	1.80	1.90	0.70	2.07	未完成品
	397	F - 10		5736	石匙	珪質頁岩	2.70	3.90	1.00	5.49	横型
	398	E - 6	a	3111	石匙	硬質頁岩	2.50	3.00	6.00	4.30	欠損, 先端のみ
	399	E - 6		4283	調整剥片	チャート(灰色)	2.10	2.15	0.60	1.77	石鏃未製品?
	400	G - 4		1701	ピエスエスキュー	上牛鼻系黒曜石	1.90	2.30	0.80	2.83	彫器の可能性あり
	401	F - 5		2400	ピエスエスキュー	上牛鼻系黒曜石	1.80	1.70	0.70	1.42	
47	402	G - 5		1800	石槍	ホルンフェルス	10.70	4.60	2.10	89.63	
	403	H - 8		581	石槍	砂岩	7.50	6.00	2.30	116.44	
	404	G - 5		1860	石槍	頁岩	8.50	4.30	1.00	34.87	一部自然面
	405	D - 13	a	1333	スクレイパー	オパール	5.70	6.20	1.30	18.33	
	406	E - 6		6843	スクレイパー	頁岩	6.18	7.38	1.20	50.52	一部摺理面
48	407	H - 8		70	スクレイパー	硬質頁岩	8.50	6.80	1.60	110.39	
	408	G - 3	下	1602	スクレイパー	頁岩	7.50	4.80	1.40	55.36	一部自然面
	409	E - 6	下	6500	スクレイパー	タンパク石	5.10	3.90	0.60	10.25	一部自然面
	410	1T・G - 9		10265	スクレイパー	黒色安山岩	5.90	5.40	2.10	40.61	一部自然面
49	411	F - 6		2285	スクレイパー	頁岩	7.00	6.20	2.20	89.55	
	412	F - 10		7402	スクレイパー	頁岩	6.60	5.30	1.60	60.71	
	413	F - 6		7935	スクレイパー	頁岩	9.80	5.60	1.40	80.42	一部自然面
	414	D - 6		一括	スクレイパー	チャート(黒色)	3.50	2.50	1.10	8.95	
50	415	E - 6		5089	使用痕剥片	玉髄	2.60	2.70	0.70	4.69	一部摩耗あり
	416	D - 6	下	一括	使用痕剥片	玉髄(瑪瑙)	3.50	5.00	1.50	23.94	一部自然面
	417	F - 6		2300	使用痕剥片	上牛鼻系黒曜石	4.10	5.10	2.00	26.46	一部自然面
	418	F - 11		5968	使用痕剥片	ホルンフェルス	3.20	10.20	1.10	32.83	ナイフ状, 一部自然面
	419	E - 6		4100	使用痕剥片	タンパク石	2.70	2.00	0.90	4.88	台形状, 一部摩耗あり
	420	E - 6		4536	使用痕剥片	タンパク石	2.60	3.20	1.30	8.00	一部摩耗あり
	421	E - 6		6751	使用痕剥片	桑ノ木水流系黒曜石	2.00	1.40	0.30	1.11	表面摩耗, 折れ2か所
	422	F - 6		8009	使用痕剥片	三船系黒曜石	2.10	1.70	0.70	2.65	表面摩耗, 全周折れ
	423	F - 6		8357	使用痕剥片	上牛鼻系黒曜石	1.80	2.30	1.00	3.56	表面摩耗, 折れ2か所
	424	F - 6		8027	使用痕剥片	チャート(黒色)	6.40	4.10	0.70	21.74	ナイフ状
	425	E - 6		5353	剥片	凝灰岩	2.80	1.40	0.40	1.28	ナイフ状, 一部自然面
	426	E - 6		4078	剥片	三船系黒曜石	2.10	2.80	0.80	4.80	コア再生剥片, 被熱
	427	G - 8		607	剥片	鉄石英	2.20	3.10	0.80	3.54	折れあり, 一部2次加工

第24表 縄文時代石器観察表 2

挿図	番号	出土区	層	遺物番号	器種	石材	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
51	428 E - 6			2964	打製石斧	頁岩	(8 .70)	9 .10	4 .10	370 .00	破損, 先端のみ
	429 G - 3	下		1500	打製石斧	ホルンフェルス	9 .00	4 .90	1 .90	116 .03	石斧未製品
	430 G - 5			1869	打製石斧	ホルンフェルス	9 .50	4 .30	2 .90	157 .45	破損, 石斧未製品
	431 E - 6			6850	局部磨製石斧	頁岩	9 .70	4 .50	1 .90	115 .53	先端一部破損
	432 F - 6			8316	局部磨製石斧	頁岩	8 .50	4 .40	0 .90	51 .07	先端破損
	433 E - 6			7301	局部磨製石斧	頁岩	(4 .80)	4 .20	1 .70	33 .69	破損, 先端のみ
52	434 E - 6			7911	磨製石斧	泥岩	6 .60	4 .80	1 .20	33 .84	破損, 先端のみ
	435 E - 11			6306	磨製石斧	泥岩	(3 .10)	(3 .90)	(0 .70)	10 .31	破損, 先端のみ
	436 F - 6			7609	石鎌	頁岩	8 .10	3 .70	0 .90	30 .61	
	437 E - 6			6461	礫器	ホルンフェルス	7 .30	6 .10	2 .90	108 .66	一部自然面
53	438 D - 6			一括	磨石	安山岩	11 .60	10 .50	6 .70	1185 .00	半月状
	439 D - 6			一括	磨石	砂岩	11 .20	7 .90	5 .80	760 .00	半月状
	440 E - 12			410	磨石	安山岩	9 .10	7 .70	4 .75	508 .00	
	441 F - 6			4667	磨石	安山岩	7 .30	6 .60	3 .70	167 .50	
	442 F - 9	下		434	磨石・敲石	安山斑岩	12 .30	10 .20	4 .00	830 .00	石鱗状
	443 H - 4			1702	磨石	安山岩	10 .30	7 .70	3 .30	365 .00	石鱗状
54	444 G - 7			2082	凹石・敲石	凝灰岩	10 .60	9 .90	4 .60	575 .00	
	445 E - 6			6430	凹石・敲石	砂岩	10 .60	7 .70	5 .10	625 .00	
	446 E - 6			4323	敲石(パンチ)	砂岩	4 .10	3 .10	3 .10	347 .00	赤色顔料, スス付着
	447 F - 4			1724	敲石(パンチ)	砂岩	5 .10	4 .00	2 .90	63 .30	
	448 G - 5			1820	敲石(パンチ)	安山岩	6 .50	5 .50	4 .40	229 .02	
	449 F - 6			8305	敲石(パンチ)	安山岩	7 .70	5 .80	5 .50	337 .40	
	450 F - 6			7994	敲石(パンチ)	砂岩	11 .10	7 .80	6 .40	670 .00	茶褐色の付着物
	451 E - 6			7806	敲石(パンチ)	安山岩	6 .90	5 .25	5 .45	280 .00	
55	452 D - 11	下		1475	磨石・敲石	砂岩	26 .70	39 .00	4 .50	5020 .00	453とセットで出土
	453 D - 11	下		1474	石皿	花崗岩	8 .90	7 .00	5 .90	475 .00	452とセットで出土
56	454 F - 3			1574	石皿	砂岩	32 .10	16 .80	5 .10	2990 .00	
	455 D - 5			6192	石皿	砂岩	16 .60	20 .60	5 .00	2740 .00	
57	456 E - 11			7496	石皿	安山斑岩	27 .90	10 .60	7 .50	3280 .00	
	457 F - 6	下		6731	石皿	安山斑岩	21 .10	17 .35	6 .40	3450 .00	被熱によるはじけ多数
58	458 E - 6			5308	石皿	安山斑岩	4 .37	3 .46	2 .25	38 .97	赤色顔料付着
	459 1T・G - 9			10470	石皿	安山斑岩	10 .40	13 .70	2 .10	345 .00	
	460			一括	石皿	花崗岩	19 .80	15 .00	3 .80	1480 .00	
	461 F - 10			7428	石皿	砂岩	21 .80	13 .20	3 .95	1850 .00	
59	462 D - 12	下		773	石皿(パレット状)	安山斑岩	17 .90	20 .00	1 .90	920 .00	
	463 E - 6			6902	石皿(パレット状)	安山斑岩	8 .00	8 .80	1 .80	188 .70	
	464 E - 6			8294	石皿(パレット状)	安山斑岩	9 .20	13 .20	1 .90	273 .78	
	465 F - 4			1677	砥石	凝灰岩(白色)	8 .75	6 .80	3 .40	217 .40	
	466 G - 9			674	へら状石器	砂岩	7 .30	2 .60	1 .40	24 .30	一部摩耗あり
図版 38	ア D - 6		一括		原石(大)	砂岩	33 .50	31 .00	15 .00	20600 .00	摩耗や敲打痕はない
	イ 表採		表		原石(小)	花崗岩	18 .00	14 .00	9 .00	2520 .00	結晶粒が大きい石
	ウ D - 6		一括		ペットストーン	安山岩	5 .80	4 .50	1 .40	21 .69	粉っぽい肌色の平小石
	エ 1T・G - 9			10366	ペットストーン	砂岩	2 .30	2 .10	2 .30	13 .99	丸い球状の小石
	オ E - 6			5590	ペットストーン	砂岩	2 .30	1 .20	1 .30	5 .58	赤褐色の紡錘状の小石
	カ E - 6			4727	ペットストーン	砂岩	3 .90	2 .50	0 .90	13 .47	黄褐色の平小石

第5節 弥生・古墳時代以降の調査

弥生時代と古墳時代の遺物包含層は、 層であるが、下位の層に落ち込みで出土した物もある。遺構は近世の物も含めて、土器集中遺構1基・土坑8基・溝状遺構4条・ピット3基が確認された。

遺物は、縄文時代に比べて出土量が少なく149点にすぎない。確認調査と取り付け道路建設の際出土した物が大半で、台地上の縁辺部で出土している。取り付け道路での出土量が多いため、この時期の遺跡の主体も、台地上の未発掘区域にあるものと考えられる。土器は、弥生時代の山ノ口式土器数点と古墳時代の成川式土器が出土している。また、古代の土師器2点も出土している。なお、石器については、確実に時代を特定できる物は出土していない。

(1) 遺構

① 土器集中遺構（F－8区）

表土直下の a 層中に暗黄褐色の落ち込みがあり、そこに成川式の土器片が集中していた。この落ち込みは土坑の可能性があるが、F－8区一帯が削平を受けているため残存率がわずかで、詳細は不明である。土器に共伴する木炭の分析結果は、 2180 ± 40 yrBPであった。約500年もの隔たりがあることから、この遺構は、土器とは別の時代に成立した可能性が高い。

467～469は、成川式の甕形土器である。胎土や焼成等の状況から同一個体と思われる。外面には炭化物が付着している。

② 土坑

a 層上面で7基、横転内で1基検出された。埋土が 層と 層に分かれるが、記録がまちまちであるため、一括して掲載した。個々の規模等については、観察表を参照されたい。

1号土坑（D－13区）

a 層上面で検出された。埋土は 層である。平面形や断面形も長方形に近い。遺構内遺物は、甕形土器の底部470gが出土している。このことから、時期は古墳時代初頭と考えられる。

2号土坑（D－13区）

埋土は 層で、平面形は片方のすばまった楕円形をしている。深さも一定でなく、底は北西方向に入り込んでいる。

3号土坑（D－13区）

埋土は 層で、平面形はやや崩れた長楕円形をしている。深さも一定でなく、南側が一段低い。

4号土坑（D－13区）

埋土は 層で、平面形は円形である。断面形はバケツ状である。

5号土坑（E－10・11区）

埋土は 層で、平面形は楕円形をしている。断面形は皿状である。

6号土坑（E－10区）

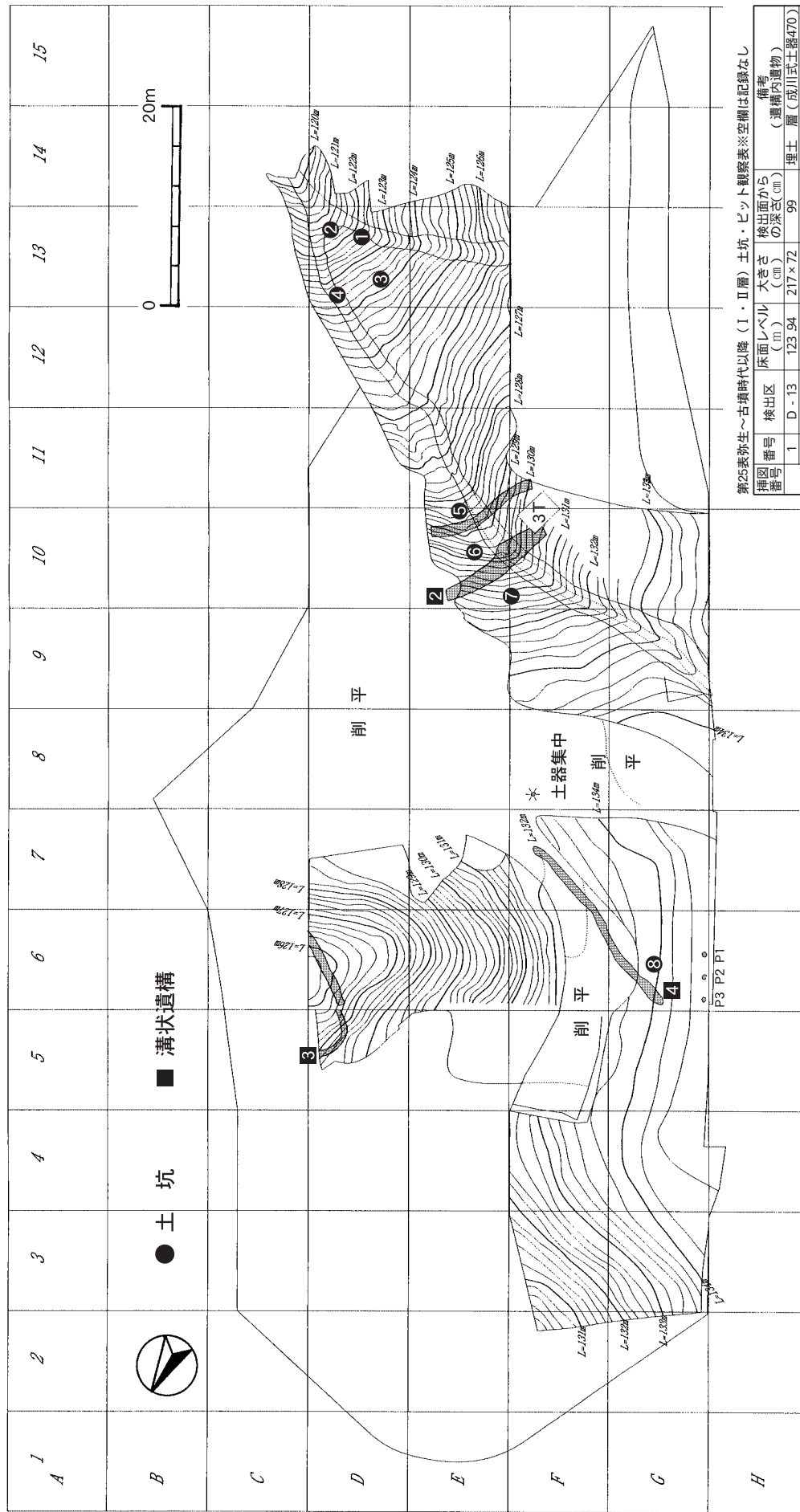
埋土は 層で、平面形は東側がややすばまった楕円形をしている。断面形は皿状である。

7号土坑（F－9・10区）

埋土は記録がないが、平面形はやや崩れた長方形をしている。

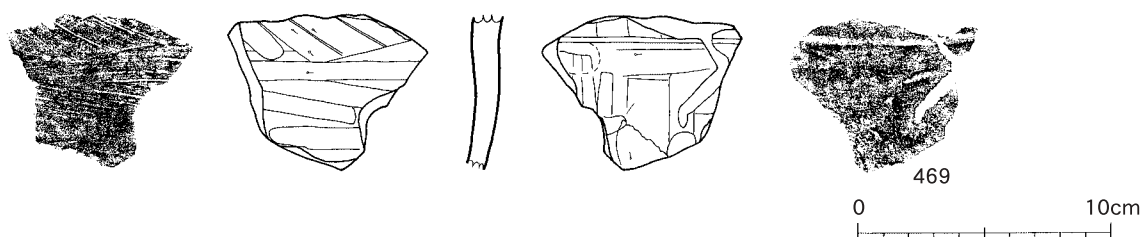
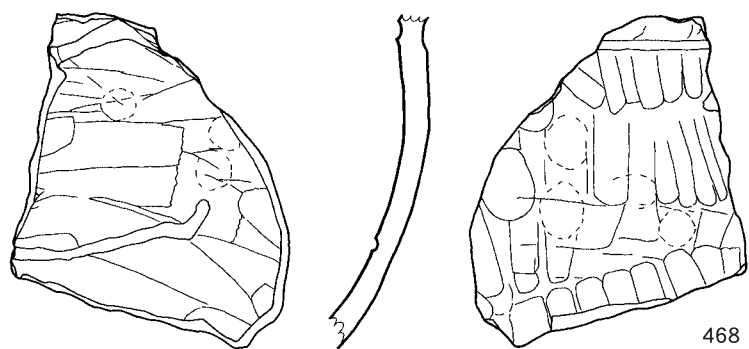
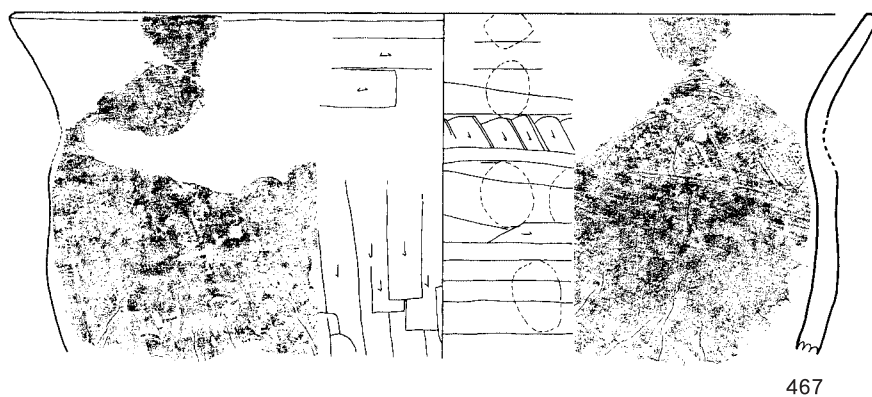
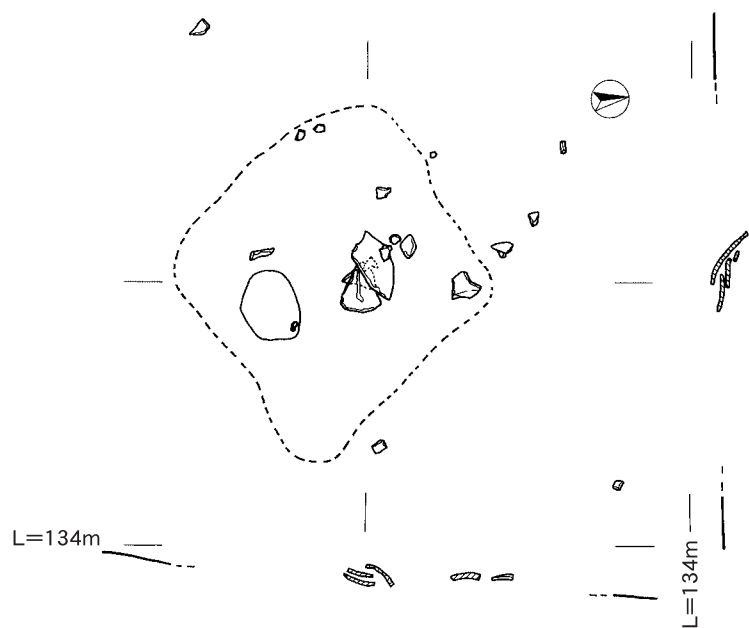
8号土坑（G－6区）

埋土は記録がないが、平面形はやや崩れた長方形をしている。

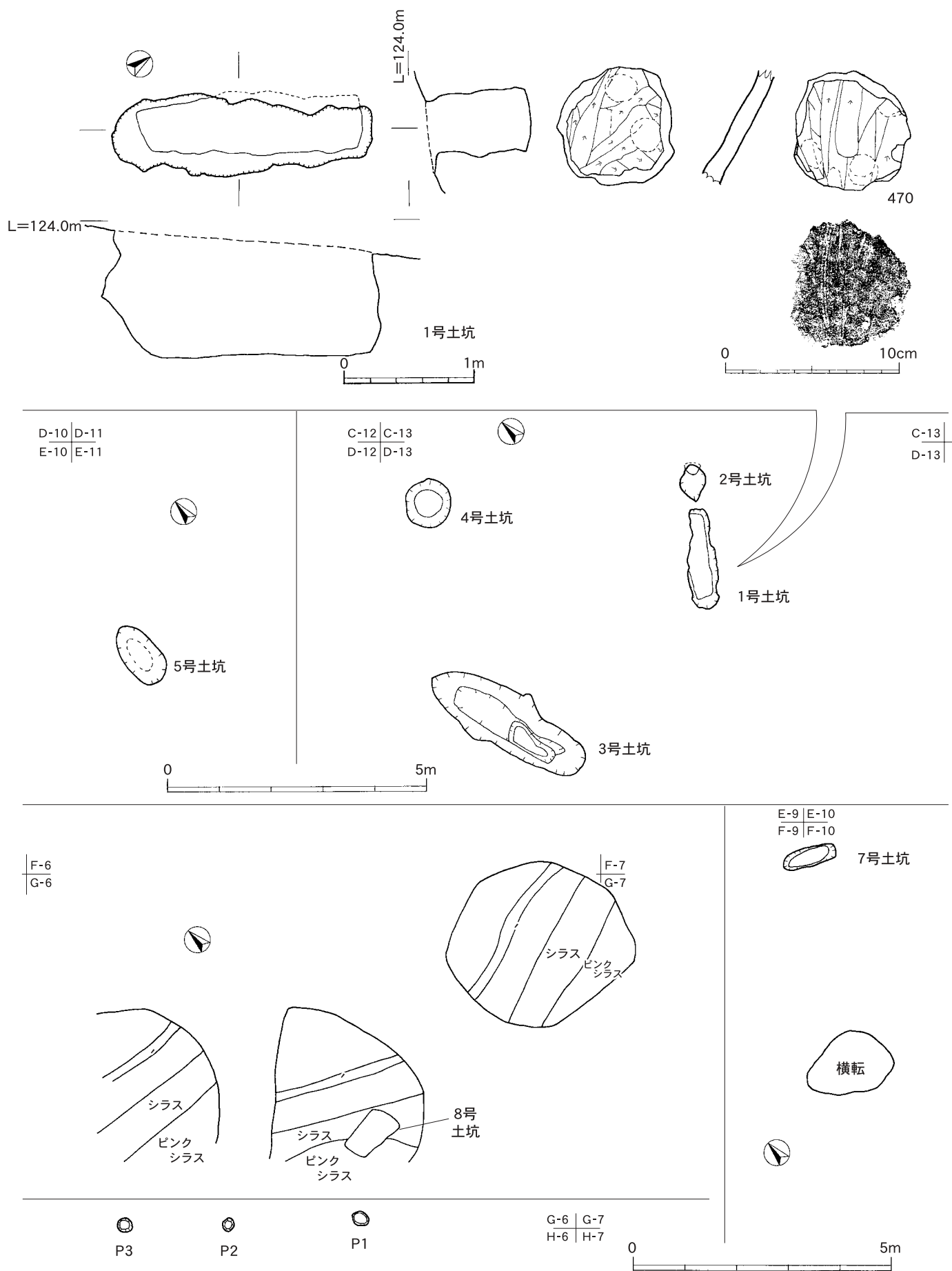


コンターは 層上面

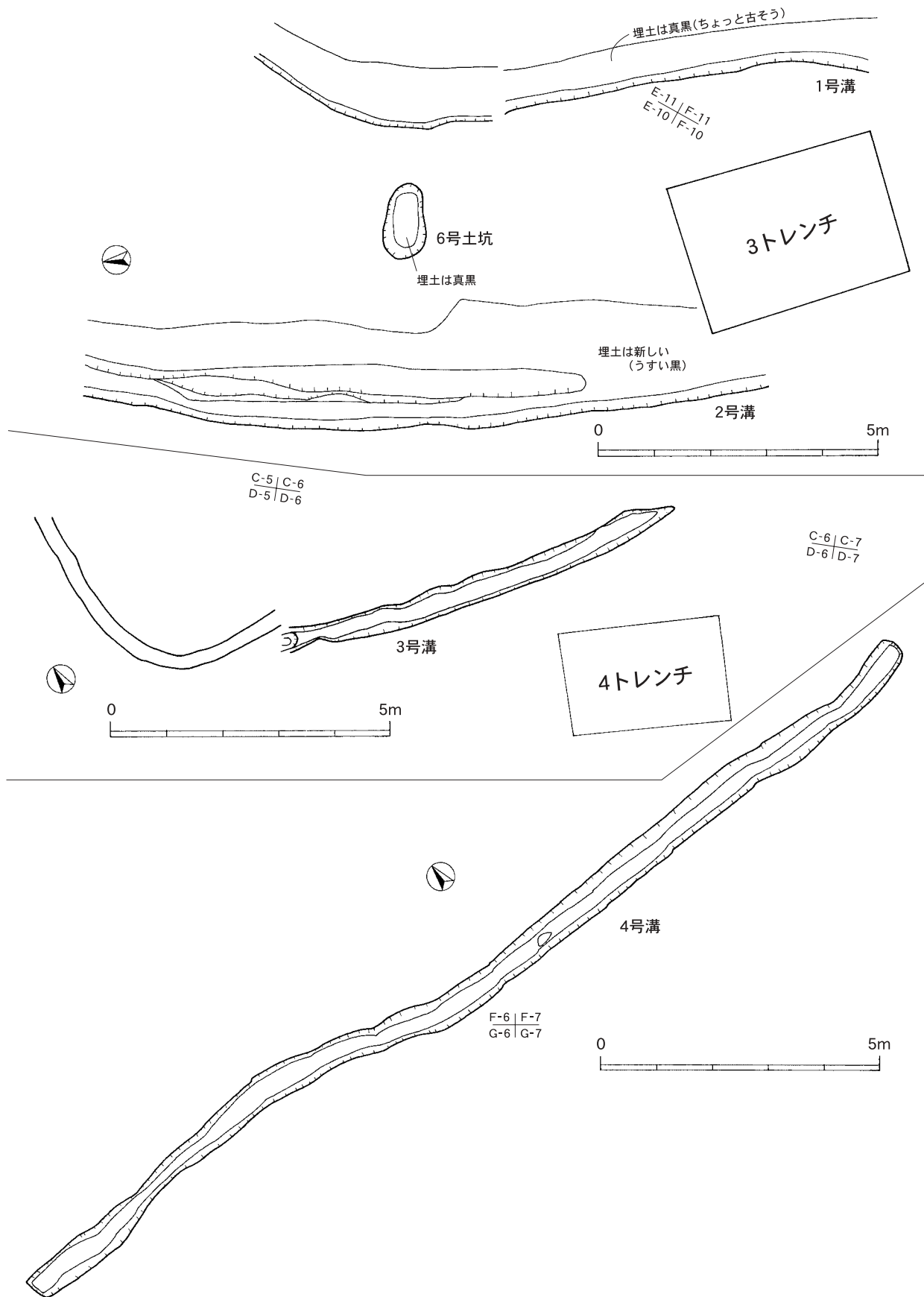
第60図 弥生時代以降遺構分布図



第61図 弥生時代以降の遺構（土器集中遺構1）



第62図 弥生時代以降の遺構（土坑）



第63図 弥生時代以降の遺構（溝状遺構）

③ ピット（G - 6区）

P 1 ～ 3 は， 層上面で検出された。埋土の記録がなく時期が不明なため，ここに掲載する。個々の規模等については，観察表を参照されたい。並んでいるように見えるが，目的は不明である。

④ 溝状遺構

層上面で4条検出された。埋土が 層と 層に分かれるが，記録がまちまちであるため，一括して掲載した。

1号溝状遺構（E - 10区，E・F - 11区）

埋土は 層で，調査前の地形に沿って形成されている。2号より時期が古いものと思われる。

2号溝状遺構（E・F - 10区）

埋土は 層で，調査前の地形に沿って形成されている。1号より時期が新しいものと思われる。

3号溝状遺構（D - 5・6区）

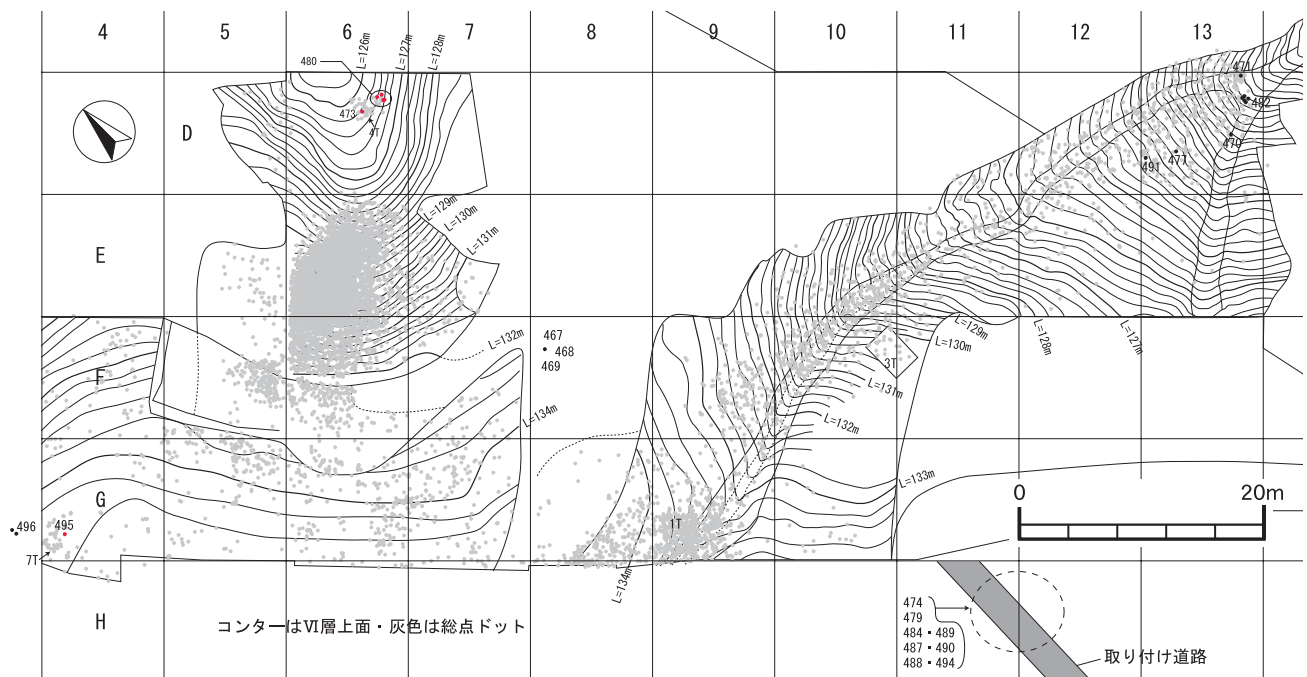
埋土は 層である。調査時の記録では，D - 5・6区の境界付近で不連続になっているが，あえて修正はしていない。実際は，つながっていたと思われるが，土地の境界か排水に関する施設ではないかと考えられる。

4号溝状遺構（F・G - 6区，F - 7区）

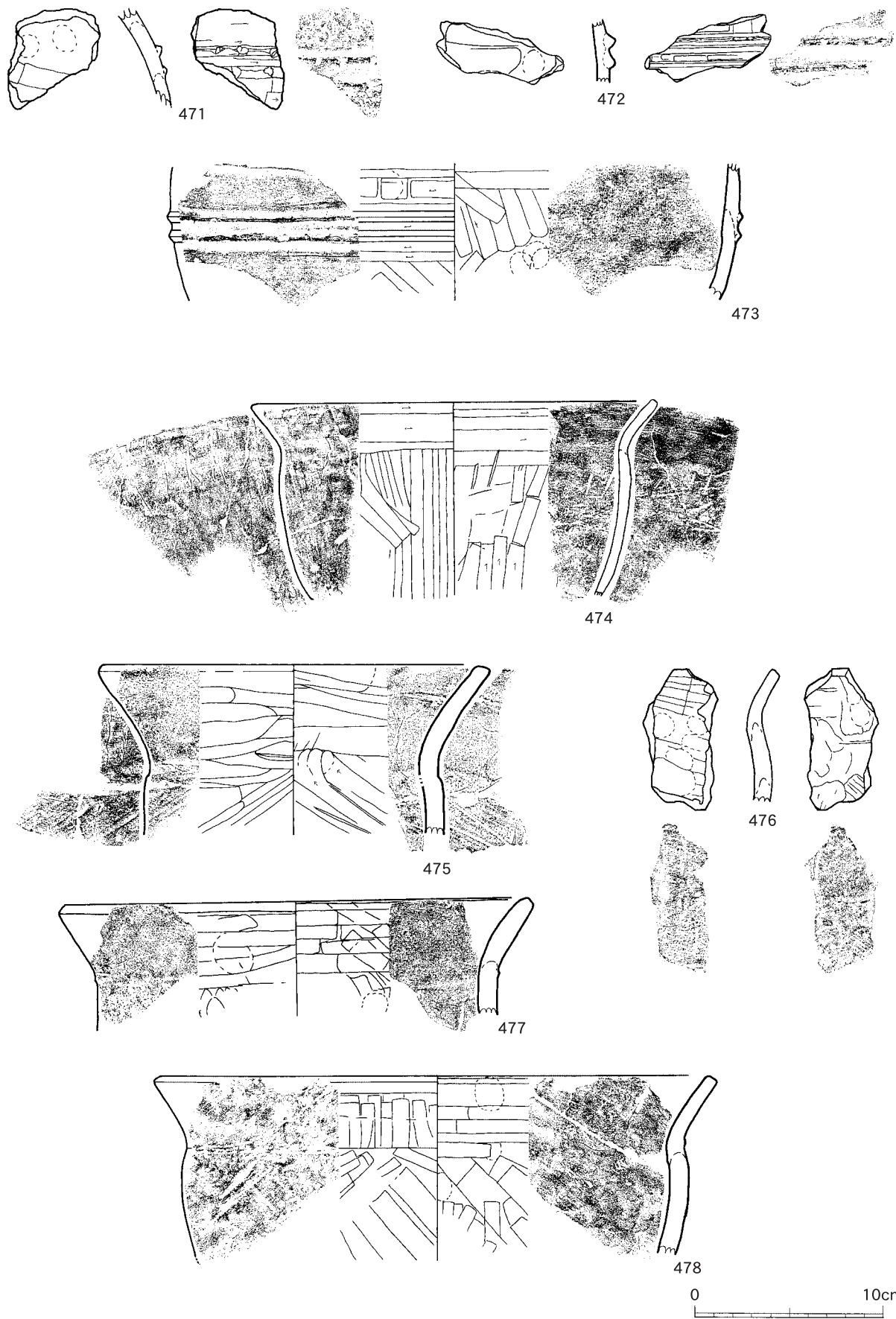
埋土は 層で，調査前の地表の状況から，近世の耕作地造成の際に形成されたことは確実である。段の下に沿って作られていることから，土地の境界か排水に関する施設ではないかと思われる。

(2) 遺物

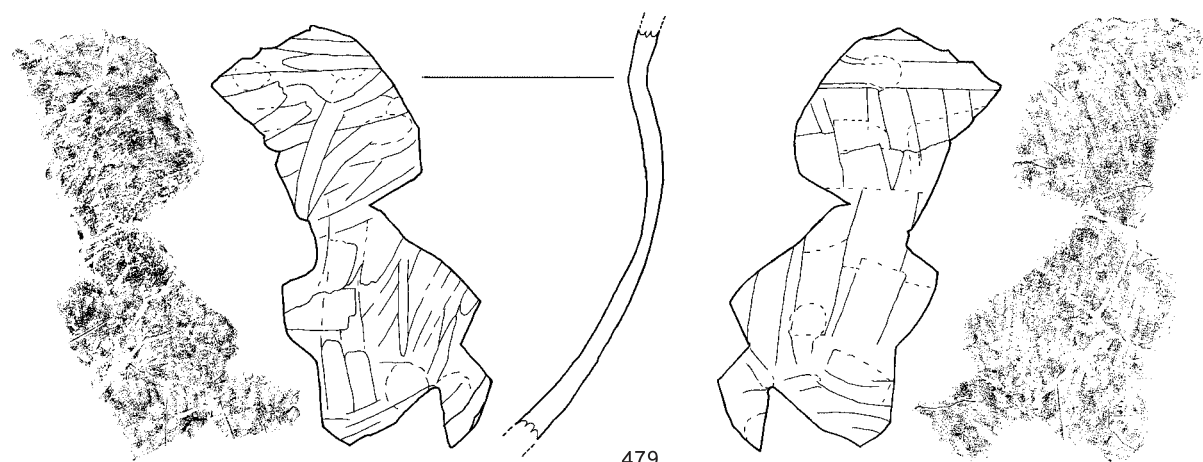
遺物は土器片と炭化物等が出土した。出土した層は 層が大部分であるが，若干 a層出土のものも含まれる。時代は弥生時代から奈良時代までにまたがるが，数が少ないため一括して掲載する。なお，詳細は，土器観察表を参照されたい。



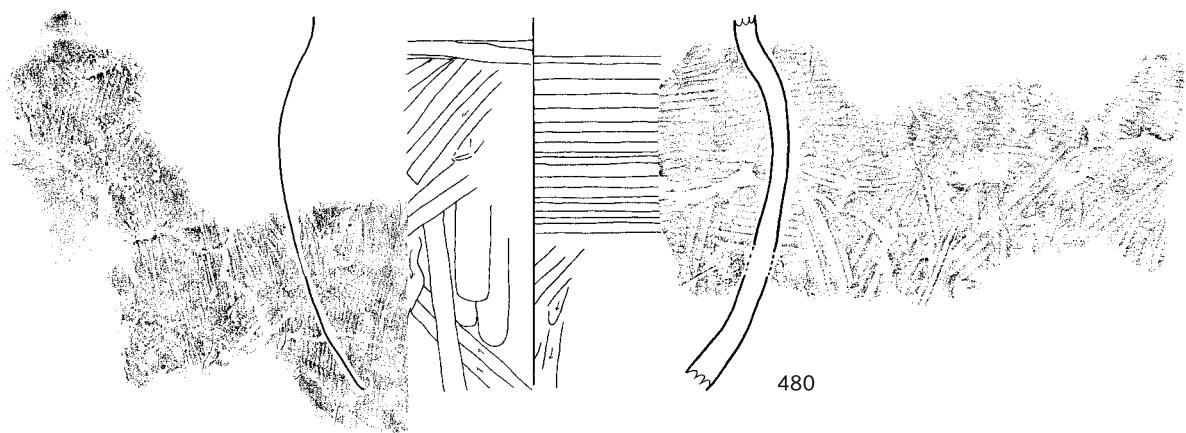
第64図 弥生時代以降の出土遺物分布状況図



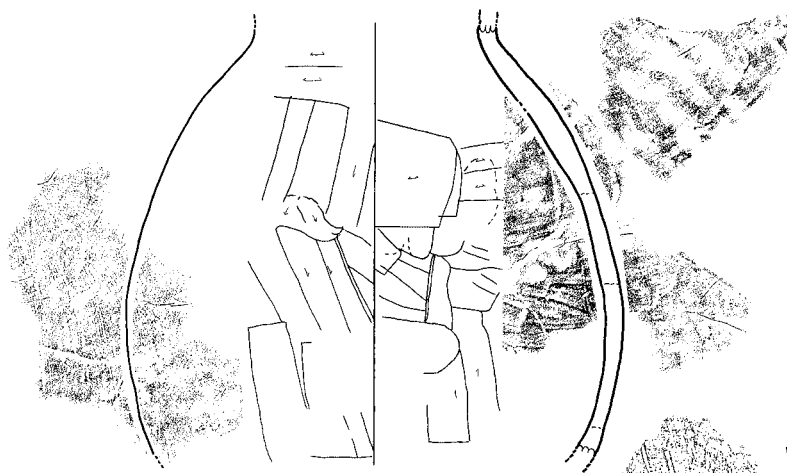
第65図 弥生時代・古墳時代の遺物



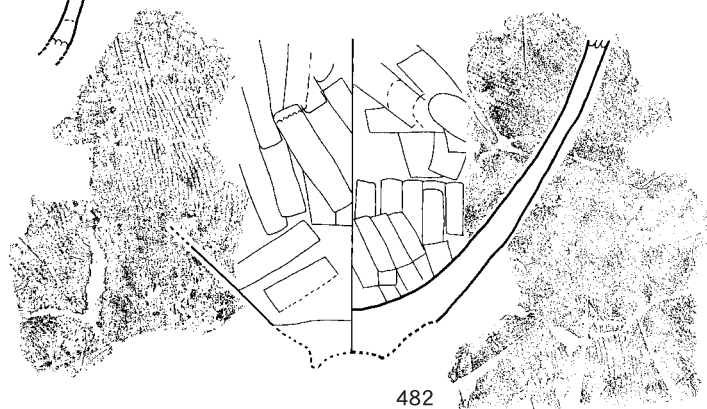
479



480



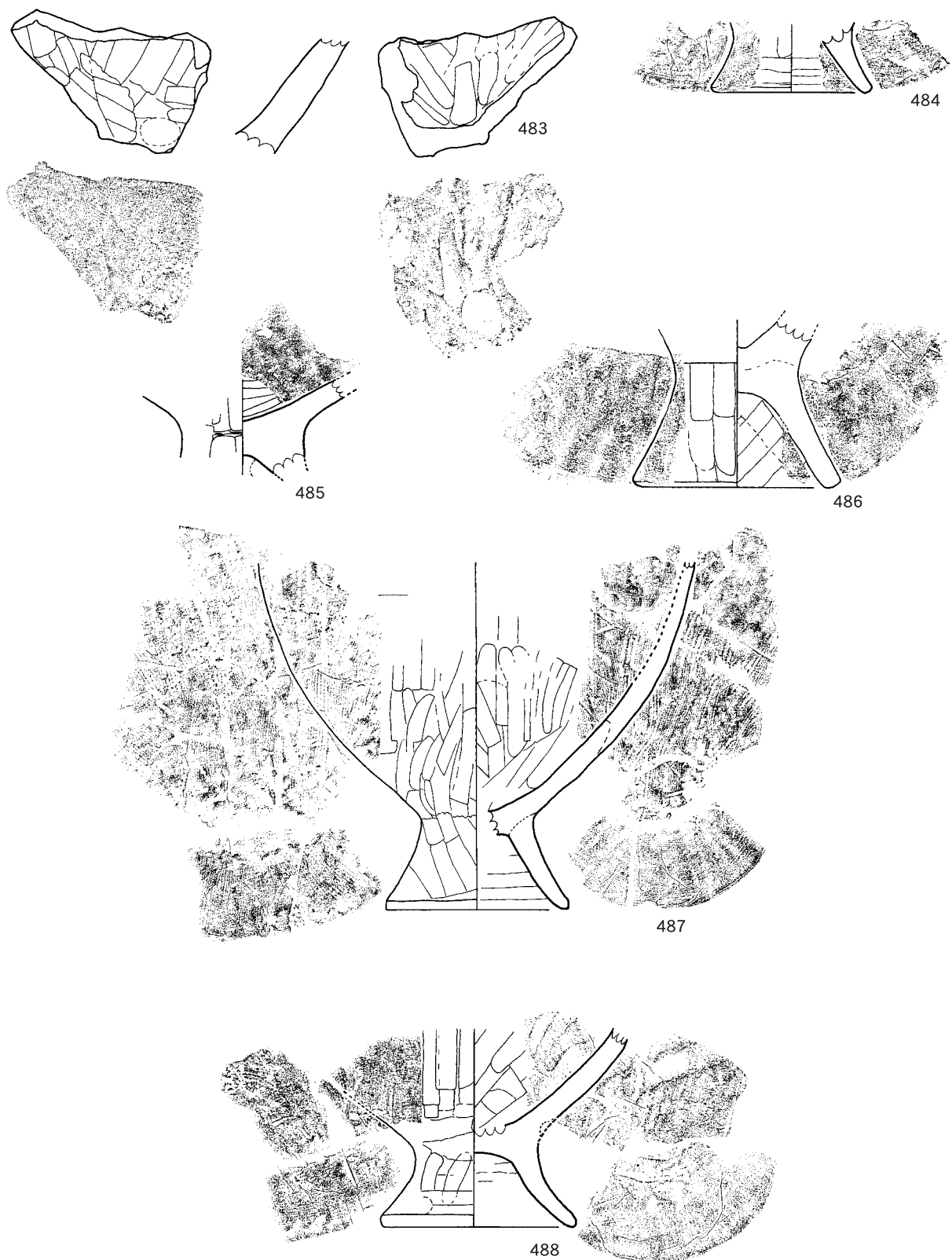
481



482

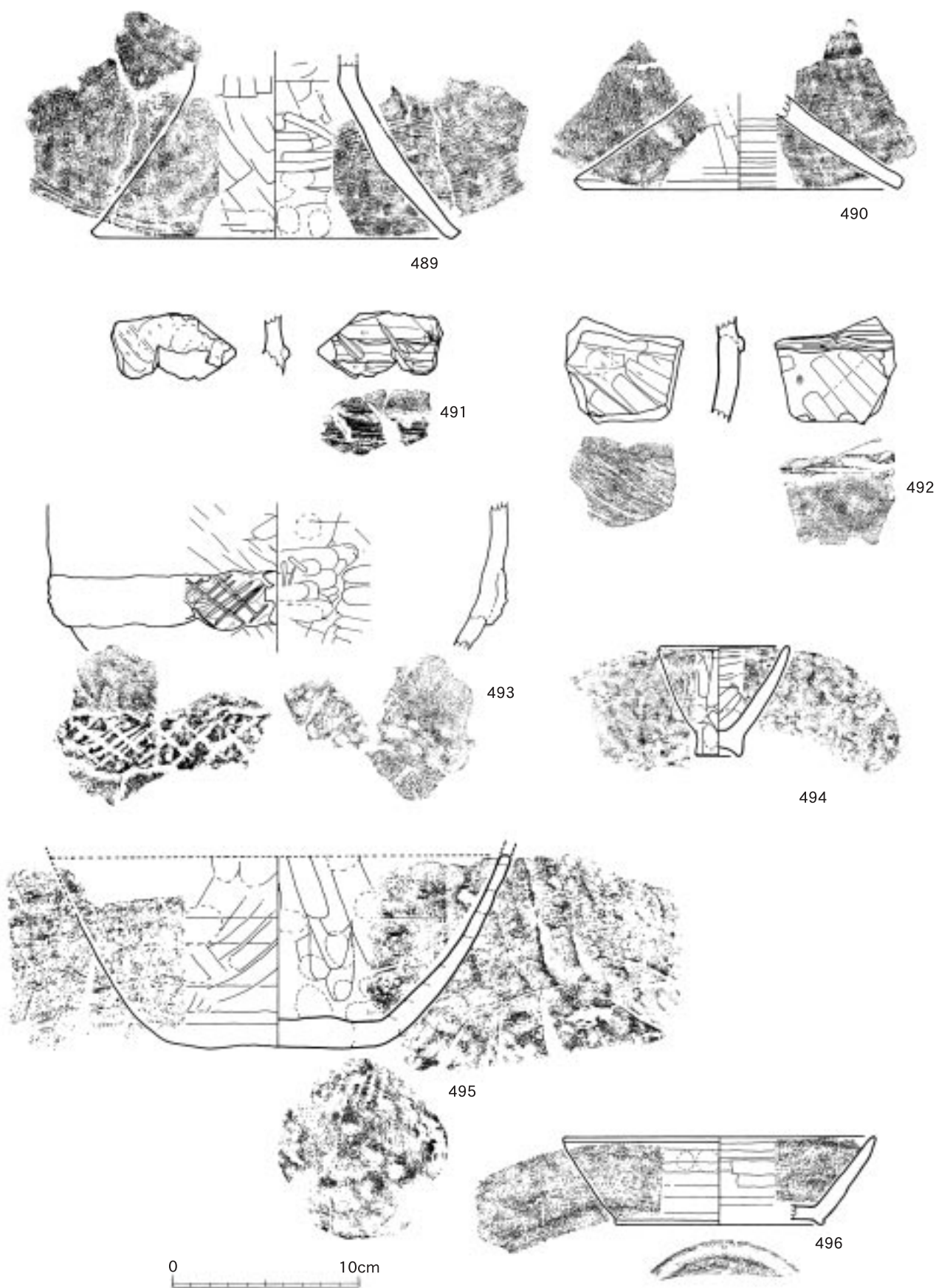
0 10cm

第66図 古墳時代の遺物



0 10cm

第67図 古墳時代の遺物



第68図 古墳時代と古代の遺物

土器

弥生時代の土器は、471～473の3点を図化した。いずれも2条の三角突帯を持つ。山ノ口式土器に分類される。

古墳時代の土器は、474～494の21点を図化した。成川式土器に分類される。ほとんどが甕形土器であるが、481は壺形土器の胴部、489・490は高坏の脚部である。491～493は刻目突帯が施される。494は手捏ねの小形土器で、底部を上にした形で出土した。

飛鳥時代の土師器495が出土している。埋設土器の可能性はあるが、掘り込みは確認できなかった。元は壺であった物が、破損後、底部を鍋に転用したようである。破断面が摩耗しており、外面には炭化物が多量に付着している。その分析結果は、1360±38yrBPであった。

奈良時代の土師器496が出土している。高台付の坏で、やや大型の物である。記録では、層出土となっているが、樹根による落ち込みであろう。

その他の遺物

表採品の一部を、図版43に掲載したので参照されたい。青磁や黒薩摩・10銭銅貨などが出土している。これらは、遺跡本来の包含層から流出した物の他に、農作業等によって、外部から持ち込まれた物の可能性もある。

第26表 弥生時代以降の土器観察表

挿図番号	番号	注記番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼成	備考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石英	長石	雲母	角閃	その他		
61	467	土器集中	土器集中 F-8	a	成川系(中津野?)	深鉢	口縁-胴	ヘラナデ	ヘラ&指ナデ, 指跡		2 5YR 6/8 橙-5 YR1 7/1 黒	10YR 5/8 赤-2 5 YR1 7/1 黒	○	○			白(凝灰岩)-赤粒, 礫(白 5 mm 大), 砂(粒 2 mm 大位のものもある)は少なめだが礫が所々入る, ハガレは樹根によるもの	良	
	468	土器集中 8, 18	土器集中 F-8	a	成川	深鉢	頸-胴	ケズリ, ナデ	ヘラケズリ, ナデ		2 5YR 4/6 赤褐-2 5YR 2/1 赤黒	2 5YR 5/8 明赤褐	○	○			礫(灰・赤), 砂は少なめ	良	469と同一個体
	469	土器集中 9	土器集中 F-8	a	成川	深鉢	頸-胴	ケズリ, ナデ	ヘラケズリ, ナデ		2 5YR 4/6 赤褐-2 5YR 2/1 赤黒	2 5YR 5/8 明赤褐	○	○			礫(灰・赤), 砂は少なめ	良	468と同一個体
62	470		D-13	土抗 ₁	成川	深鉢	底部	ヘラケズリ, ナデ, ハケ目状	ケズリ, ナデ		7 5YR 6/4 にぶい橙	5 YR 6/4 にぶい橙	○	○			粒(白・黒・灰), 礫(黒・白・灰), 砂は多い	良	1号土坑内
65	471	1181	D-13	a	山ノ口	壺	胴	ナデ, キザミ目突帯2条	ナデ		10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙	○	○		○	粒(白・黒・赤), 礫(赤・黒), 砂は普通	普通	
	472	2235	G-6		山ノ口	深鉢	胴	ナデ, 突帯2条	ナデ		5 YR 7/6 橙-5 YR 4/2 灰褐	2 5YR 6/8 橙	○	○			粒(白・黒・赤), 小礫(赤・白), 砂はやや少なめ	良	
	473	280	D-6 (4T)		山ノ口式?	深鉢?	胴	ヘラ&指ナデ横位突帯2(三角断面)	指ナデ		5 YR 7/6 橙-7 5 YR 4/2 灰褐	5 YR 7/8 橙-5/3 にぶい赤褐	○	○		○	白(凝灰岩系)-黄土8(凝灰岩系)-赤・黒(黒曜石)粒, 砂は普通	良	
	474				取付道路	成川系(中津野?)	深鉢(カメ)	口縁-胴	ナデ, ヘラミガキ	ケズリ, ヘラミガキ, 口縁部内ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙-3/1 黒褐	7 5YR 5/2 灰褐-2/1 黒	○	○			赤・灰(凝灰岩系)-白(凝灰岩系)粒, 礫(赤・灰), 砂は少なめ	普通	やや粉っぽい胎土
	475	1074 1076 1094 1107 1186 1139	D-13	a	成川	深鉢	口縁-胴	ヘラケズリ, ナデ	ヘラケズリ, ナデ		2 5YR 5/6 明赤褐-7 5YR 7/6 橙	7 5YR 8/6 浅黄橙-7 5YR 5/2 灰褐	○	○			粒(白・黒), 礫(砂岩少し), 砂は普通	良	
	476	2148	G-7		樹根	成川	深鉢	口縁-胴	ヘラケズリ, ナデ, ハケ目状	ケズリ, ナデ	7 5YR 7/6 橙	7 5YR 7/6 橙		○			粒(白・黒), 砂は少ない	普通	
	477	1222	D-13	a	成川	深鉢	口縁	ヘラケズリ, ナデ	ヘラケズリ, ナデ		7 5YR 7/6 橙	7 5YR 7/6 橙	○	○			粒(白・黒), 砂は少なめ	普通	

第27表 弥生時代以降の土器観察表

挿図番号	番号	注記番号	区	層	類別	器種	部位	調整・文様			色 調		胎 土					焼成	備 考
								外 面	内 面	口唇部	外 面	内 面	石英	長石	雲母	角閃	その他		
65	478	1469	E - 13		成川	深鉢	口縁	ヘラケズリ, ナデ	ヘラケズリ, ナデ		5 YR 7 / 6 橙	7.5 YR 7 / 4 にぶい橙 ~ 7.5 YR 6 / 4 にぶい橙	○	○			粒(白・黒), 礫(灰1コ), 砂はやや少なめ	良	
66	479				成川	深鉢	胴	ケズリ後ナデ	ケズリ, ナデ		5 YR 5 / 6 明赤褐 ~ 5 YR 6 / 3 にぶい橙	10 YR 6 / 4 にぶい黄橙 ~ 10 YR 2 / 1 黒	○	○			粒(黒・赤・白(少し)), 砂は普通	良	
	480	一括 275 270 272 271 269	D - 6 (4T) 表	a	成川	カメ?	胴	ケズリ, ヘラミガキ(ハケ目状), ナデ	ケズリ後ヘラミガキ		10 YR 5 / 8 赤 ~ 7.5 YR 4 / 1 褐灰	10 YR 5 / 8 赤 ~ 7.5 YR 3 / 1 黒褐	○	○			赤・黒(光らない)・白(砂岩)粒, 礫(5mm大)・白(砂岩), 砂は少なめ	良	
	481			a	成川	壺	頸~胴	ナデ, ヘラミガキ(ハケ目状)	ケズリ, ヘラミガキ, ナデ		5 YR 7 / 6 橙 ~ 4 / 2 灰褐	2.5 YR 7 / 8 橙 ~ 3 / 1 暗赤灰	○	○			白(凝灰岩系)・黒(にぶく光る)・赤粒(礫), 砂は少ない	良	やや粉っぽい粘土
	482	1043 1170 1041 1198 1171 1041	D - 13	a	成川	深鉢	胴~底	ヘラケズリ, ハケ目, ナデ	ヘラケズリ, ナデ		7.5 YR 7 / 6 橙 ~ 7.5 YR 7 / 4 にぶい橙	7.5 YR 5 / 4 にぶい褐 ~ 7.5 YR 2 / 1 黒	○	○			黒曜石, 粒(白・黒・赤), 砂は多い	良	
67	483		表		成川	深鉢	底部	ヘラケズリ, ナデ, ハケ目	ケズリ, ナデ		7.5 YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 7.5 YR 3 / 1 黒褐	7.5 YR 6 / 4 にぶい橙 ~ 7.5 YR 3 / 1 黒褐	○	○			粒(黒・白・赤・灰), 礫(灰・赤), 砂は普通	良	
	484		取付道路		成川	深鉢	脚部	ナデ	ナデ		5 YR 6 / 6 橙 ~ 5 YR 5 / 2 灰褐	5 YR 3 / 2 暗赤褐	○	○			粒(白・赤・黒), 砂は普通	良	
	485	5950	E - 10		成川	深鉢	底部	ヘラケズリ	ナデ		5 YR 7 / 6 橙	2.5 YR 7 / 8 橙	○	○			粒(白・赤・黒), 礫(白・赤・黒曜石・軽石), 砂は普通	良	
	486	一括	D - 13	a	成川	深鉢	脚部	ヘラケズリ	ナデ, ケズリ後ナデ		7.5 YR 7 / 6 橙	7.5 YR 6 / 4 にぶい橙	○	○			粒(白・黒), 砂は普通	良	
	487		取付道路		成川	深鉢	胴~脚	ヘラケズリ, ハケ目状	ヘラケズリ, ハケ目状		2.5 YR 5 / 6 明赤褐 ~ 7.5 YR 7 / 6 橙	5 YR 6 / 6 橙	○	○			粒(白・黒・赤・灰), 砂はやや少ない	良	
	488		取付道路		成川	深鉢	胴~脚	ヘラケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ		2.5 YR 5 / 6 明赤褐	2.5 YR 3 / 2 暗赤褐	○	○			粒(白・黒・赤), 砂は普通	良	
68	489		取付道路		成川	高坏	脚	ケズリ, ナデ, ハケ目状	ケズリ, ナデ, ハケ目状		2.5 YR 6 / 8 橙	2.5 YR 6 / 8 橙	○	○			粒(白・赤), 礫(赤・白)礫の大きいものがある	良	
	490		取付道路		成川	高坏	脚	ケズリ, ナデ, ハケ目状	ケズリ, ナデ, ハケ目状		2.5 YR 6 / 8 橙	2.5 YR 6 / 8 橙	○	○				良	
	491	1120 379	D - 13 D - 12	a	成川	壺	胴	ケズリ後ナデ, キザミ目突帯	ケズリ後ナデ		5 YR 7 / 8 橙	5 YR 4 / 2 灰褐	○	○			粒(赤・白・黒), 礫(白・赤)	良	
	492	137	G - 9		成川	壺	胴	ヘラケズリ, ナデ, キザミ目突帯	ケズリ, ナデ		7.5 YR 5 / 2 灰褐 ~ 7.5 YR 3 / 1 黒褐	7.5 YR 7 / 6 橙	○	○			粒(赤・白・黒), 礫(軽石・赤), 砂は少ない	良	
	493		表		成川	壺	胴	ナデ	ナデ		7.5 YR 7 / 4 にぶい橙 ~ 7.5 YR 4 / 1 褐灰	7.5 YR 6 / 3 にぶい橙	○	○			粒(白・黒(少々)), 砂は少ない	良	
	494		取付道路		成川	小型手づくね土器	完形	指押さえ, ナデ	指押さえ, ナデ		5 YR 6 / 6 橙 ~ 7.5 YR 7 / 4 にぶい橙	5 YR 6 / 6 橙	○	○			粒(白・赤・黒), 砂は普通	良	
	495	333	G - 4 (7T)		土師器	鉢? 壺の底部	底部	ケズリ後ナデ, ロクロの跡あり(横方向)	ケズリ後ナデ	破断面が摩耗している	7.5 YR 7 / 6 橙 ~ 7.5 YR 6 / 4 にぶい橙	7.5 YR 8 / 6 浅黄橙 ~ 7.5 YR 5 / 3 にぶい橙	○	○			粒(黒・白)砂は少ない, 精製された土	普通	¹⁴ C 測定1360 ± 40 飛鳥時代, ナベに転用か?, 外面に多量の炭化物
	496	1484 1482	G - 3		土師器	高台坏	完形	ロクロ, ケズリ, ナデ	ロクロ, ケズリ, ナデ		5 YR 7 / 6 橙 ~ 5 YR 6 / 6 橙	5 YR 7 / 6 橙 ~ 5 YR 6 / 6 橙	○				粒(白・赤・黒), 精製された土	良	奈良時代

第28表 古代土師器法量表

挿図番号	番号	注記番号	区	層	類別	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	高台高 (cm)
68	495	10333	G - 4 (7 T)		土師器	鉢?	底部	(25)	(10.5)	11	
	496	1482・1484	G - 3		土師器	高台: 坏	完形	16.8	4.8	11.3	0.3

第Ⅴ章 分析・同定

放射性炭素年代測定結果報告書

(AMS測定)

上山路山遺跡

(株) 加速器分析研究所

(1) 上山路山遺跡の位置

上山路山遺跡は、鹿児島県日置市伊集院町大田字上山路山（北緯31°37'03"，東経130°22'54"）に所在する。

(2) 遺跡の立地

遺跡は標高130mのシラス台地上に位置し、舌状台地の端部にあたり、その平坦面から続く緩斜面と谷を含んだ斜面から成る。旧石器時代、縄文時代早期・後期、古墳時代の複合遺跡である。

(3) 測定の意義

縄文時代早期の道跡の年代、縄文時代草創期から早期にかけての岩本式土器の年代、古墳時代の土器集中遺構の年代、年代不明の土器の年代を明らかにし、それらの性格を把握する基礎資料とする。

(4) 測定対象試料

測定対象となる試料は、F9区 層の道跡から出土した木炭（IAAA-60488）、F8区の古墳時代の土器集中遺構から出土した木炭（IAAA-60489）、F3区の 層下部から出土した岩本式土器の胴部内面に付着した炭化物（IAAA-60490）、G3区7T 層から出土した埋設土器の可能性のある土器の外面に付着した炭化物（IAAA-60491）各1点の合計4点である。試料は採取後、洗浄、乾燥され、フィルムケースあるいはプラスチックケースに保管されたものである。

(5) 化学処理工程

1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001～1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。その後、90℃で乾燥する。

3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加

熱する。

4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO_2) を精製する。

5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (還元) し、グラファイトを作製する。

6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

(6) 測定方法

測定機器は、3 MeV タンデム加速器をベースとした ^{14}C - AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9 SDH - 2) を使用する。134 個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定も同時に行う。

(7) 算出方法

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。

2) BP 年代値は、過去において大気中の炭素 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定された、1950 年を基準年として遡る放射性炭素年代である。

3) 付記した誤差は、次のように算出した。

複数回の測定値について、 χ^2 検定を行い測定値が 1 つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。

4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS 測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。

$\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰; パーミル) で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{A}_\text{S} - ^{14}\text{A}_\text{R}) / ^{14}\text{A}_\text{R}] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [(^{13}\text{A}_\text{S} - ^{13}\text{A}_\text{PDB}) / ^{13}\text{A}_\text{PDB}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 $^{14}\text{A}_\text{S}$: 試料炭素の ^{14}C 濃度: $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_\text{S}$ または $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_\text{S}$

$^{14}\text{A}_\text{R}$: 標準現代炭素の ^{14}C 濃度: $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_\text{R}$ または $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_\text{R}$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{A}_\text{S} = ^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、PDB (白亜紀のベレムナイト (矢石) 類の化石) の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰) であるとしたときの ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{A}_\text{N}$) に換算した

上で計算した値である。(1)式の ^{14}C 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}\text{A}_\text{N} = ^{14}\text{A}_\text{S} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000))^2 \quad (^{14}\text{A}_\text{S} \text{として} ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= ^{14}\text{A}_\text{S} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000)) \quad (^{14}\text{A}_\text{S} \text{として} ^{14}\text{C}/^{13}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{A}_\text{N} - ^{14}\text{A}_\text{R}) / ^{14}\text{A}_\text{R}] \times 1000 (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的良好でその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC}/100 - 1) \times 1000 (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C}/10 + 100 (\%)$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age ; yrBP) が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C}/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC}/100)$$

5) ^{14}C 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示する。

(8) 測定結果

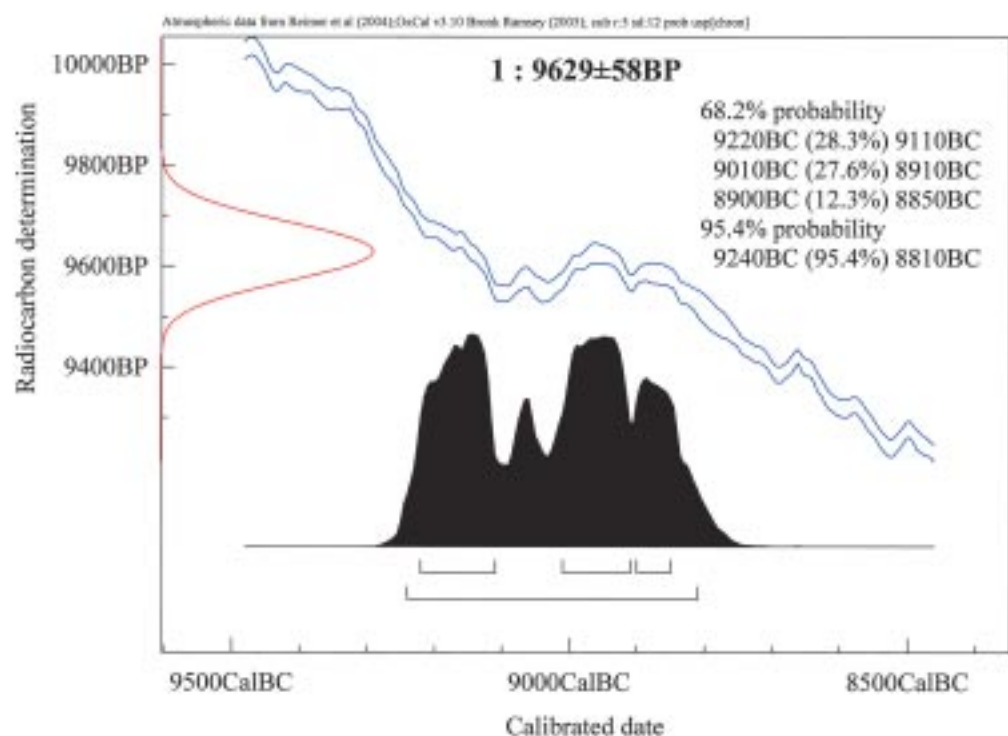
F 9 区 層の道跡から出土した木炭 (IAAA - 60488) が $9630 \pm 60\text{yrBP}$ 、F 8 区の土器集中遺構から出土した木炭 (IAAA - 60489) が $2180 \pm 40\text{yrBP}$ 、F 3 区の 層下部から出土した岩本式土器の胴部内面に付着した炭化物 (IAAA - 60490) が $9690 \pm 50\text{yrBP}$ 、G 3 区 7 T 層から出土した埋設土器の可能性のある土器の外面に付着した炭化物 (IAAA - 60491) が $1360 \pm 40\text{yrBP}$ と測定された。それぞれ、縄文時代草創期末～早期初頭、弥生時代早期、縄文時代草創期末～早期初頭、飛鳥時代に相当する。岩本式土器は薩摩火山灰 (約11500年前) 直上から発見されることが多く、測定年代は妥当な年代と考えられる。土器集中遺構から出土した試料の測定年代は、共伴土器から推定される古墳時代初頭の年代とは約500年もの隔たりがある。G 3 区 7 T 層から出土した埋設土器は、調査所見通り、より上層から埋設された遺構の可能性が高い。

7AA Code No.	試料	BP 年代および炭素の同位体比
IAAA-60488 #1327-1	試料採取場所：鹿児島県日置市伊集院町 大田字上山路山 試料形態：木炭 試料名(番号)：1 1003	Libby Age (yrBP) : 9,630 ± 60 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.50 ± 0.62 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -698.4 ± 2.2 pMC (%) = 30.16 ± 0.22
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -700.6 ± 2.1 pMC (%) = 29.94 ± 0.21 Age (yrBP) : 9,690 ± 60
IAAA-60489 #1327-2	試料採取場所：鹿児島県日置市伊集院町 大田字上山路山 試料形態：木炭 試料名(番号)：2 土器集中遺構内	Libby Age (yrBP) : 2,180 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.77 ± 0.62 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -238.1 ± 3.9 pMC (%) = 76.19 ± 0.39
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -239.3 ± 3.7 pMC (%) = 76.07 ± 0.37 Age (yrBP) : 2,200 ± 40
IAAA-60490 #1327-3	試料採取場所：鹿児島県日置市伊集院町 大田字上山路山 試料形態：炭化物 試料名(番号)：3 1579	Libby Age (yrBP) : 9,690 ± 50 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -23.14 ± 0.69 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -700.8 ± 1.9 pMC (%) = 29.92 ± 0.19
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -699.7 ± 1.9 pMC (%) = 30.03 ± 0.19 Age (yrBP) : 9,660 ± 50
IAAA-60491 #1327-4	試料採取場所：鹿児島県日置市伊集院町 大田字上山路山 試料形態：炭化物 試料名(番号)：4 7T 333	Libby Age (yrBP) : 1,360 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.18 ± 0.78 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -155.8 ± 4.0 pMC (%) = 84.42 ± 0.40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -159.5 ± 3.8 pMC (%) = 84.05 ± 0.38 Age (yrBP) : 1,400 ± 40

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA-60488	1 1003	9629 ± 58
IAAA-60489	2 土器集中遺構内	2184 ± 41
IAAA-60490	3 1579	9693 ± 52
IAAA-60491	4 7T 333	1360 ± 38

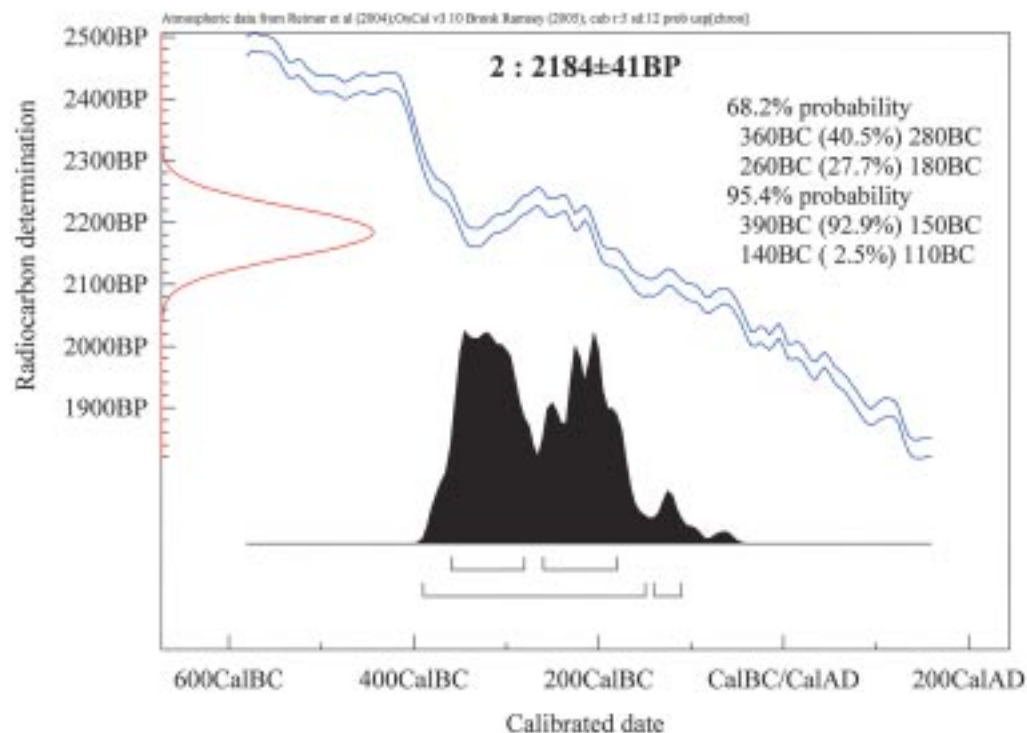
ここに記載する Libby Age (年代値) と誤差は下 1 桁を含めない値です。

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



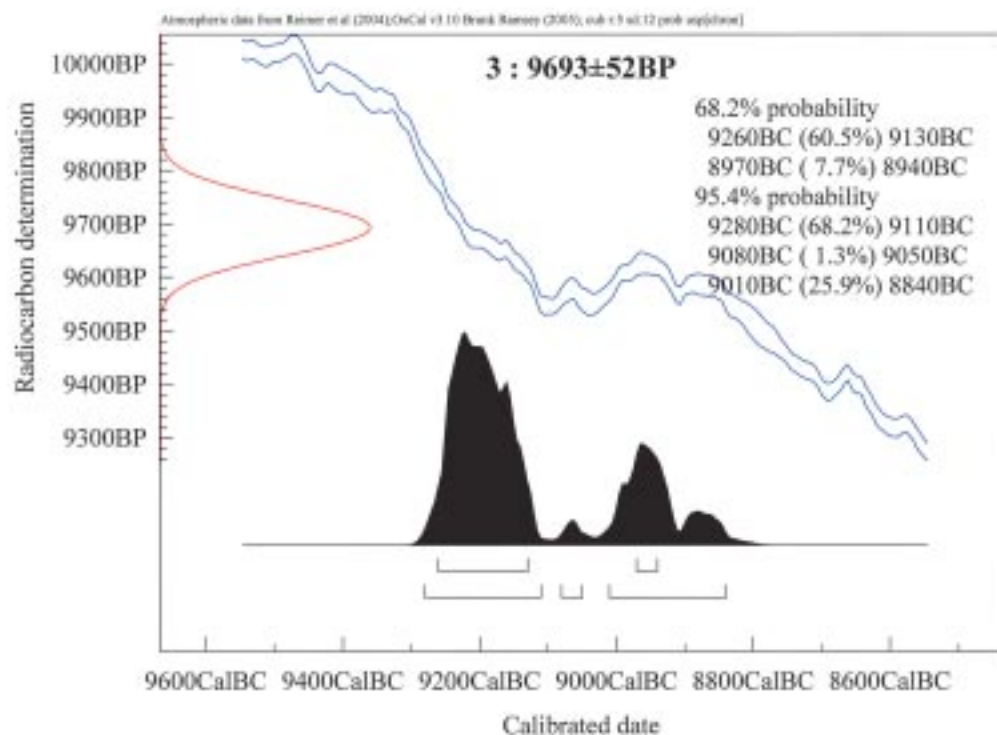
使用プログラム・OxCal v3.10

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



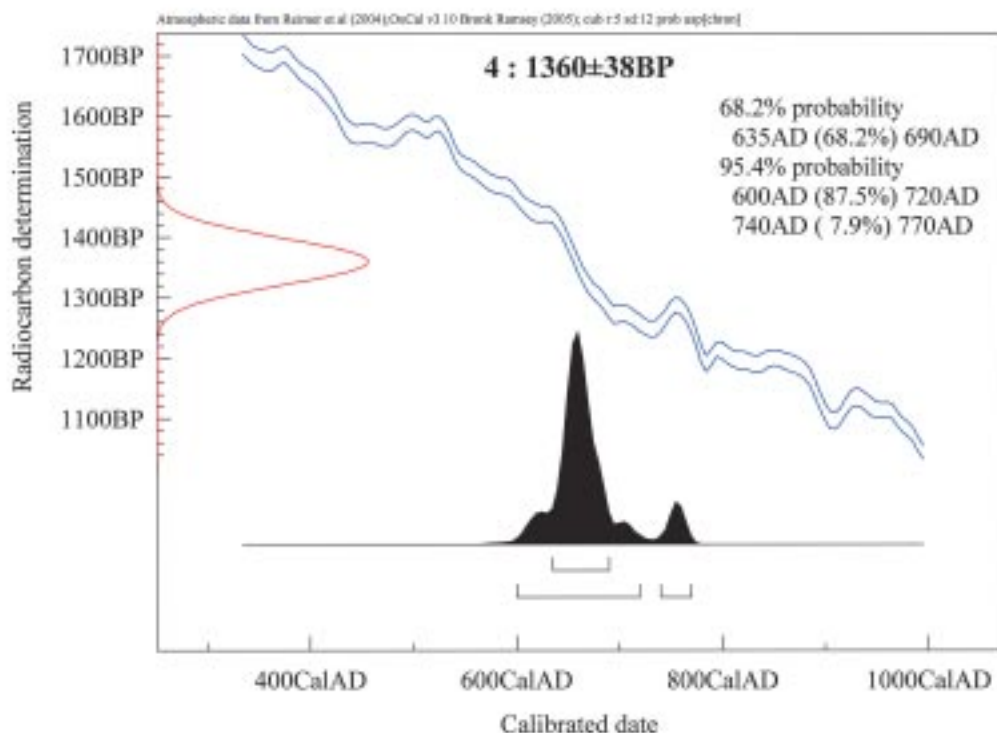
使用プログラム・OxCal v3.10

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム・OxCal v3.10

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム・OxCal v3.10

上山路山遺跡出土炭化材の樹種

はじめに

上山路山遺跡では，出土遺物等から，縄文時代早期前葉と考えられる道路跡から炭化材が出土している。本報告では，この炭化材について樹種同定を実施し，樹種を明らかにする。

1. 試料

試料は，縄文時代早期前葉頃と考えられる道路跡から出土した炭化材 1 点（試料番号 1）である。

2. 分析方法

分析は，パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得た。木口（横断面）・柂目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し，実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し，その特徴から種類を同定する。なお，同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については，島地・伊東（1982）およびWheeler他（1998）を参考にする。また，木材組織の配列の特徴については，林（1991）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表 1 に示す。炭化材は落葉広葉樹のケヤキに同定された。解剖学的特徴等を記す。

・ケヤキ（*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino）ニレ科ケヤキ属

環孔材で，孔圏部は 1 - 2 列，孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減，塊状に複合し接線・斜方向に帯状あるいは紋様状に配列し，年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性，1 - 5 細胞幅，1 - 50 細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

4. 考察

炭化材は，縄文時代早期前葉の道路跡から出土したとされている。炭化していることや道路跡から出土していることから，何らかの人為的な影響で火を受けて炭化した可能性があるが，用途などの詳細は不明である。ケヤキは，樹高 35m，直径 2 m に達する落葉大高木で，暖地の溪畔などに多く見られる樹種である。木材は重硬で強度や耐朽性が高い。同時期における鹿児島県内での出土例は知られていないが，今回の結果から周辺にケヤキが生育し，その木材を何らかの用途に利用していたことが推定される。

引用文献

林 昭三，1991，日本産木材 顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．

島地 謙・伊東 隆夫，1982，図説木材組織．地球社，176p．

Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編)，1998，広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡の特徴リスト．伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩（日本語版監修），海青社，122p．[Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版 1 炭化材

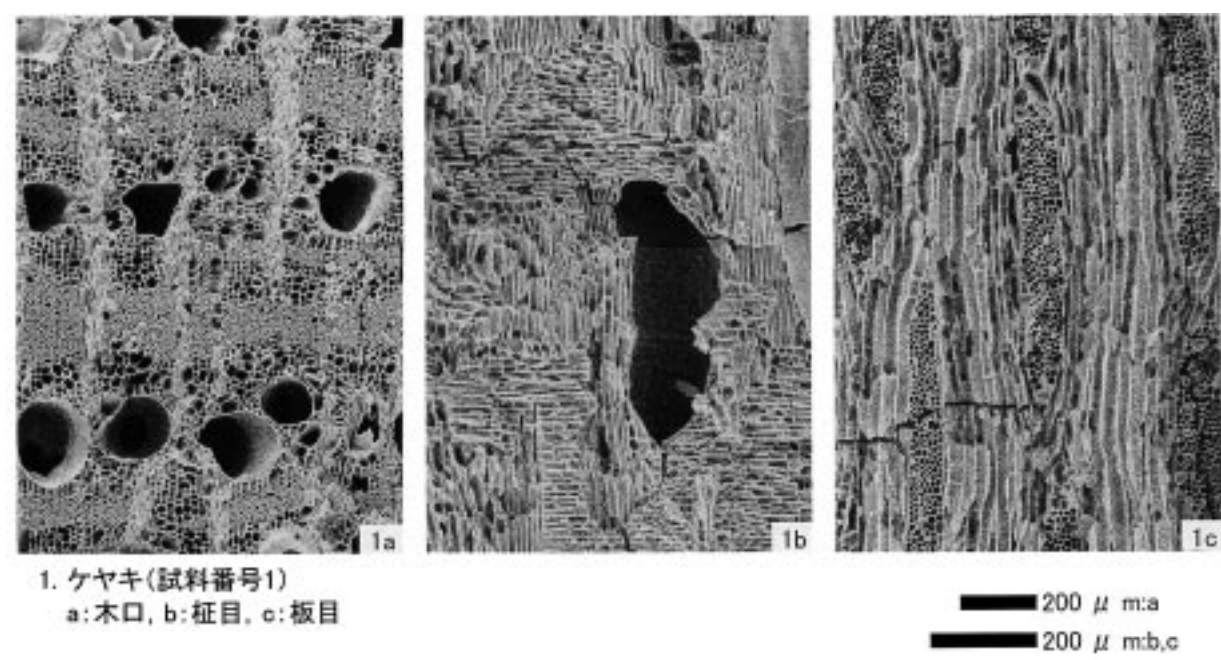
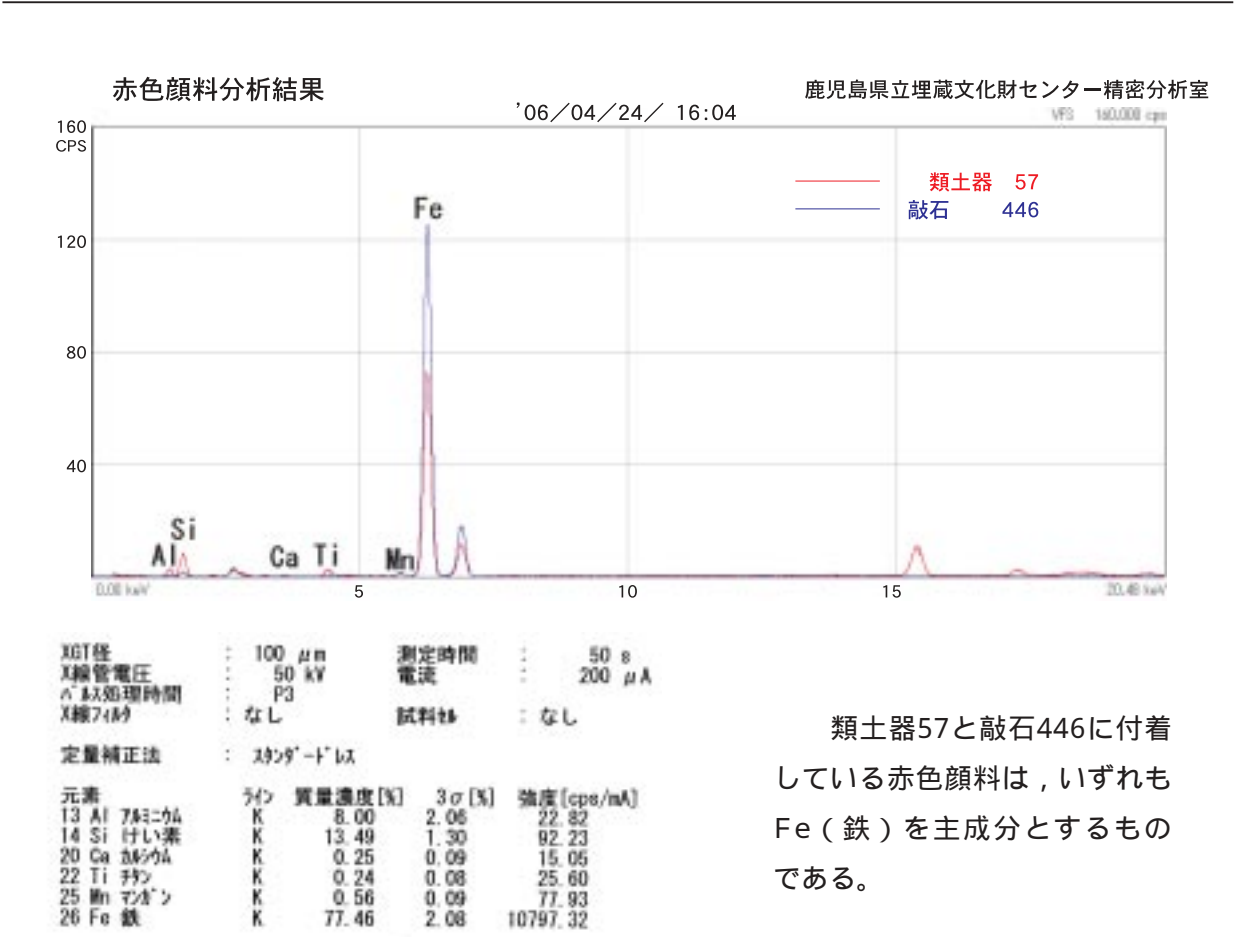


表1. 樹種同定結果

試料番号	地区	層位	遺物番号	状況	樹種
1	F 9 区	層	No .1003	縄文時代早期の道路跡出土	ケヤキ



第Ⅳ章 発掘調査のまとめ

本遺跡は、旧石器時代、縄文時代早期～後期、弥生時代以降の複合遺跡である。ただし、大部分が傾斜地であるため、元位置を保っていない遺物が多く、特に石器類の時代判定は困難であった。なお、土器や石器の状況については近在の「大田城跡」と類似する点が多く、非常に参考になった。

旧石器時代

後期旧石器時代の遺構は、台地上の平坦部で礫群1基が検出された。また、G-9区のブロックは細石器製作跡と考えられる。遺物は、三稜尖頭器や細石器・剥片等が約90点出土した。

石材については、剥片石器にはおおむね黒曜石が用いられており、若干ホルンフェルスが含まれる。また、四角棒状の使用痕石器には砂岩が用いられている。肉眼での観察だが、黒曜石については、上牛鼻系や三船系が主体を占める。外観的特徴は、上牛鼻産系黒曜石が、風化面が赤褐色を帯びた、つやのない黒色を呈する。三船系黒曜石は、白色の不純物を多く含み、濁白色透明の部分がある半透明黒色である。そのほか、不透明で青みを帯びた針尾系黒曜石も認められる。

縄文時代

縄文時代早期は、本遺跡の主体をなす時代である。遺構は、調理を行ったと思われる集石4基、道跡2条を検出した。特に、道跡は、台地上から谷に向かって下る途中までが良好に残存しており、しかも2条が合流する「三叉路」が含まれる。つまり「辻」があるわけで、当時の生活を考察する上で重要な資料である。なお、本遺跡は、地元の人々が「やまんじやま」と呼ぶ場所に位置しており、明治の頃までは、台地下の田から馬の背に米などを載せて通る道が存在し、台地下の湧水点を利用していたという。今回の調査範囲が斜面を中心とする地形的な要素と、住居跡などの遺構が検出できなかったという点から、道跡は、集落外の谷頭から谷を下り湧水地点に至る途中に当たるものと考えられる。おそらく、集落は、調査区の南西側に隣接する地域に存在していたものと思われる。また、水迫式土器・岩本式土器・前平式土器が、E・F-6区の急な斜面の部分から大量に出土している。調査時から土器捨て場の可能性が指摘されているが、周囲からの流れ込みも否定できない。今後の資料の増加に期待したい。

土器は、貝殻条痕文系の円筒土器がほとんどである。水迫式土器・岩本式土器・前平式土器・吉田式土器などが出土している。特に、水迫式土器・岩本式土器・前平式土器に関しては、文様構成のバリエーションが豊富で、土器編年の上からも重要である。今回の報告書に記載した土器の編年を試みたので参照されたい。また、水迫式土器・岩本式土器には、隆帯文土器との関連を窺わせる例として、口縁部に粘土を貼り付けてから施文した土器や口縁部付近に縦に隆帯を貼り付けた土器もある。さらに、赤色顔料で内面の口縁部付近を着色した土器片が数点出土している。

縄文時代前期については、轟式土器2点、曽畑式土器2点が、出土している。

縄文時代中期については、阿高系の土器3点が出土している。底部のみだが、いずれも葉脈や組織痕が認められる。

縄文時代後期については、市来式土器10点ほどが、狭い範囲で出土している。

石器は、打製石鏃・石匙・楔形石器・調整剥片・スクレイパー・石槍・石斧・剥片・磨石・敲石・石皿などが出土している。しかし、傾斜地がほとんどであるため元位置を保っている物は少な

く、時期の特定は困難であった。これは土器の出土状況からも裏付けられる。

石器の割合は、磨石・敲石・石皿など植物食を想起される物が多いようである。また、石皿は、厚みの薄いパレット状の物が目立つ。その中で1点だけ赤色顔料が付着した石皿片が確認されているが、赤色顔料で着色した土器の存在と併せて考えると、祭祀との関わりが推察される。

石斧は破損しているものばかりである。打製がほとんどであるが、磨製の2点は、いずれも先端部のみである。どのような使用の結果なのか、興味の持たれるところである。

石材は、剥片石器には黒曜石・安山岩・チャート・ホルンフェルスが、磨石・敲石類には砂岩・安山斑岩が主に用いられている。このうち黒曜石については、肉眼での観察では、上牛鼻系や三船系の物が目立つ。その中に、表面全体に摩耗が認められる剥片が3個体ある。いずれも不純物の少ない良質なものであるが、どのような状況で所持されていたものか興味が持たれる。ことによると犬の体内にあった可能性もある。

弥生時代以降

古墳時代の遺物は、平坦部を中心に、成川式土器等が出土した。また、弥生時代やその他の時代の遺物も出土してはいるが、ごくわずかな量である。ただ、飛鳥時代の土師器（形態と出土状況から調査時にヘルメットとあだ名された）については、埋設の可能性はある。

遺跡の現状

本遺跡の一部は、今回の高速道路建設によって記録保存となったが、残存部分が調査区の南西側に続いているものと推測される。道跡の状況から、かなりの規模の集落遺跡が想定される。現状は、調査時の茶畑から古タイヤ処理施設に変わっているが、恒久的な建築物は建設されていない。また、道跡も地形に沿って残存している可能性がある。谷底は迫田となっているが、湧水点が存在するため、水を利用した施設の遺構や遺物が残っている可能性がある。

参考文献

[論文・研究史・その他]

長野眞一1978「まとめ」『岩本遺跡』指宿市教育委員会

下山覚・鎌田洋昭1999「水迫式土器の設定」『ドキドキ縄文さがけ展』指宿市教育委員会

桑波田武志2001「岩本式土器から前平式土器へ - 移行期の土器に注目して - 」『鹿児島考古第35号』鹿児島県考古学会

黒川忠広2002『南九州貝殻文系土器 1 ～鹿児島県～』南九州縄文研究会

[報告書]

指宿市教育委員会1978『岩本遺跡』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書

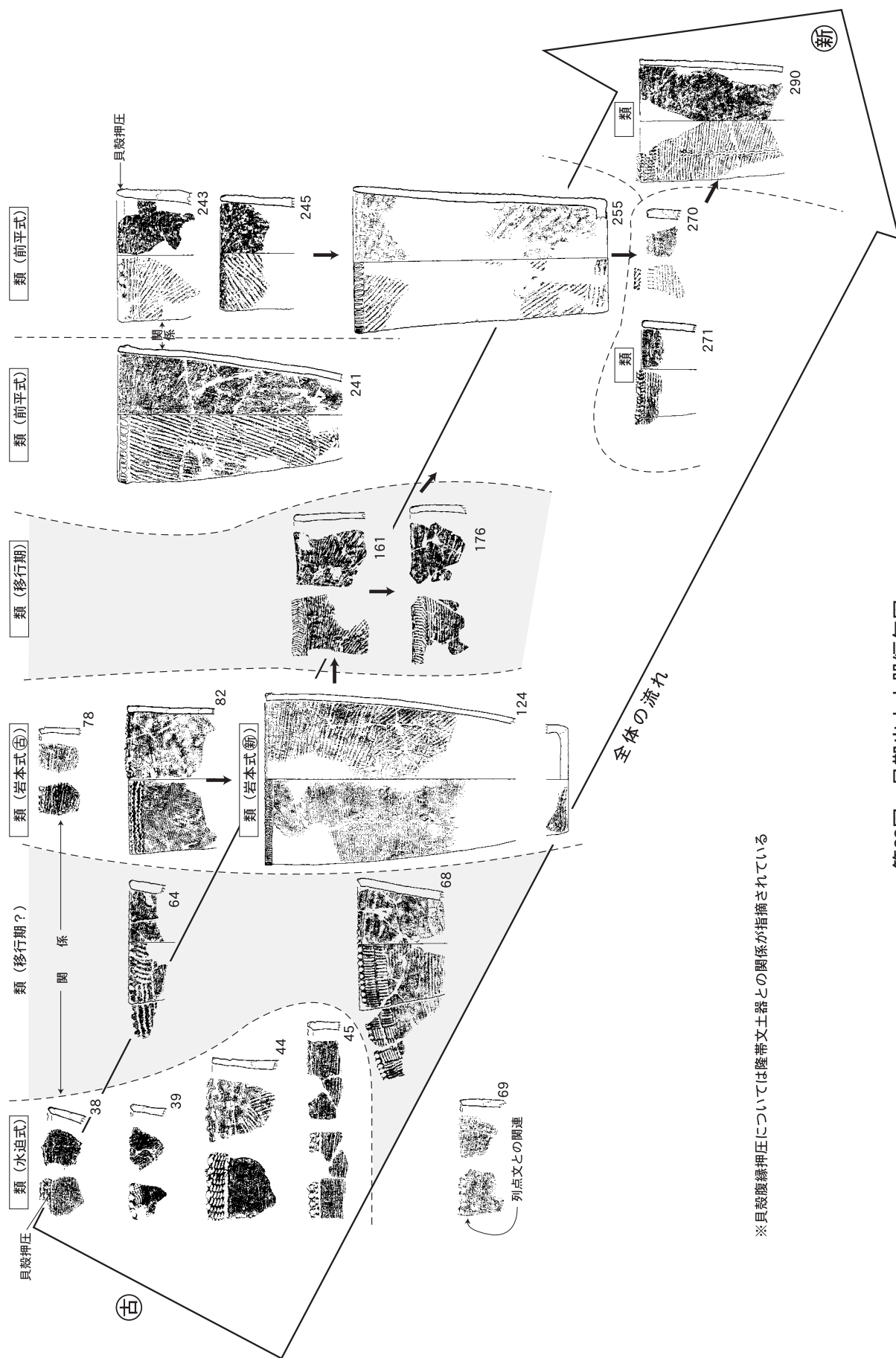
鹿児島県立埋蔵文化財センター 1996『小牧3 A遺跡・岩本遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（15）

田代町教育委員会2001『ホケノ頭遺跡』田代町埋蔵文化財発掘調査報告書（4）

指宿市教育委員会2001『水迫遺跡』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（34）

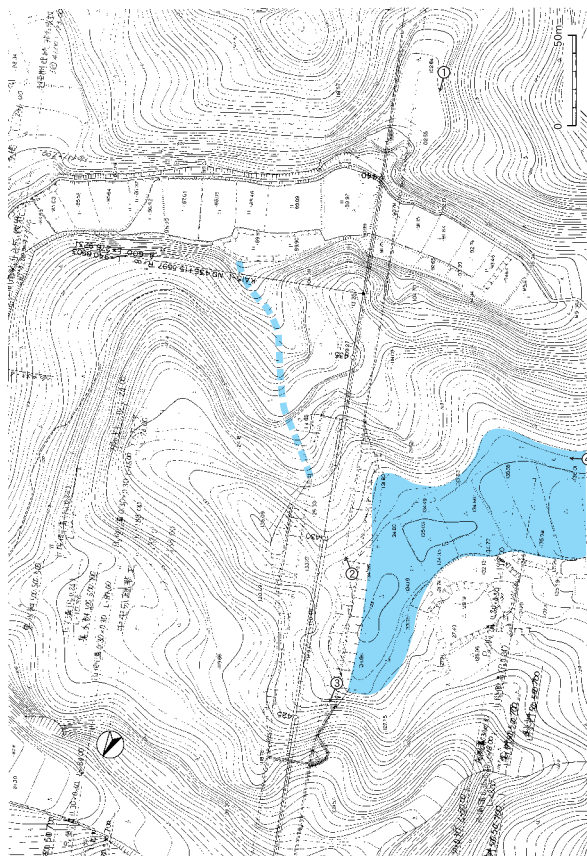
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005『永迫平遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（93）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005『大田城跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（95）



※貝殻腹縁押圧については隆帯文土器との関係が指摘されている

第69図 早期出土土器編年図



現在の上山路山遺跡①



現在の上山路山遺跡②

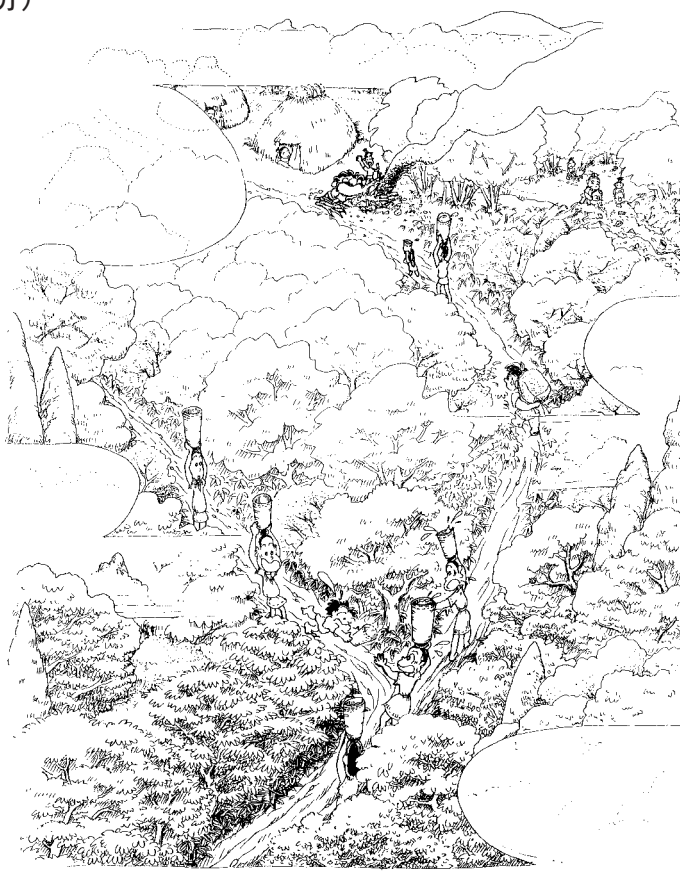
第70図 調査範囲と残存部分（青色部分）



現在の上山路山遺跡③



現在の上山路山遺跡④



第71図 早期景観推定復元図（イメージ）

図

版



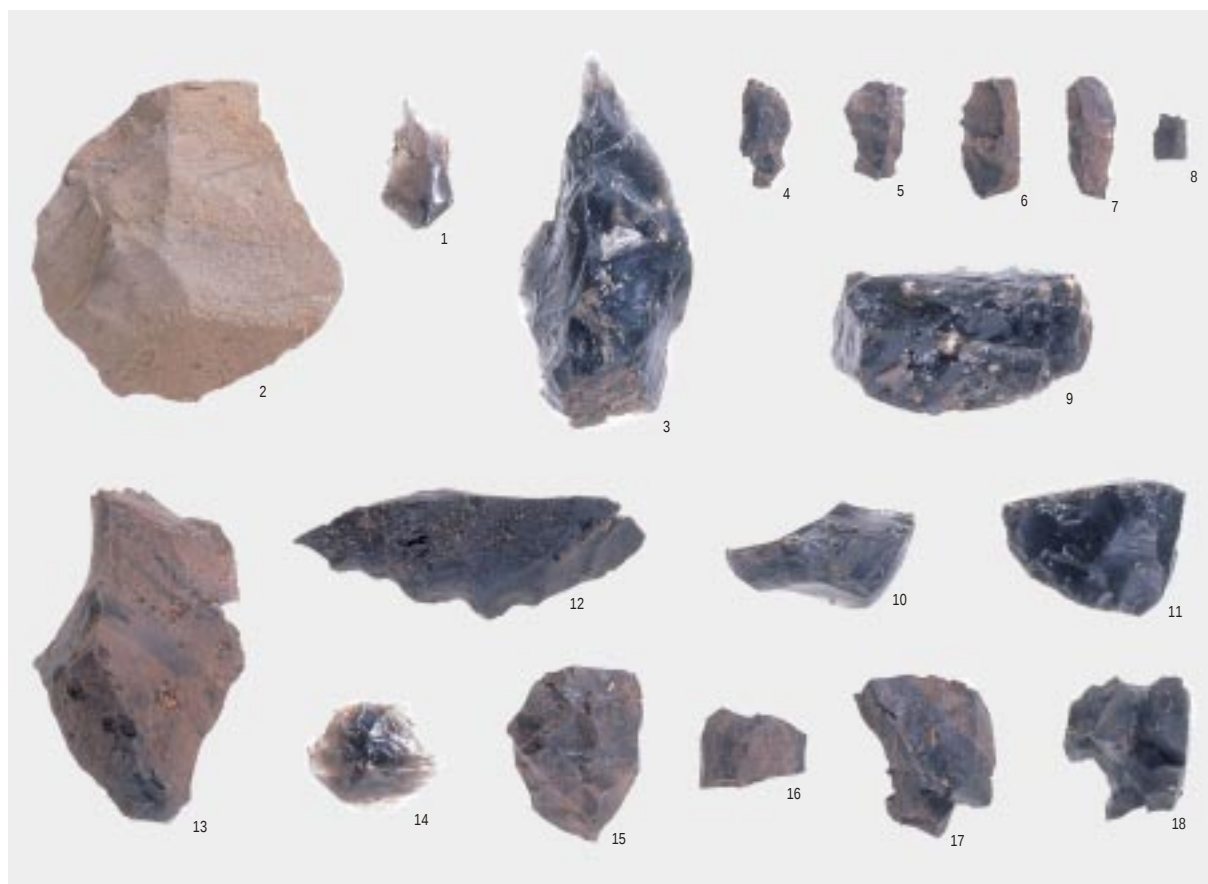
▲遺跡上空より東市来方面を望む

▼遺跡全景

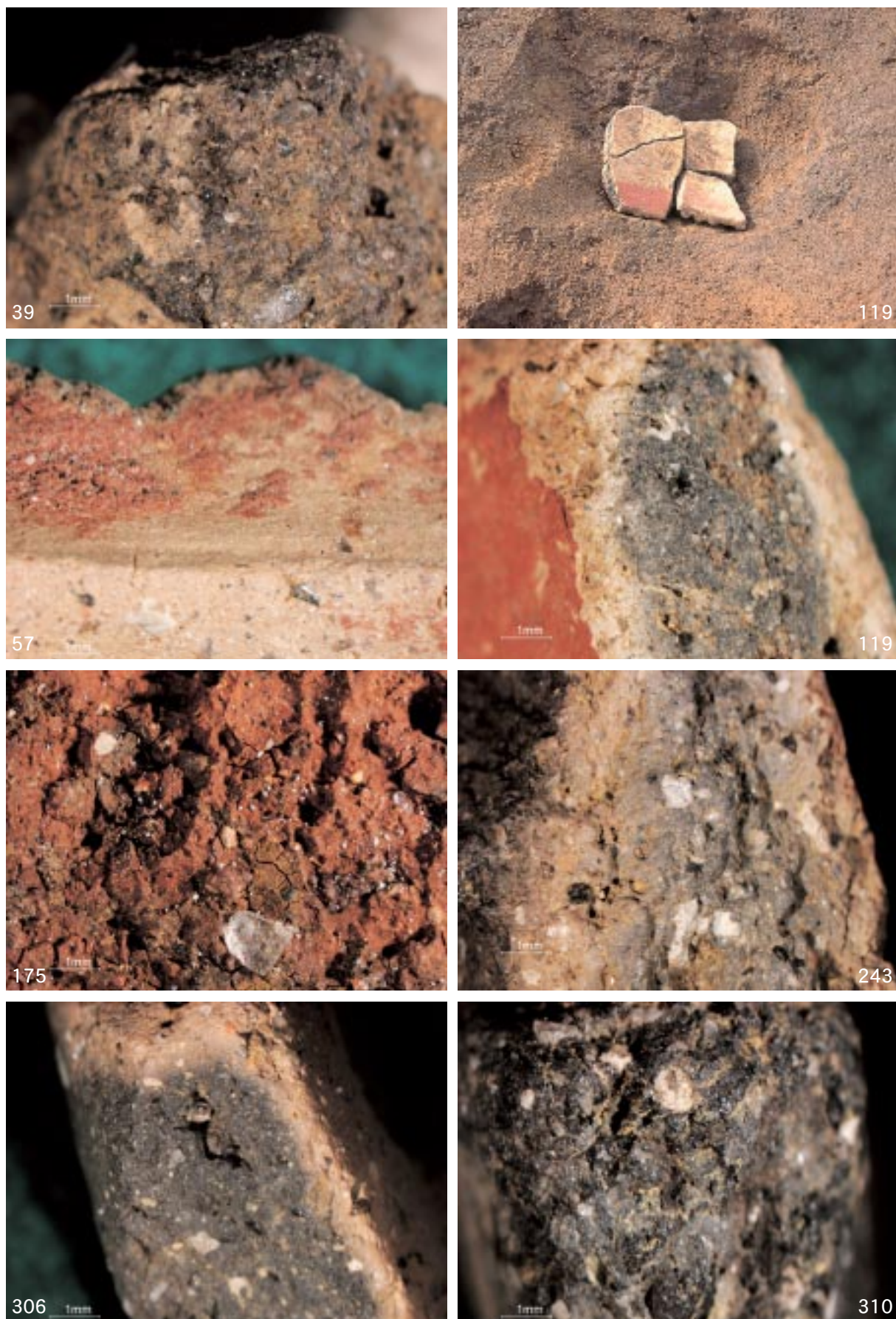


上山路山遺跡遠景（空撮）

図版 2



旧石器時代の遺物



赤色顔料付着土器出土状況・土器胎土顕微鏡写真

図版 4



縄文時代の石器 1（石鏃・石匙・石槍など）



縄文時代の石器 2 (スクレイパー・剥片など)



縄文時代の石器 3（礫器・石斧など）



縄文時代の石器 4（磨石など）



縄文時代の石器 5（磨石・敲石・石皿）

図版 9



確認調査時の状況
奥は9トレンチ
(A-9区)
中央は3トレンチ
(F-10, 11区)



遺跡G-9区より見た台地
上の茶畑
遠方は飯牟礼山



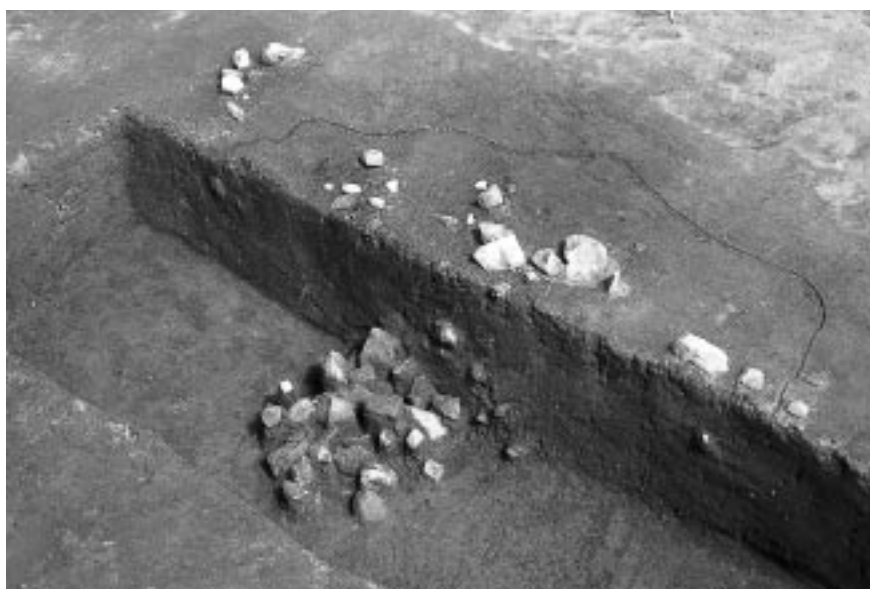
谷へ向かう遺跡
G-9区より、遠方は桜島

確認調査・縄文時代早期の道跡

図版10



石器製作跡（ブロック）
手前は早期の2号集石
（G－8区）



礫群
早期1号集石の下から検出
（G－8区）



剥片2
（G－8区）Ⅶb層

旧石器時代遺物出土状況・礫群検出状況・剥片出土状況



▲ G-8・9区
中央は1トレンチ
手前は1号集石

▼ 1号集石 (G-8区)

▶ 4号集石 (G-4区)

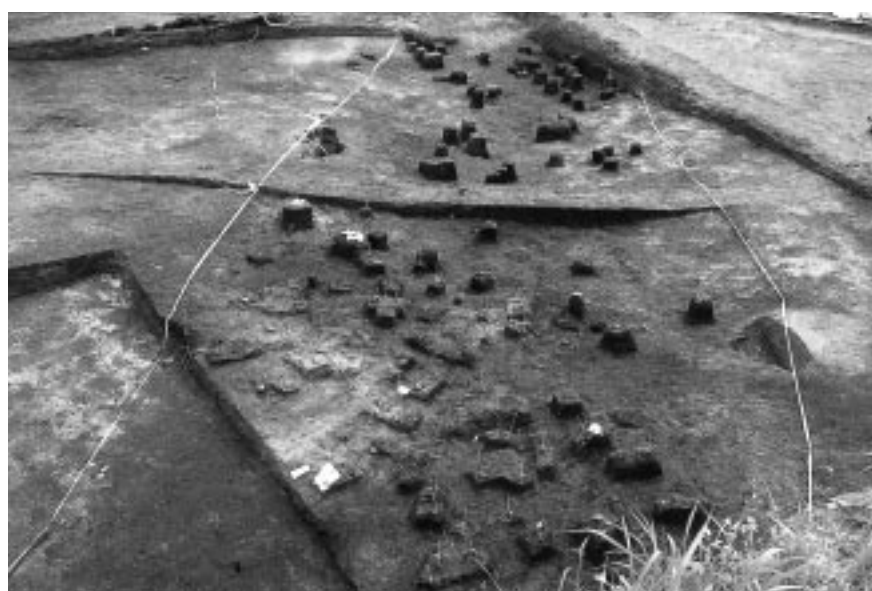


▶ 3号集石 (H-8区)

縄文時代早期遺物出土状況・集石検出状況



2号土坑半裁状況
(G-9区)



道跡検出状況
(G-9区)



遺物出土状況
(G-8・9区)
「散乱礫」IV層

縄文時代早期土坑2半裁状況・道跡検出状況・散乱礫出土状況



1号土坑断面
(D-5区)



遺物出土状況
(D-6区) IIIa層



調査中のE・F-6区
「土器捨て場」

縄文時代早期土坑1断面・縄文時代早期遺物出土状況・「土器捨て場」調査状況

図版14



63 (F-6区)



(F-9区)



129 (G-10区)



184 (G-9区)



138 (G-9区)



(G-9区)



118 (G-9区)



357 (F-6区)

縄文時代早期土器出土状況 1



完形土器241 (G-9区・1T)



完形土器254 (F-6区)



(G-9区)



222 (F-9区)



251 (G-9区)



(G-6区)



完形土器255 (F-9区)



362 (F-9区)

縄文時代早期土器出土状況 2



274 (D-6区)



280 (E-12区)



330 (D-6区)

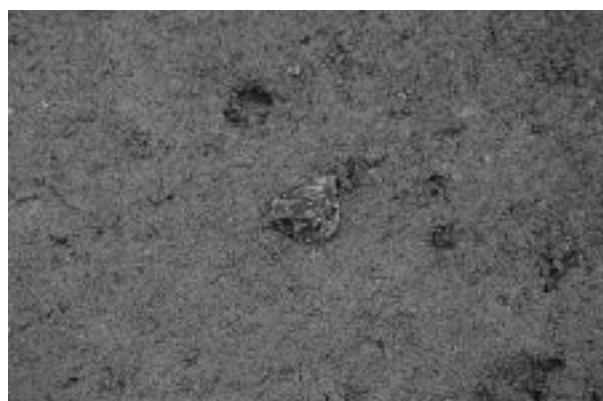
縄文時代土器出土状況



380 (G-8区)



391 (E-11区)



401 (F-5区)



410 (G-9区・1T)



407 (G-8区)



442 (F-9区)



452と453 (D-11区)

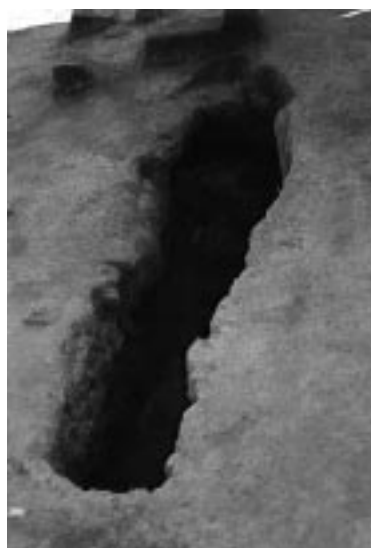


原石 (D-6区)

縄文時代石器出土状況



取付道路整備中の調査（H-12区周辺）



1号土坑（D-13区）



土師器495（G-4区・7T）



土器集中遺構（F-8区）土器467～469



8号土坑（G-6区）



4号溝状遺構（F・G-6・7区）



3号溝状遺構（D-6区）

取り付け道路調査状況・古墳時代以降の溝状遺構完掘状況・遺物出土状況



土器473
(D-6区・4T)



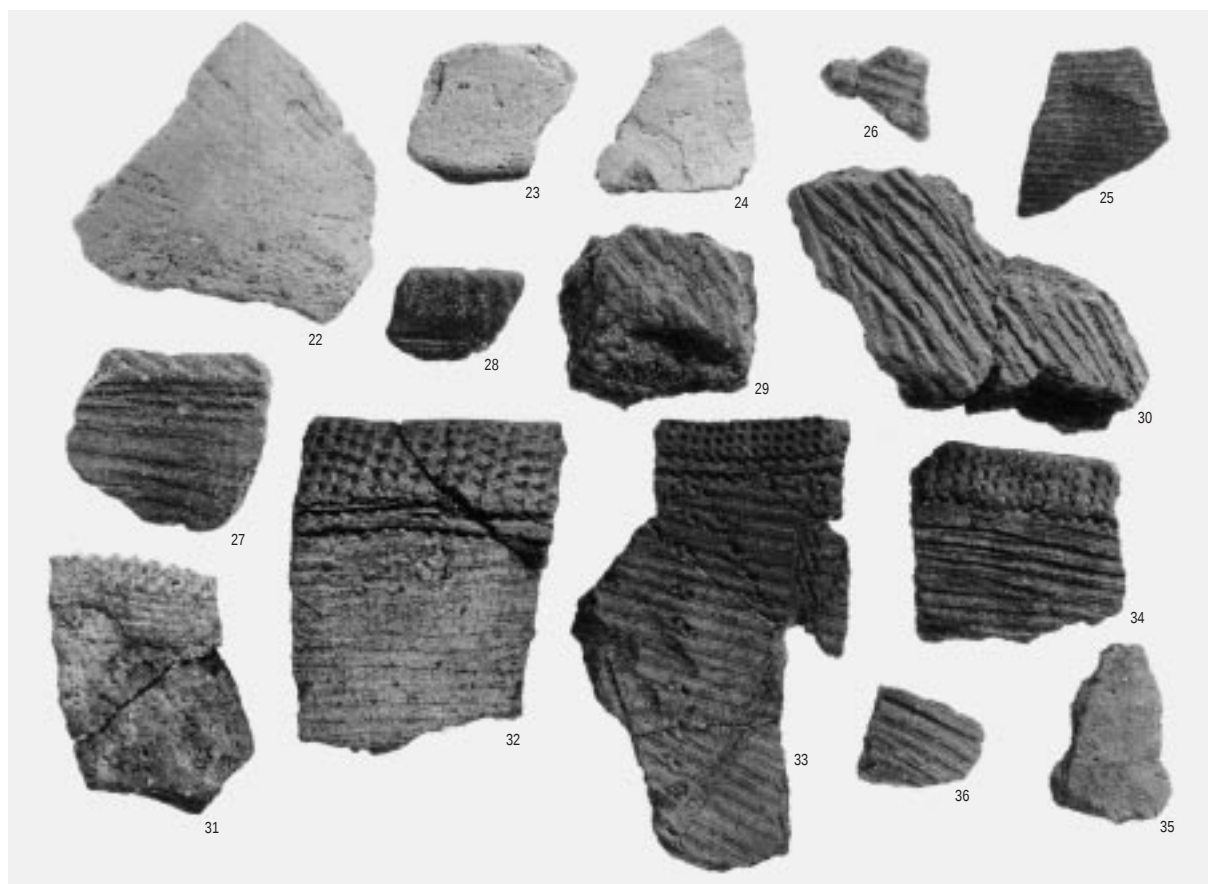
手づくね土器494
(取り付け道路)
(H-12区周辺)



土器488
(取り付け道路)
(H-12区周辺)

弥生時代以降の遺物出土状況

図版20



縄文時代の遺構内遺物



124

縄文時代の土器 1 (完形品)



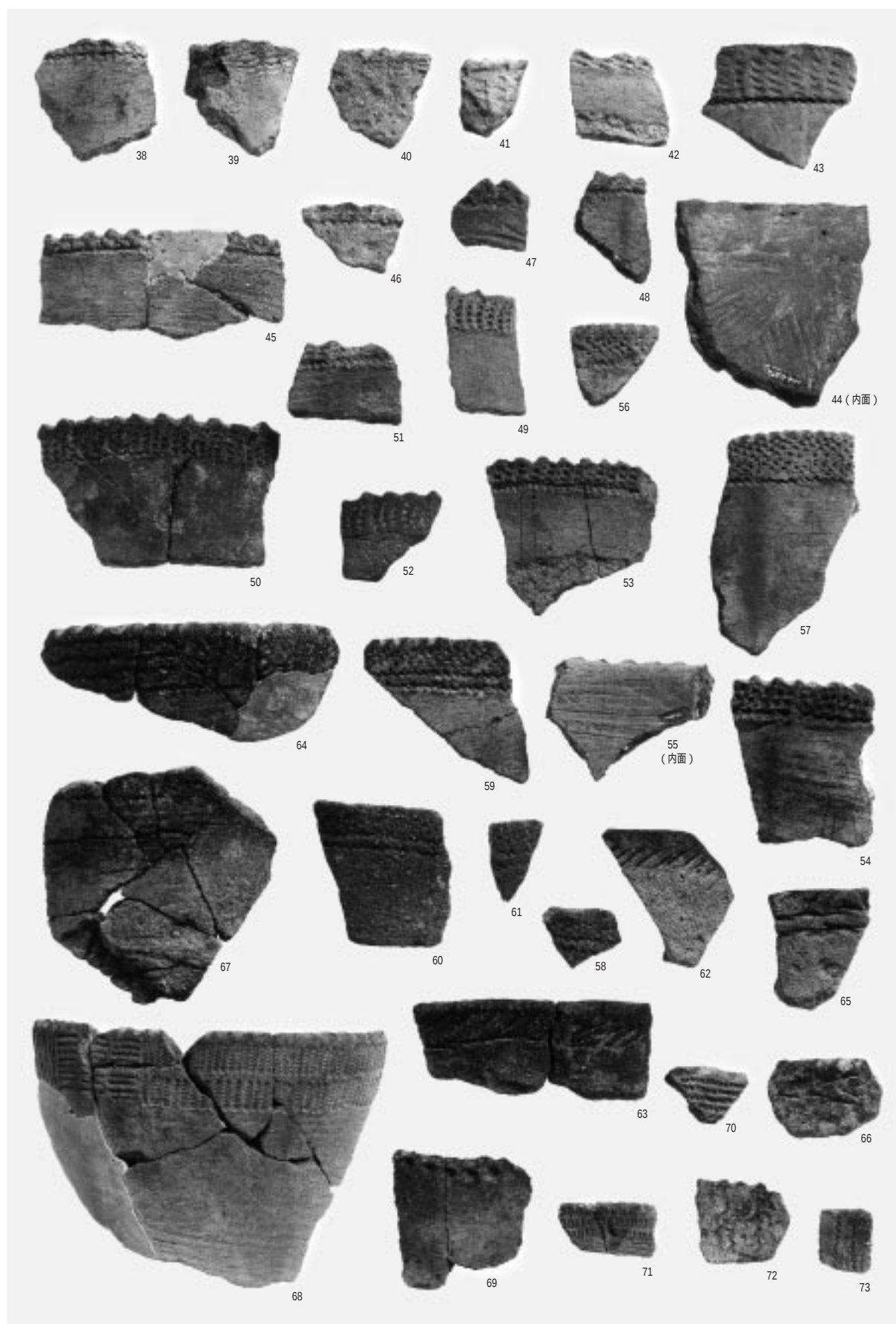
縄文時代の土器 2（完形品）



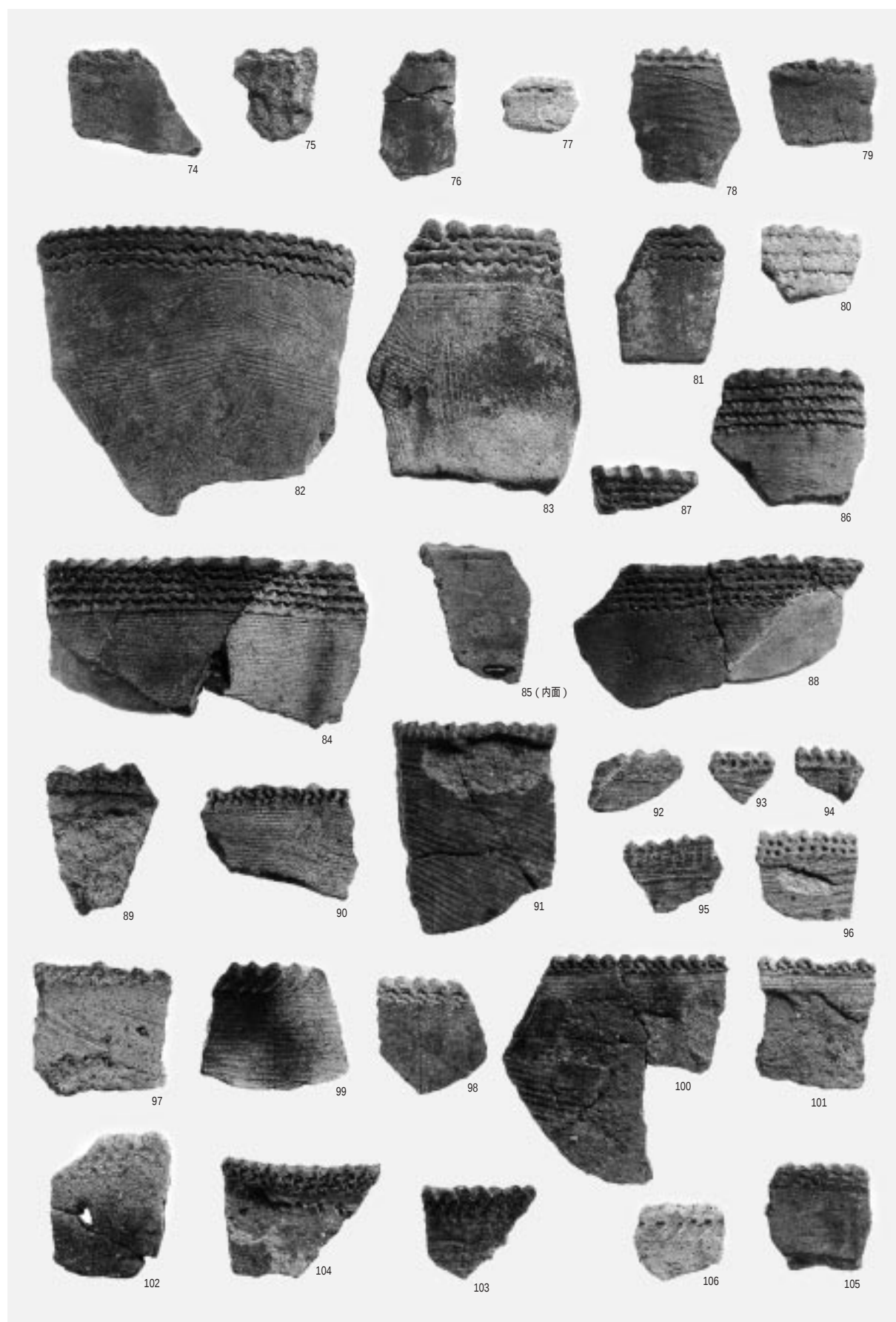
縄文時代の土器 3（完形品）



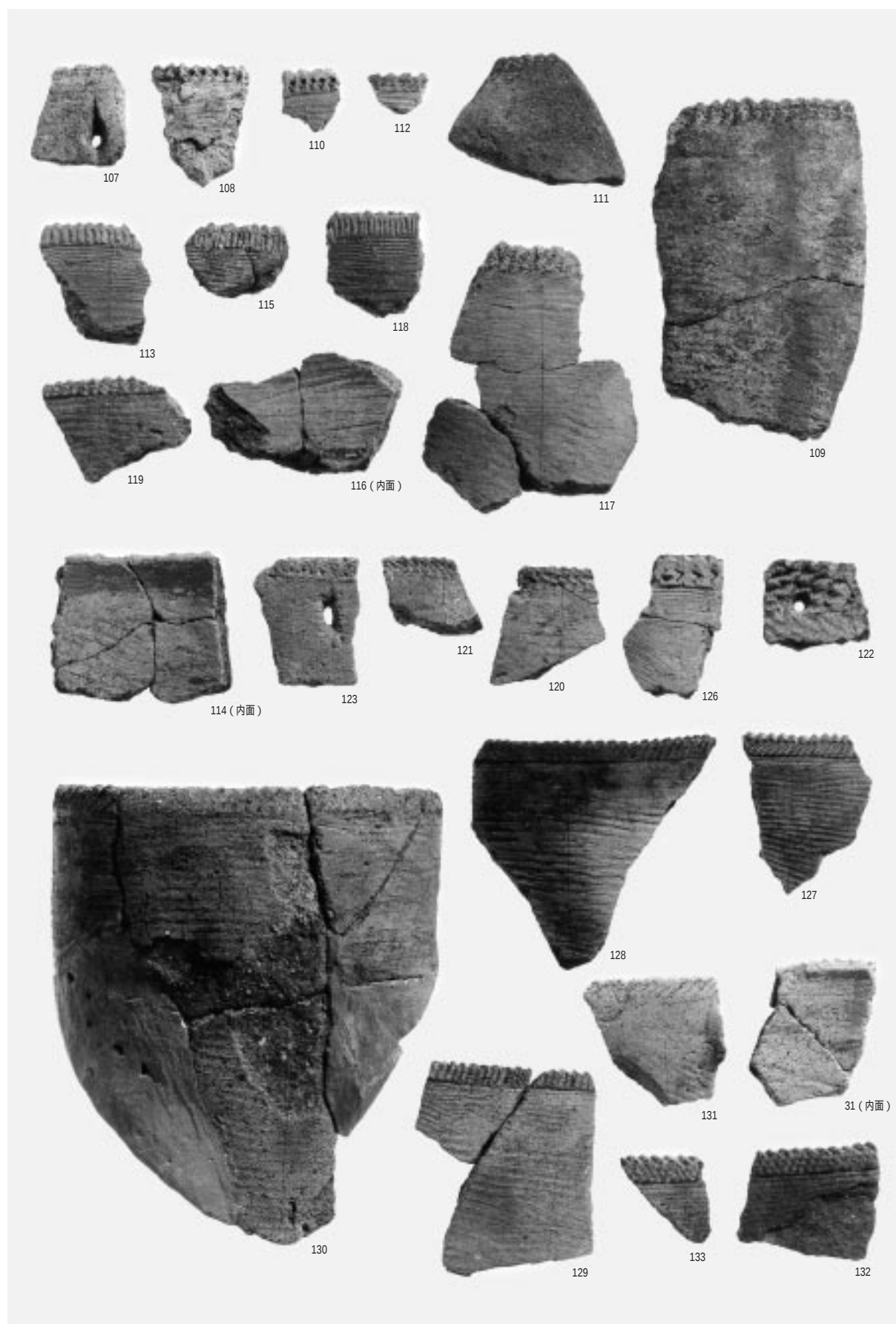
縄文時代の土器 4（完形品）



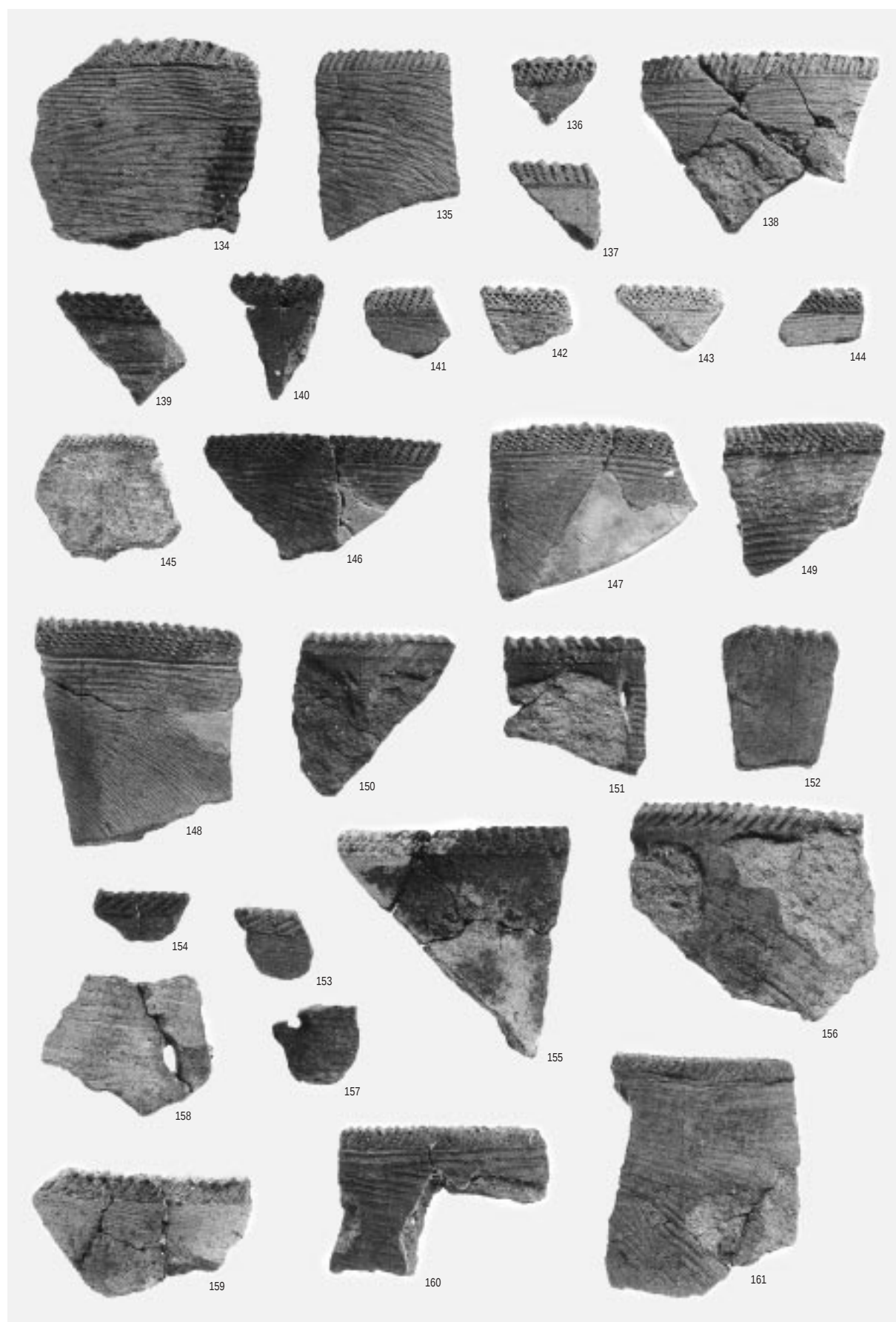
縄文時代の土器 5 (I類)



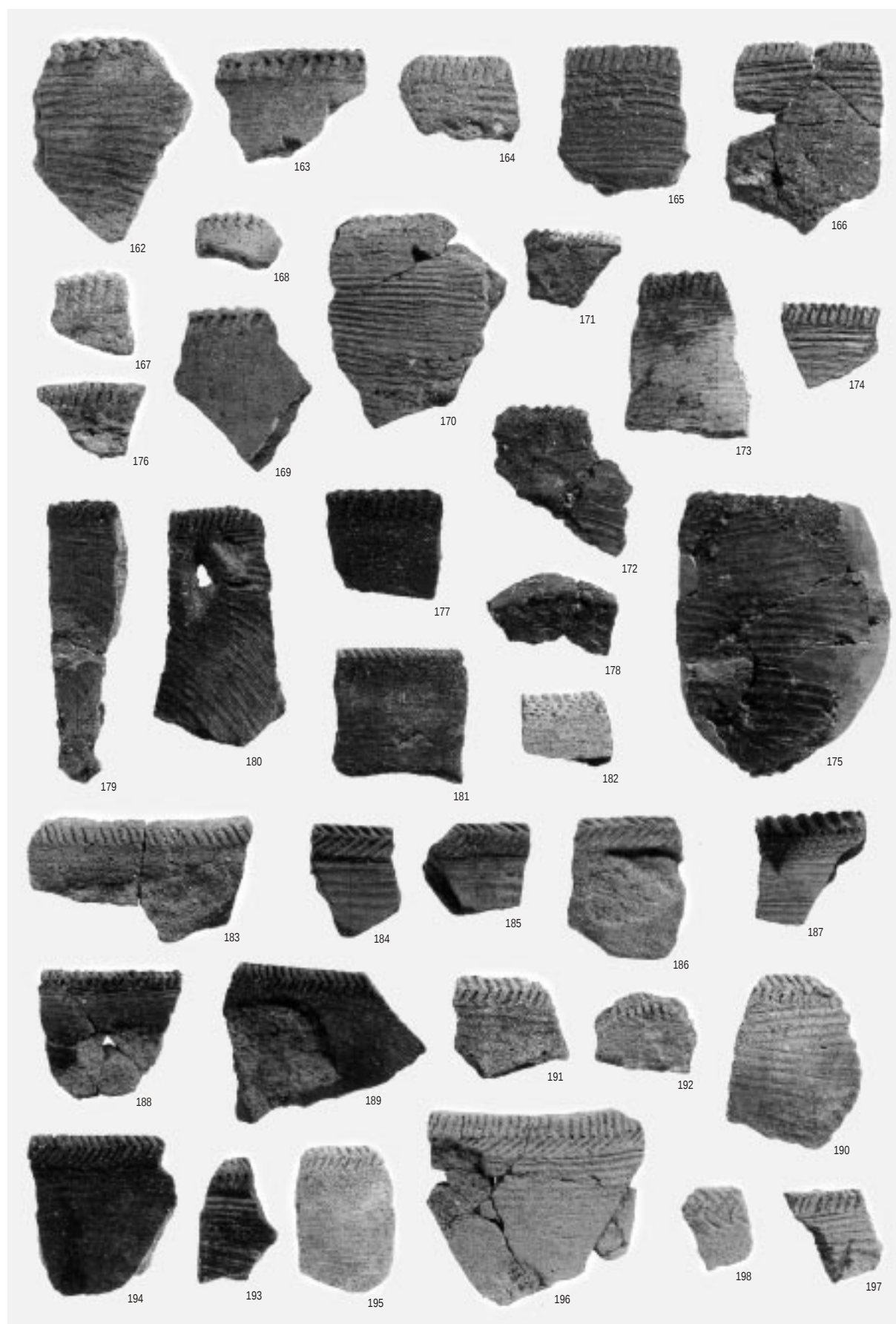
縄文時代の土器 6 (Ⅱ・Ⅲ類)



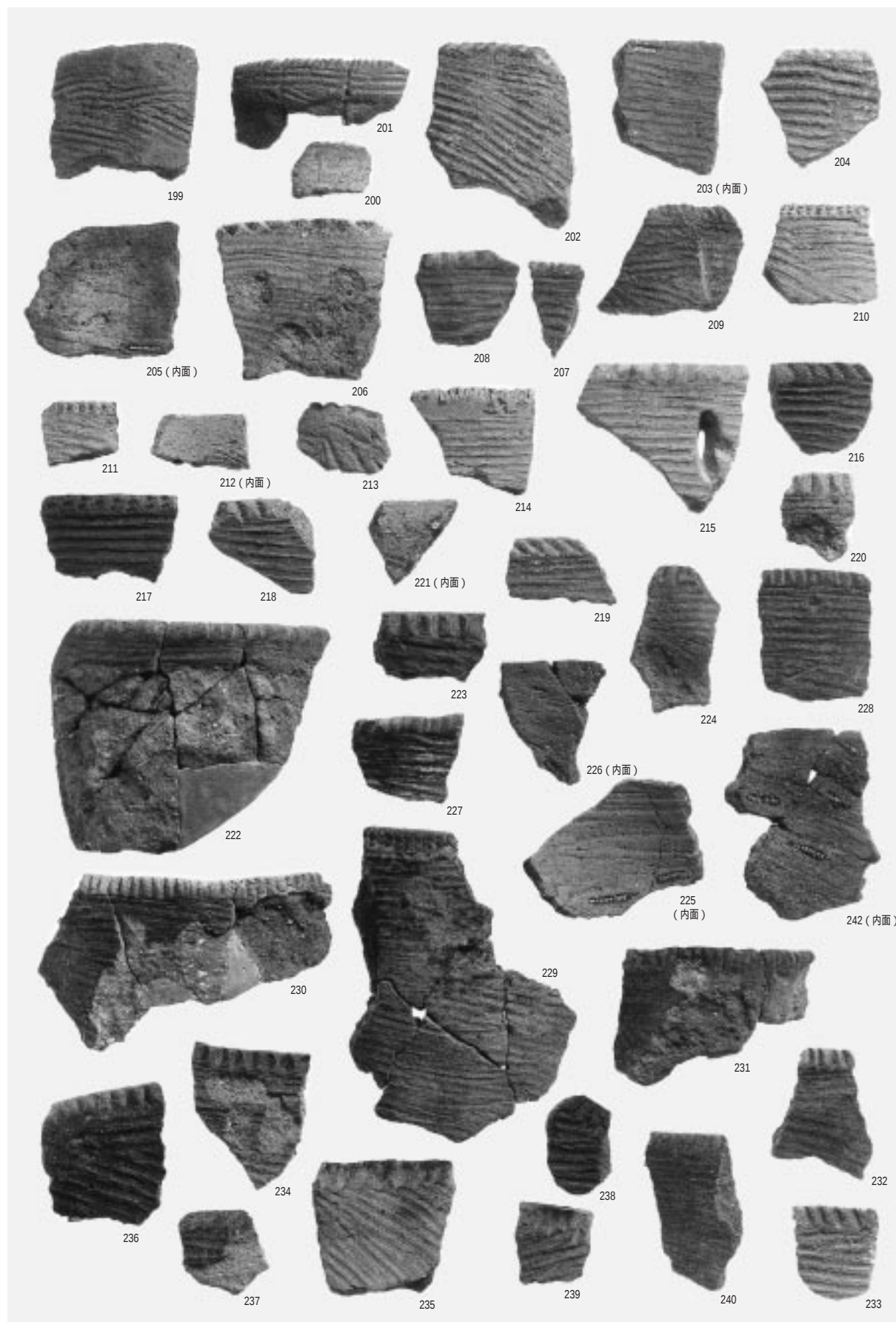
縄文時代の土器 7 (Ⅲ類)



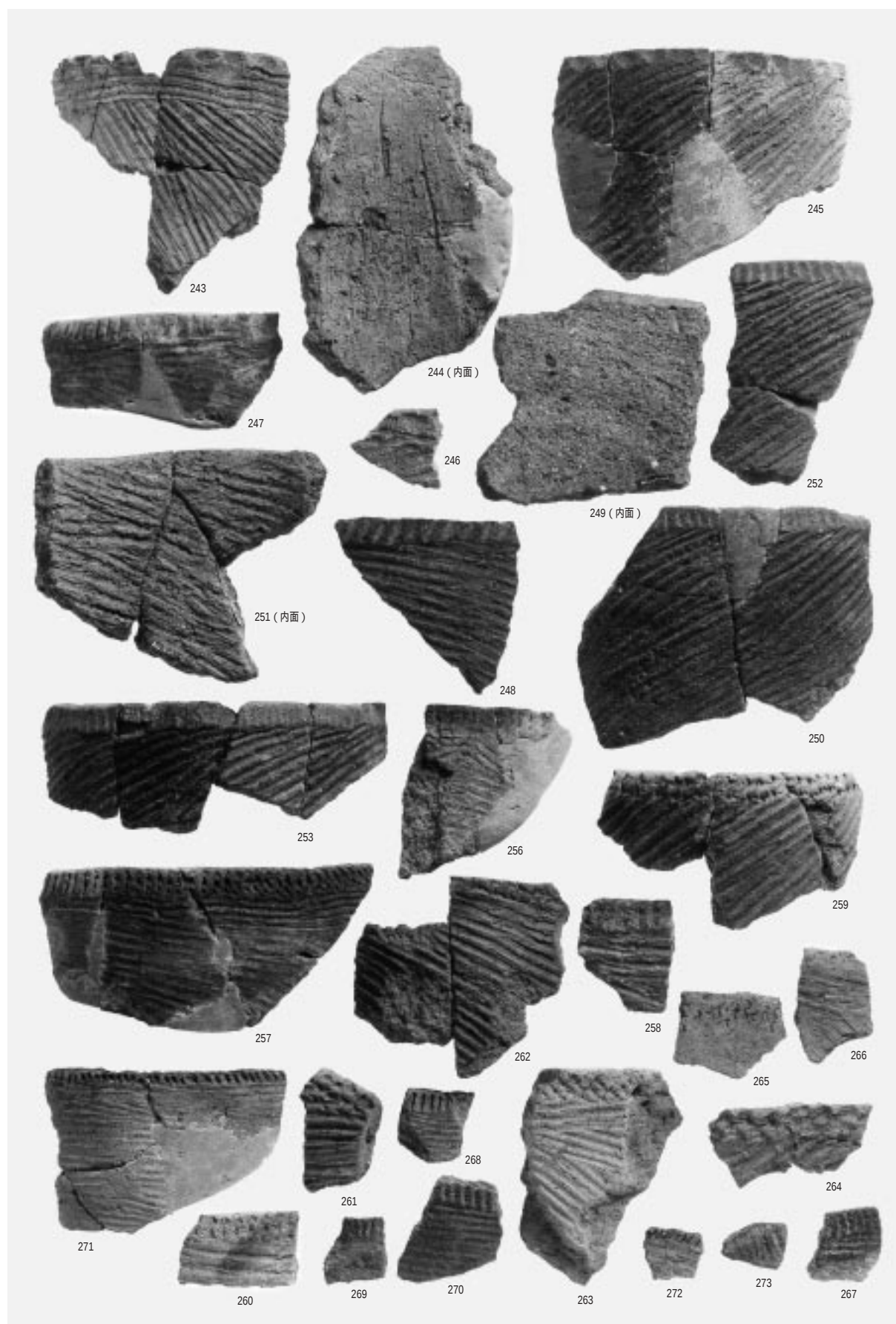
縄文時代の土器 8 (Ⅲ類)



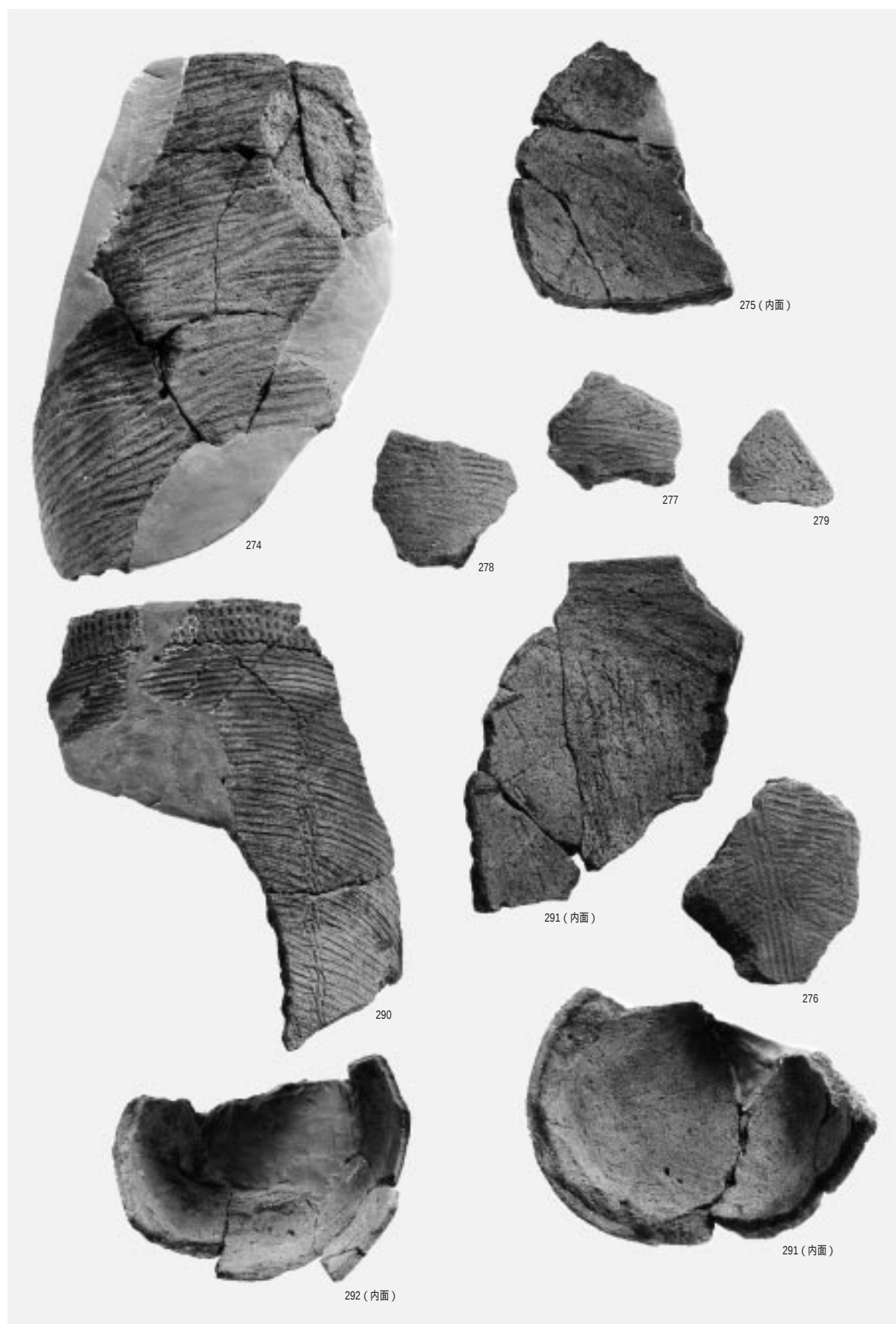
縄文時代の土器 9 (IV類)



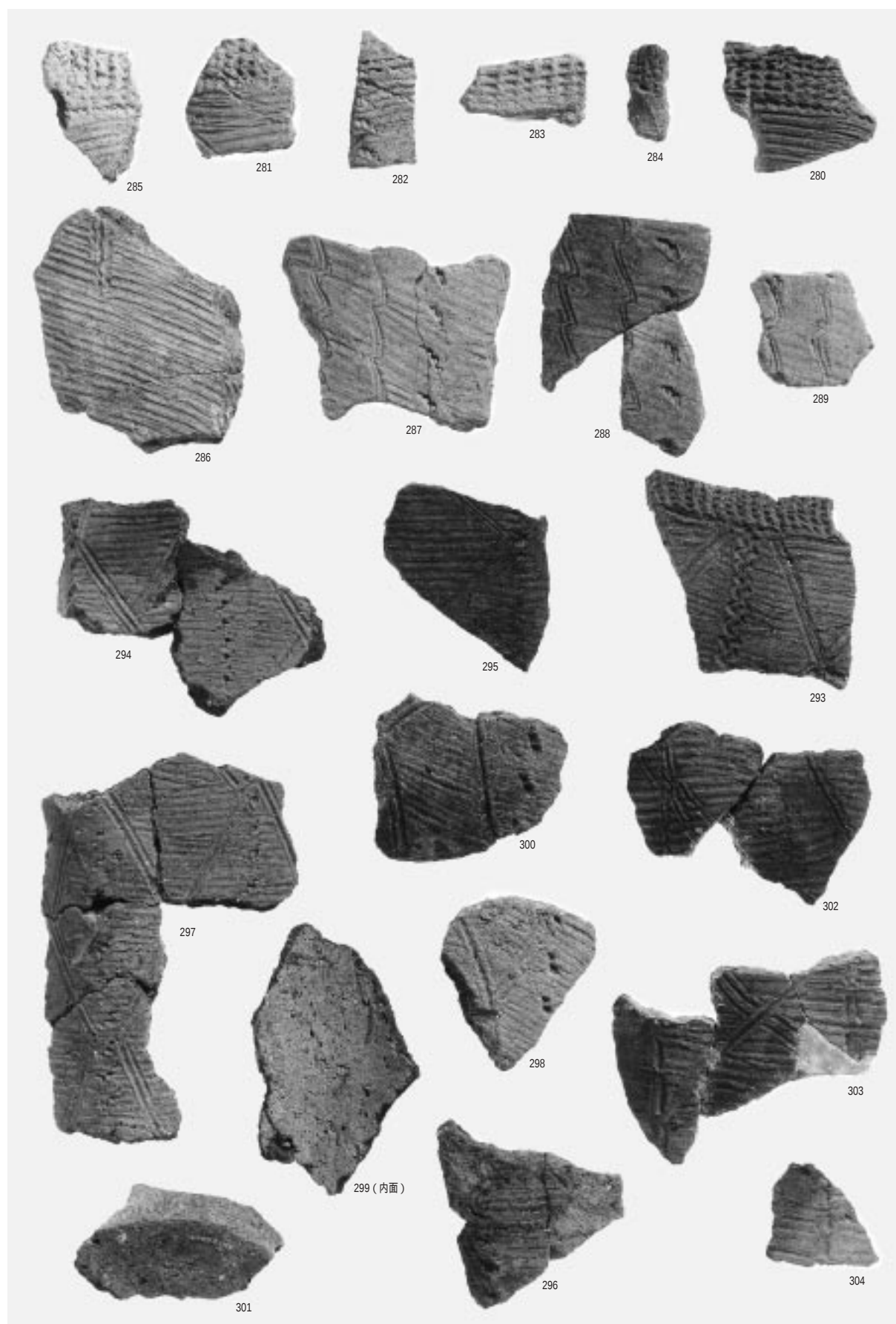
縄文時代の土器10 (V類)



縄文時代の土器11 (VI・VII類)

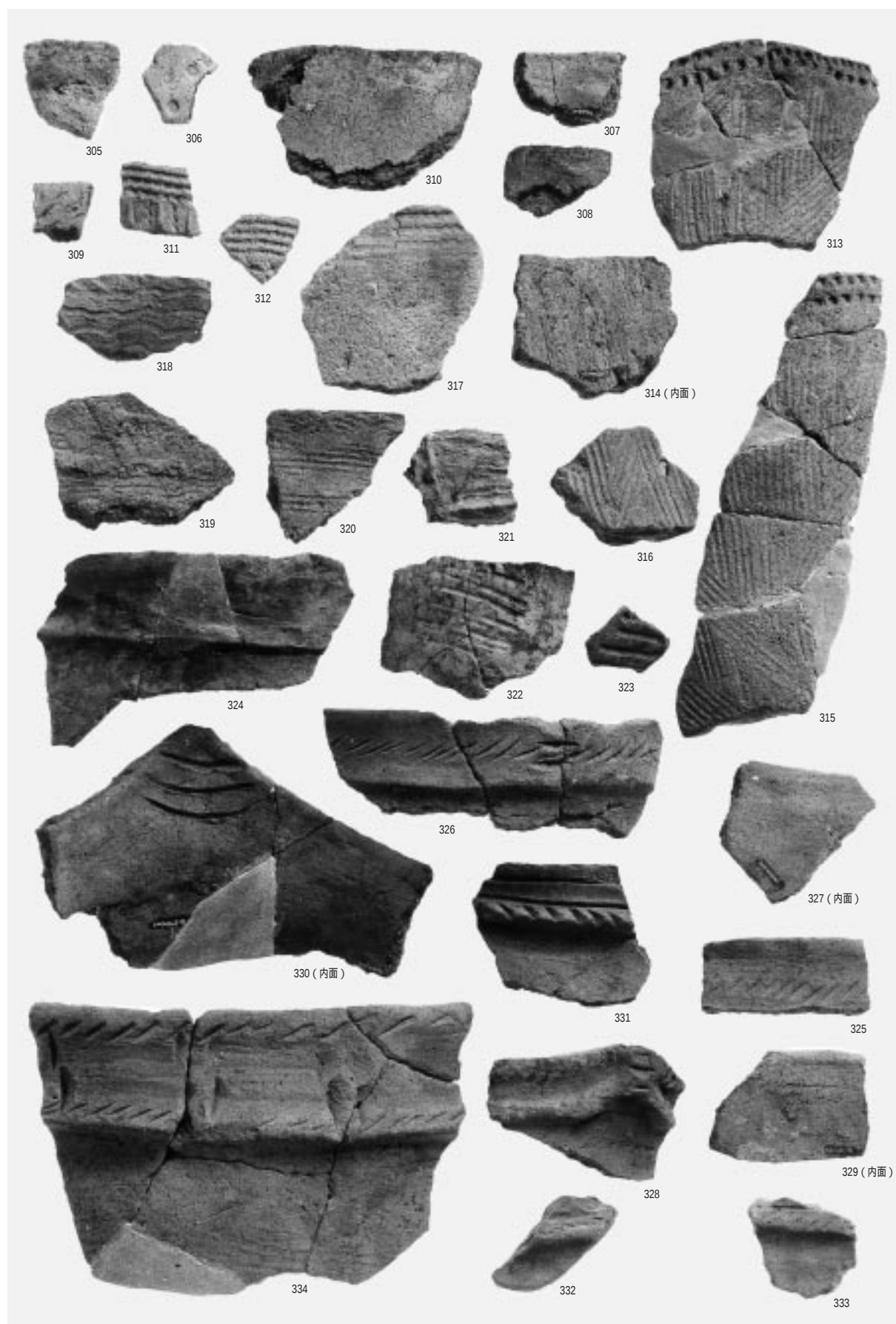


縄文時代の土器12 (V・VI・VII類)

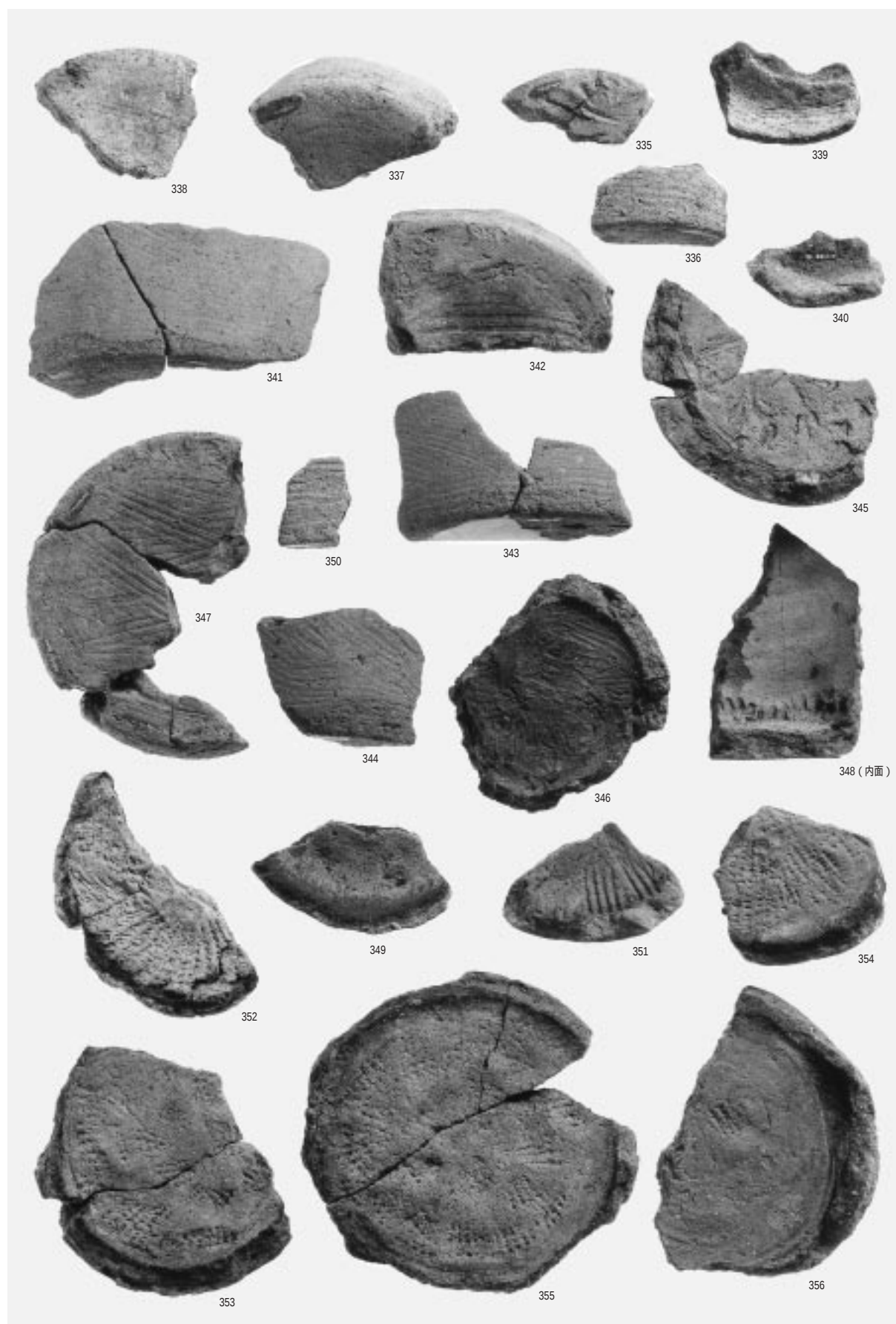


縄文時代の土器13 (Ⅷ類)

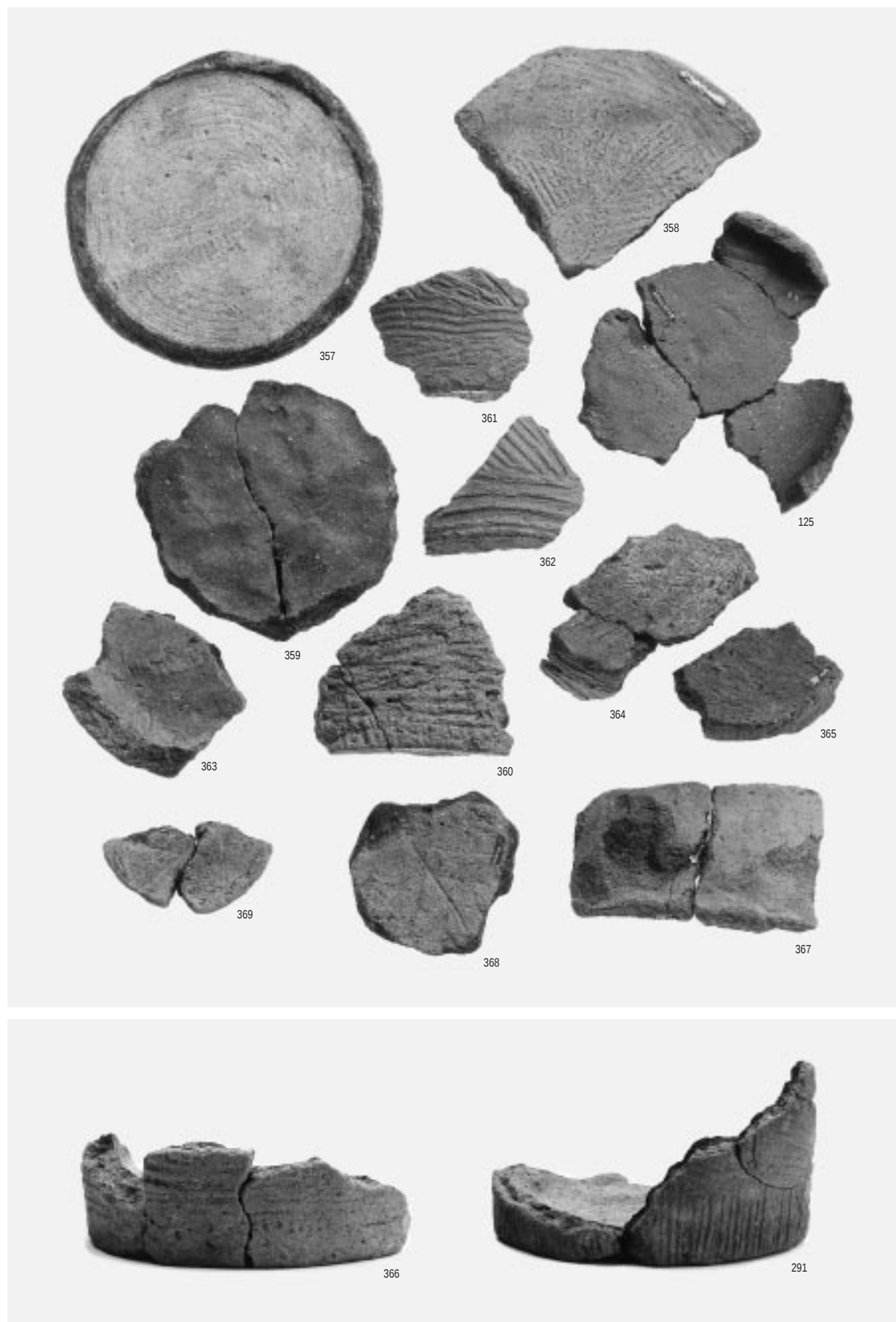
図版34



縄文時代の土器14 (IX類)



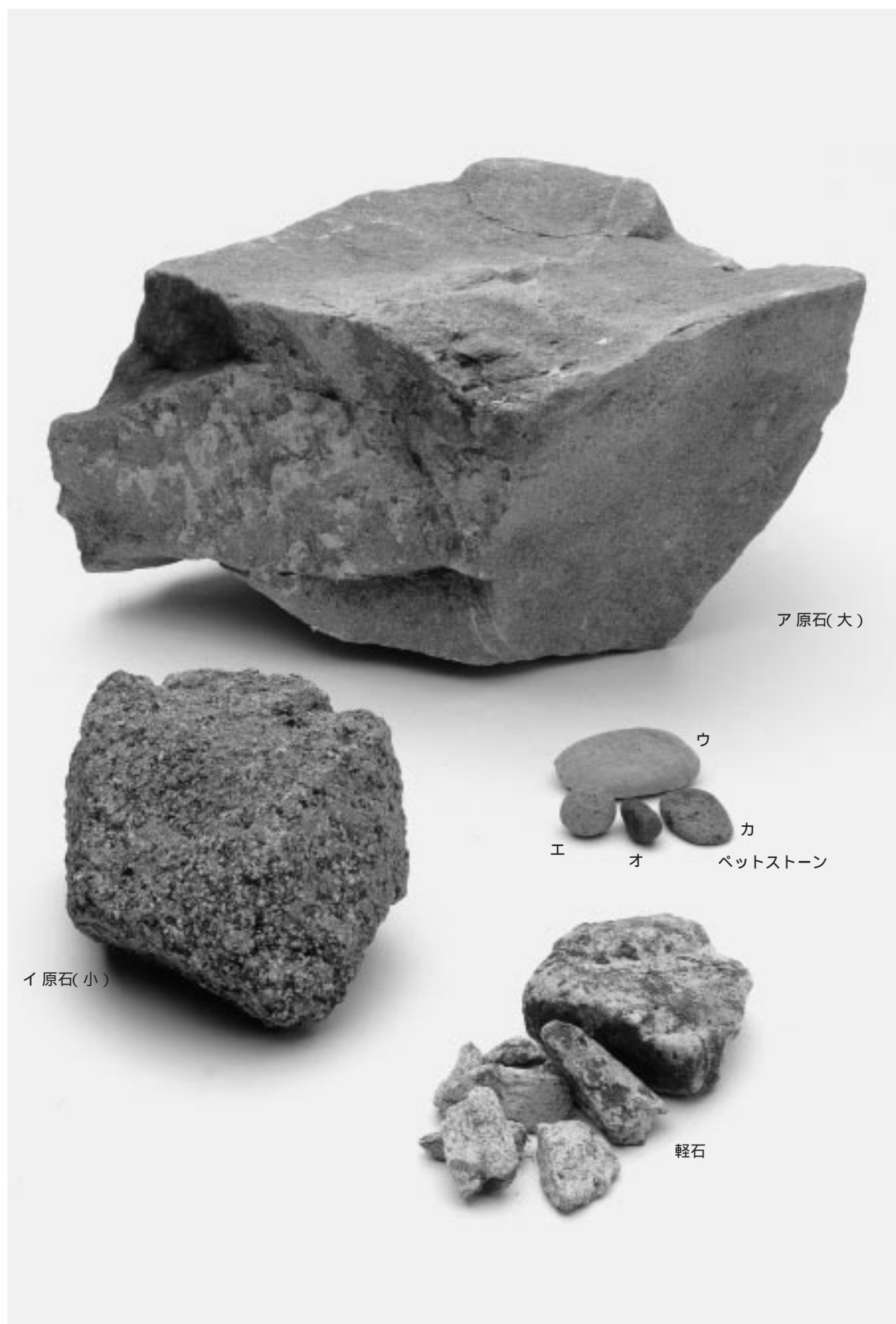
縄文時代の土器15 (底部1)



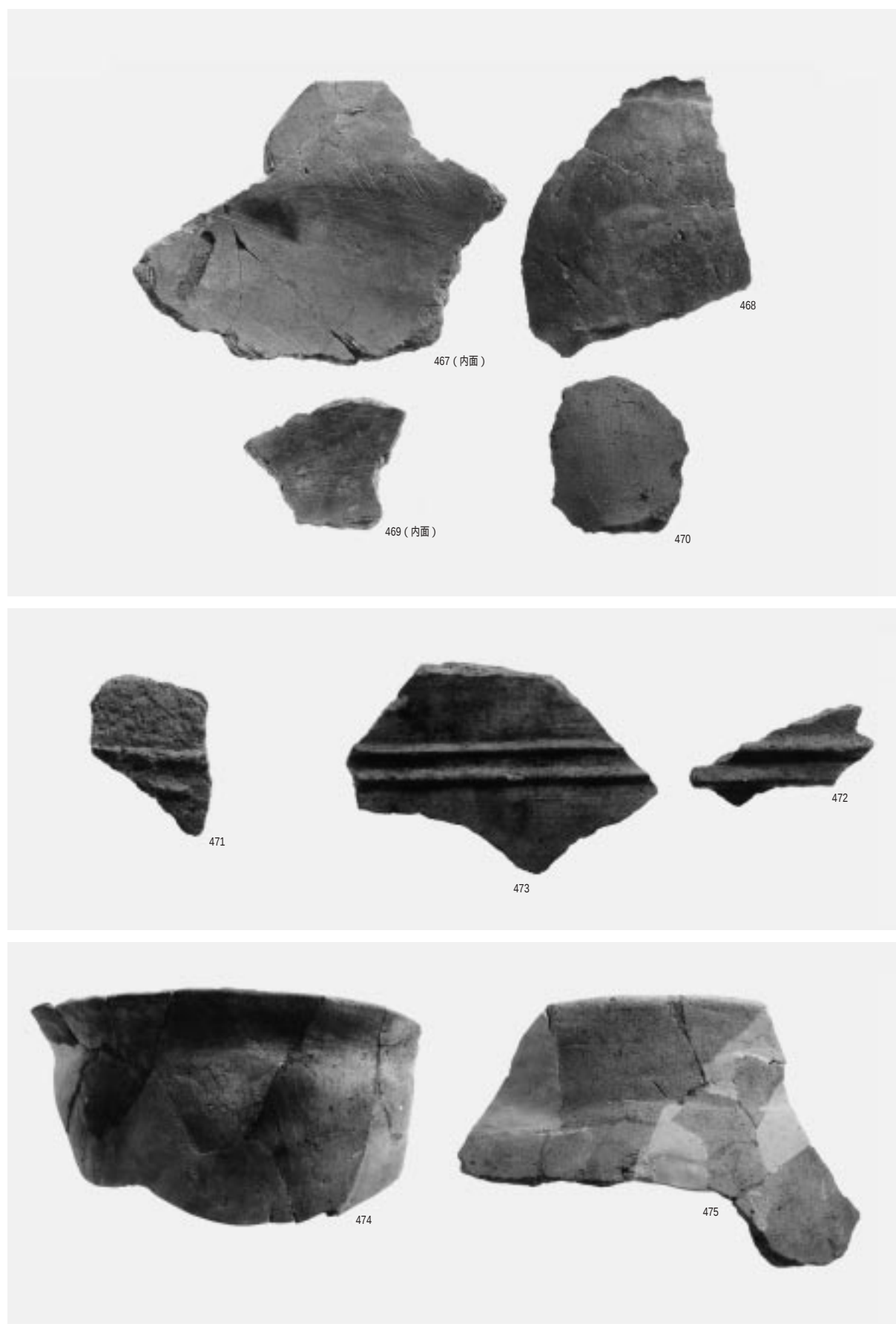
縄文時代の土器16（底部2）



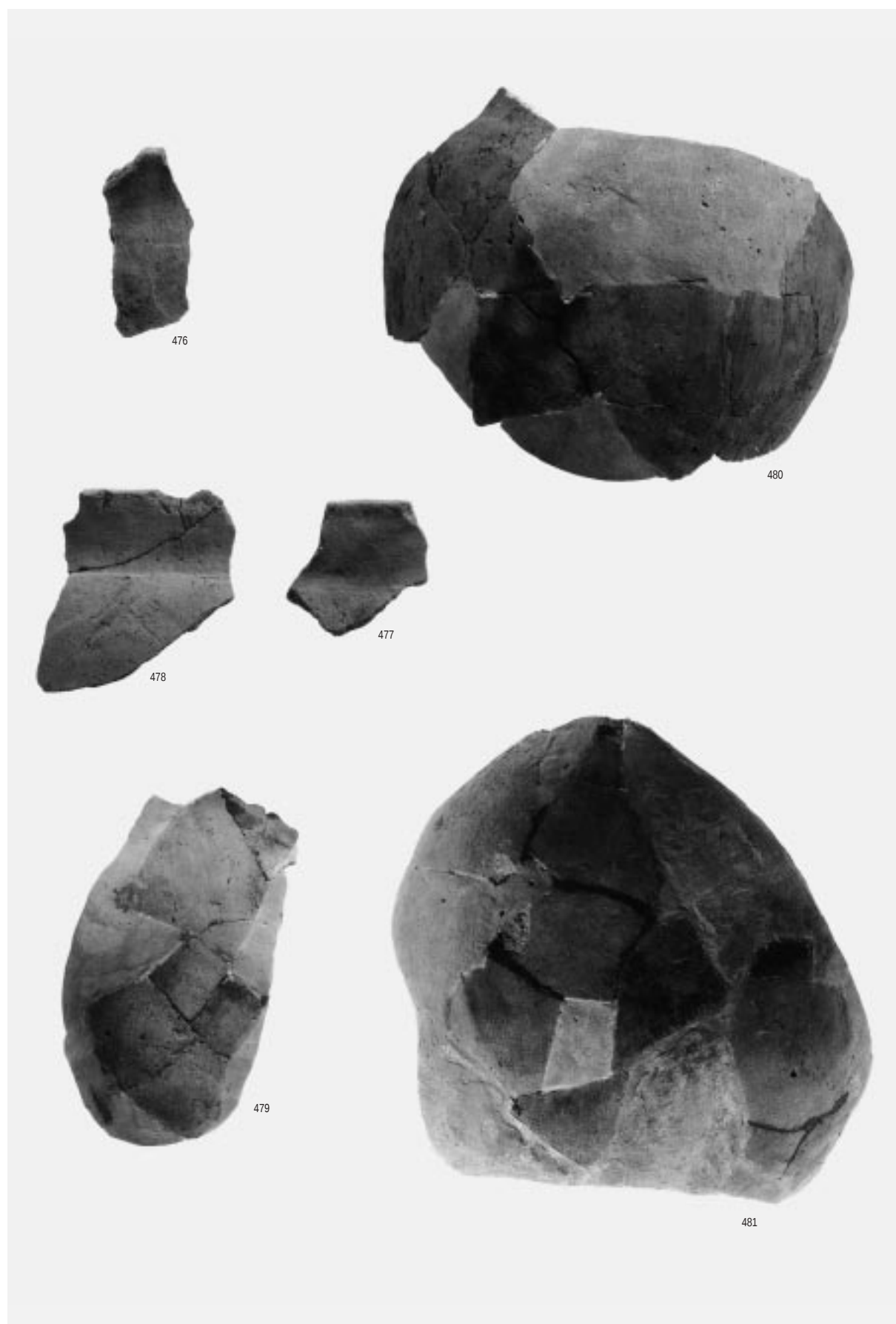
縄文時代の石器 6（石皿・砥石ほか）



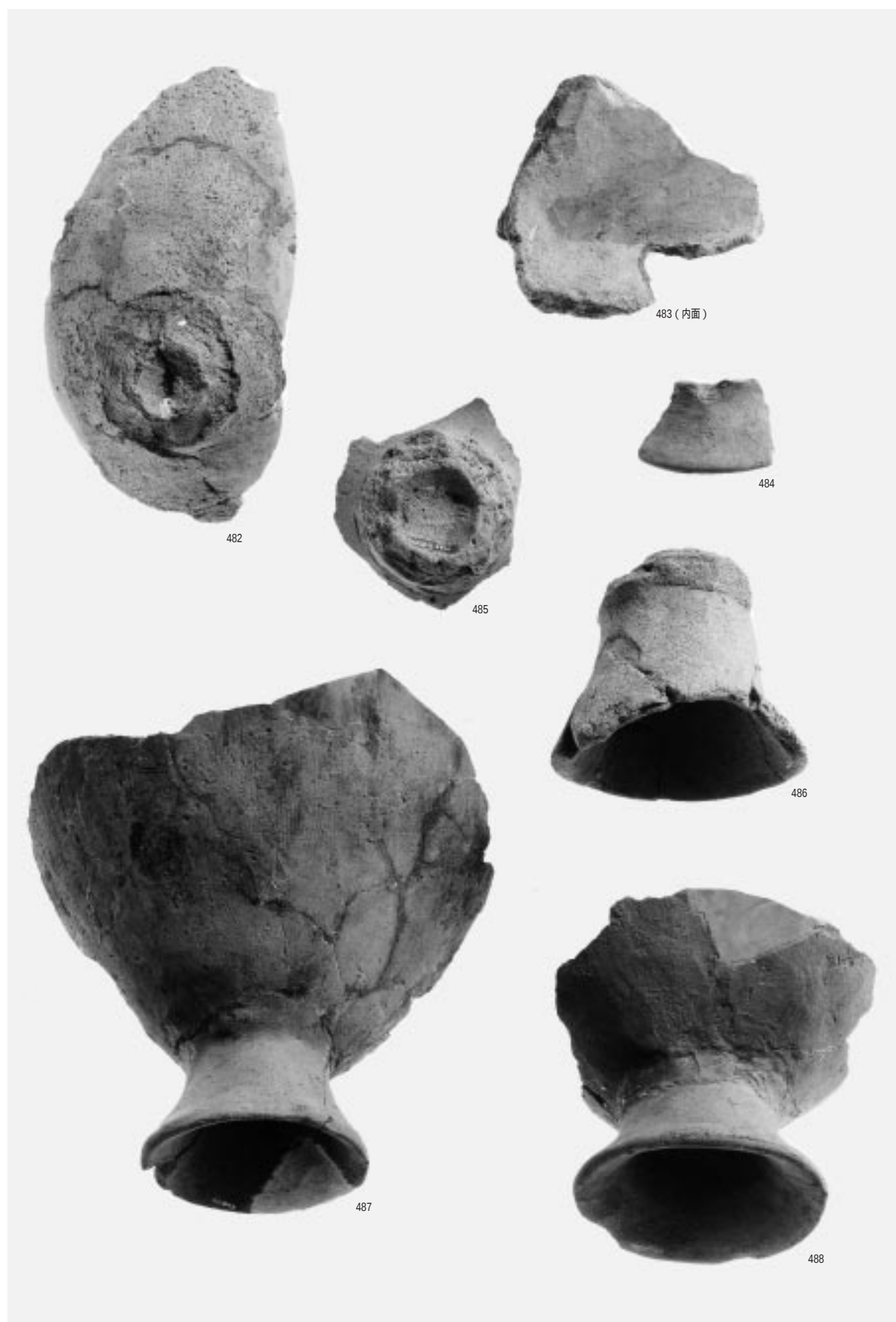
縄文時代の石器7（軽石・原石ほか）



弥生時代～古墳時代の遺物 1



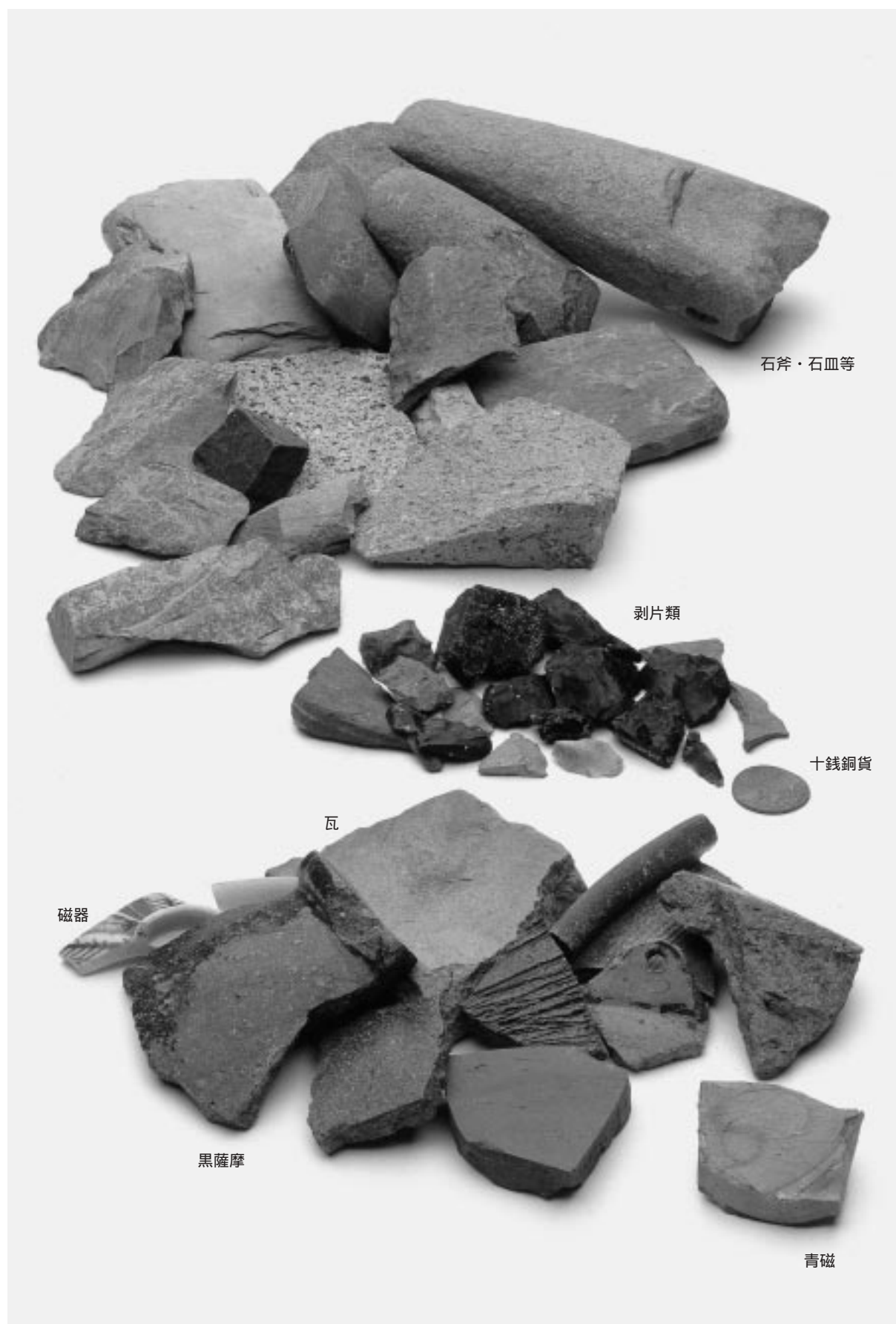
古墳時代の遺物 2



古墳時代の遺物 3



古墳時代以降の遺物 1



古墳時代以降の遺物 2 (表採品)



夏の調査（D-13区）



1号土坑（D-13区）撮影中



発掘作業員の皆さん



道跡の調査（E-10・11区）



土器復元中



本田先生整理指導



整理作業員の皆さん



デジタル処理班の皆さん

調査風景・作業員・整理作業

あ と が き

「もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、そこが道になるのだ。」

中国の作家 魯迅 『故郷』より

上山路山遺跡に残されていたものは、現代の我々を驚かすに十分な内容であった。郷土教材にも取り上げられた道跡は、高い台地の上から水場のある谷底まで、くっきりと台地に刻みつけられていた。完掘した道跡に立ったとき、まるで縄文時代にタイムスリップしたような気分させられたものである。また、縄文時代早期の土器には、貝殻の文様がレース編みのように繊細で美しい物もあれば、内側が赤い顔料で鮮やかに彩られている物もあった。復元や実測の過程で、その製作技術や芸術的センスの高さに感嘆したものである。はるか1万年以上前の制作者が、自信たっぷりに「どうよ!」と言っているようであった。土器の種類の豊富さは、まるでクレイアニメのように形態が変化していく様を見せてくれた。石器に使われていた石材には北九州産のものもあり、製作技法も合わせて、我々が思っていた以上に交流が広がったことも証明してくれたのである。

思えば人類は、こうした技術の積み重ねや伝承・発達をとげて今日の生活を築いてきたのである。1万年以上前から、人々が水くみのために苦労して行き来したであろう細くて険しい道は、最新の自動車が行き交う高速道路となった。新しい鹿児島発展の象徴、人や物の交流の動脈である。それを実現した人々の努力と技術もまた驚嘆に値するものである。

遺跡の発掘と報告書作成のための整理作業もまた努力と技術の積み重ねである。化学分析や土器復元・データ処理などに最新の技術が使われた。今の人々が、そして未来の我々の子孫たちが、この道路を見て、この報告書を見て、驚いてくれたならばこんなにうれしいことはない。

最後になりましたが、酷暑酷暑の中、発掘現場で作業に従事された担当者・作業員の皆様、ご協力いただいた関係機関の皆様、整理作業の過程でご指導・ご教示いただいた皆様、整理作業員の皆様に感謝の言葉を申し上げて終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(116)

南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(XXII)
(伊集院IC～市来IC)

かみ やま じ やま

上山路山遺跡

発行年月日	2007年3月
発 行	鹿児島県立埋蔵文化財センター 〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号 ☎0995-48-5811
印 刷	株式会社あすなろ印刷 〒899-0041 鹿児島市城西2-2-36 ☎099-250-7033